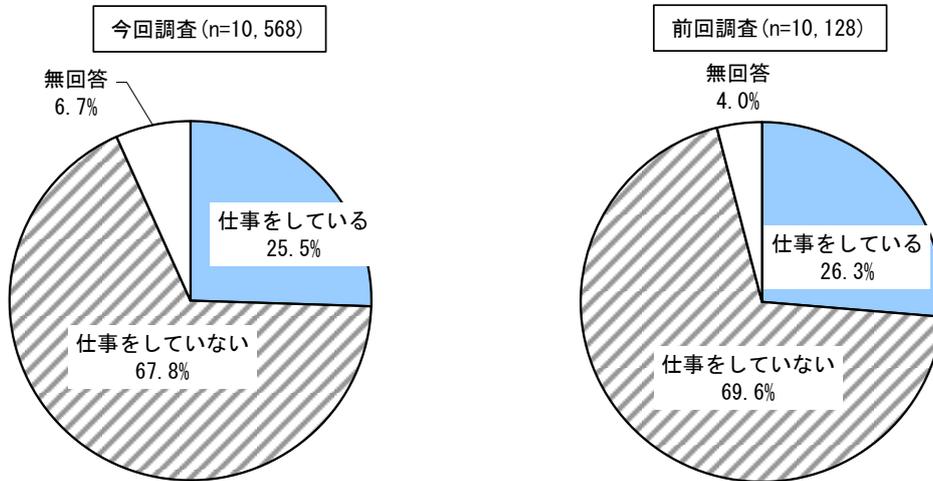


(4) 就労・地域生活の状況・意向、いきがいの状況

問24 就労の状況

あなたは、現在収入を得られる仕事をしていますか。(○はひとつ)

【図24 就労の状況（経年比較）】

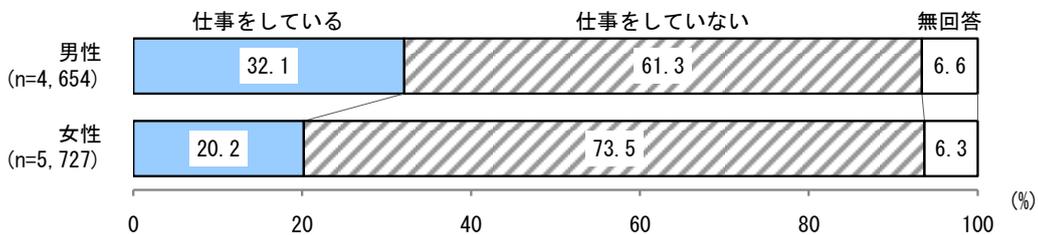


現在収入を得られる仕事をしているかについては、「仕事をしている」が25.5%、「仕事をしていない」が67.8%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。(図24)

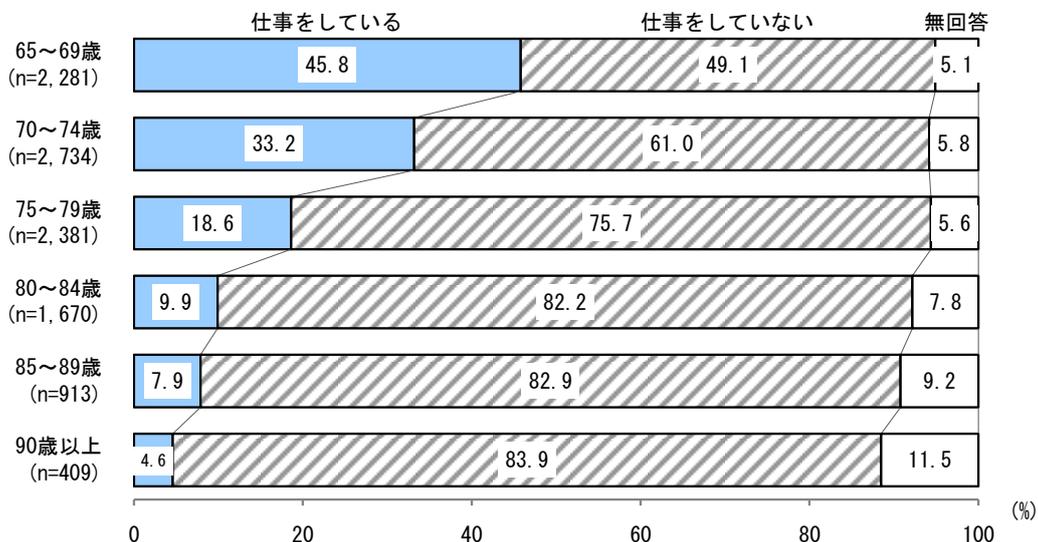
性別でみると、「仕事をしている」の回答割合は男性のほうが高くなっている。(図24-a)

【図24-a 就労の状況（性別）】



年齢別でみると、高齢になるにつれて「仕事をしている」の回答割合は減少している。(図24-b)

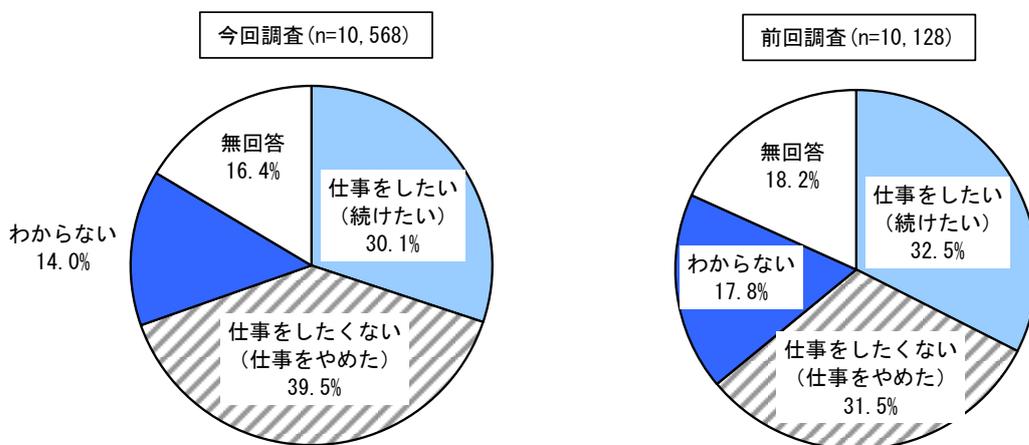
【図24-b 就労の状況（年齢別）】



問25 就労の意向

あなたは今後、仕事をしたい（続けたい）と思いますか。（○はひとつ）

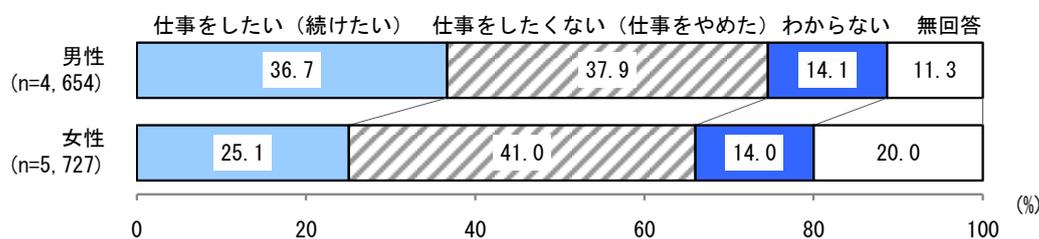
【図25 就労の意向（経年比較）】



就労の意向については、「仕事をしたくない（仕事をやめた）」が39.5%で最も多く、次いで「仕事をしたい（続けたい）」が30.1%となっている。

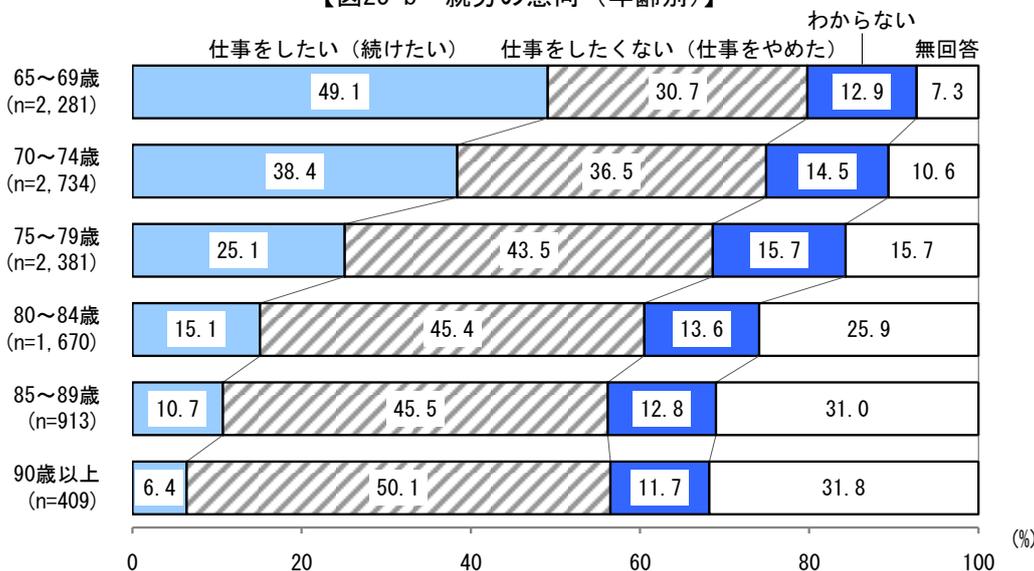
前回調査と比較すると、「仕事をしたくない」の割合が8.0ポイント高くなっている。（図25）性別でみると、「仕事をしたい（続けたい）」の回答割合は男性のほうが1割以上高くなっている。（図25-a）

【図25-a 就労の意向（性別）】



年齢別でみると、「仕事をしたい（続けたい）」が65～69歳（49.1%）は半数近くを占めているが、高齢になるにつれて「仕事をしたくない（やめたい）」が増加し、75～79歳で割合が逆転している。（図25-b）

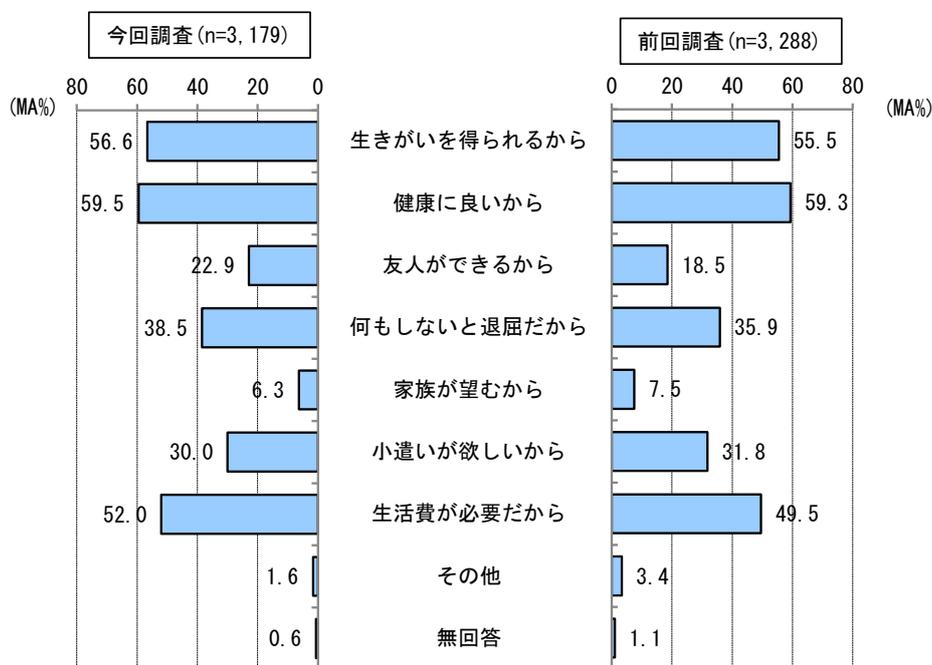
【図25-b 就労の意向（年齢別）】



問25-1 就労の意向がある理由

【問25で「1 仕事をしたい（続けたい）」と回答された方におうかがいします。
あなたが、仕事をしたい（続けたい）理由は何ですか。（〇はいくつでも）

【図25-1 就労の意向がある理由（経年比較）】



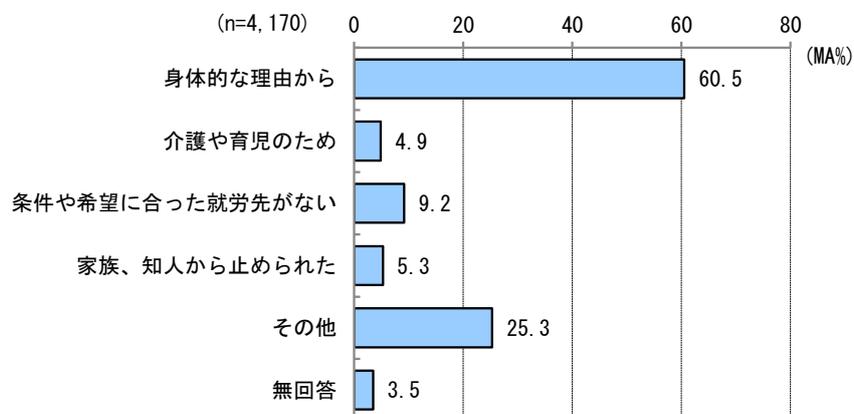
仕事をしたい（続けたい）と回答した人に、その理由をたずねると、「健康に良いから」が59.5%で最も多く、次いで「生きがいを得られるから」が56.6%、「生活費が必要だから」が52.0%となっている。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となっているが、「何もしないと退屈だから」の割合が2.6ポイント、「生活費が必要だから」の割合が2.5ポイントそれぞれ高くなっている。（図25-1）

問25-2 就労の意向がない理由

【問25で「2 仕事をしたくない（仕事をやめた）」と回答された方におうかがいします。
あなたが、仕事をしたくない（仕事をやめた）理由は何ですか。（〇はいくつでも）

【図25-2 就労の意向がない理由】

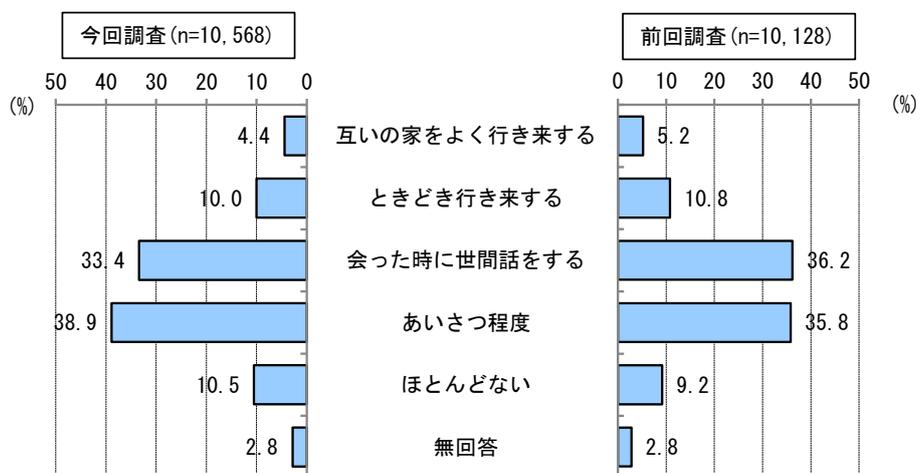


仕事をしたくない（仕事をやめた）と回答した人に、その理由をたずねると、「身体的な理由から」が60.5%で最も多く、次いで「条件や希望に合った就労先がない」が9.2%となっている。（図25-2）

問26 近所付き合いの有無

あなたは、近所付き合いをどの程度していますか。(〇はひとつ)

【図26 近所付き合いの有無（経年比較）】

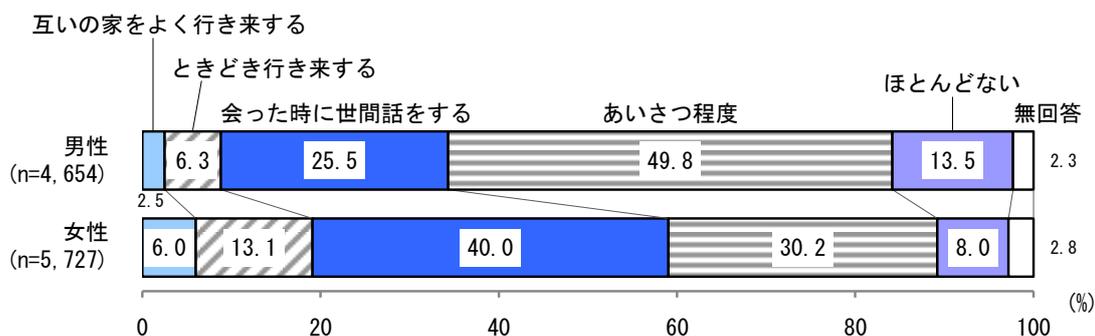


近所付き合いについては、「あいさつ程度」が38.9%で最も多く、次いで「会った時に世間話をする」が33.4%となっている。

前回調査と比較すると、前は「会った時に世間話をする」が最も多かったが、今回は「あいさつ程度」が最も多く、前回と比べ3.1ポイント高くなっている。(図26)

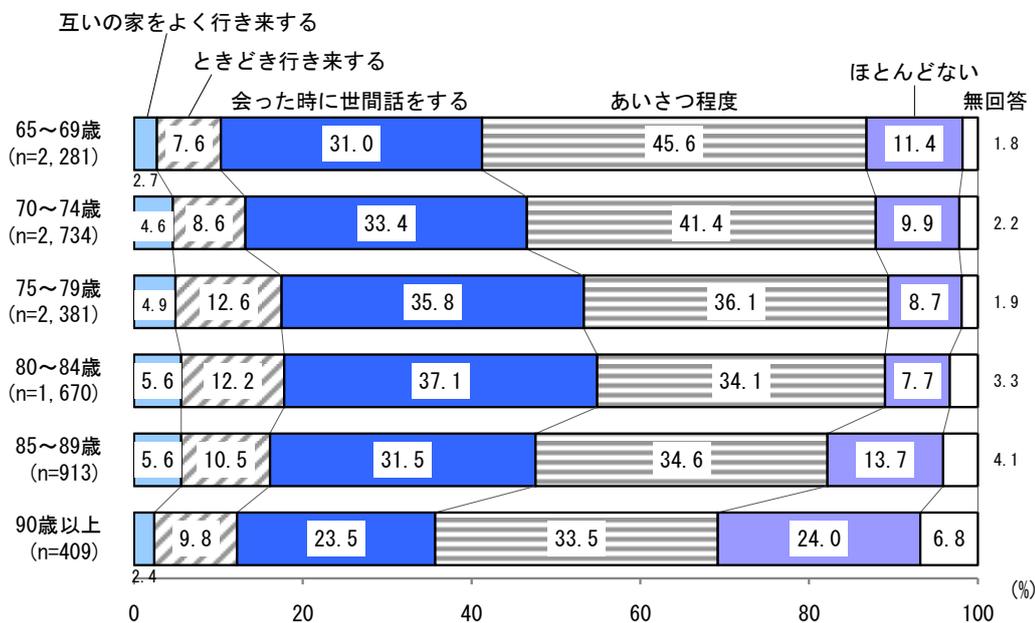
性別で見ると、「互いの家をよく行き来する」と「ときどき行き来する」をあわせた『近所の方と行き来のある人』については、男性は女性の1割以上低い。また、男性は「あいさつ程度」の回答割合が約半数を占めている。(図26-a)

【図26-a 近所付き合いの有無（性別）】



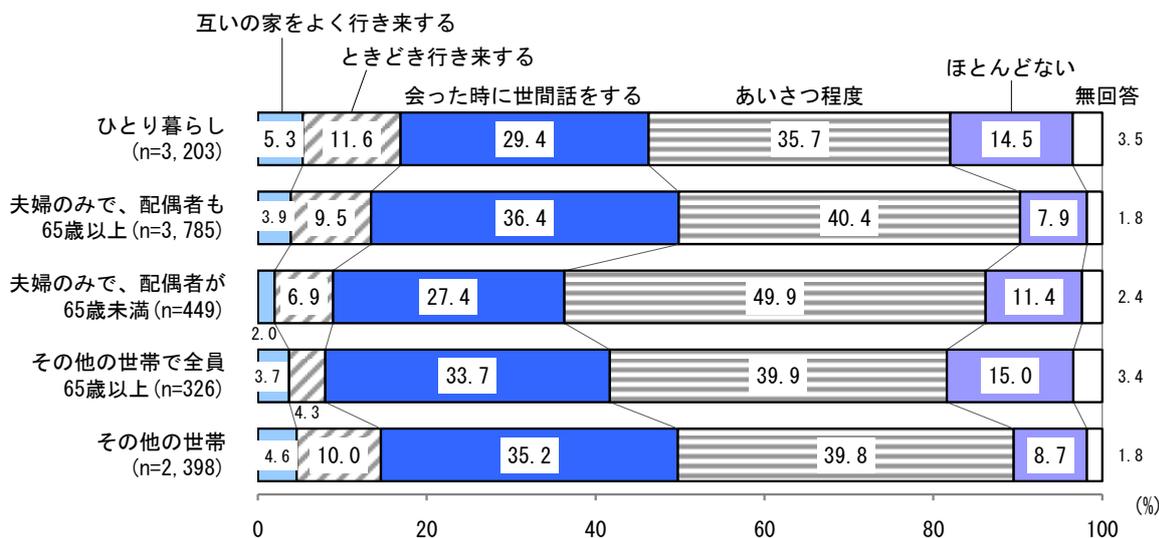
年齢別では、『近所の方と行き来のある人』は75～79歳で最も高く、17.5%となっている。また、65～69歳では「あいさつ程度」の回答割合が最も高く、90歳以上では「ほとんどない」(24.0%)の回答割合が他の年齢と比べて高い。(図26-b)

【図26-b 近所付き合いの有無（年齢別）】



世帯状況別でみると、『近所の方と行き来のある人』は、“ひとり暮らし”世帯が16.9%と最も高くなっている。(図26-c)

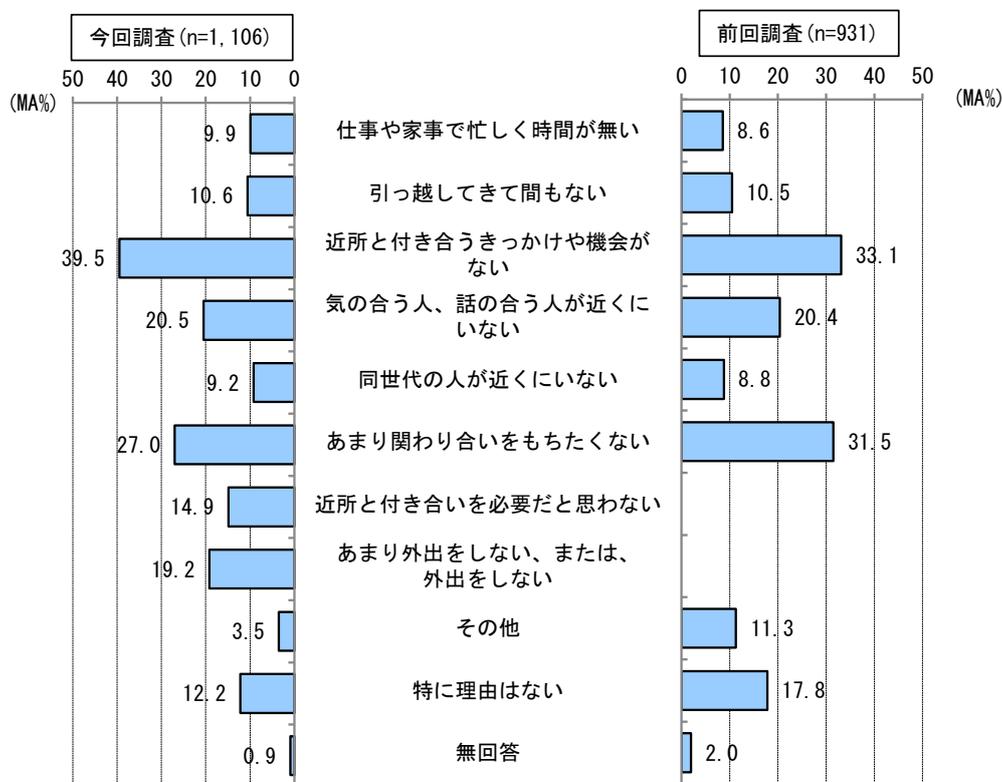
【図26-c 近所付き合いの有無（世帯状況別）】



問26-1 近所付き合いがほとんどない理由

【問26で「5 ほとんどない」と回答された方におうかがいします。
近所付き合いがほとんどない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【図26-1 近所付き合いがほとんどない理由（経年比較）】



※「近所と付き合いを必要だと思わない」「あまり外出をしない、または、外出をしない」は、今回調査の新規項目である。

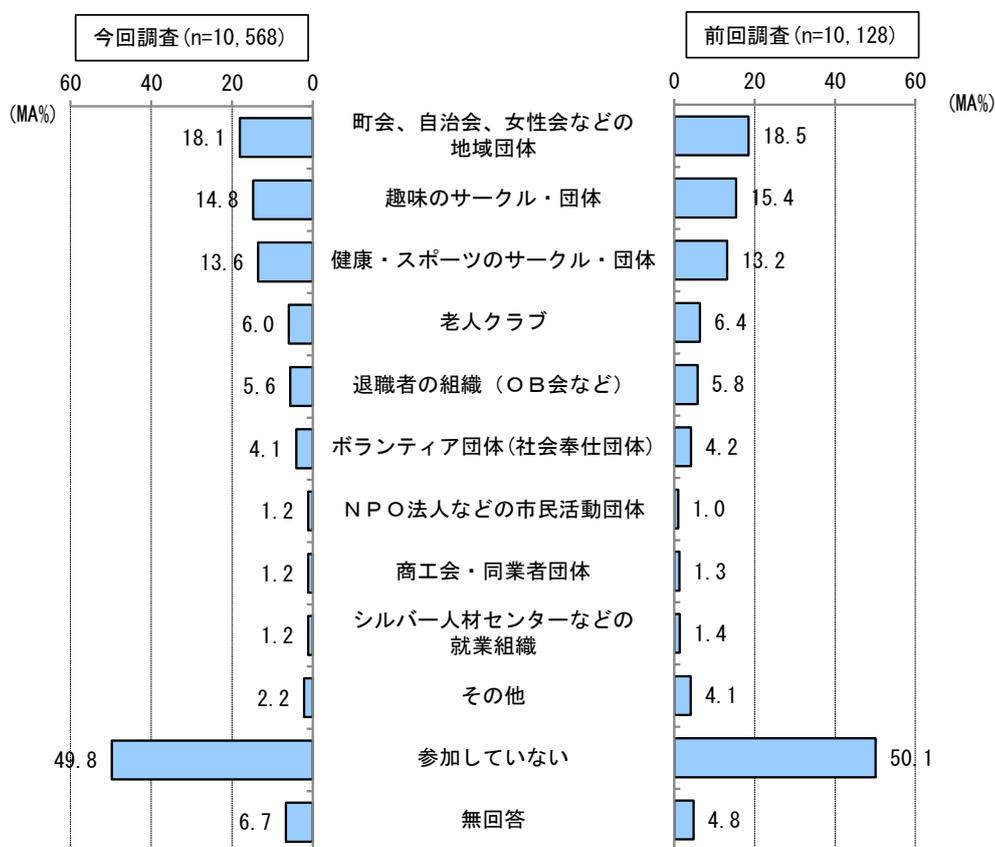
近所付き合いがほとんどないと回答した人に、その理由をたずねると、「近所と付き合いきっかけや機会がない」が39.5%で最も多く、次いで「あまり関わり合いをもちたくない」が27.0%、「気の合う人、話の合う人が近くにいない」が20.5%となっている。

前回調査と比較すると、「近所と付き合いきっかけや機会がない」の割合が6.4ポイント高くなっている。(図26-1)

問27 地域活動への参画の有無

あなたが、現在、継続的に参加している団体や集まりはありますか。(〇はいくつでも)

【図27 地域活動への参画の有無 (経年比較)】

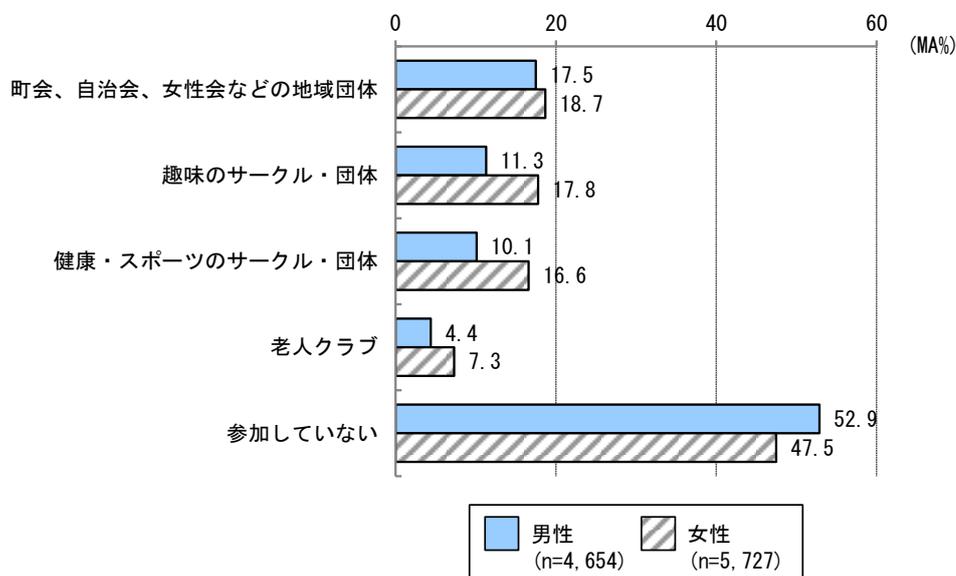


現在、継続的に参加している団体や集まりはあるかについては、参加している回答の中では「町会、自治会、女性会などの地域団体」が18.1%で最も多く、次いで「趣味のサークル・団体」が14.8%、「健康・スポーツのサークルの団体」が13.6%となっている。「参加していない」は49.8%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。(図27)

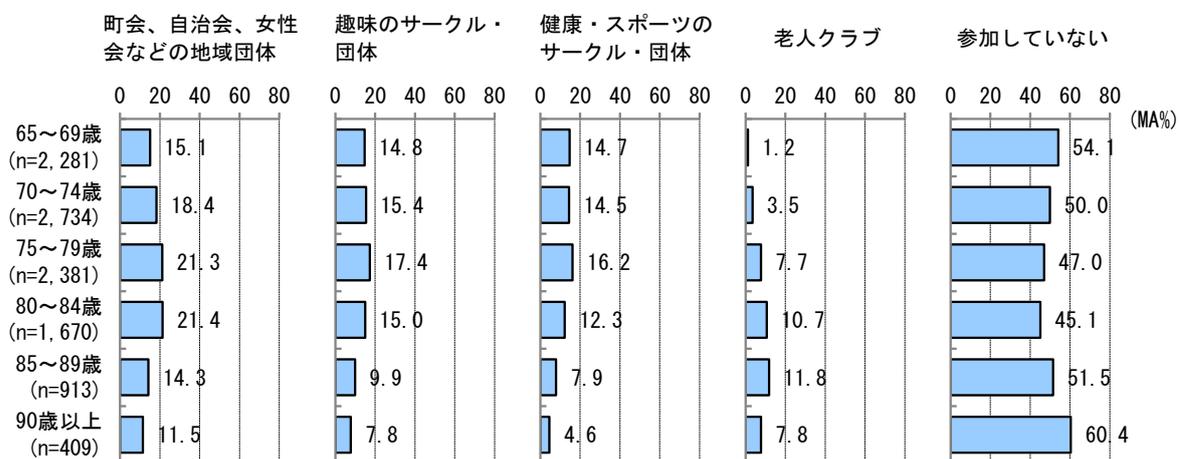
性別で見ると、「参加していない」の回答割合は女性よりも男性のほうが高い割合となっており、団体等への参加についても、全体的に女性のほうが参加割合が高い。(図27-a)

【図27-a 継続的に参加している団体や集まり（性別）（上位項目）】



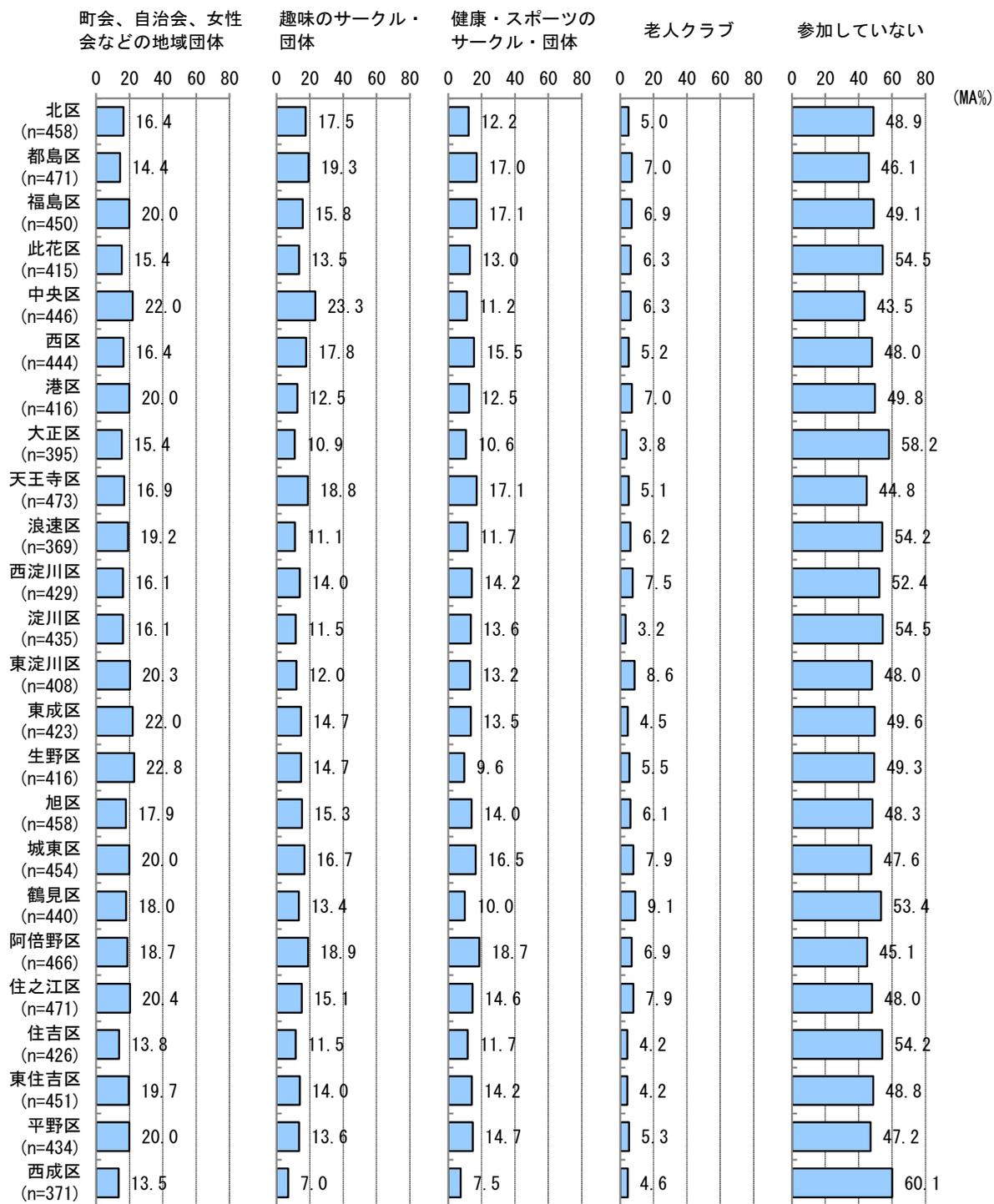
年齢別では、「参加していない」の回答割合が90歳以上（60.4%）で6割を超えている。(図27-b)

【図27-b 継続的に参加している団体や集まり（年齢別）（上位項目）】



居住区別でみると、「参加していない」の回答割合は西成区（60.1%）で最も高く、次いで大正区（58.2%）と続いている。（図27-c）

【図27-c 継続的に参加している団体や集まり（居住区別）（上位項目）】

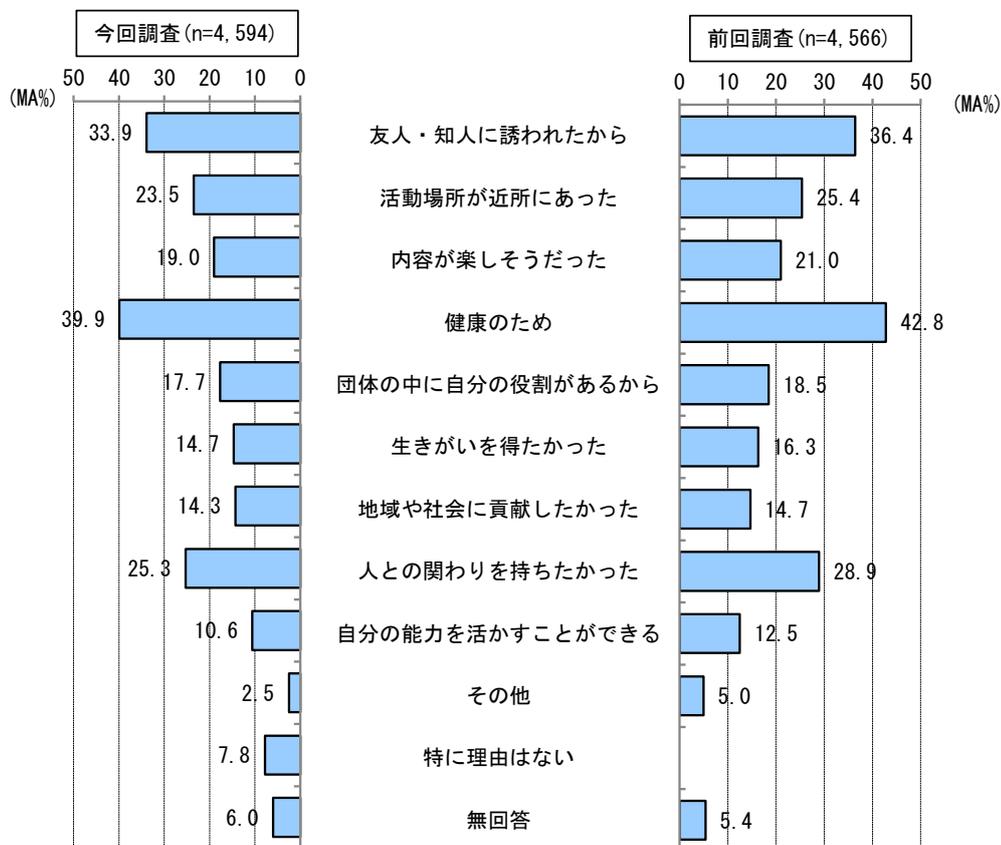


問27-1 地域活動に参加するようになったきっかけ

【問27で「1～10」と回答された方におうかがいします。】

あなたが、参加するようになったきっかけは何ですか。（〇はいくつでも）

【図27-1 地域活動に参加するようになったきっかけ（経年比較）】



※「特に理由はない」は、前回調査に設けられていない。

地域活動に参加していると回答した人に、参加するようになったきっかけをたずねると、「健康のため」が39.9%で最も多く、次いで「友人・知人に誘われたから」が33.9%、「人との関わりを持ちたかった」が25.3%となっている。

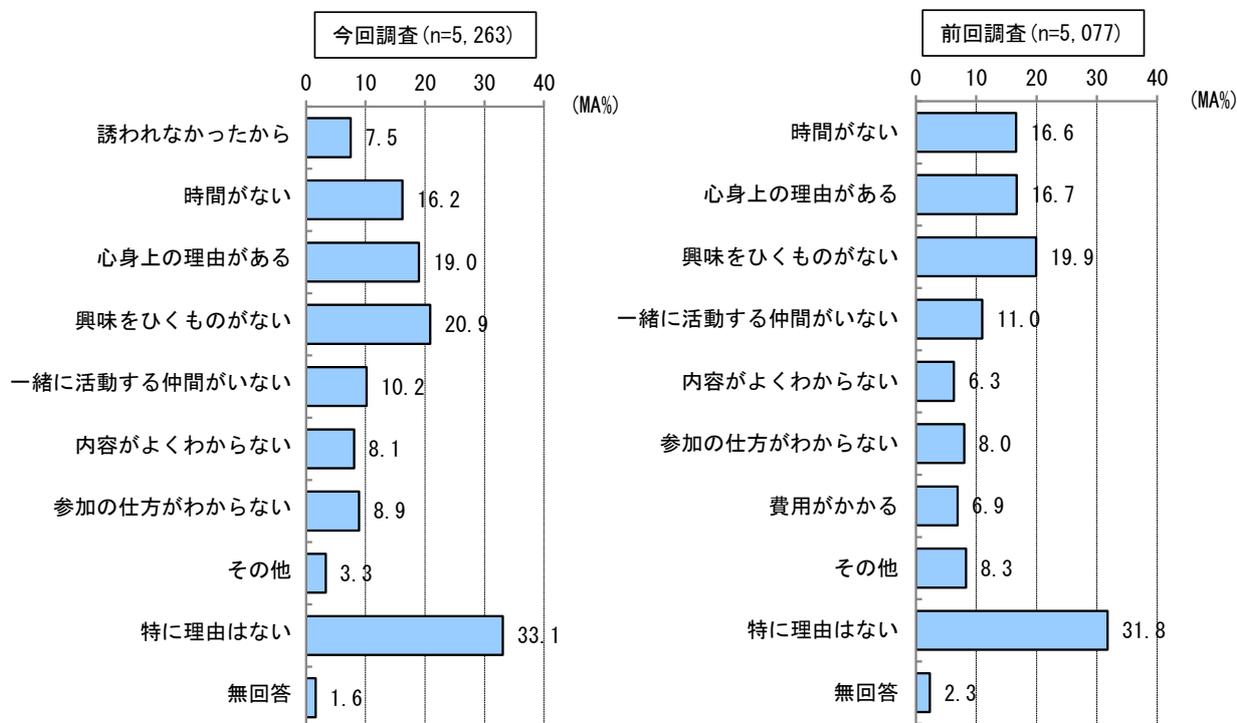
前回調査と比較すると、「人との関わりを持ちたかった」の割合が3.6ポイント、「友人・知人に誘われたから」の割合が2.5ポイントそれぞれ低くなっている。（図27-1）

問27-2 地域活動に参加していない理由

【問27で「11 参加していない」と回答された方におうかがいします。】

あなたが、参加していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【図27-2 地域活動に参加していない理由（経年比較）】



※「誘われなかったから」は今回調査の新規項目である。
 前回調査の「費用がかかる」は、今回調査では設けていない。

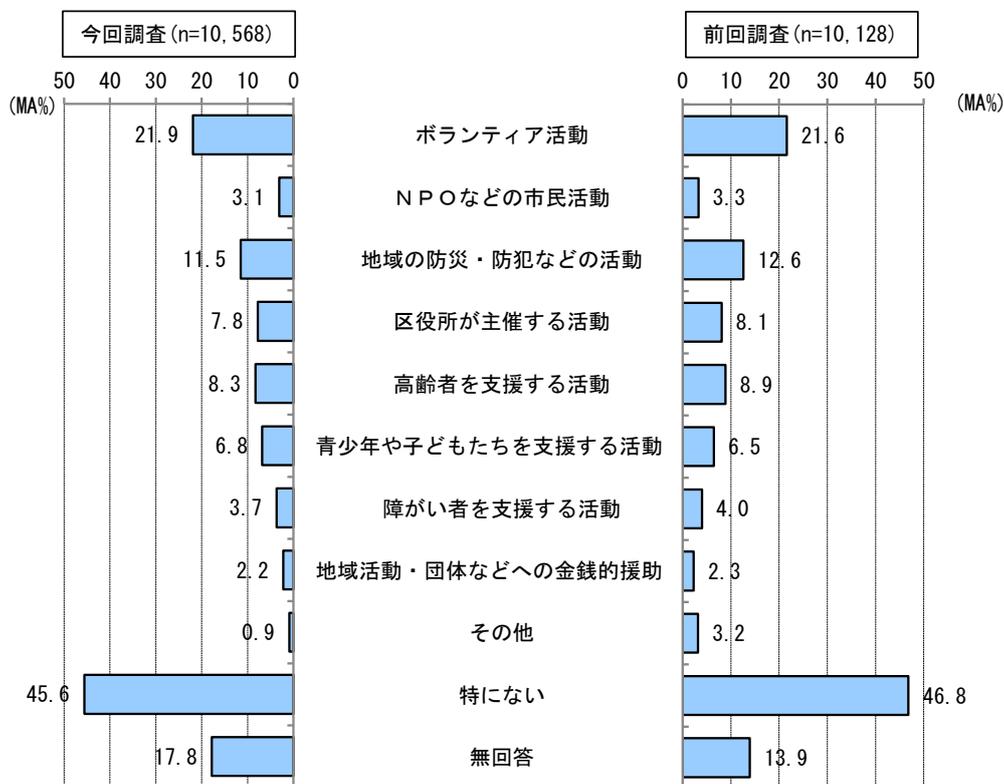
地域活動に参加していないと回答した人に、その理由をたずねると、「特に理由はない」が33.1%で最も多く、次いで「興味をひくものがない」が20.9%、「心身上の理由がある」が19.0%となっている。

前回調査と比較すると、大きく傾向は変わらない。(図27-2)

問28 地域貢献のための活動

今後、少子高齢化が進んでいく中、地域社会を支える担い手として、高齢者のより一層の活躍が期待されますが、あなたが、地域社会に貢献できるとお考えの活動はどのようなことですか。
(〇はいくつでも)

【図28 地域貢献のための活動（経年比較）】

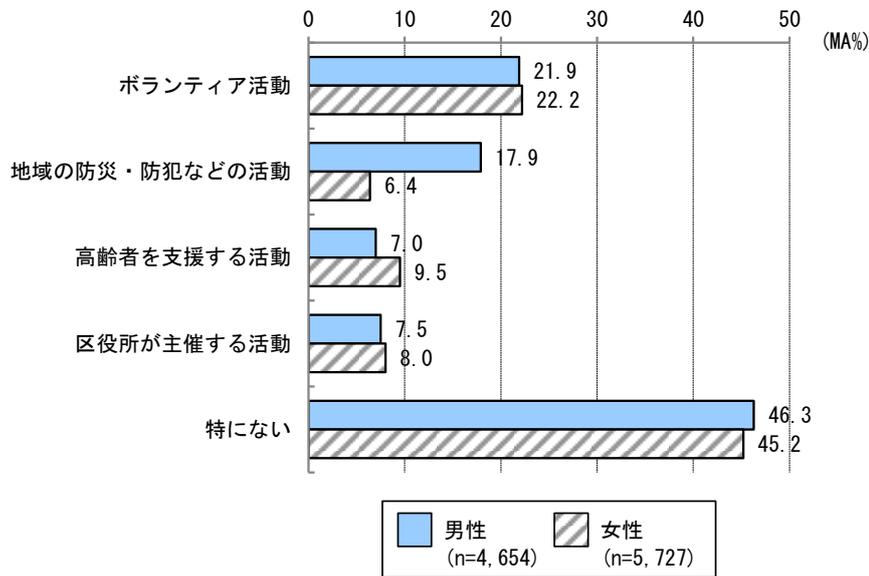


地域貢献のための活動については、「ボランティア活動」が21.9%で最も多く、次いで「地域の防災・防犯などの活動」が11.5%、「高齢者を支援する活動」が8.3%となっている。一方で「特にない」は45.6%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。(図28)

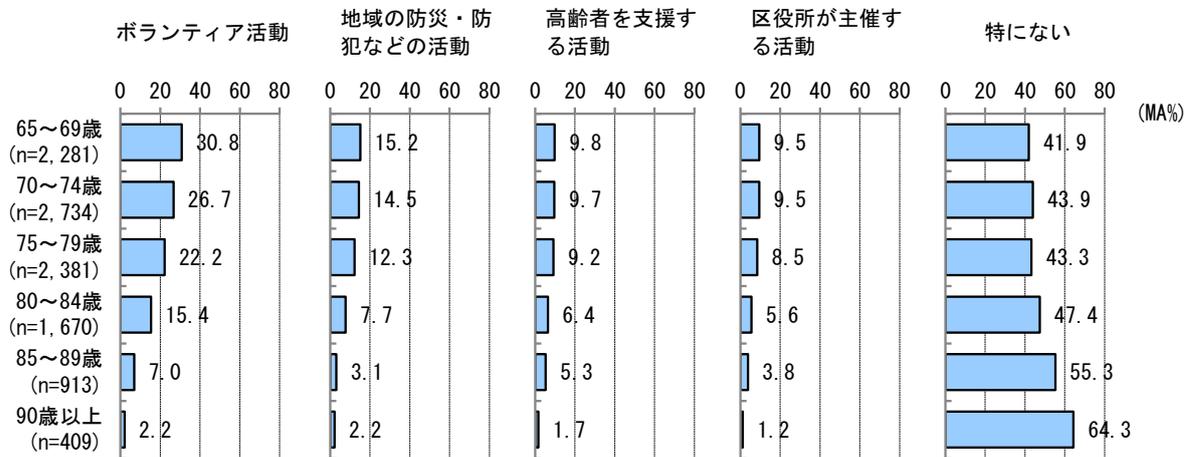
性別でみると、「地域の防災・防犯などの活動」の回答割合は男性のほうが1割以上高い。
 (図28-a)

【図28-a 地域社会に貢献できると考える活動（性別）（上位項目）】



年齢別でみると、ほとんどの活動で高齢になるほど割合が低くなっている。(図22-b)

【図22-b 地域社会に貢献できると考える活動（年齢別）（上位項目）】

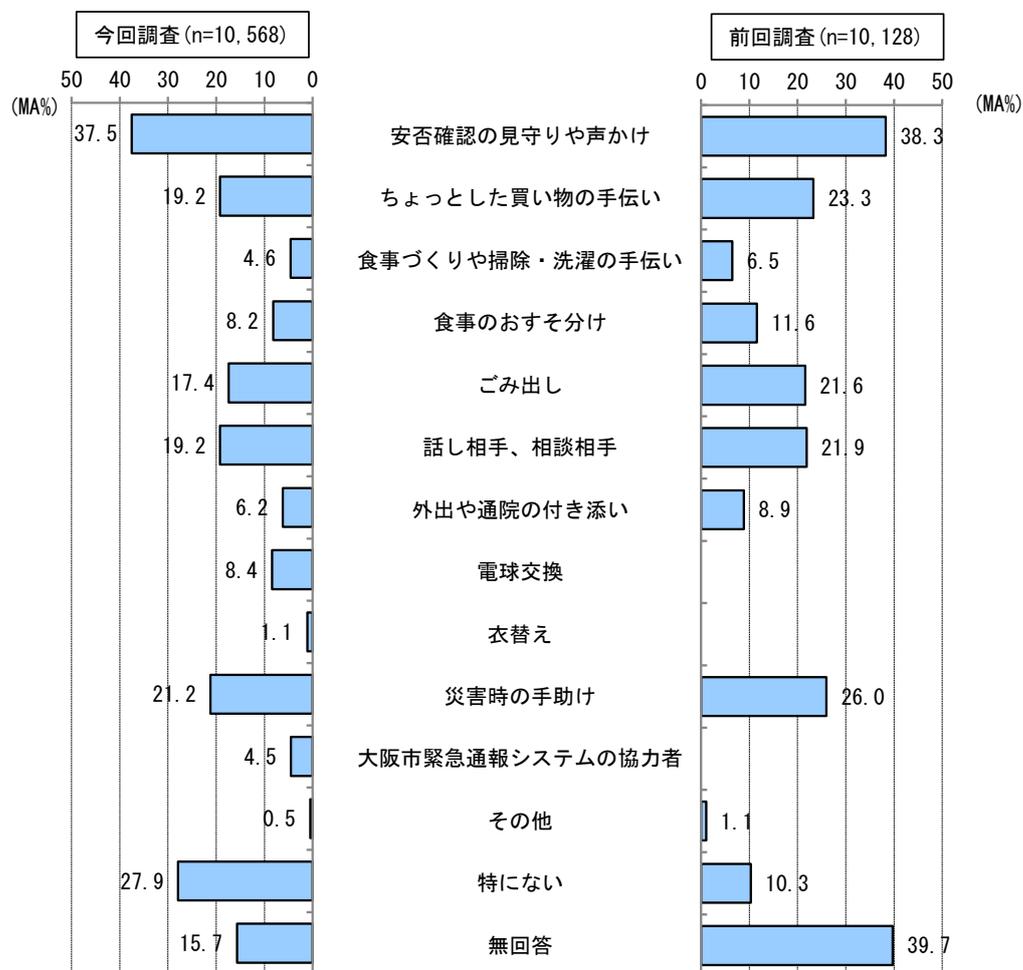


問29 近隣への支援と近隣からの支援

①近所の人へ支援できること

次の項目それぞれについて、近所の方がお困りのときあなたが支援できること、また、あなたがお困りのとき（今後、お困りになったとき）に地域の人に手助けをしてほしいことに○をつけてください。（○はいくつでも）

【図29① 近所の人へ支援できること（経年比較）】



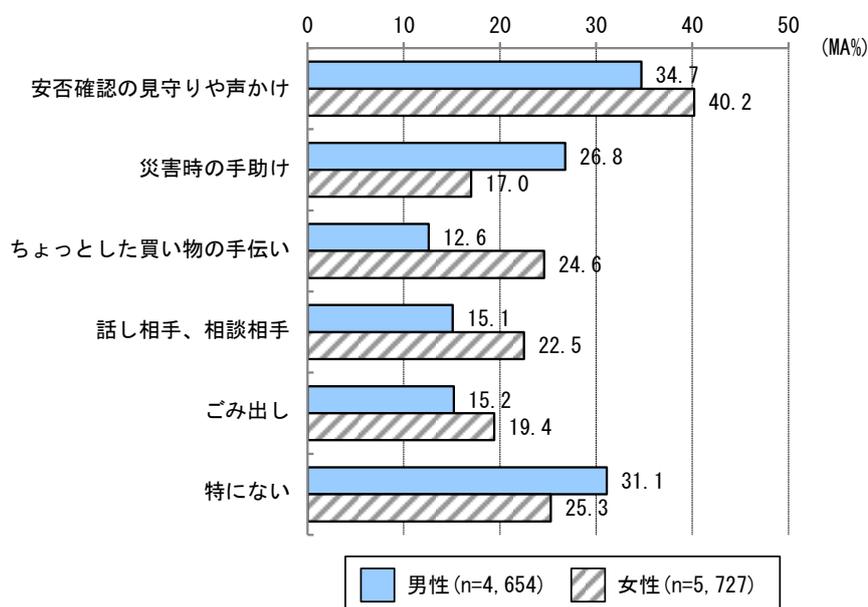
※「電球交換」「衣替え」「大阪市緊急通報システムの協力者」は、今回調査の新規項目である。

近所の人へ支援できることについては、「安否確認の見守りや声かけ」が37.5%で最も多く、次いで「災害時の手助け」が21.2%、「ちょっとした買い物の手伝い」と「話し相手、相談相手」が19.2%となっている。一方、「特にない」は27.9%となっている。

前回調査と比較すると、傾向は変わらないが、「災害時の手助け」の割合が4.8ポイント、「ごみ出し」の割合が4.2ポイント、「ちょっとした買い物の手伝い」の割合が4.1ポイントそれぞれ低くなっている。（図29①）

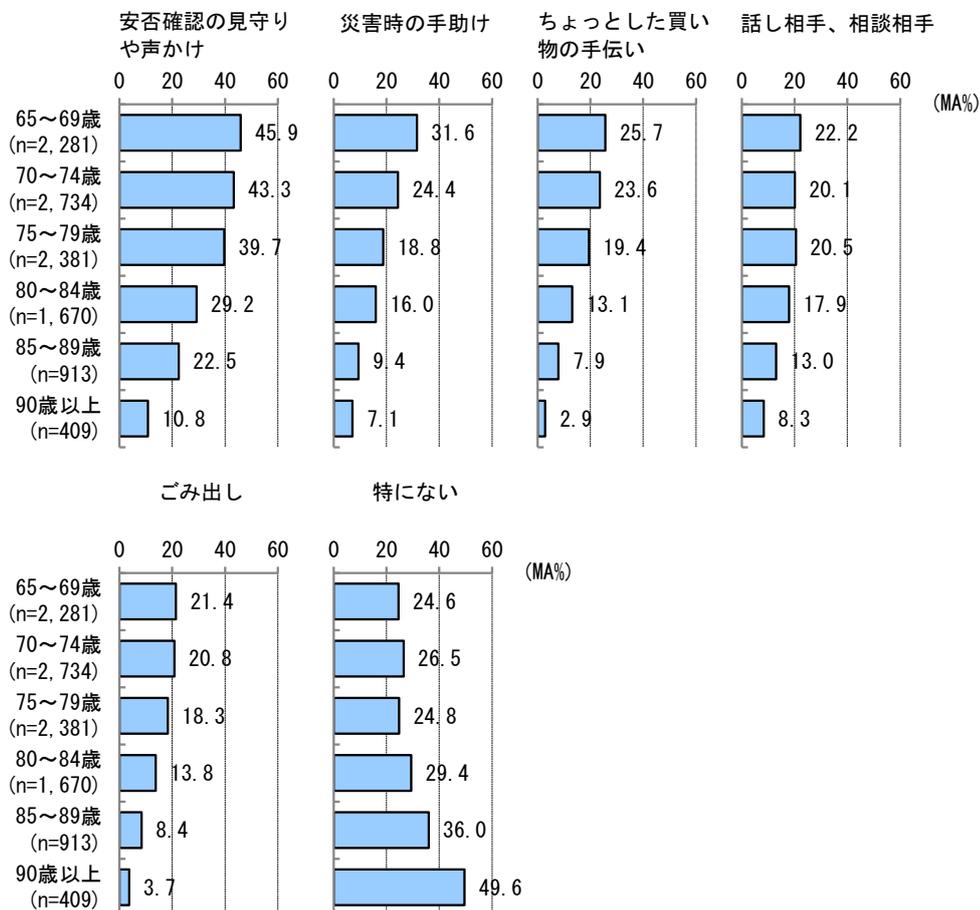
性別でみると、「災害時の手助け」の回答割合は男性のほうが高いが、それ以外の項目では女性のほうが高くなっている。(図29①-a)

【図29①-a 近所の人へ支援できること（性別）（上位項目）】



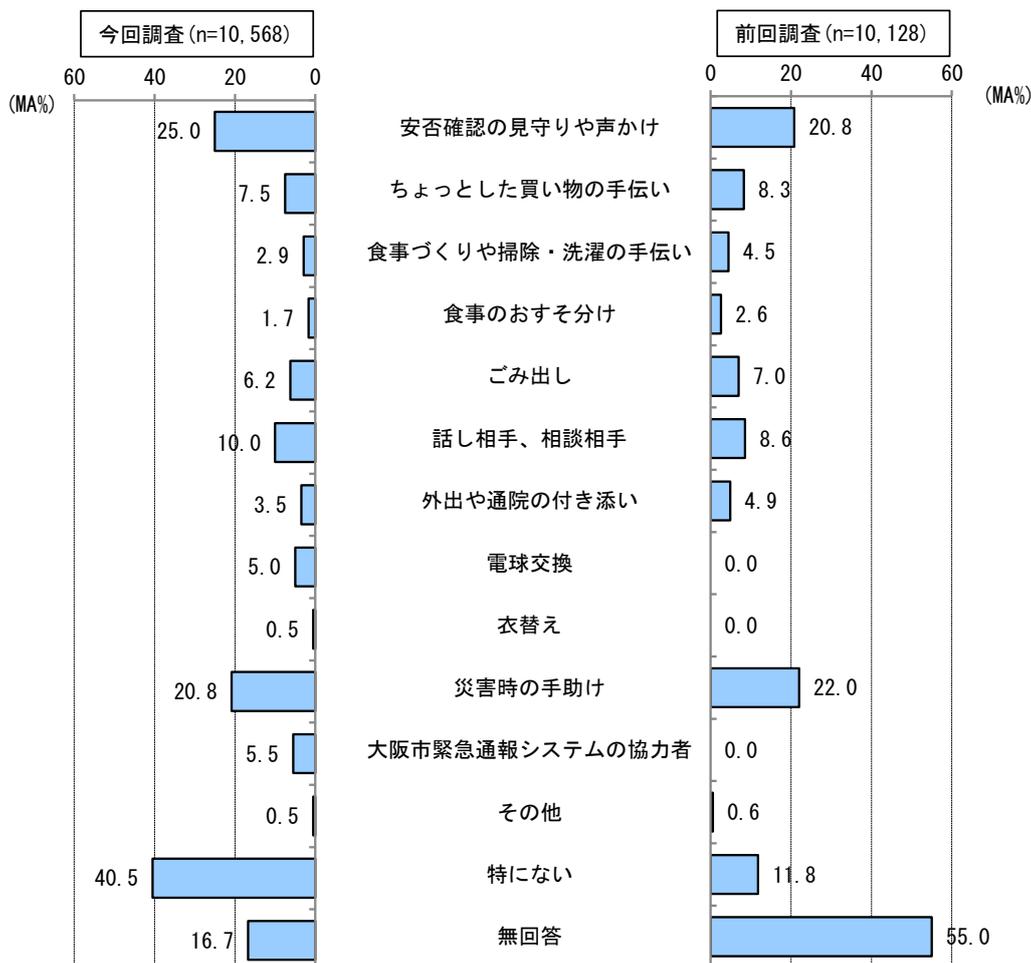
年齢別でみると、いずれの項目も概ね高齢になるほど低くなっている。(図29①-b)

【図29①-b 近所の人へ支援できること（年齢別）（上位項目）】



②近所の人から支援してほしいこと

【図29② 近所の人から支援してほしいこと（経年比較）】



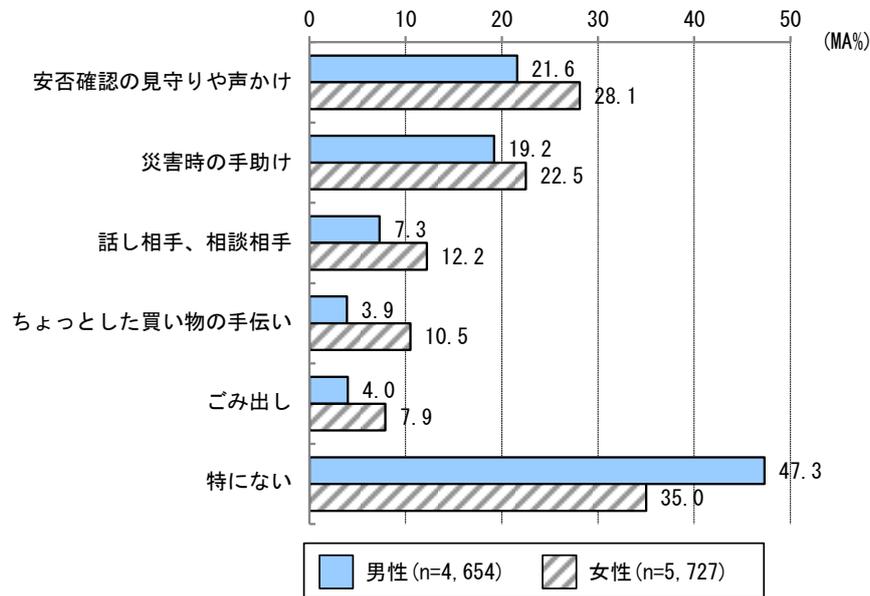
※「電球交換」「衣替え」「大阪市緊急通報システムの協力者」は、今回調査の新規項目である。

近所の人から支援してほしいことについては、「安否確認の見守りや声かけ」が25.0%、「災害時の手助け」が20.8%となっている。

前回調査と比較すると、「安否確認の見守りや声かけ」の割合が4.2ポイント高くなっている。(図29②)

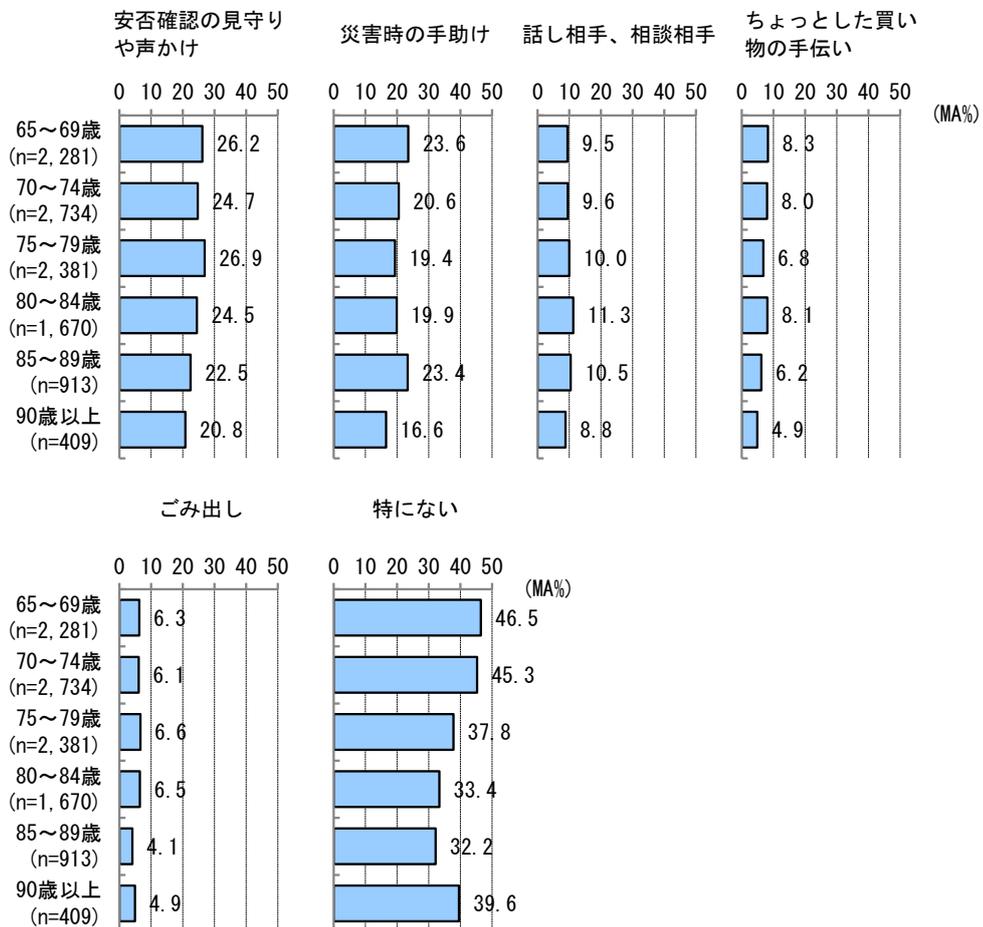
性別でみると、すべての項目で女性のほうが割合が高く、「特にない」は、男性のほうが高くなっている。(図29②-a)

【図29②-a 近所の人から支援してほしいこと（性別）（上位項目）】



年齢別でみると、「安否確認の見守りや声かけ」の回答割合は75～79歳が26.9%で最も高く、「災害時の手助け」の回答割合は65～69歳が23.6%で最も高くなっている。(図29②-b)

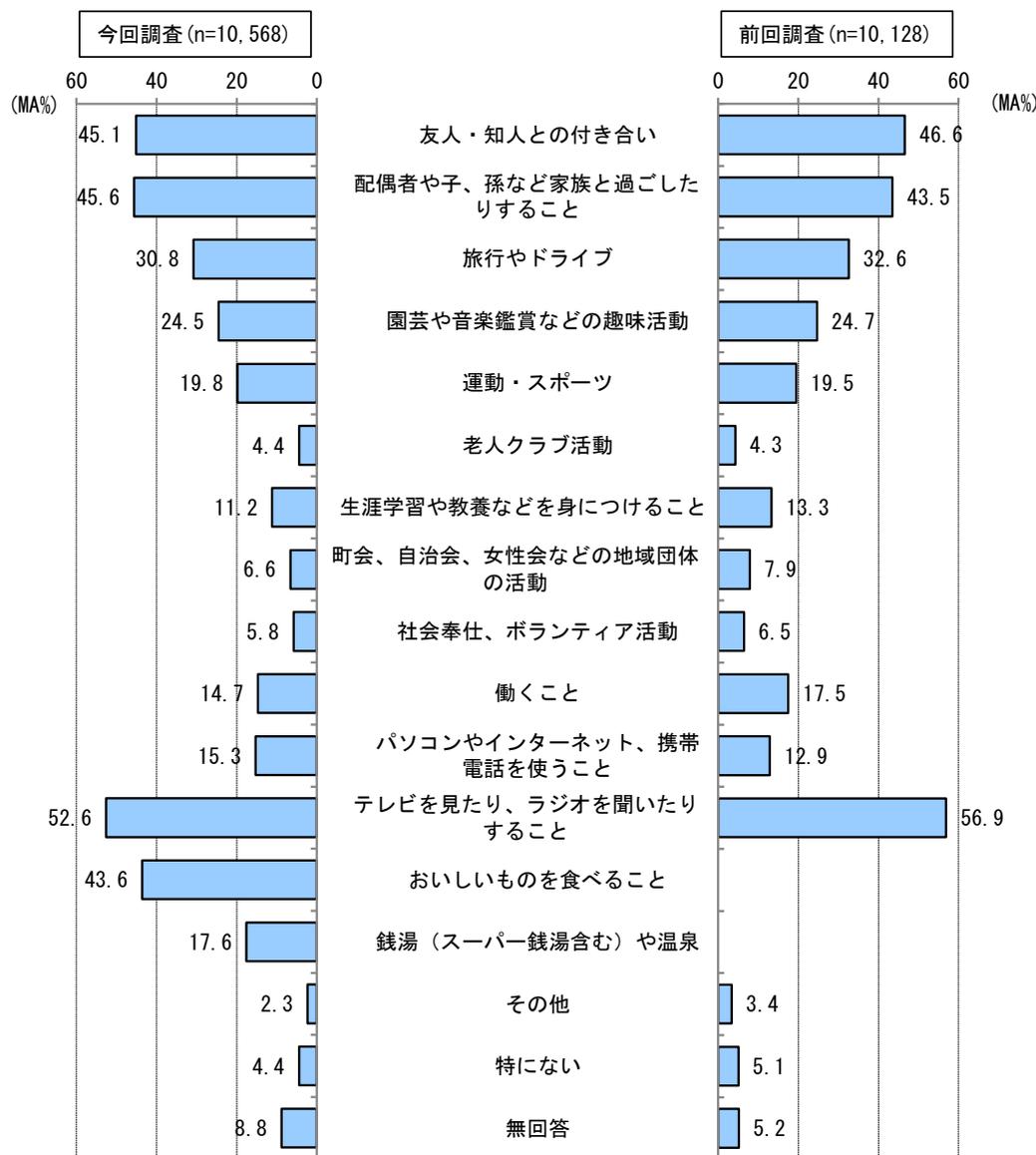
【図29②-b 近所の人へ支援できること（年齢別）（上位項目）】



問30 楽しみや生きがい

あなたにとっての楽しみや生きがいはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

【図30 楽しみや生きがい（経年比較）】



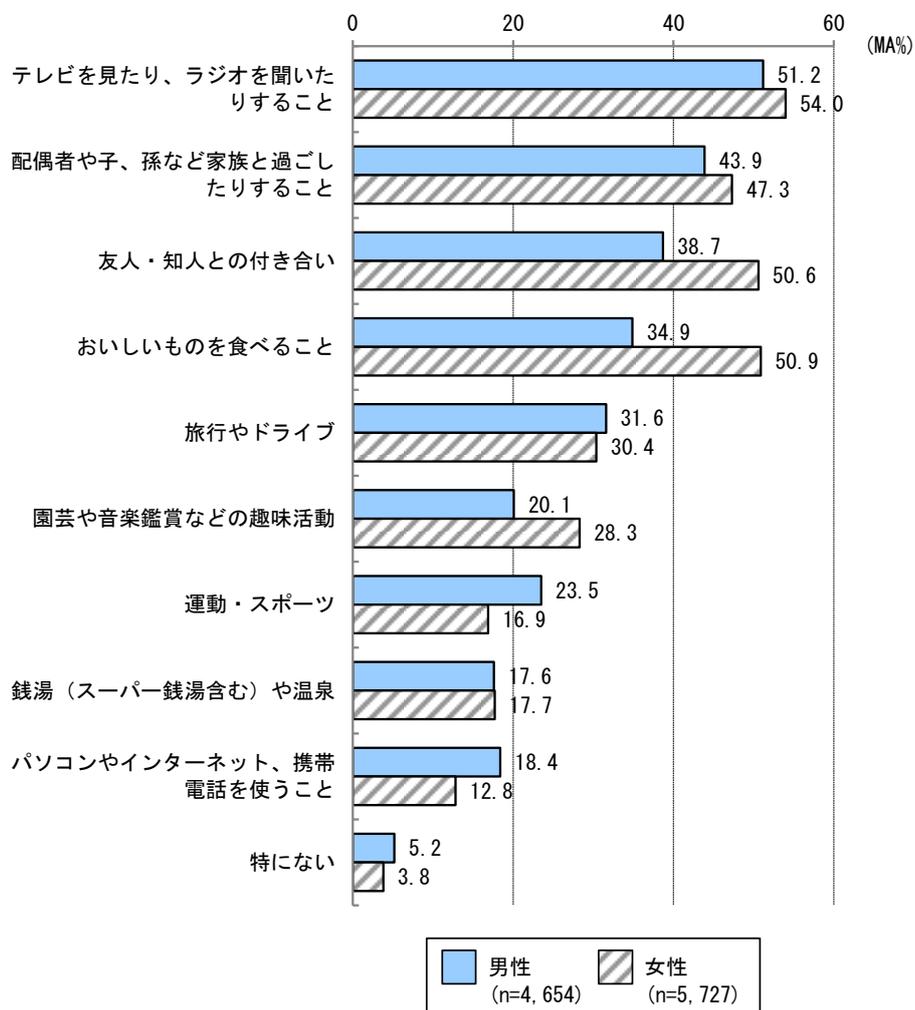
※「おいしいものを食べること」「銭湯（スーパー銭湯含む）や温泉」は、今回調査の新規項目である。

楽しみや生きがいについては、「テレビを見たり、ラジオを聞いたりすること」が52.6%で最も多く、次いで「配偶者や子、孫など家族と過ごしたりすること」が45.6%、「友人・知人との付き合い」が45.1%、「おいしいものを食べること」が43.6%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。（図30）

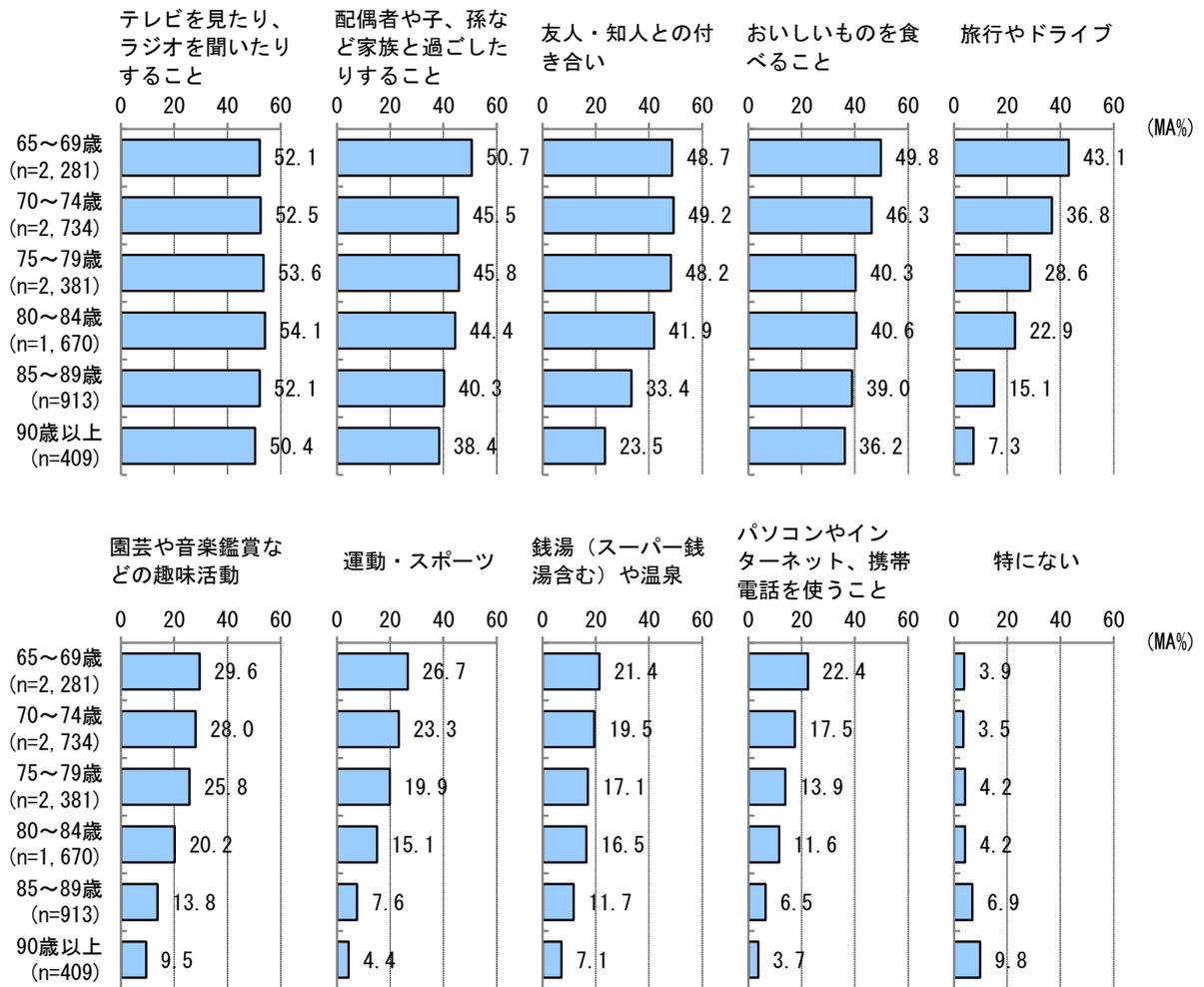
性別でみると、「旅行やドライブ」、「運動・スポーツ」、「パソコンやインターネット、携帯電話を使うこと」の回答割合は男性のほうが高くなっている。(図30-a)

【図30-a 楽しみや生きがい(性別)(上位項目)】



年齢別でみると、「配偶者や子、孫など家族と過ごしたりすること」や「おいしいものを食べること」、「旅行やドライブ」、「園芸や音楽鑑賞などの趣味活動」、「運動・スポーツ」、「銭湯（スーパー銭湯含む）や温泉」、「パソコンやインターネット、携帯電話を使うこと」の回答割合は高齢になるほど低くなっている。（図30-b）

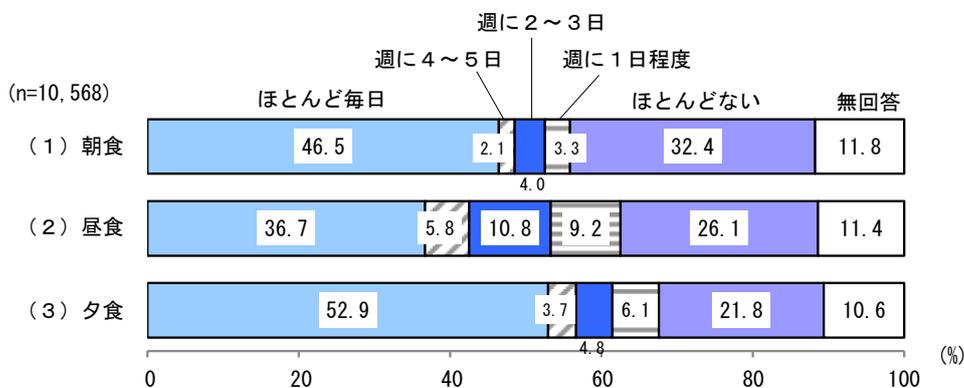
【図30-b 楽しみや生きがい（年齢別）（上位項目）】



問31 共食頻度

朝食、昼食、夕食を家族や友人等と一緒に食べる「共食（きょうしょく）」はどのくらいありますか。（朝食、昼食、夕食ごとに、あてはまるものに○をつけてください）

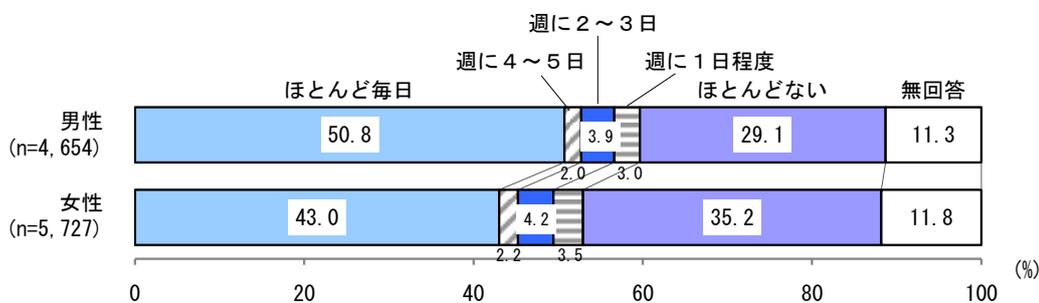
【図31 共食頻度】



共食頻度について、朝食、昼食、夕食とも、「ほとんど毎日」が最も多く、朝食46.5%、昼食36.7%、夕食52.9%となっている。一方、「ほとんどない」は朝食32.4%、昼食26.1%、夕食21.8%となっている。（図31）

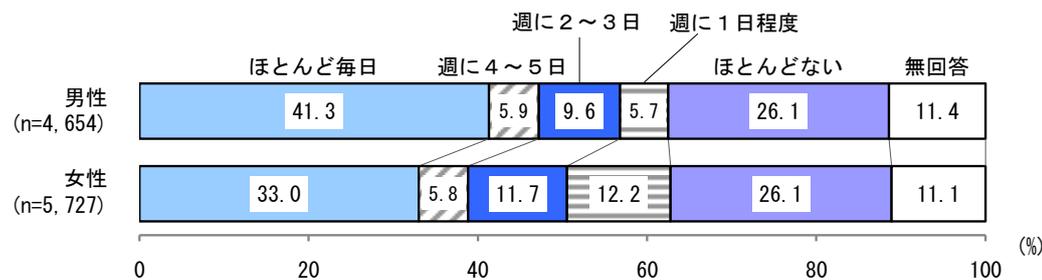
朝食の共食頻度を性別でみると、男性の「ほとんど毎日」の回答割合は約半数を占め、女性より男性のほうが高くなっている。（図31-a）

【図31-a 共食頻度 (1) 朝食 (性別)】



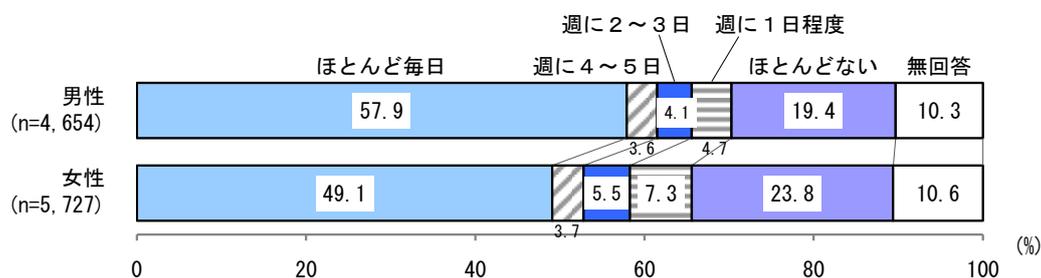
昼食の共食頻度を性別でみると、「ほとんど毎日」の回答割合は女性より男性のほうが高くなっている。（図31-b）

【図31-b 共食頻度 (2) 昼食 (性別)】



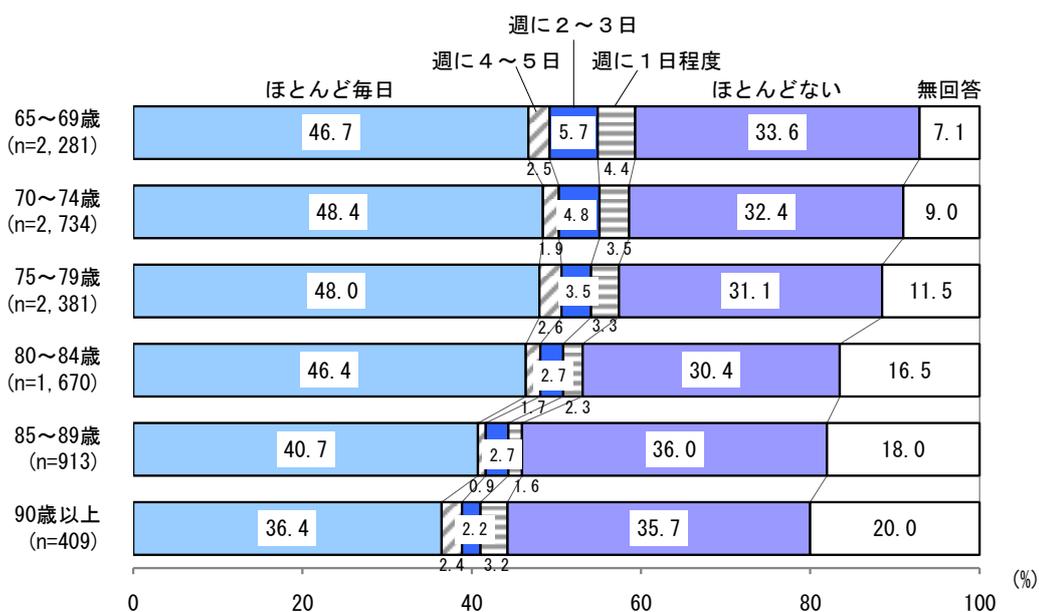
夕食の共食頻度を性別で見ると、男性の「ほとんど毎日」の回答割合は過半数を占めており、女性より男性のほうが高くなっている。(図31-c)

【図31-c 共食頻度 (3) 夕食 (性別)】



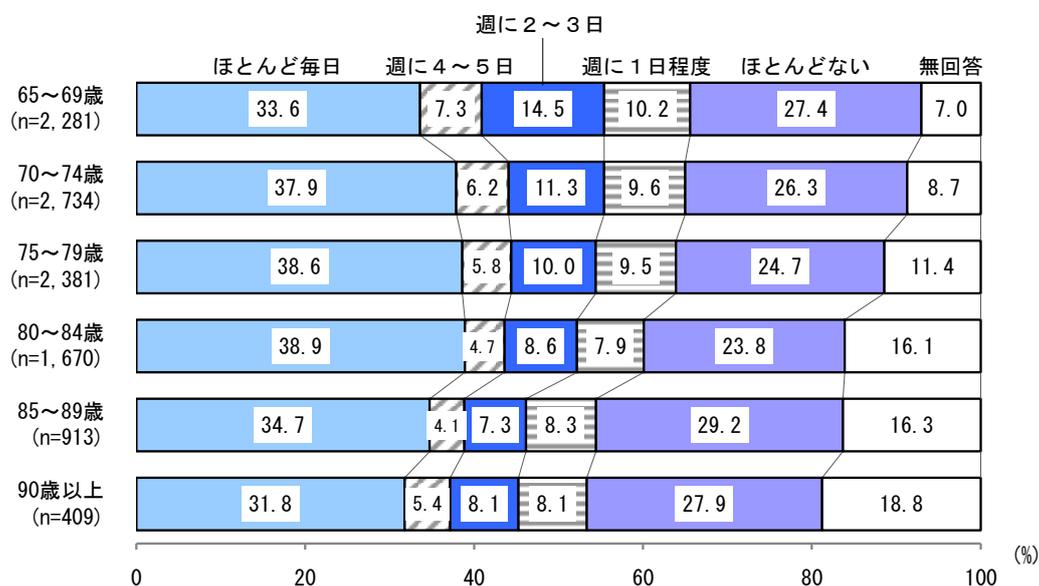
朝食の共食頻度を年齢別で見ると、「ほとんど毎日」の回答割合は90歳以上で最も低く、「ほとんどない」は85~89歳が36.0%で最も高くなっている。(図31-d)

【図31-d 共食頻度 (1) 朝食 (年齢別)】



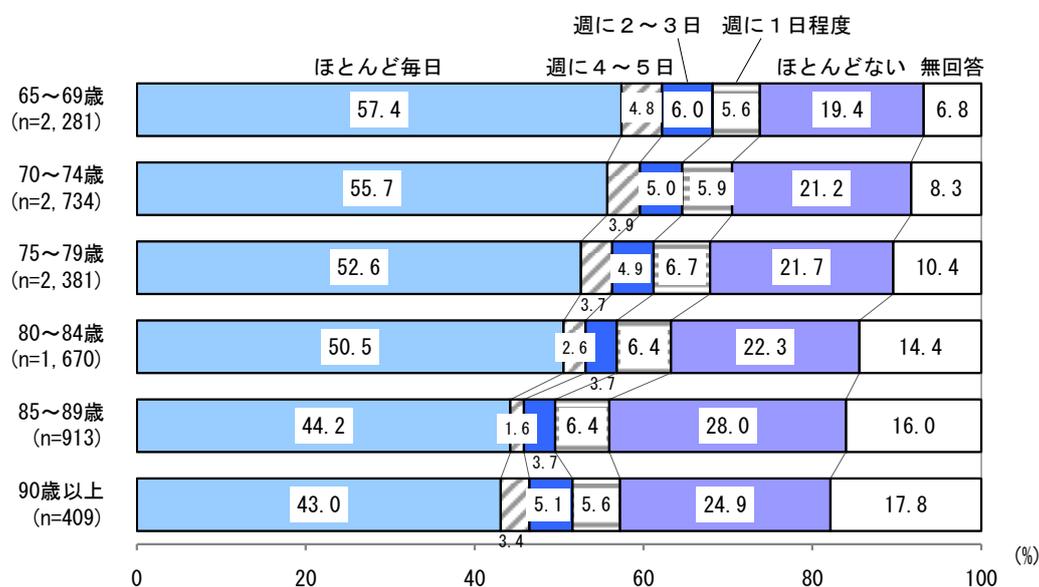
昼食の共食頻度を年齢別で見ると、「ほとんど毎日」の回答割合は75～79歳、80～84歳で38%台と高くなっている。(図31-e)

【図31-e 共食頻度 (2) 昼食 (年齢別)】



夕食の共食頻度を年齢別で見ると、「ほとんど毎日」の回答割合は高齢になるほど低くなっている。(図31-f)

【図31-f 共食頻度 (3) 夕食 (年齢別)】

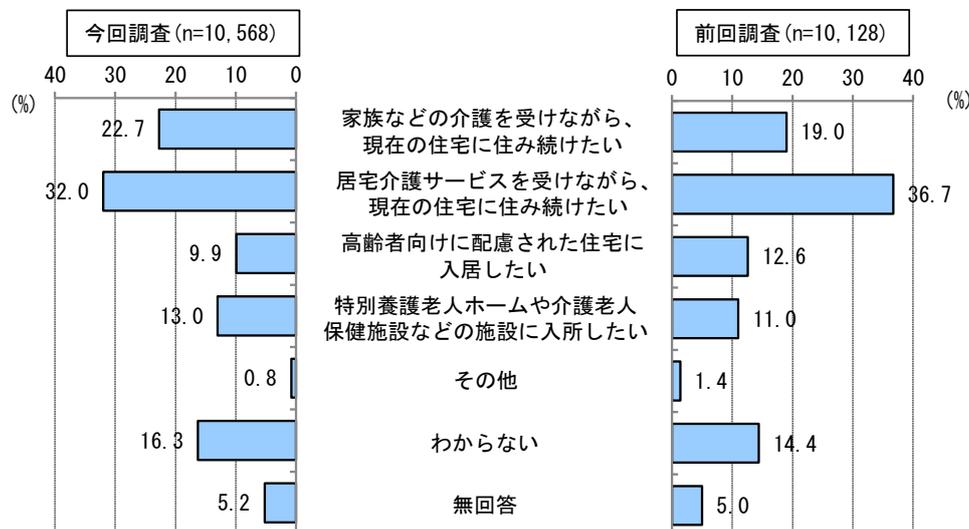


(5) 将来の介護や援護に対する考え

問32 介護が必要になった場合の暮らし方

あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思いますか。(〇はひとつ)

【図32 介護が必要になった場合の暮らし方（経年比較）】

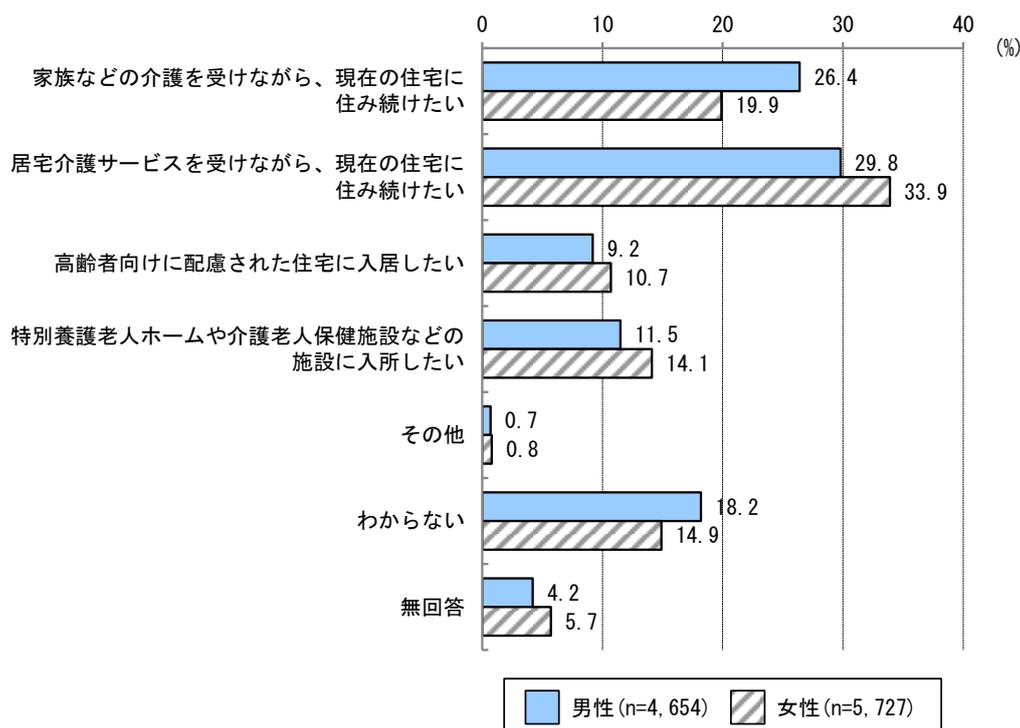


介護が必要になった場合の暮らし方については、「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が32.0%で最も多く、次いで「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が22.7%となっている。また、「わからない」は16.3%となっている。

前回調査と比較すると、「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の割合が4.7ポイント低くなっている。(図32)

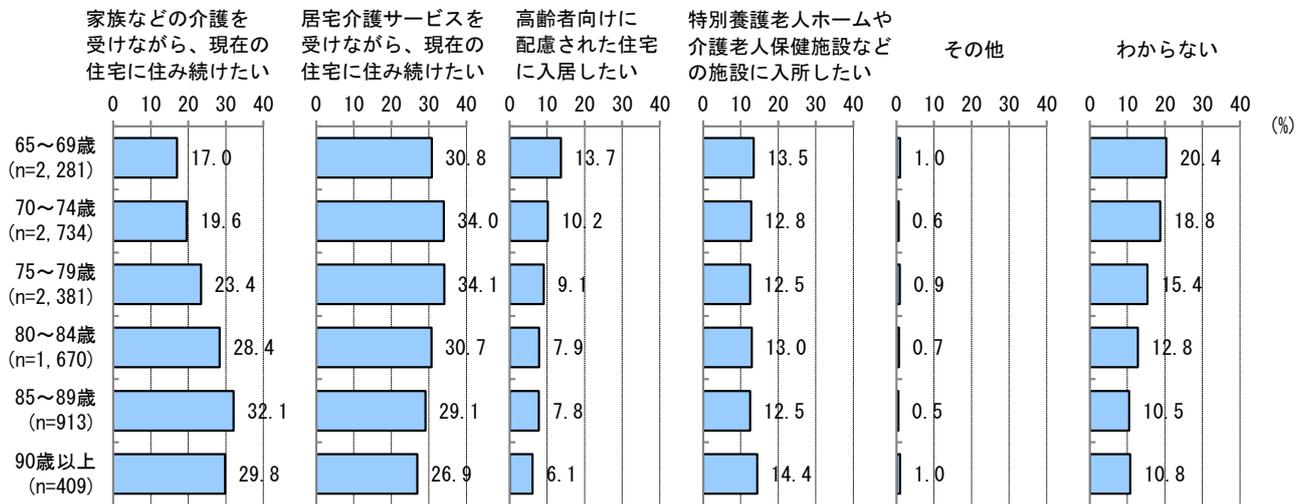
性別でみると、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は男性のほうが高く、それ以外の項目は女性のほうが高くなっている。(図32-a)

【図32-a 介護が必要になった場合の暮らし方（性別）】



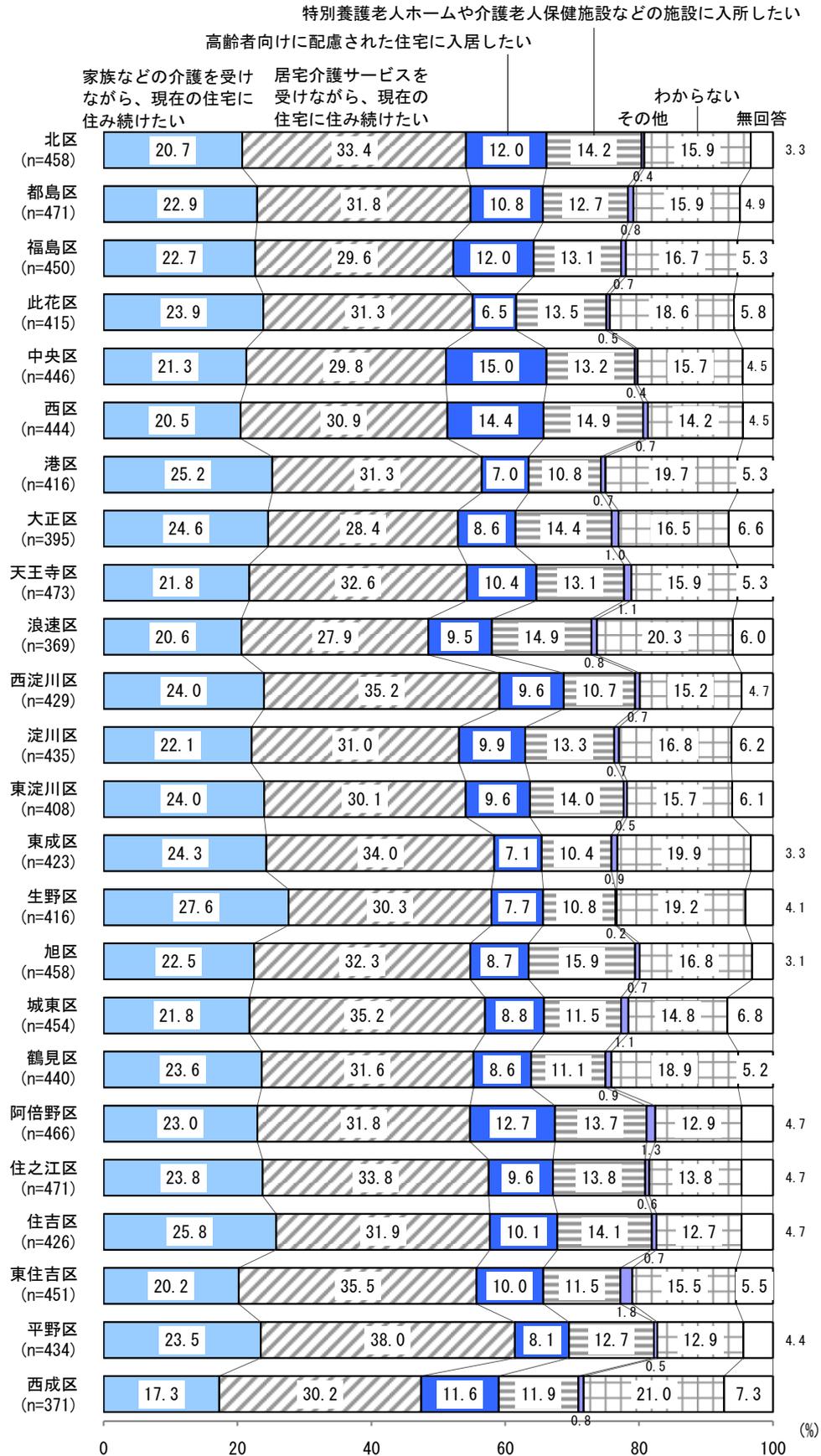
年齢別でみると、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は高齢になるほど高くなり、85～89歳が32.1%で最も高くなっている。「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」は75～79歳が34.1%で最も高く、以降、高齢になるほど割合が低くなっている。(図32-b)

【図32-b 介護が必要になった場合の暮らし方（年齢別）】



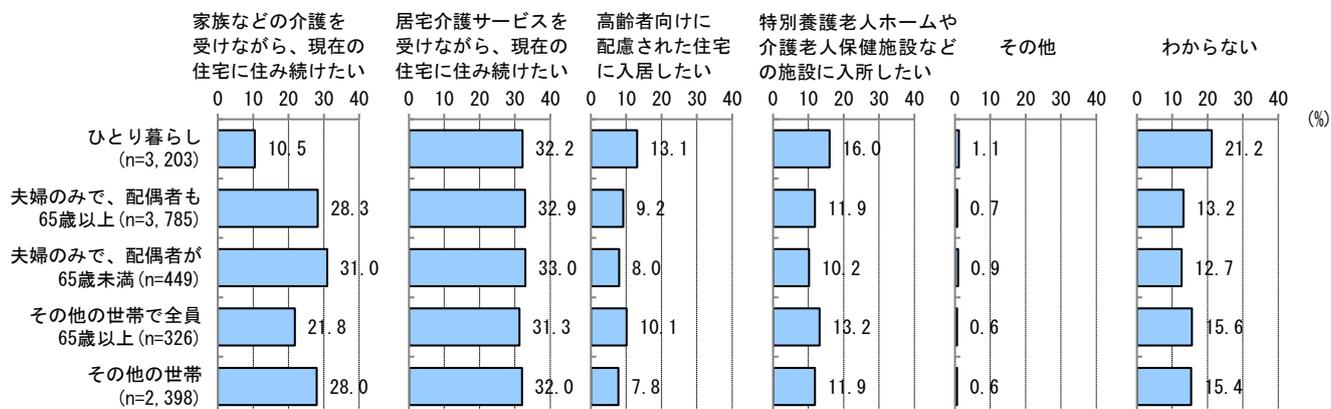
居住区別でみると、「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は平野区が38.0%で最も高く、次いで東住吉区が35.5%で続いている。(図32-c)

【図32-c 介護が必要になった場合の暮らし方（居住区別）】



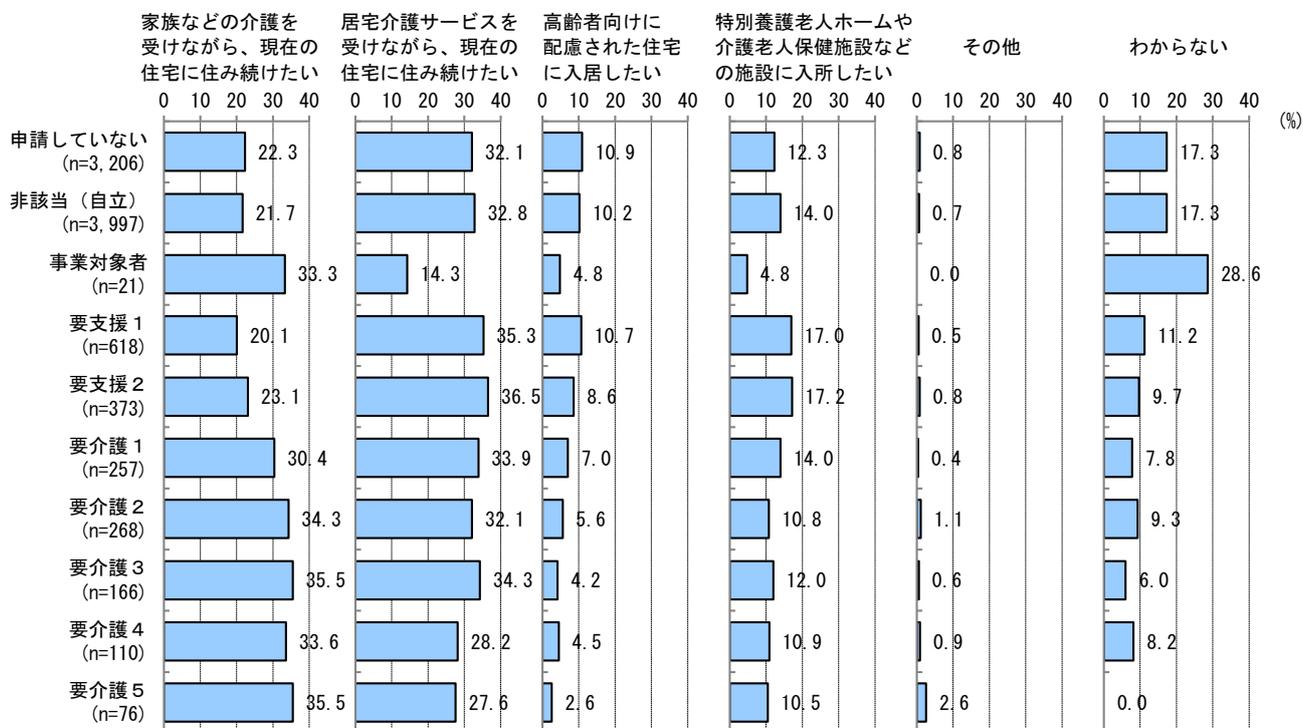
世帯状況別でみると、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は“夫婦のみで、配偶者が65歳未満”が31.0%で最も高く、「高齢者向けに配慮された住宅に入居したい」では“ひとり暮らし”が13.1%で最も高くなっている。(図32-d)

【図32-d 介護が必要になった場合の暮らし方（世帯状況別）】



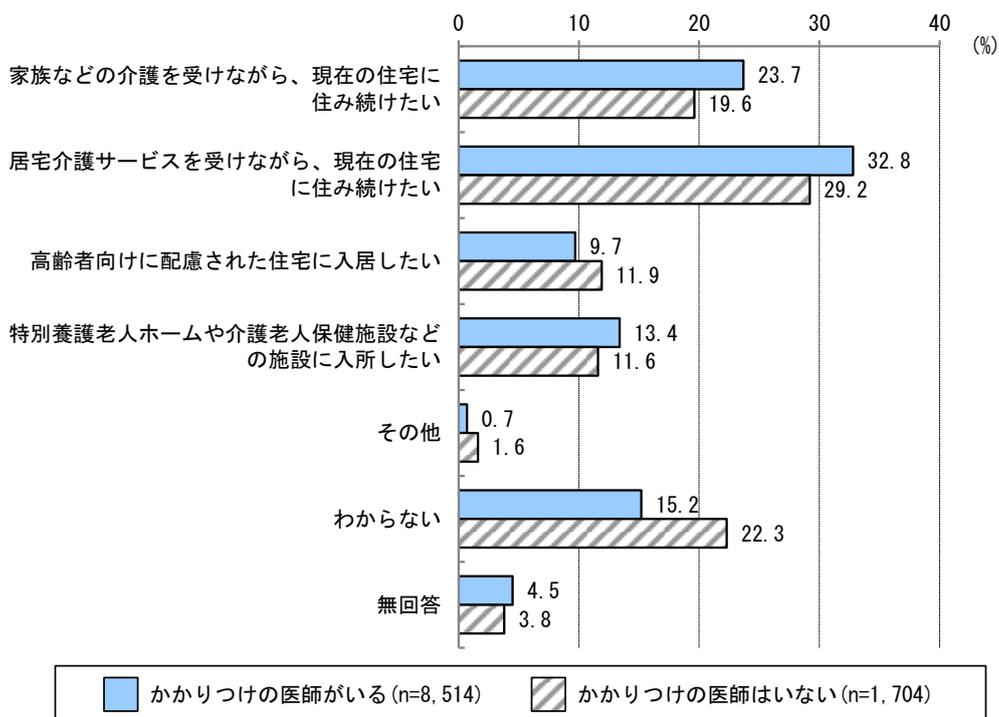
介護度別でみると、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は事業対象者と要介護1～5で3割台と高くなっている。「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は要支援2で最も高くなっている。(図32-e)

【図32-e 介護が必要になった場合の暮らし方（介護度別）】



かかりつけの医師の有無別でみると、「高齢者向けに配慮された住宅に入居したい」以外は“かかりつけの医師がいる”のほうが割合が高くなっている。(図32-f)

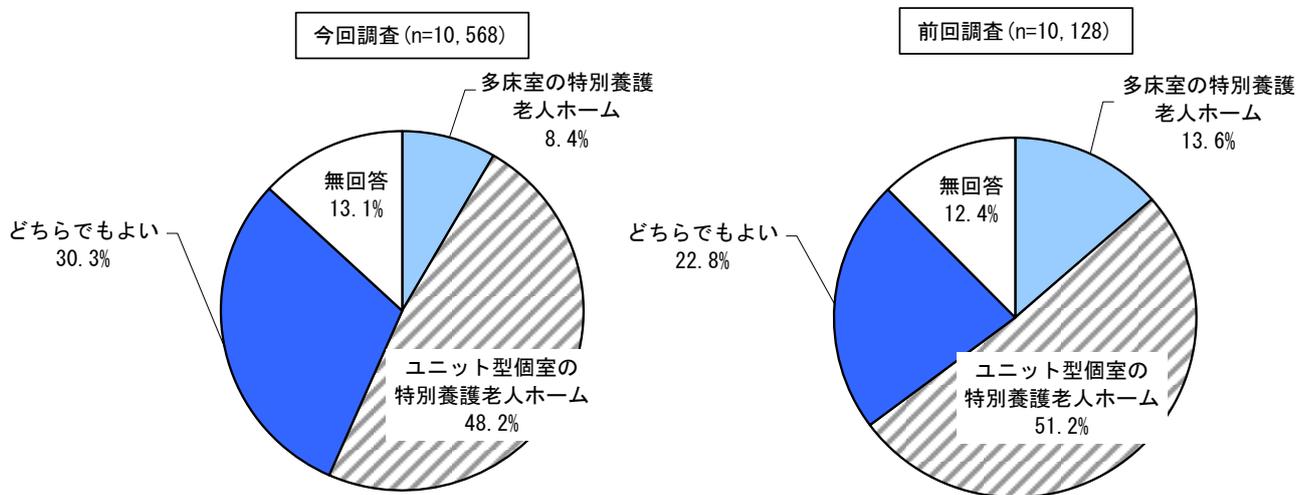
【図32-f 介護が必要になった場合の暮らし方（かかりつけの医師の有無別）】



問33 特養入所意向

あなたは、特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）に入所することになった場合、どちらの施設に入りたいと思われますか。（〇はひとつ）

【図33 特養入所意向（経年比較）】

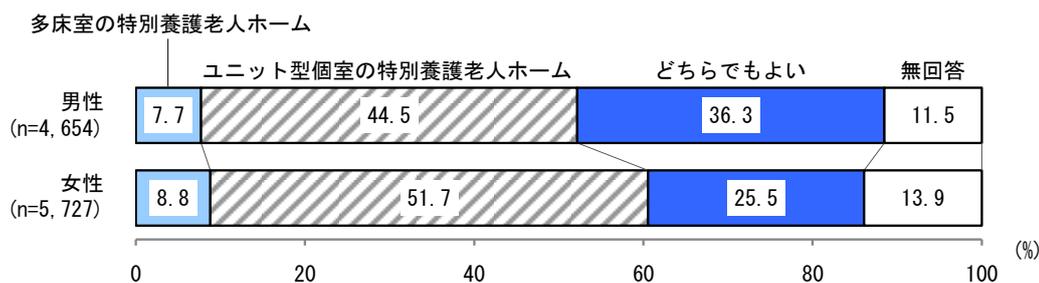


特別養護老人ホームに入所する場合に希望する施設は、「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」が48.2%、「多床室の特別養護老人ホーム」は8.4%となっている。

前回調査と比較すると、「多床室の特別養護老人ホーム」の割合が5.2ポイント低くなっている。（図33）

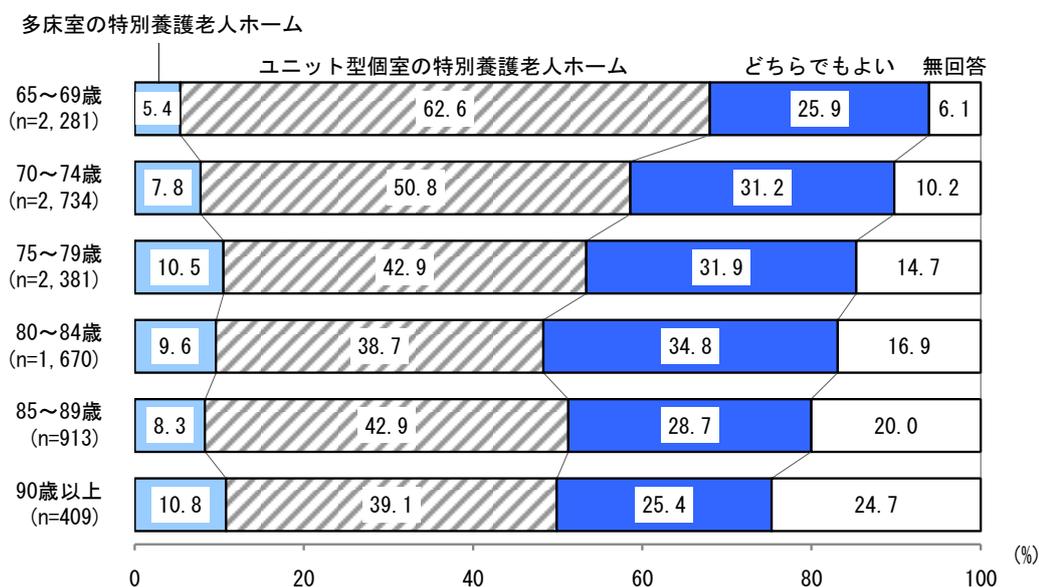
性別でみると、「多床室の特別養護老人ホーム」、「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」の回答割合は女性のほうが高くなっている。（図33-a）

【図33-a 特養入所意向（性別）】



年齢別でみると、いずれの年齢区分とも「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」の希望する割合が最も高く、80～84歳が38.7%で最も低くなっている。(図33-b)

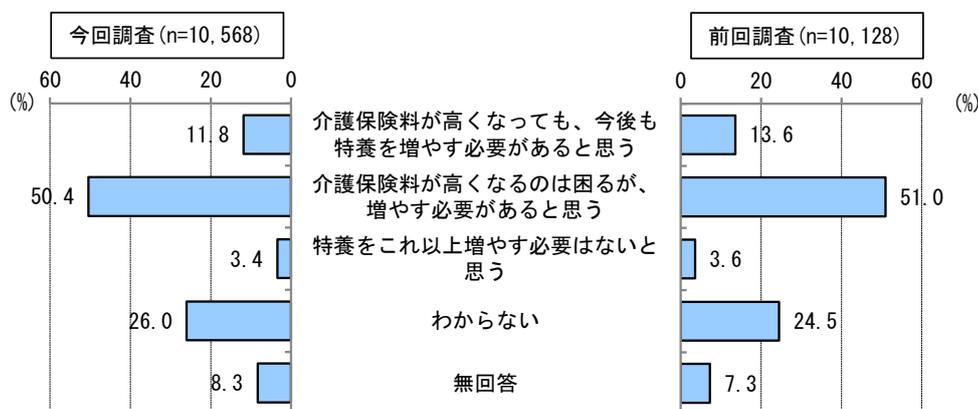
【図33-b 特養入所意向（年齢別）】



問34 特養の整備と介護保険料

特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）の整備についておたずねします。
 特別養護老人ホームの整備が進めば、介護保険料が高くなりますが、あなたは、今後の整備についてどう思われますか。（○はひとつ）

【図34 特養の整備と介護保険料（経年比較）】

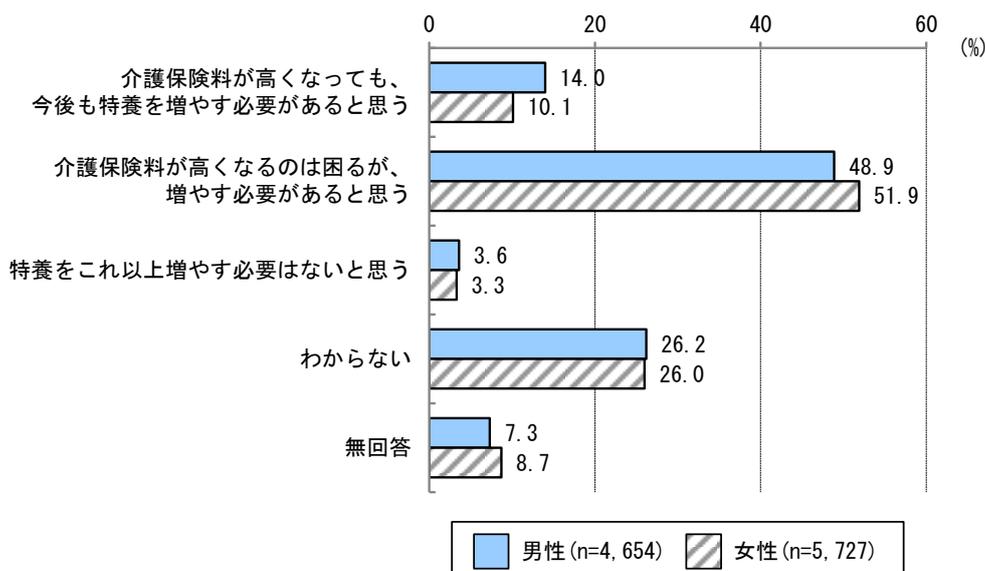


特別養護老人ホームの整備と介護保険料に対する考えについては、「介護保険料が高くなるのは困るが、増やす必要があると思う」が50.4%で最も多い。「介護保険料が高くなっても、今後も特養を増やす必要があると思う」（11.8%）も含めると、6割を超える人が増設の必要性を感じている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。（図34）

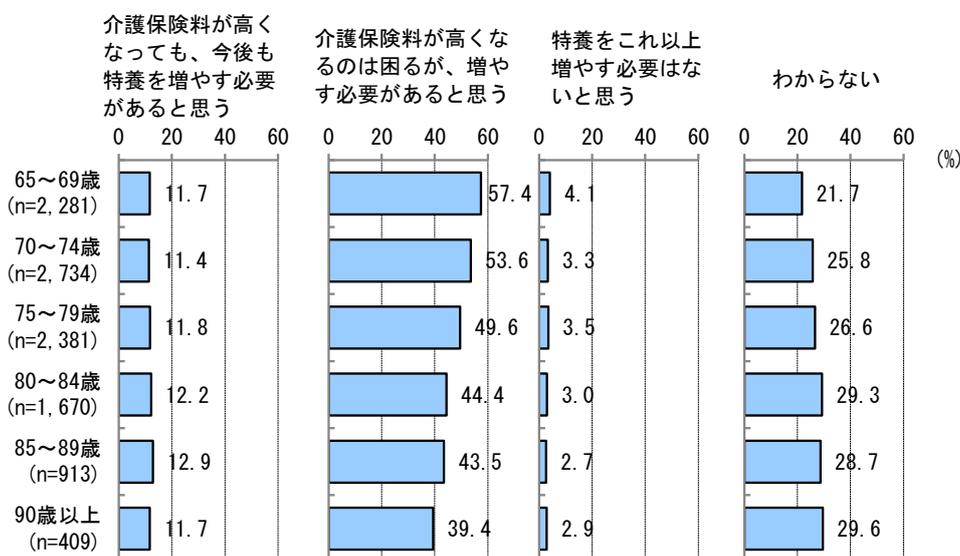
性別でみると、「介護保険料が高くなっても、今後も特養を増やす必要があると思う」と「特養をこれ以上増やす必要はないと思う」の回答割合は男性のほうが高くなっている。（図34-a）

【図34-a 特養の整備と介護保険料（性別）】



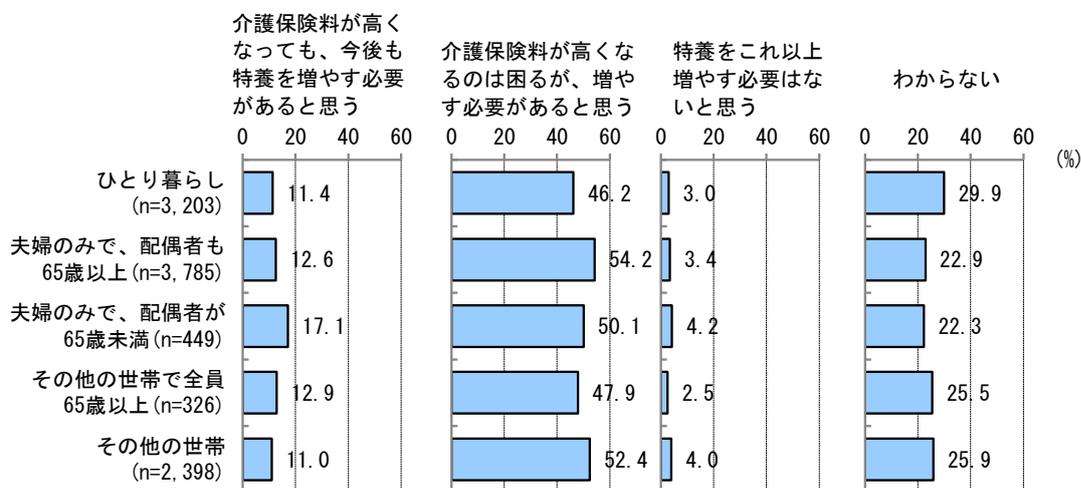
年齢別でみると、「介護保険料が高くなるのは困るが、増やす必要があると思う」の回答割合は高齢になるほど割合が低くなっている。(図34-b)

【図34-b 特養の整備と介護保険料（年齢別）】



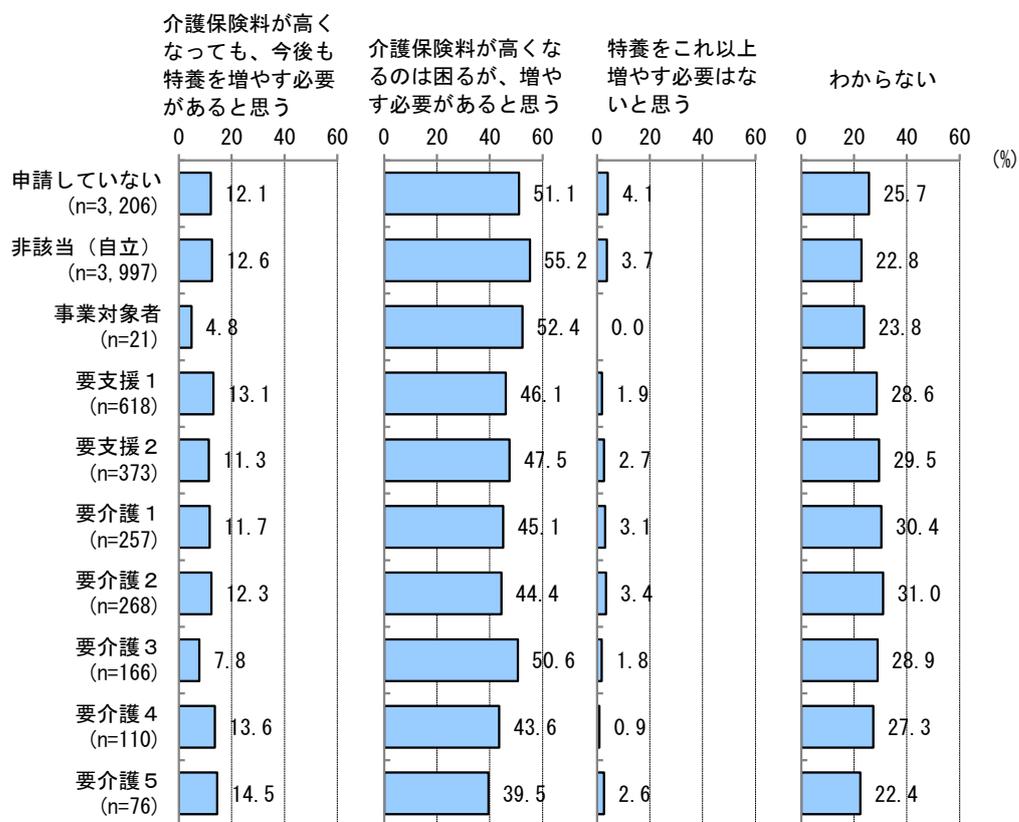
世帯状況別でみると、「介護保険料が高くなるのは困るが、増やす必要があると思う」の回答割合は“夫婦のみで、配偶者が65歳以上”で最も高くなっている。(図34-c)

【図34-c 特養の整備と介護保険料（世帯状況別）】



介護度別でみると、「介護保険料が高くなるのは困るが、増やす必要があると思う」の回答割合は非該当（自立）が55.2%で最も高くなっている。（図34-d）

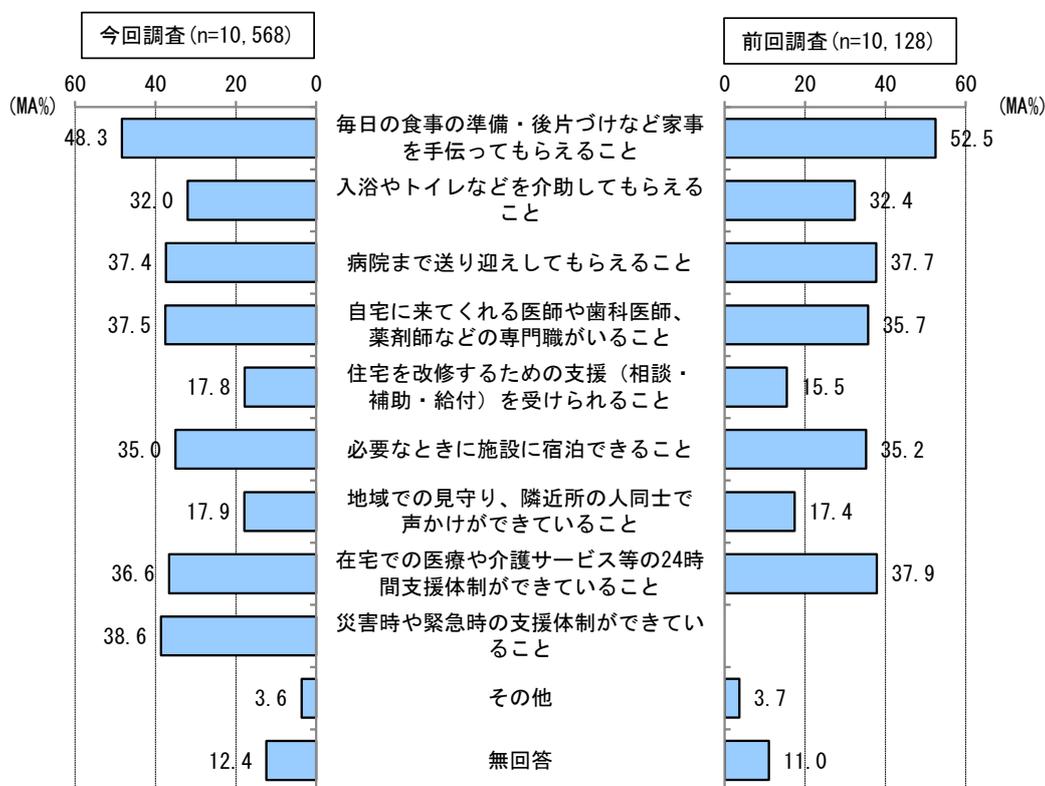
【図34-d 特養の整備と介護保険料（介護度別）】



問35 在宅生活継続のための支援

あなたは、どのような支援が身近にあれば、自宅での生活を続けていけるとお思いますか。
(〇はいくつでも)

【図35 在宅生活継続のための支援（経年比較）】



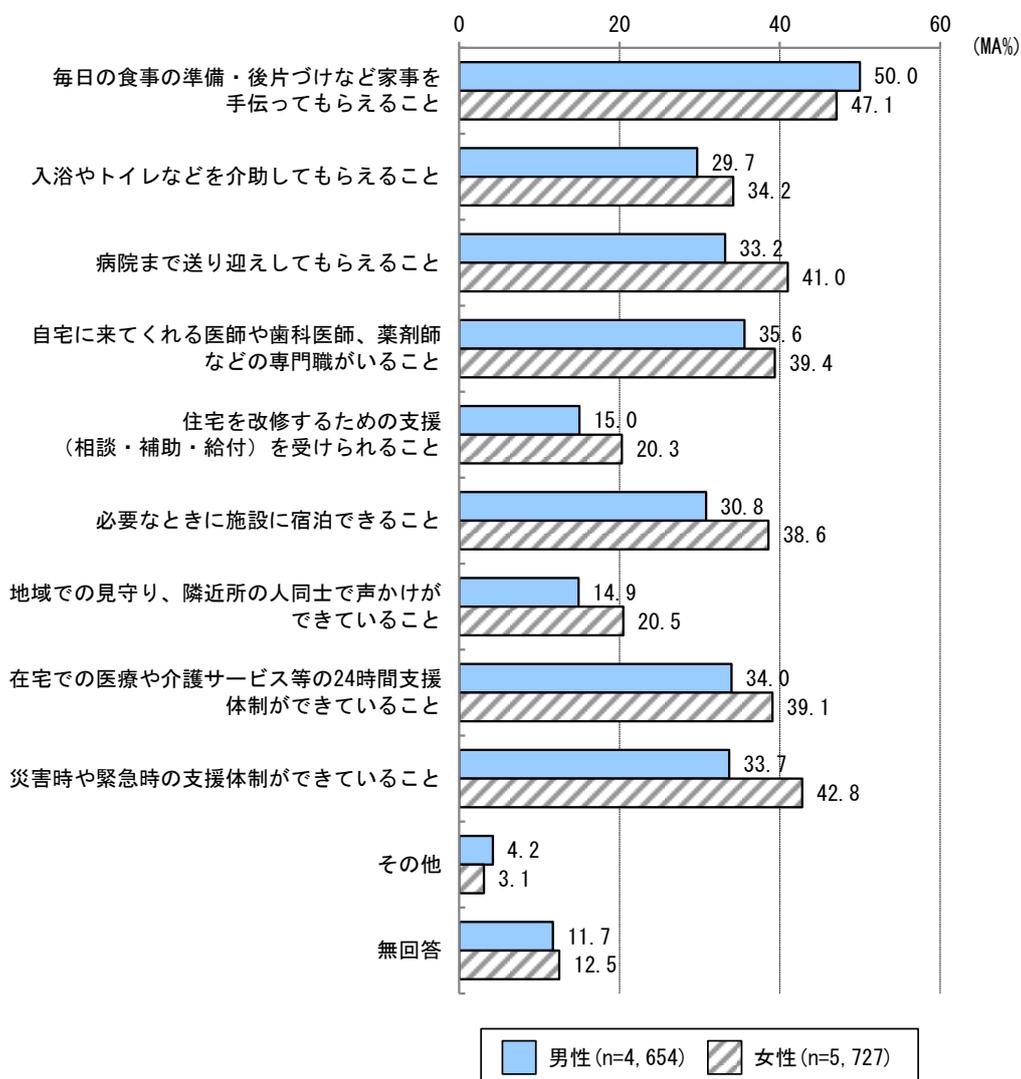
※「災害時や緊急時の支援体制ができていること」は、今回調査の新規項目である。

在宅生活継続のための支援については、「毎日の食事の準備・後片づけなど家事を手伝ってもらえること」が48.3%で最も多く、次いで「災害時や緊急時の支援体制ができていること」が38.6%、「自宅に来てくれる医師や歯科医師、薬剤師などの専門職がいること」が37.5%、「病院まで送り迎えしてもらえること」が37.4%となっている。

前回調査との比較では、傾向は変わらないが、「毎日の食事の準備・後片づけなど家事を手伝ってもらえること」の割合が4.2ポイント低くなっている。(図35)

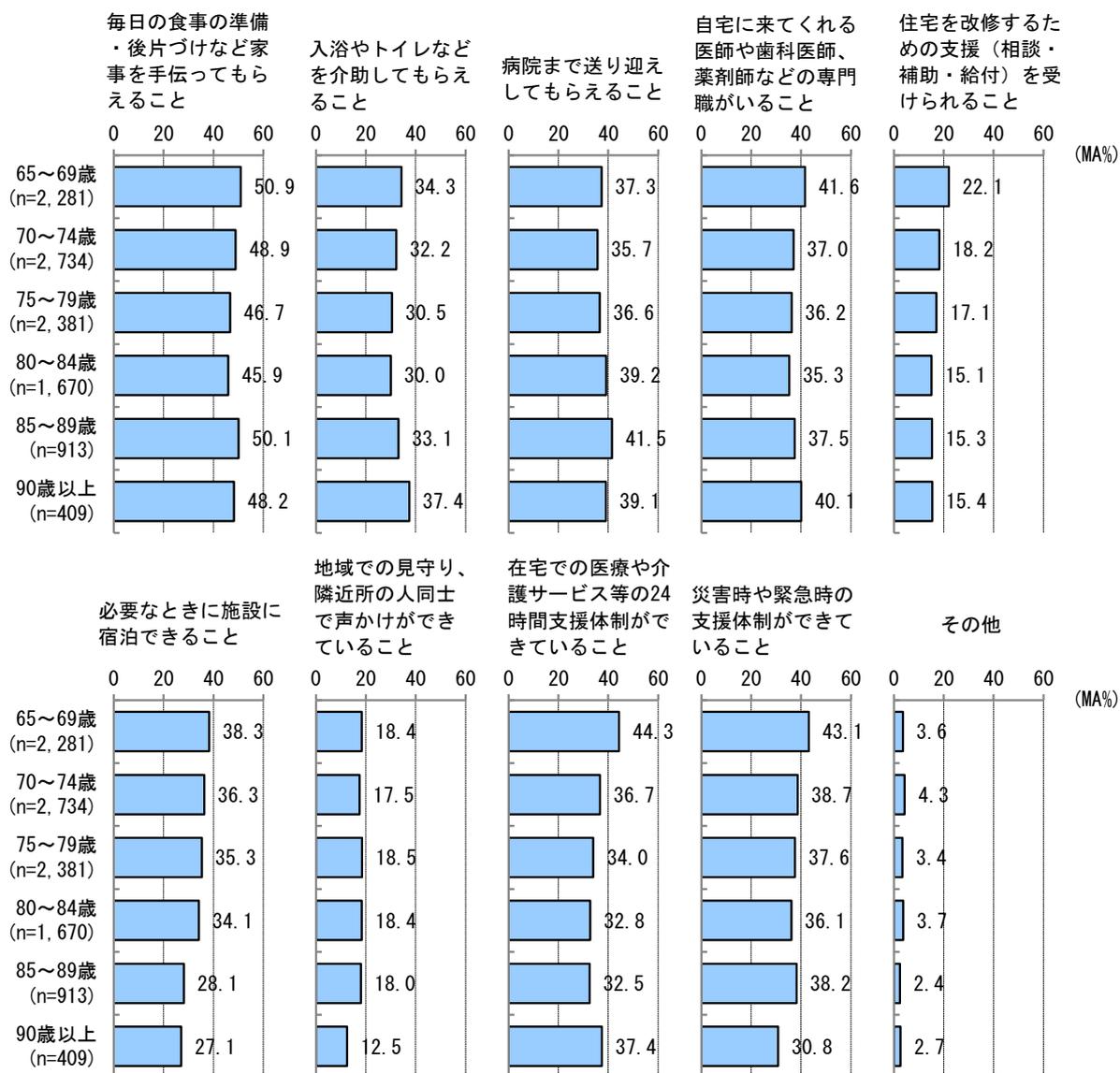
性別でみると、「毎日の食事の準備・後片づけなど家事を手伝ってもらえること」の回答割合は男性のほうが高いが、それ以外の項目は女性のほうが高くなっている。(図35-a)

【図35-a 在宅生活継続のための支援（性別）】



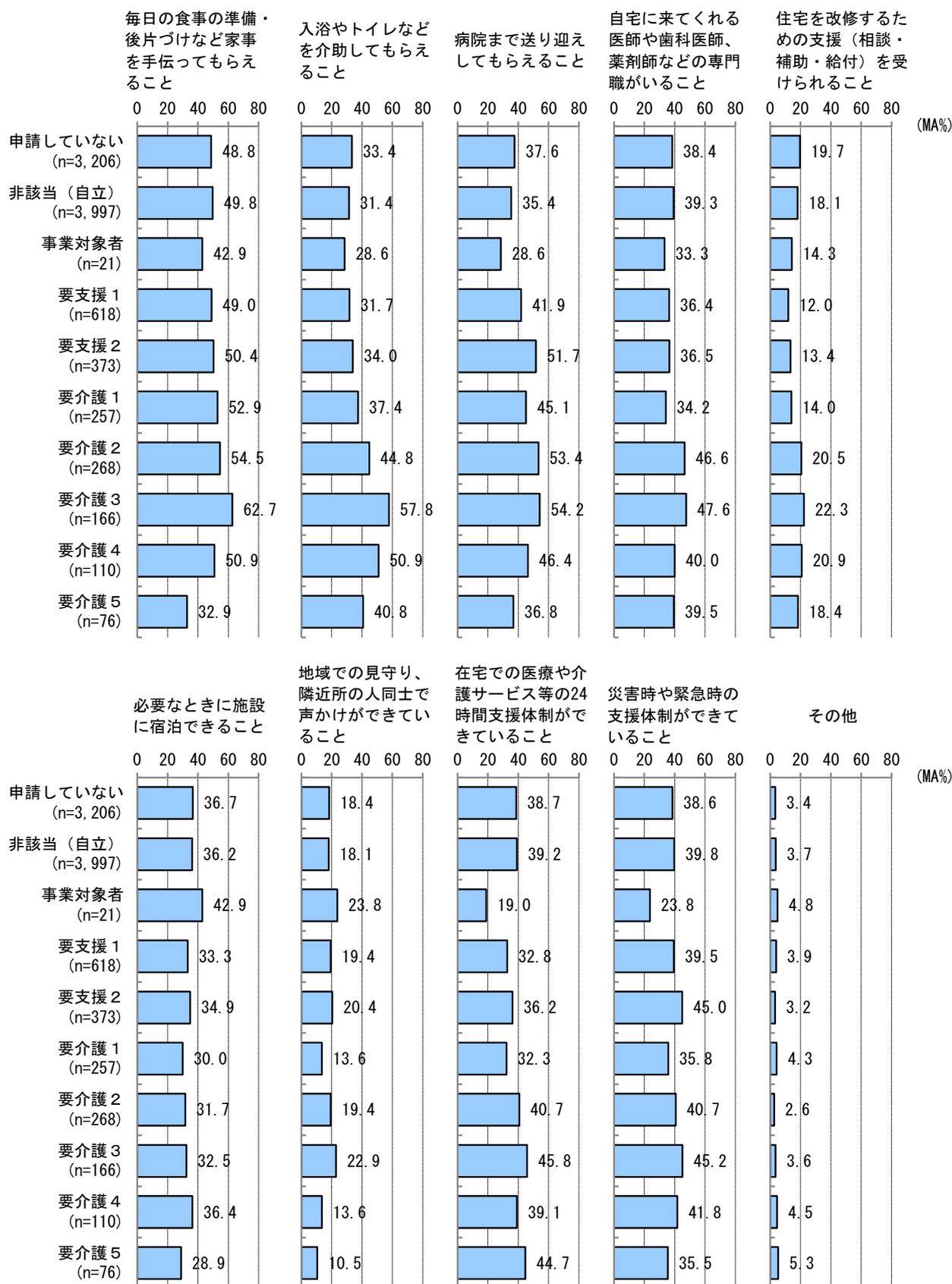
年齢別でみると、「必要なときに施設に宿泊できること」の回答割合は高齢になるほど低くなっている。(図35-b)

【図35-b 在宅生活継続のための支援（年齢別）】



介護度別でみると、「必要なときに施設に宿泊できること」と「地域での見守り、隣近所の人同士で声かけができていること」の回答割合は事業対象者で最も高いが、それ以外の項目は要介護3で最も高くなっている。(図35-c)

【図35-c 在宅生活継続のために必要な支援（介護度別）】

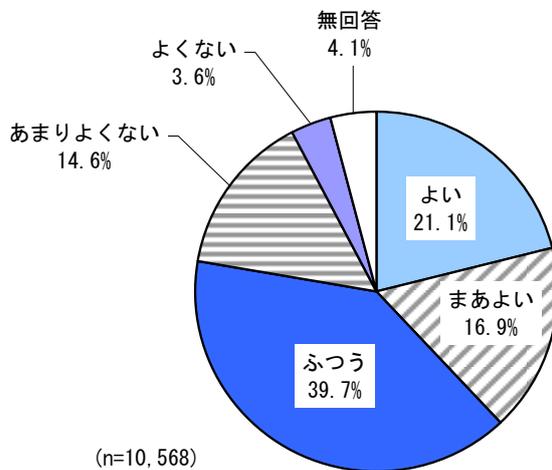


(6) 生活の満足度

問36 現在の健康状態

あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○はひとつ)

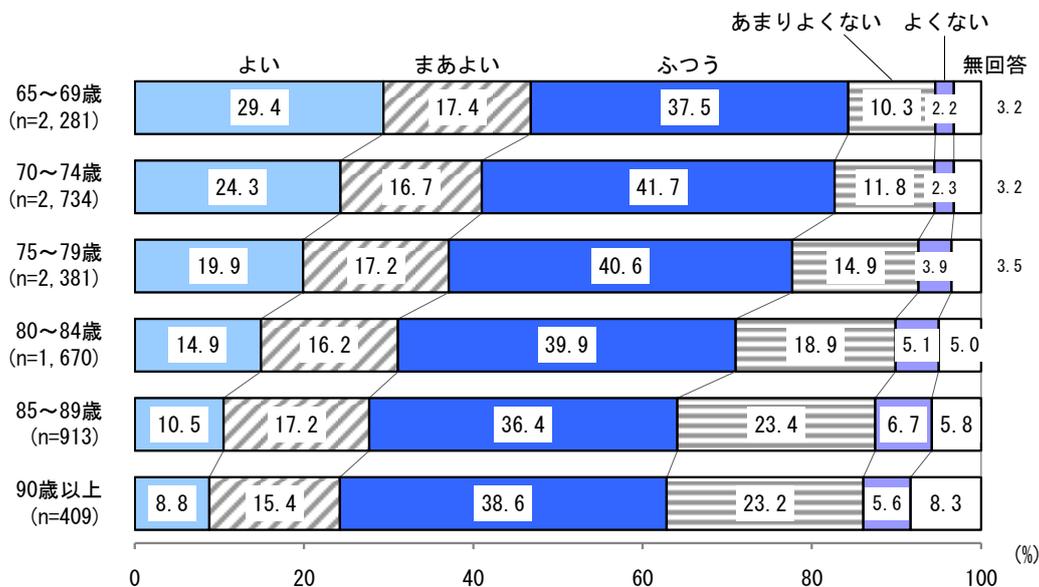
【図36 現在の健康状態】



現在の健康状態については、「ふつう」が39.7%、「よい」が21.1%、「まあよい」が16.9%となっている。「あまりよくない」「よくない」をあわせた『よくない』人は18.2%となっている。(図36)

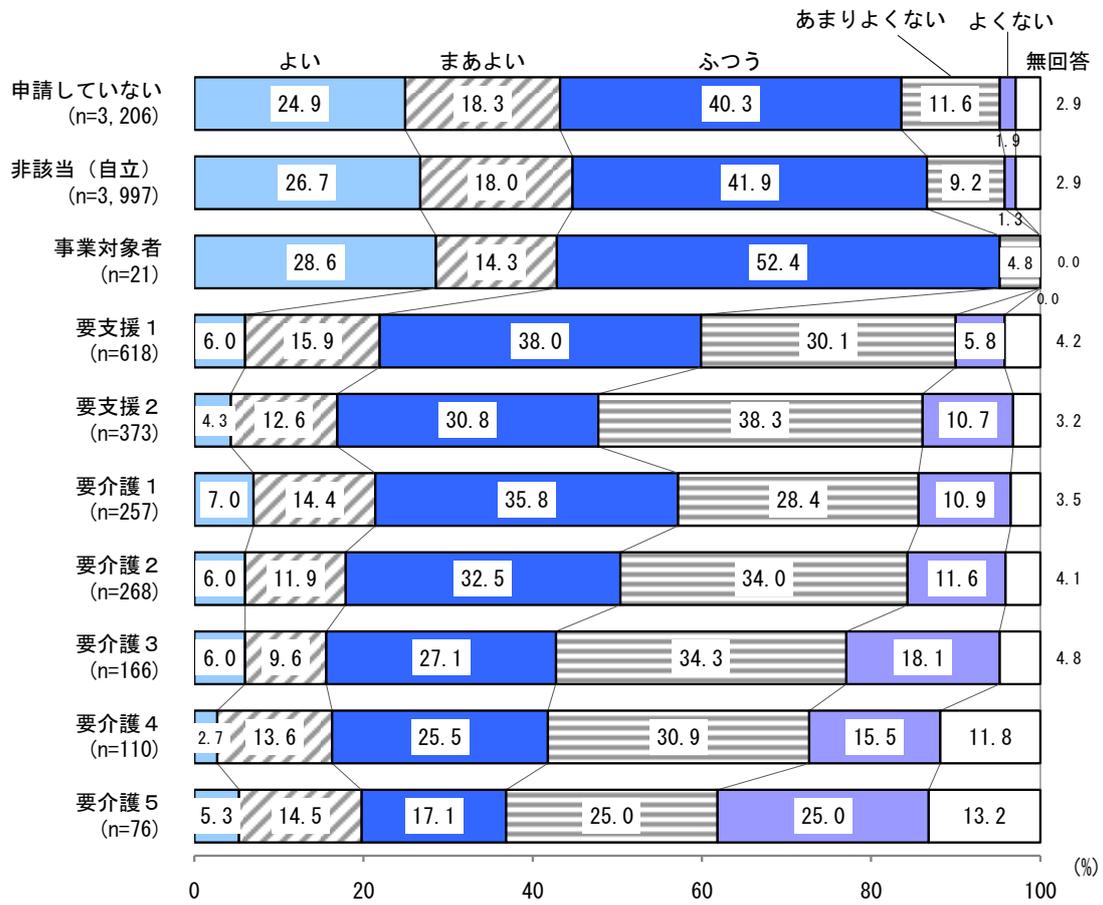
年齢別でみると、「よい」と「まあよい」をあわせた『よい』人は高齢になるほど割合が低くなっている。(図36-a)

【図36-a 現在の健康状態 (年齢別)】



介護度別でみると、『よい』人は要支援1以上ではいずれも2割前後と低くなっている。(図36-b)

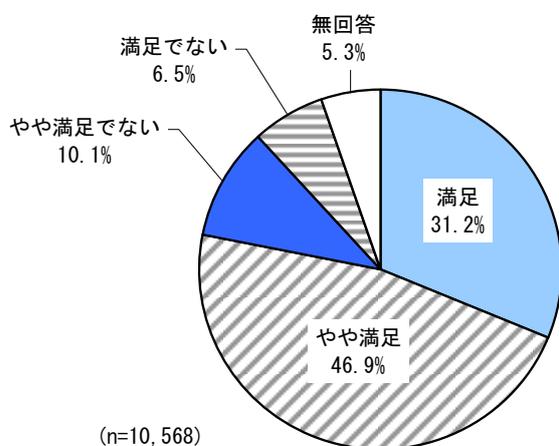
【図36-b 現在の健康状態（介護度別）】



問37 現在の生活の満足度

あなたの現在の生活の満足度は次のどれにあてはまりますか。(○はひとつ)

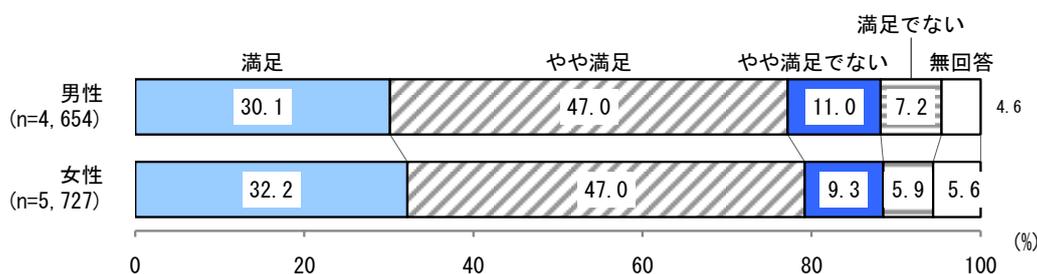
【図37 現在の生活の満足度】



現在の生活の満足度については、「やや満足」が46.9%で最も多く、次いで「満足」が31.2%となっている。一方で「やや満足でない」「満足でない」をあわせた『満足でない』人は16.6%となっている。(図37)

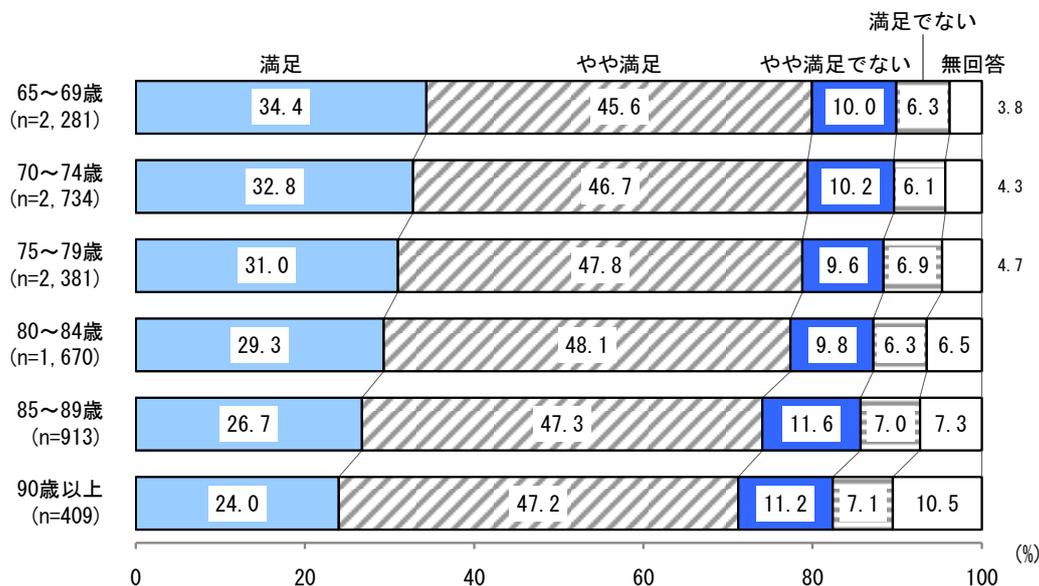
性別でみると、『満足でない』人は女性より男性のほうがやや高くなっている。(図37-a)

【図37-a 現在の生活の満足度 (性別)】



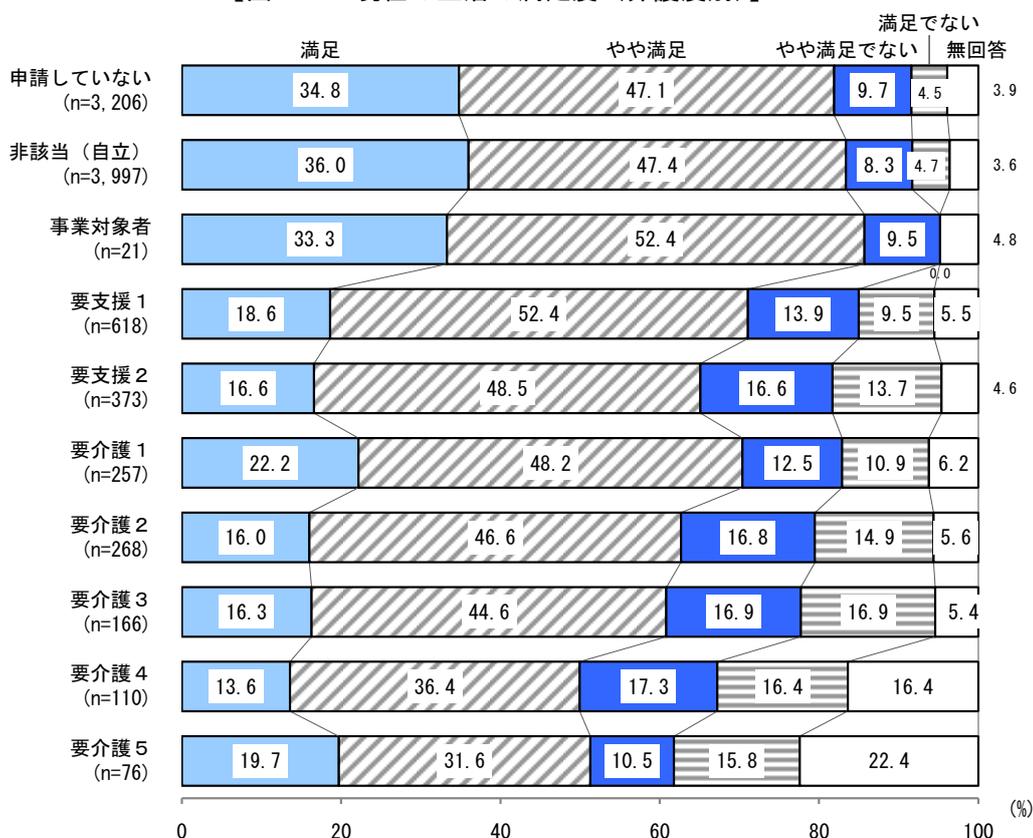
年齢別でみると、『満足でない』人は85～89歳が18.6%で最も高くなっている。(図37-b)

【図37-b 現在の生活の満足度 (年齢別)】



介護度別でみると、『満足でない』人は要介護3が33.8%で最も高く、次いで要介護4が33.7%となっている。(図37-c)

【図37-c 現在の生活の満足度（介護度別）】

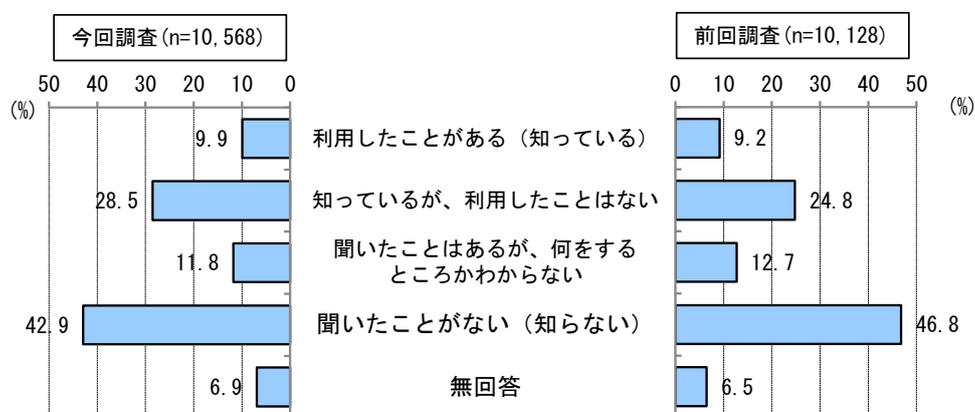


(7) 地域生活支援

問38 地域包括支援センター・ブランチの利用状況

あなたは、地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）を利用したことがありますか。（○はひとつ）

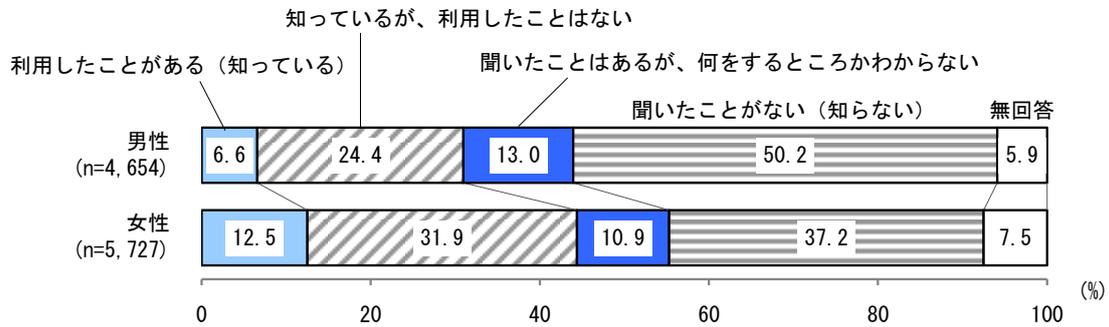
【図38 地域包括支援センター・ブランチの利用状況（経年比較）】



地域包括支援センター・ブランチの利用状況については、「利用したことがある（知っている）」(9.9%)と「知っているが、利用したことはない」(28.5%)をあわせた『知っている』は38.4%となっており、『知っている』割合は前回より4.4ポイント高くなっている。「聞いたことがない（知らない）」(42.9%)の割合は前回と比べ3.9ポイント低くなっている。(図38)

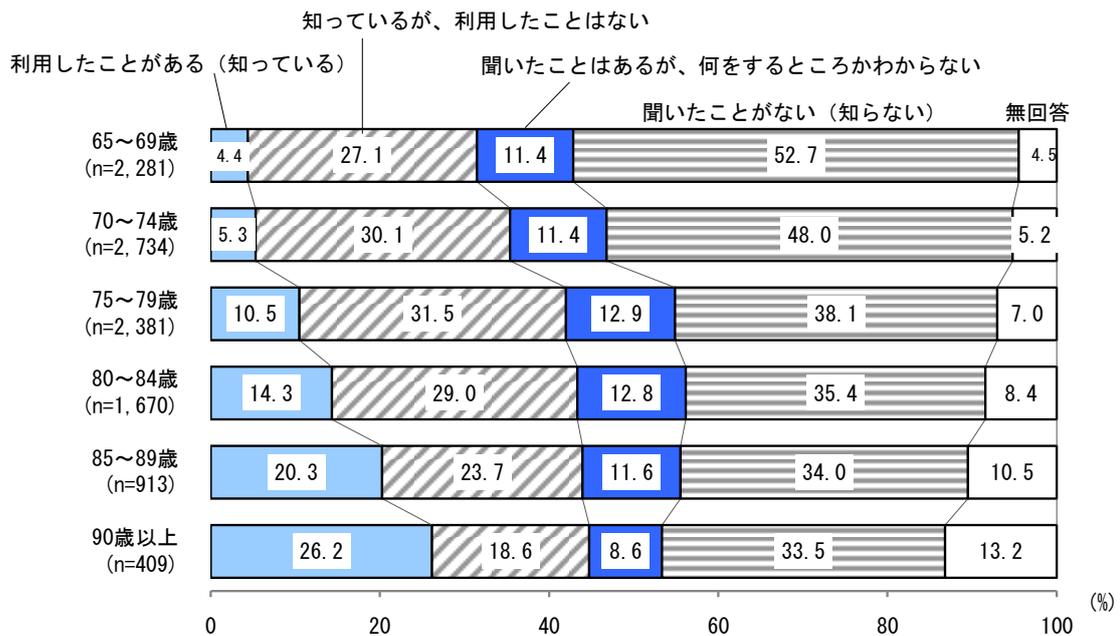
性別でみると、利用の有無にかかわらず『知っている』の回答割合は女性のほうが高く、「聞いたことがない（知らない）」の回答割合は、男性のほうが高くなっている。（図38-a）

【図38-a 地域包括支援センター・ブランチの利用状況（性別）】



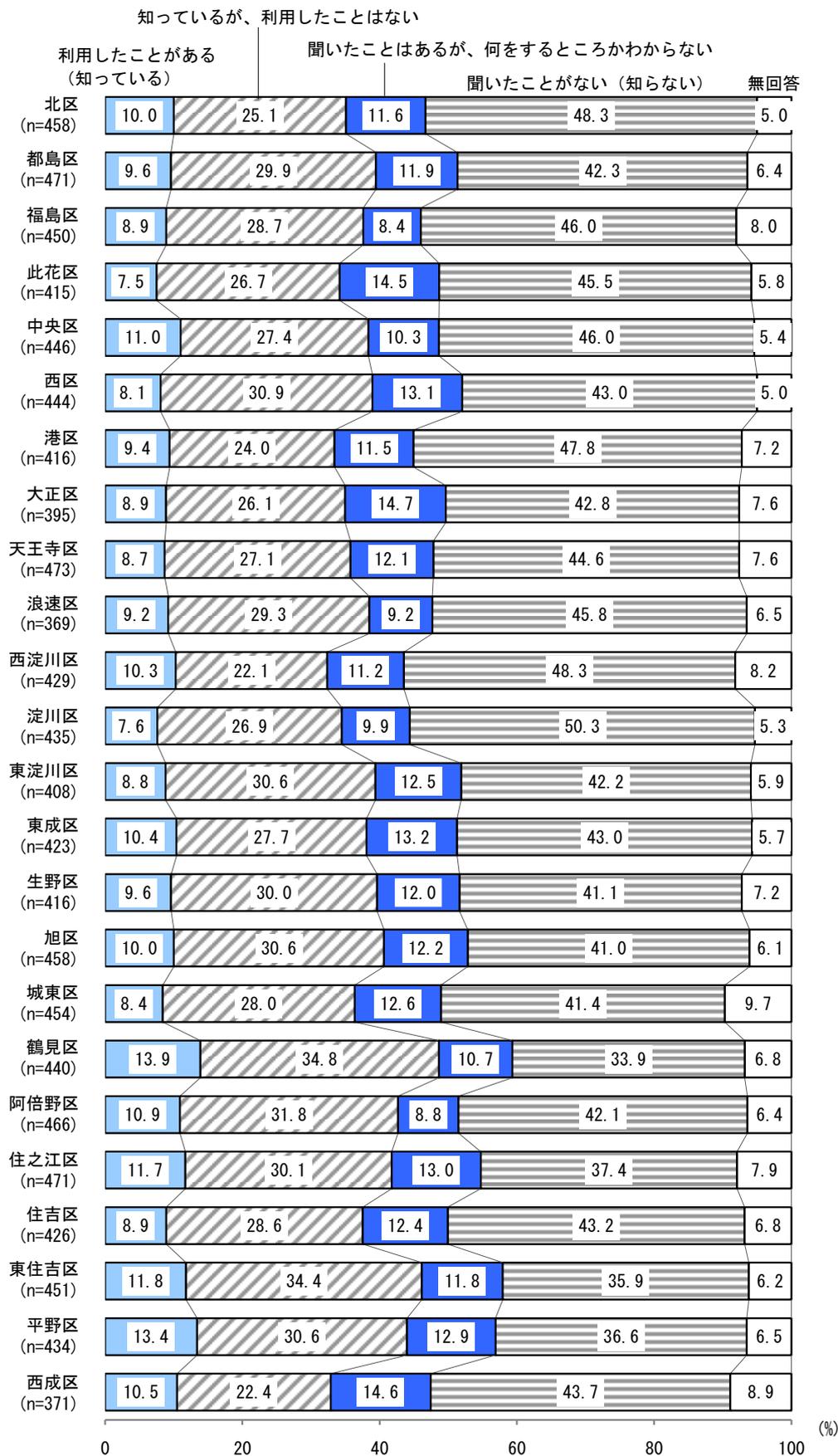
年齢別では、概ね高齢になるほど『知っている』の回答割合が高くなり、75歳以上は4割を超えている。（図38-b）

【図38-b 地域包括支援センター・ブランチの利用状況（年齢別）】



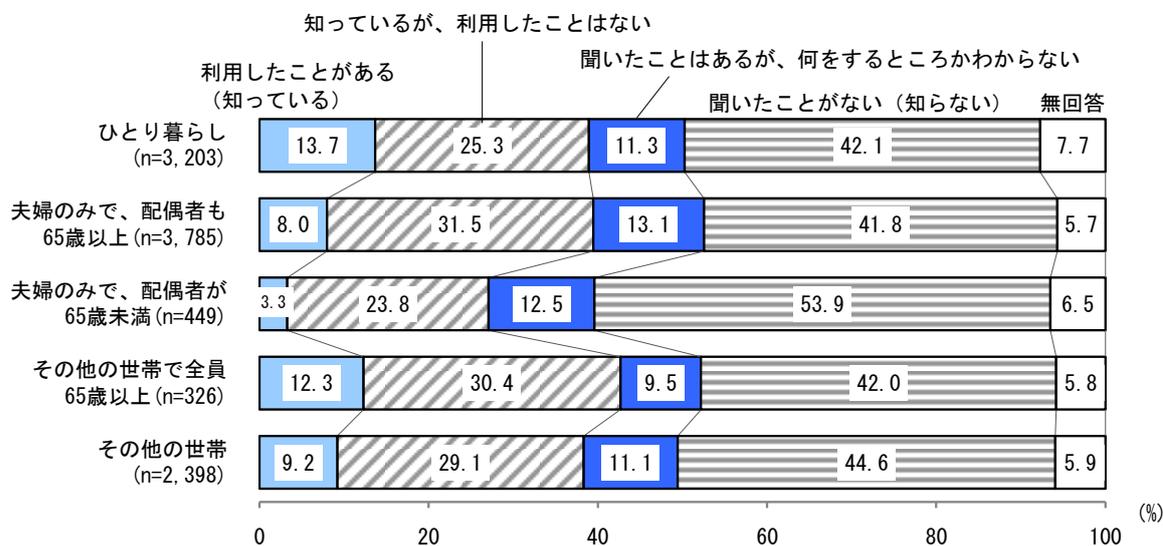
居住区別でみると、『知っている』の回答割合は鶴見区が48.7%で最も高く、「聞いたことがない（知らない）」は淀川区が50.3%で最も高くなっている。（図38-c）

【図38-c 地域包括支援センター・ブランチの利用状況（居住区別）】



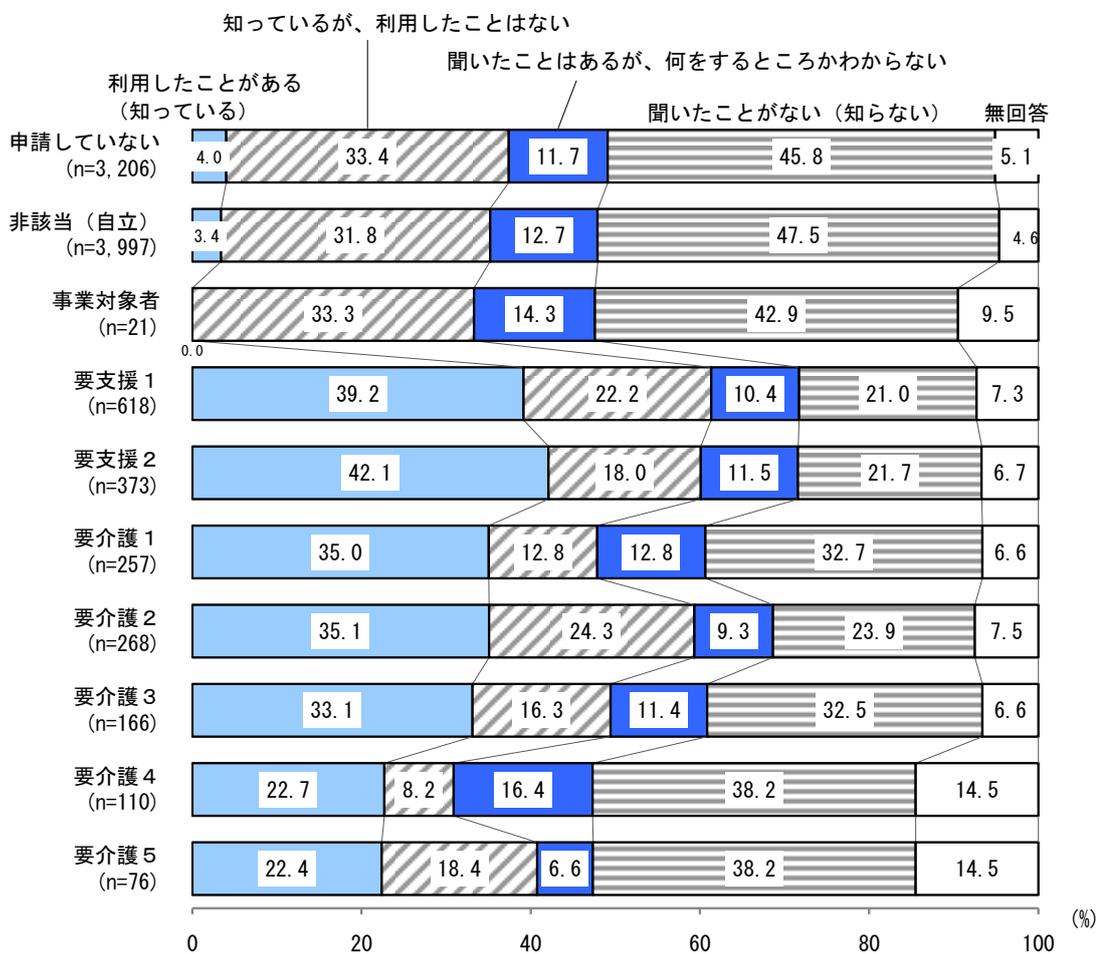
世帯状況別でみると、『知っている』との回答割合は“その他の世帯で全員65歳以上”が42.7%で最も高く、「聞いたことがない（知らない）」は“夫婦のみで、配偶者が65歳未満”が53.9%で最も高くなっている。（図38-d）

【図38-d 地域包括支援センター・ランチの利用状況（世帯状況別）】



介護度別でみると、『知っている』との回答割合は要支援1が61.4%と最も高く、次いで要支援2が60.1%となっている。申請していない、非該当（自立）では「聞いたことがない（知らない）」は4割台となっている。（図38-e）

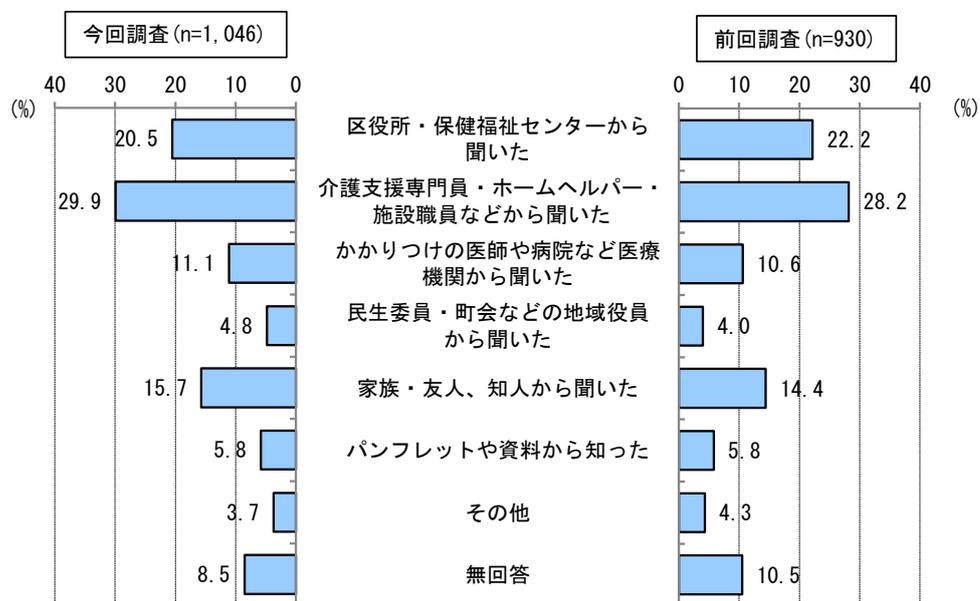
【図38-e 地域包括支援センター・ランチの利用状況（介護度別）】



問38-1 地域包括支援センター・ランチを知った経緯

【問38で「1 利用したことがある(知っている)」と回答された方におうかがいします。】
 あなたは、地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ランチ）をどのようにして知りましたか。主なものをひとつ選んでお答えください。（○はひとつ）

【図38-1 地域包括支援センター・ランチを知った経緯（経年比較）】

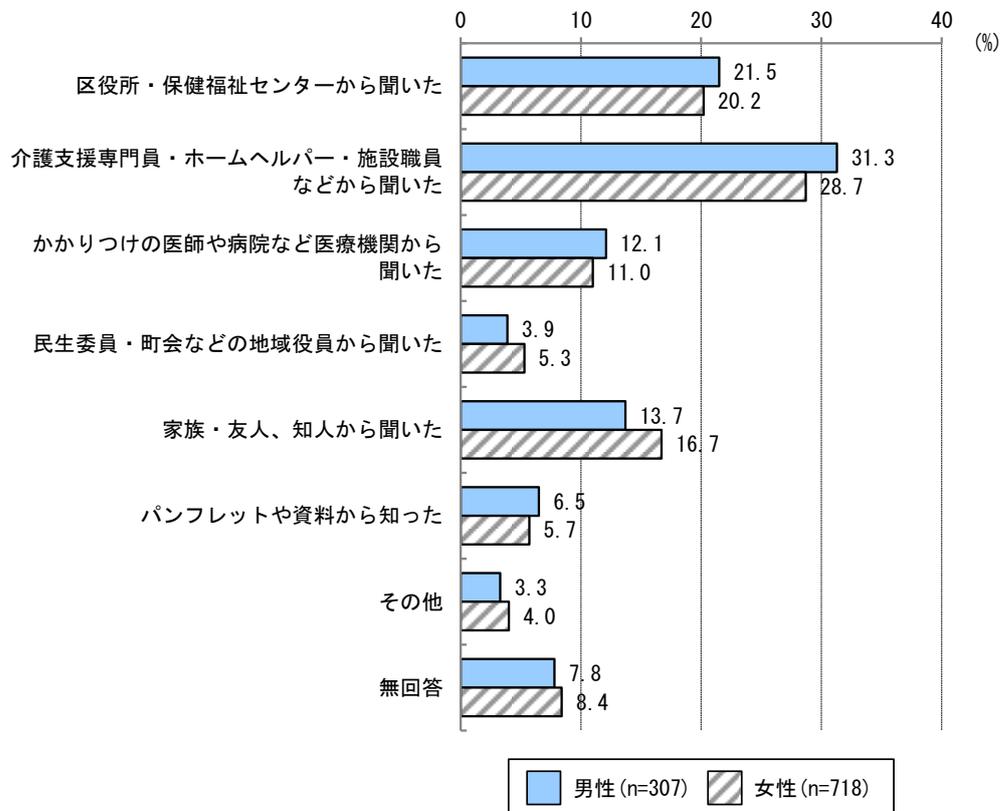


地域包括支援センターまたはランチを利用したことがあると回答した人に、知った経緯をたずねると、「介護支援専門員・ホームヘルパー・施設職員などから聞いた」が29.9%で最も多く、次いで「区役所・保健福祉センターから聞いた」が20.5%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。（図38-1）

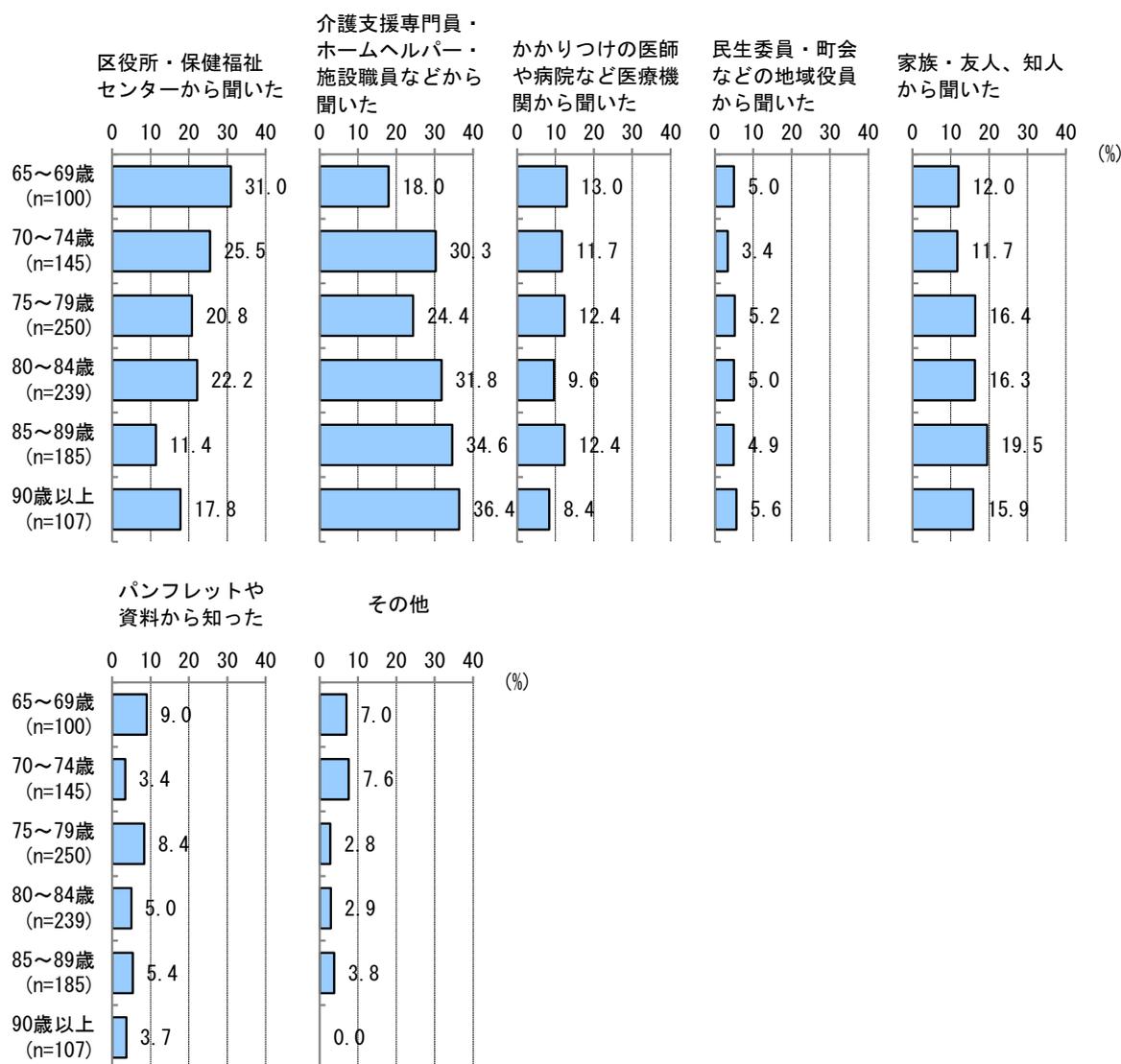
性別でみると、「民生委員・町会などの地域役員から聞いた」、「家族・友人、知人から聞いた」の回答割合は男性のほうが低く、それ以外は男性のほうが高くなっている。(図38-1-a)

【図38-1-a 地域包括支援センター・ブランチを知った経緯（性別）】



年齢別でみると、「介護支援専門員・ホームヘルパー・施設職員などから聞いた」の回答割合は90歳以上が36.4%で最も高くなっている。(図38-1-b)

【図38-1-b 地域包括支援センター・ランチを知った経緯（年齢別）】

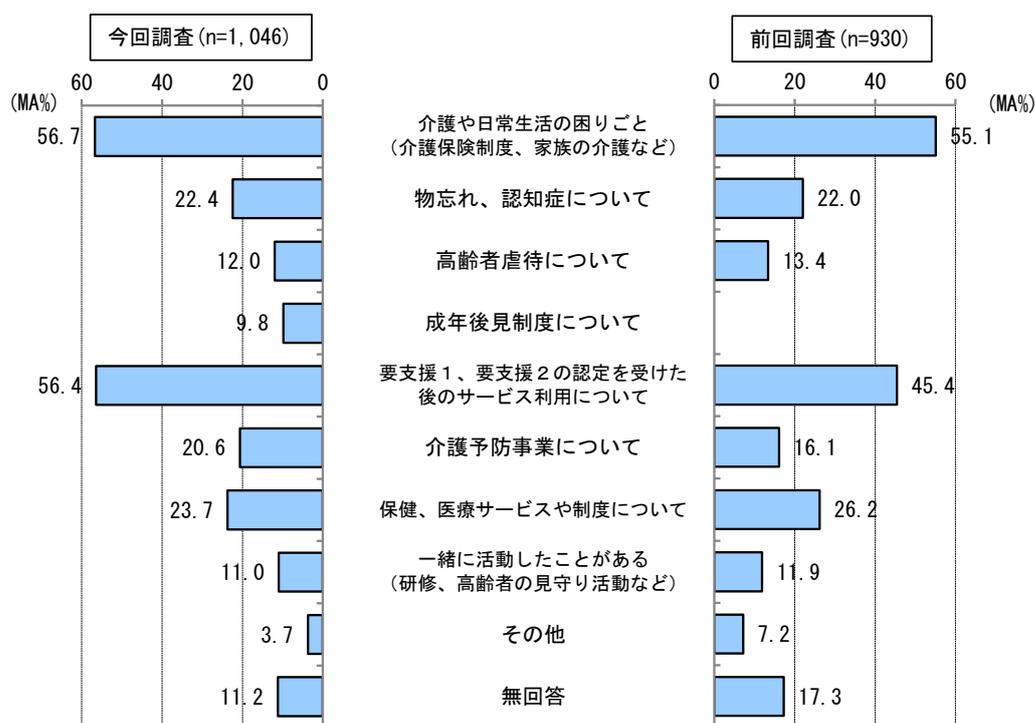


問38-2 地域包括支援センター・ブランチの利用目的と満足度

①地域包括支援センター・ブランチを利用（相談）した目的

【問38で「1 利用したことがある(知っている)」と回答された方におうかがいします。】
 あなたが、地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）を利用（相談）された目的について、次の1～9に○をつけてください。（○はいくつでも）また、その時の満足度についてあてはまるものに○をつけてください。

【図38-2① 地域包括支援センター・ブランチを利用（相談）した目的（経年比較）】



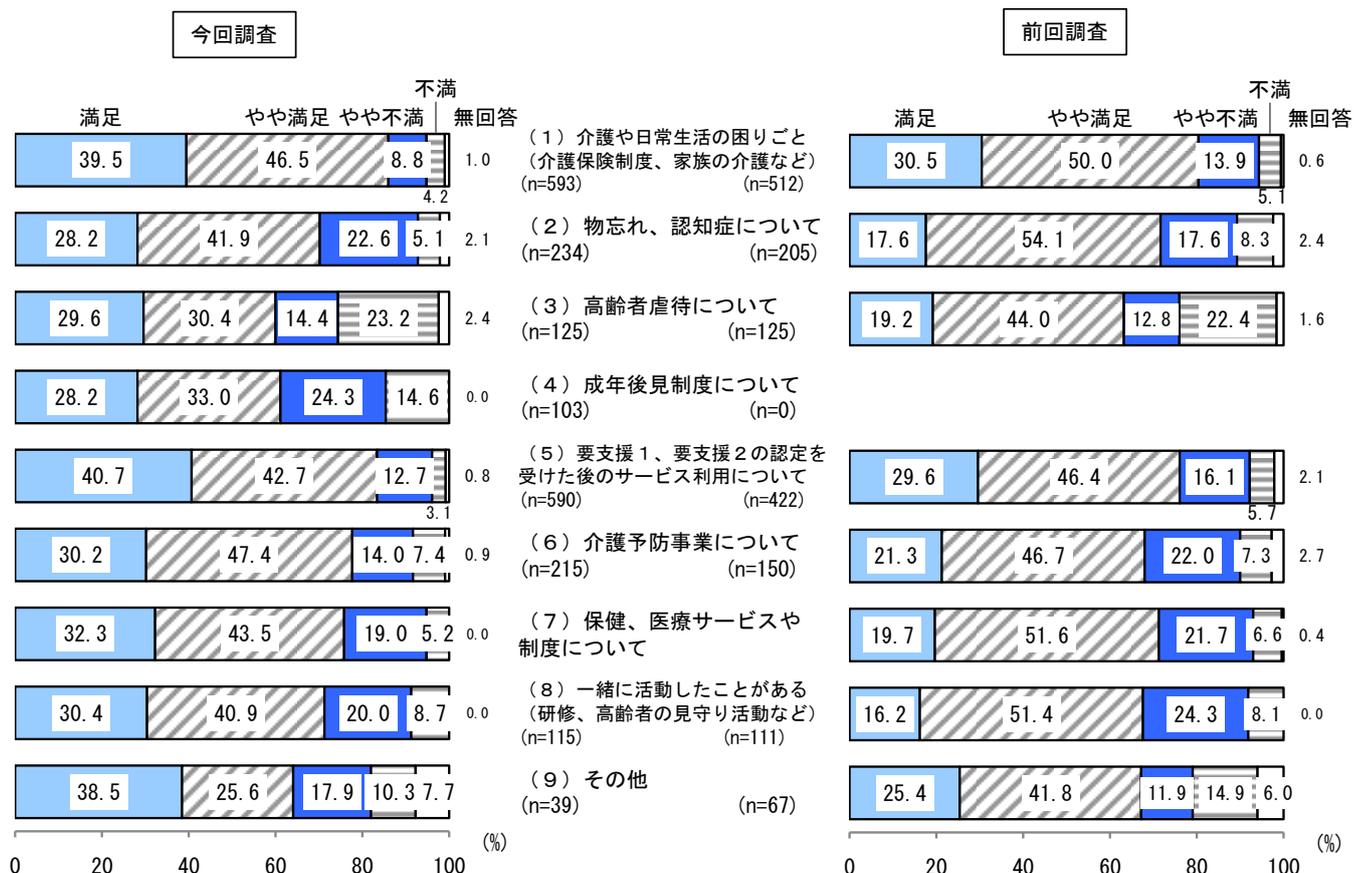
※「成年後見制度について」は、今回調査の新規項目である。

地域包括支援センターまたはブランチを利用したことがあると回答した人に、利用（相談）した目的をたずねると、「介護や日常生活の困りごと（介護保険制度、家族の介護など）」が56.7%で最も多く、次いで「要支援1、要支援2の認定を受けた後のサービス利用について」が56.4%となっている。

前回調査と比較すると、「要支援1、要支援2の認定を受けた後のサービス利用について」の割合が11.0ポイント高くなっている。（図38-2①）

②地域包括支援センター・ランチの満足度

【図38-2② 地域包括支援センター・ランチの満足度（経年比較）】



※「(4) 成年後見制度について」は、今回調査の新規項目である。

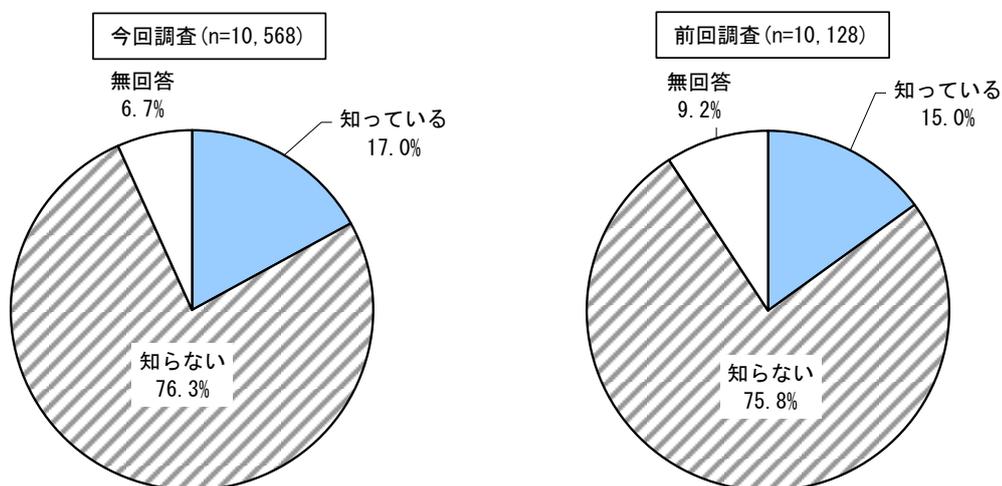
地域包括支援センターまたはランチを利用したことがあると回答した人に、利用(相談)した目的別に満足度をたずねると、“(1) 介護や日常生活の困りごと(介護保険制度、家族の介護など)”(86.0%)、“(5) 要支援1、要支援2の認定を受けた後のサービス利用について”(83.4%)の『満足度』(「どちらかといえば満足」と「満足」をあわせた割合)が高くなっている。

前回調査と比較すると、『満足度』は“(6) 介護予防事業について”の割合が9.6ポイント、“(5) 要支援1、要支援2の認定を受けた後のサービス利用について”の割合が7.4ポイントそれぞれ高くなっている。(図38-2②)

問39 高齢者虐待の相談先の認知度

あなたは、あなた又はあなたの周囲の高齢者が身近な人からの暴力や暴言、身体拘束や閉じ込め、介護や世話の放棄、年金の使い込みといった「高齢者虐待」を受けた場合の通報・相談先をご存じですか。(〇はひとつ)

【図39 高齢者虐待の相談先の認知度（経年比較）】

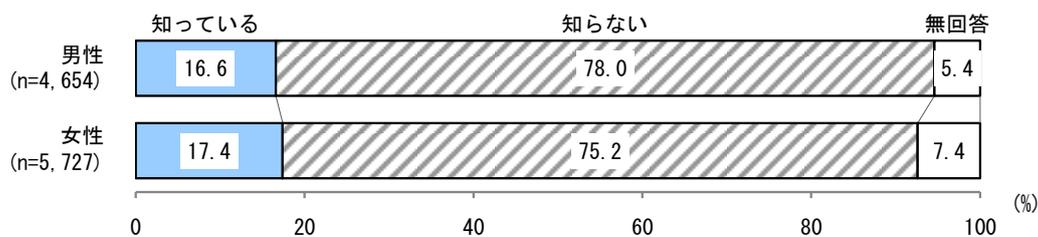


高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先を知っているかについては、「知っている」が17.0%、「知らない」が76.3%となっている。

前回調査と比較すると、「知っている」割合が2.0ポイント高くなっている。(図39)

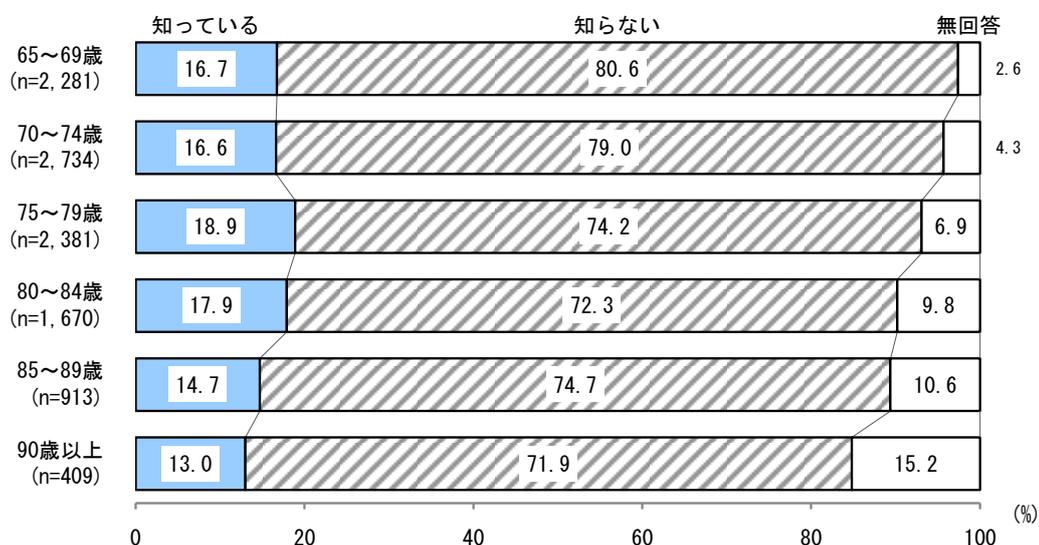
性別で見ると、男女とも同様の傾向であり、大きな差はみられない。(図39-a)

【図39-a 高齢者虐待の相談先の認知度（性別）】



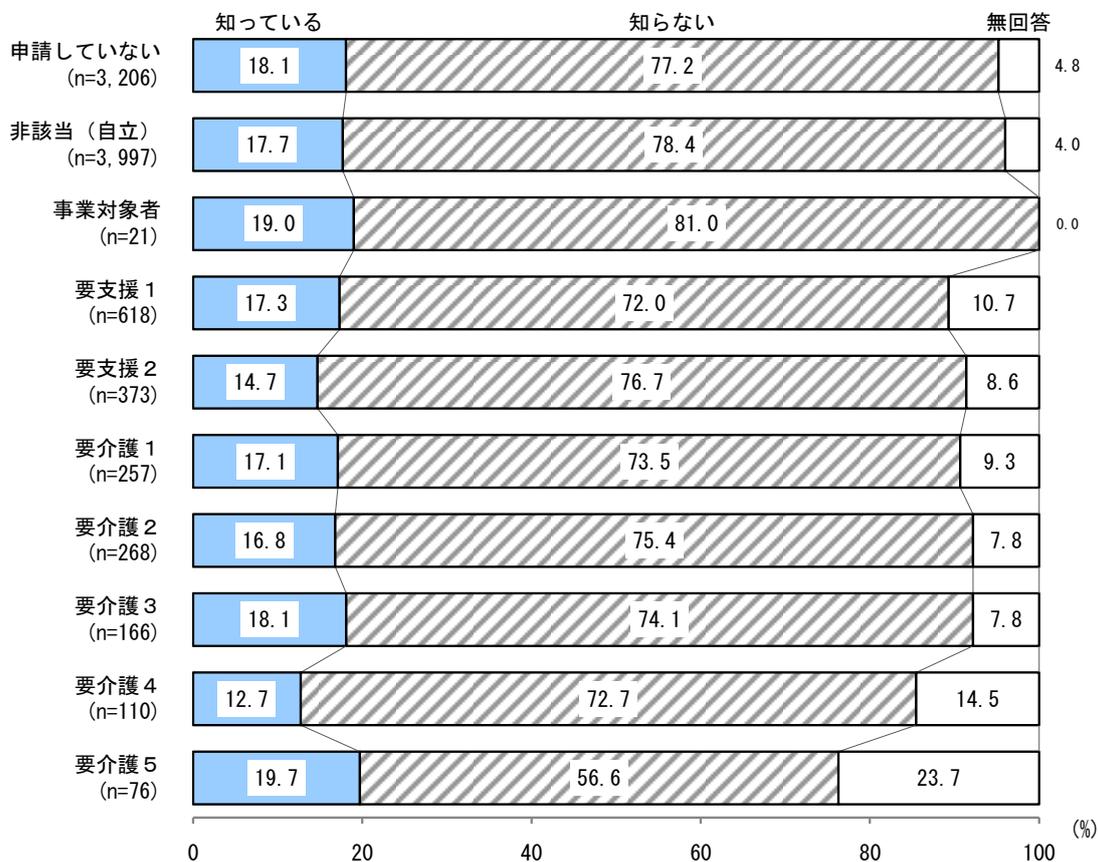
年齢別でみると、65～69歳では「知らない」の回答割合が80.6%で最も高くなっている。
 (図39-b)

【図39-b 高齢者虐待の相談先の認知度（年齢別）】



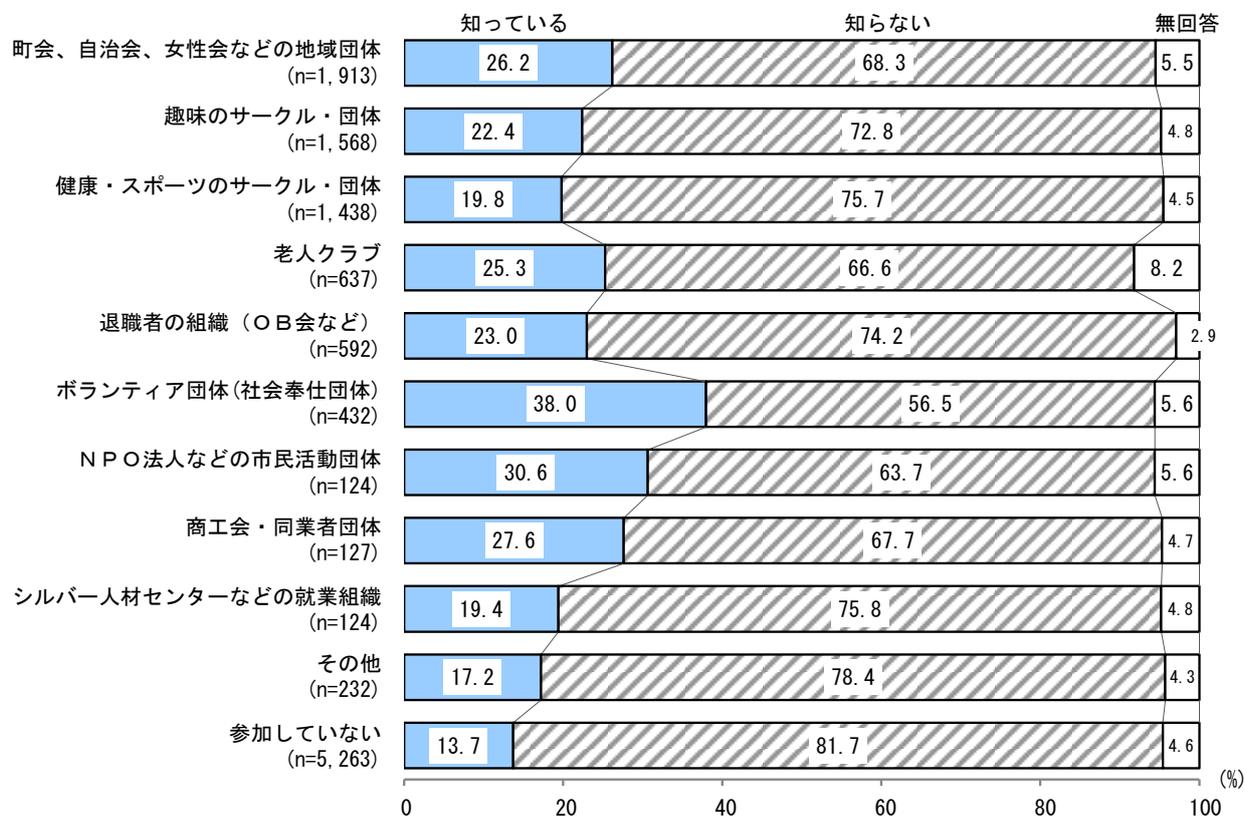
介護度別でみると、「知っている」の回答割合は要介護5が19.7%で最も高く、次いで事業対象者（19.0%）となっている。（図39-c）

【図39-c 高齢者虐待の相談先の認知度（介護度別）】



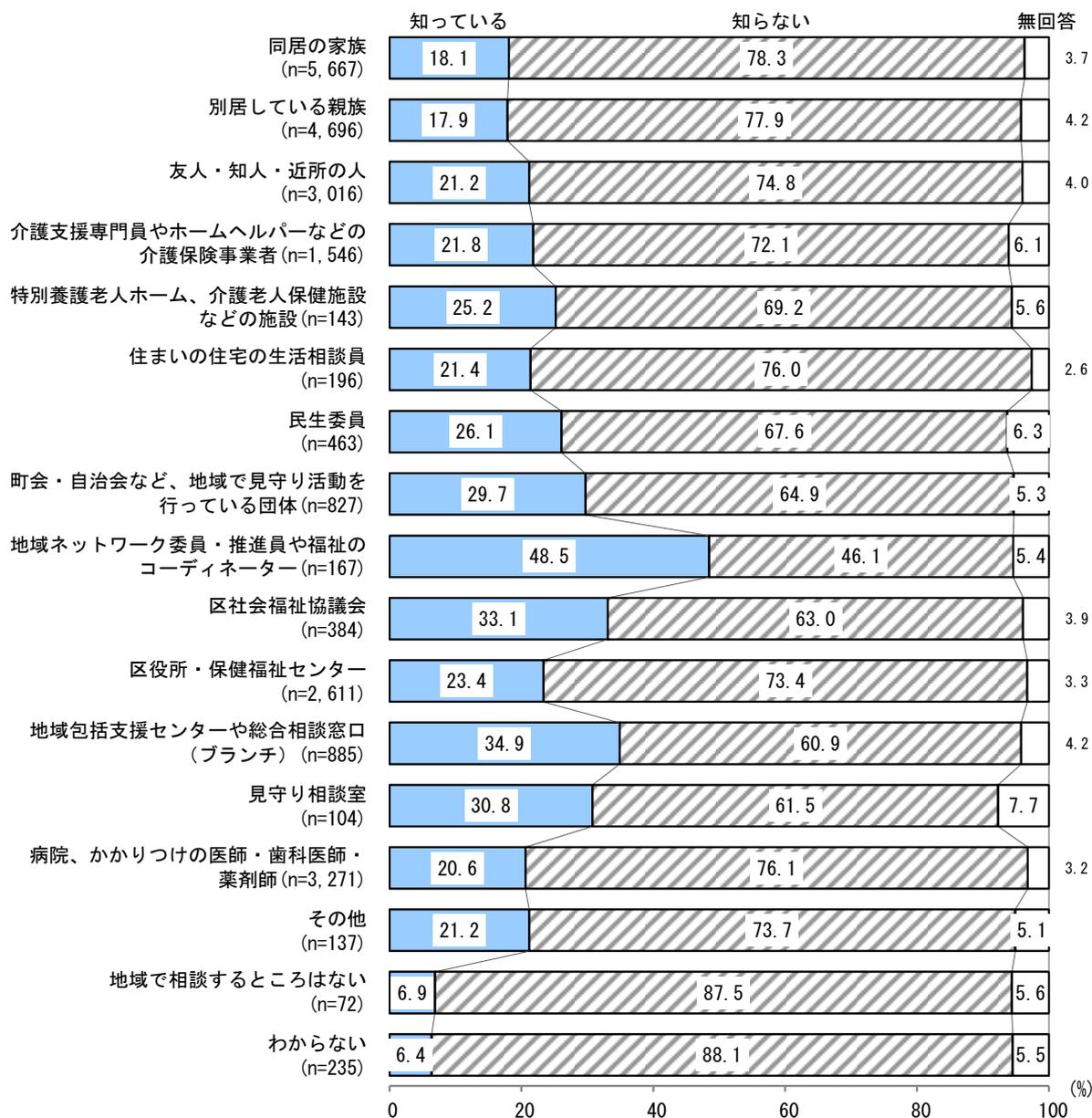
地域活動への参画の有無別で見ると、「知っている」の回答割合は“ボランティア団体（社会奉仕団体）”（38.0%）と“NPO法人などの市民活動団体”（30.6%）で3割を超えている。一方で、団体や集まりに“参加していない”で「知らない」の回答割合は81.7%で最も高くなっている。（図39-d）

【図39-d 高齢者虐待の相談先の認知度（地域活動への参画の有無別）】



困ったときの相談先別でみると、「知っている」の回答割合は“地域ネットワーク委員・推進員や福祉のコーディネーター”が48.5%で最も高く、次いで“地域包括支援センターや総合相談窓口（ブランチ）”（34.9%）となっている。（図39-e）

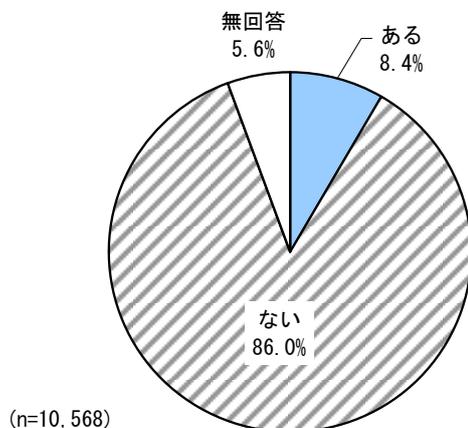
【図39-e 高齢者虐待の相談先の認知度（困ったときの相談先別）】



問40 消費者被害の経験有無

あなたは、これまでに消費者被害にあったことや、あいそうになったことはありますか。
(○はひとつ)

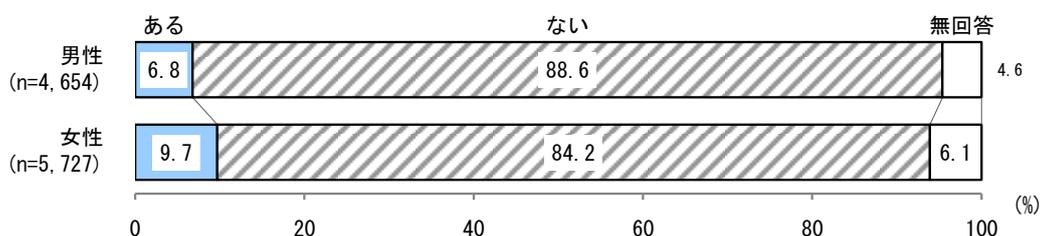
【図40 消費者被害の経験有無】



消費者被害にあったことや、あいそうになったことがあるかについては、「ある」が8.4%、「ない」が86.0%となっている。(図40)

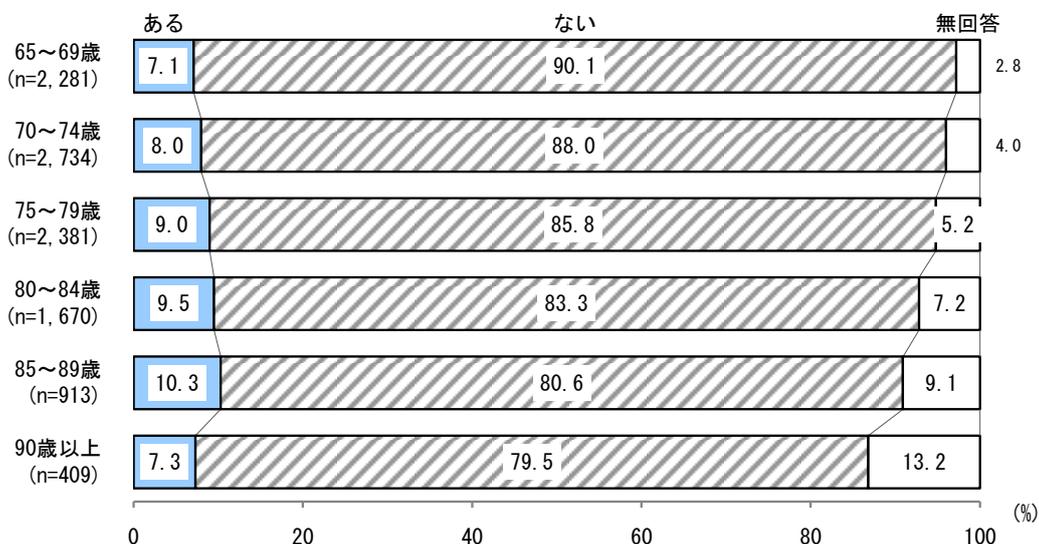
性別でみると、「ある」の回答割合は男性より女性のほうが高くなっている。(図40-a)

【図40-a 消費者被害の経験有無（性別）】



年齢別でみると、「ある」の回答割合は85～89歳(10.3%)で最も高くなっている。(図40-b)

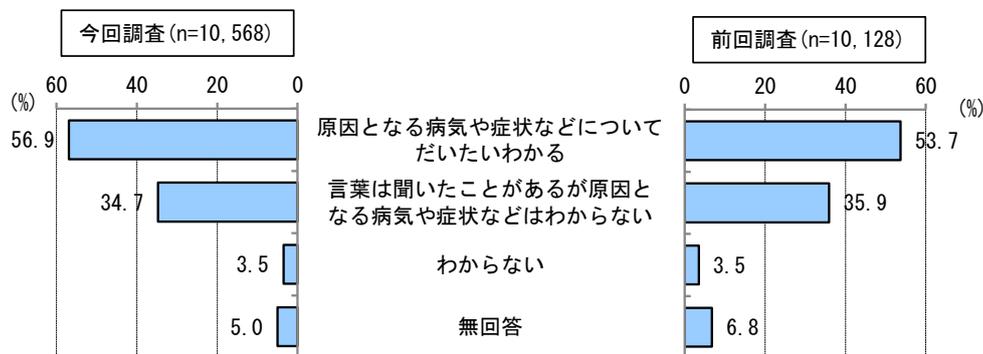
【図40-b 消費者被害の経験有無（年齢別）】



問41 認知症の認知度

あなたは「認知症」という病気を知っていますか。(〇はひとつ)

【図41 認知症の認知度（経年比較）】

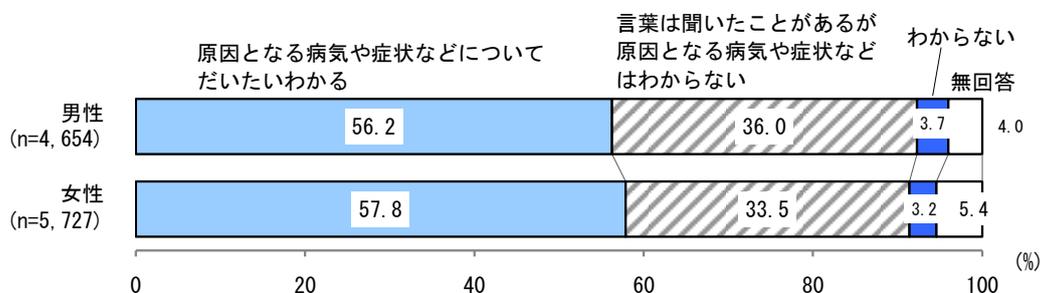


認知症という病気を知っているかについては、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」が56.9%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがあるが原因となる病気や症状などはわからない」が34.7%となっている。

前回調査と比較すると、傾向は変わらないが、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の割合は3.2ポイント高くなっている。(図41)

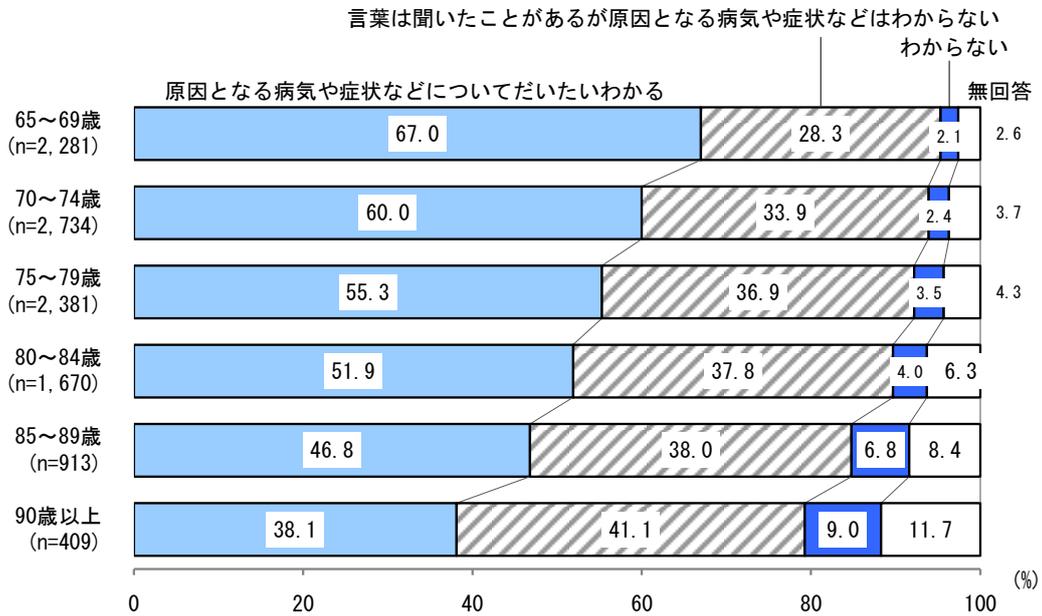
性別でみると、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の回答割合は女性のほうがやや高くなっている。(図41-a)

【図41-a 認知症の認知度（性別）】



年齢別でみると、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の回答割合は高齢になるほど低くなっている。(図41-b)

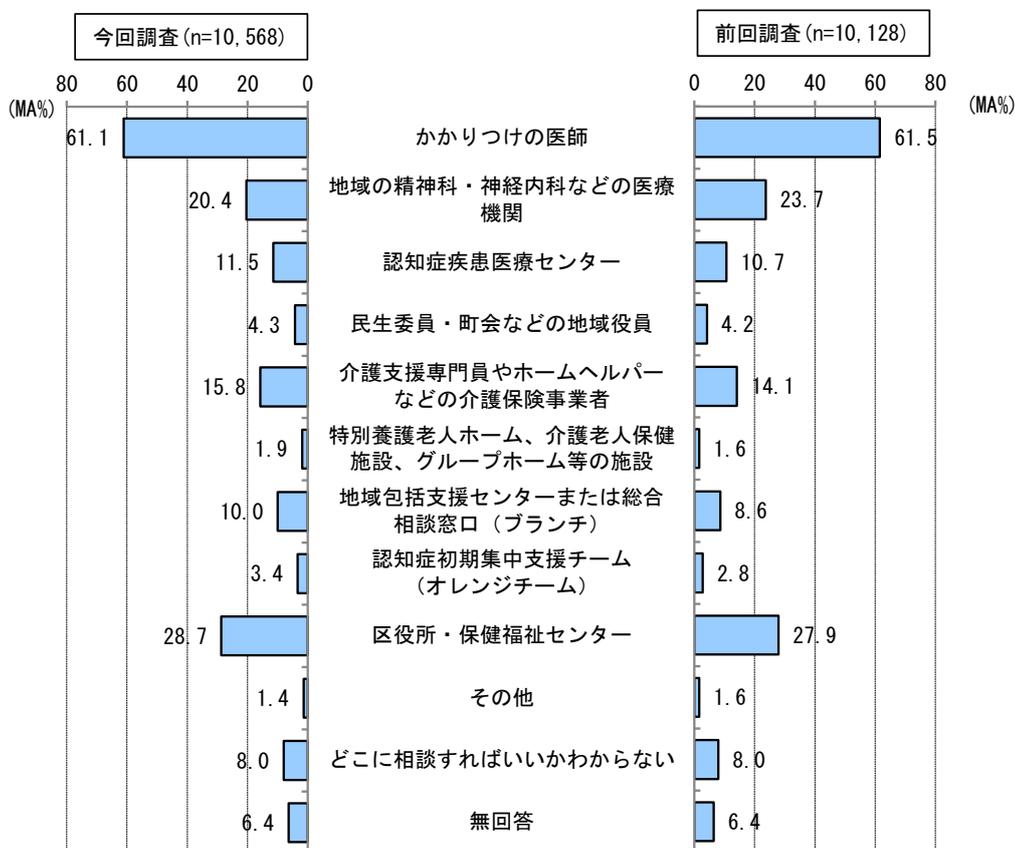
【図41-b 認知症の認知度（年齢別）】



問42 認知症についての相談先

あなたは、あなた又はあなたのご家族が認知症について不安に感じるときは、どちらに相談されますか。(〇はいくつでも)

【図42 認知症についての相談先（経年比較）】

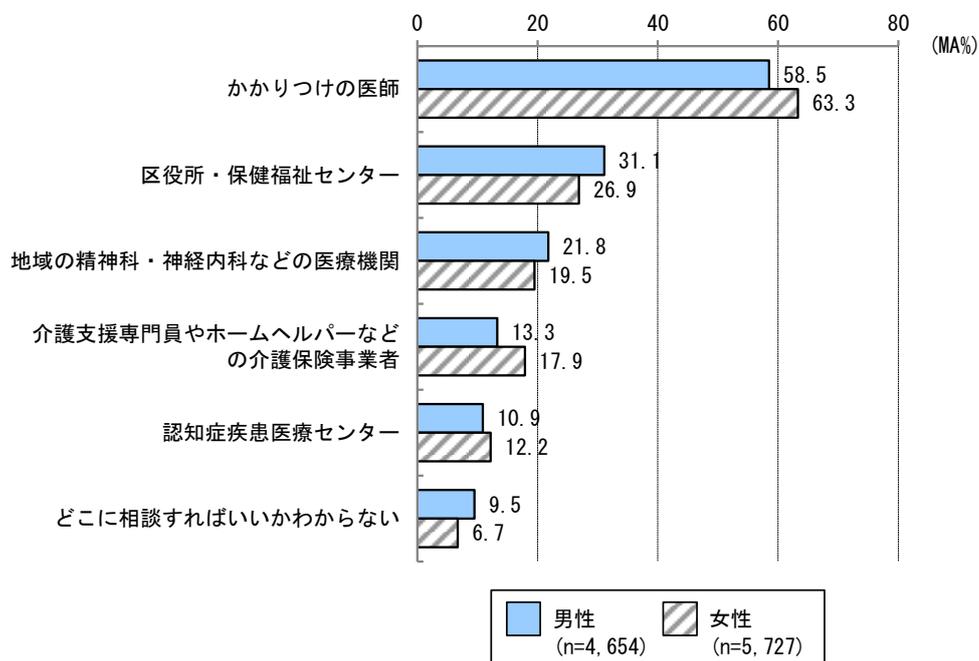


認知症について不安に感じるときにの相談先については、「かかりつけの医師」が61.1%で最も多く、次いで「区役所・保健福祉センター」が28.7%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。(図42)

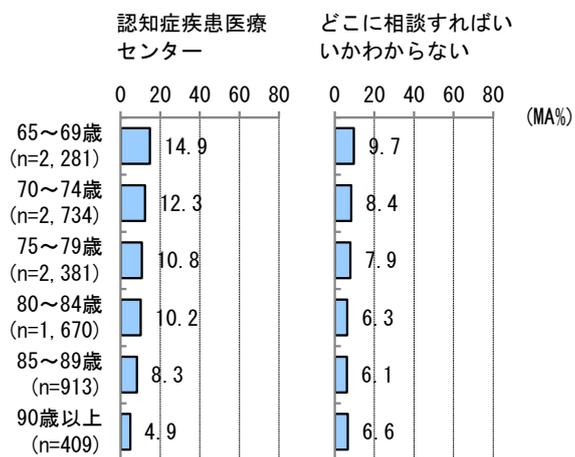
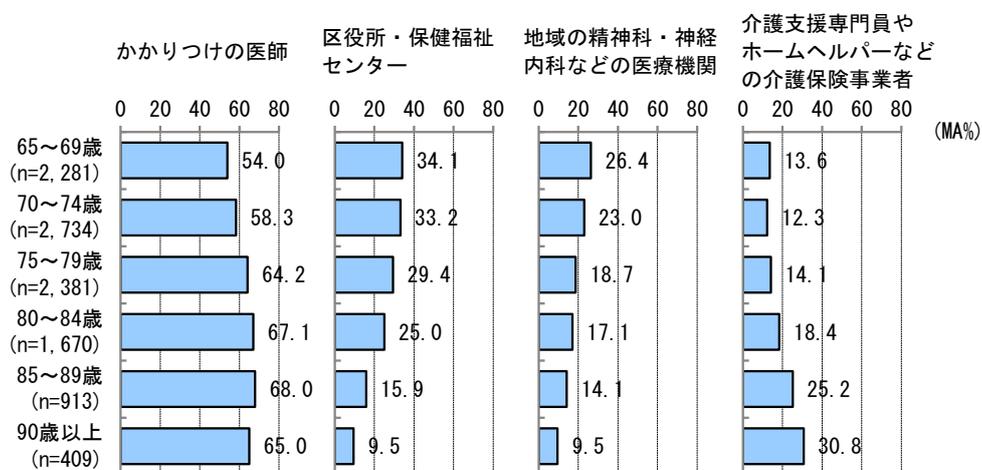
性別で見ると、「かかりつけの医師」の回答割合は女性のほうが高くなっており、「どこに相談すればいいかわからない」は男性のほうが高くなっている。(図42-a)

【図42-a 認知症についての相談先（性別）（上位項目）】



年齢別では、「かかりつけの医師」は全ての年代で最も多い。「区役所・保健福祉センター」、
「認知症疾患医療センター」の回答割合は高齢になるほど低くなっている。(図42-b)

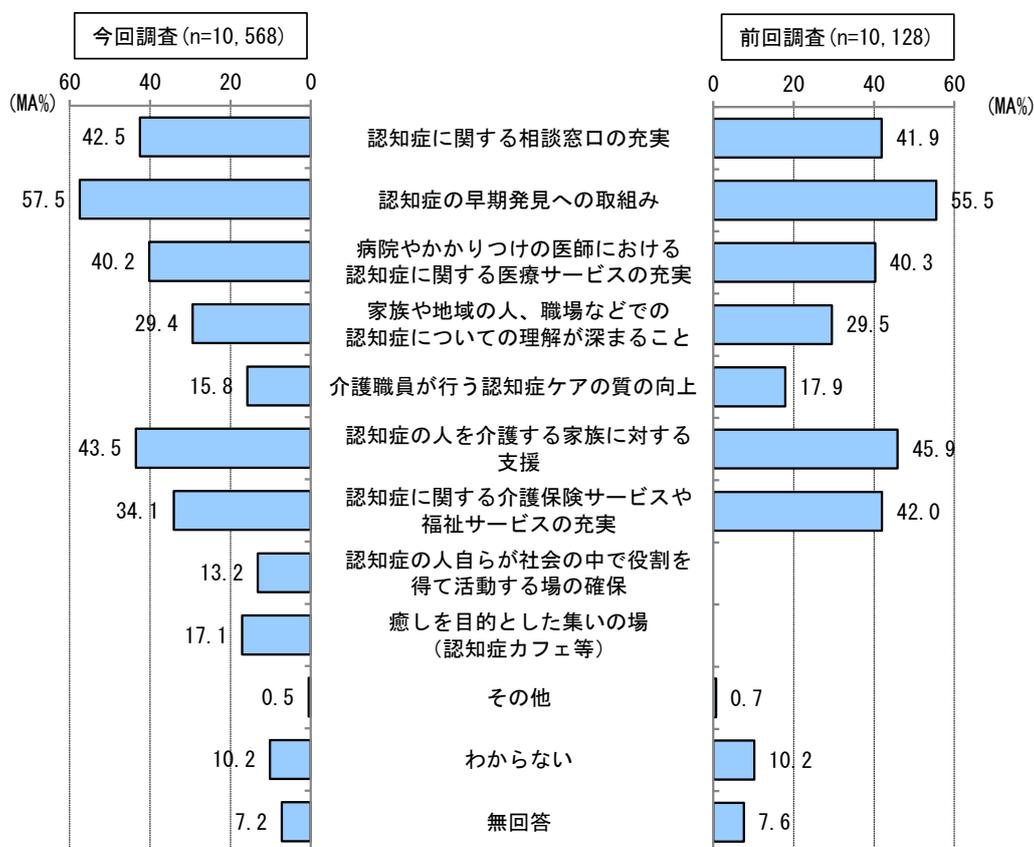
【図42-b 認知症についての相談先（年齢別）（上位項目）】



問43 認知症の人の支援

あなたは、認知症の人の支援に必要なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

【図43 認知症の人の支援（経年比較）】



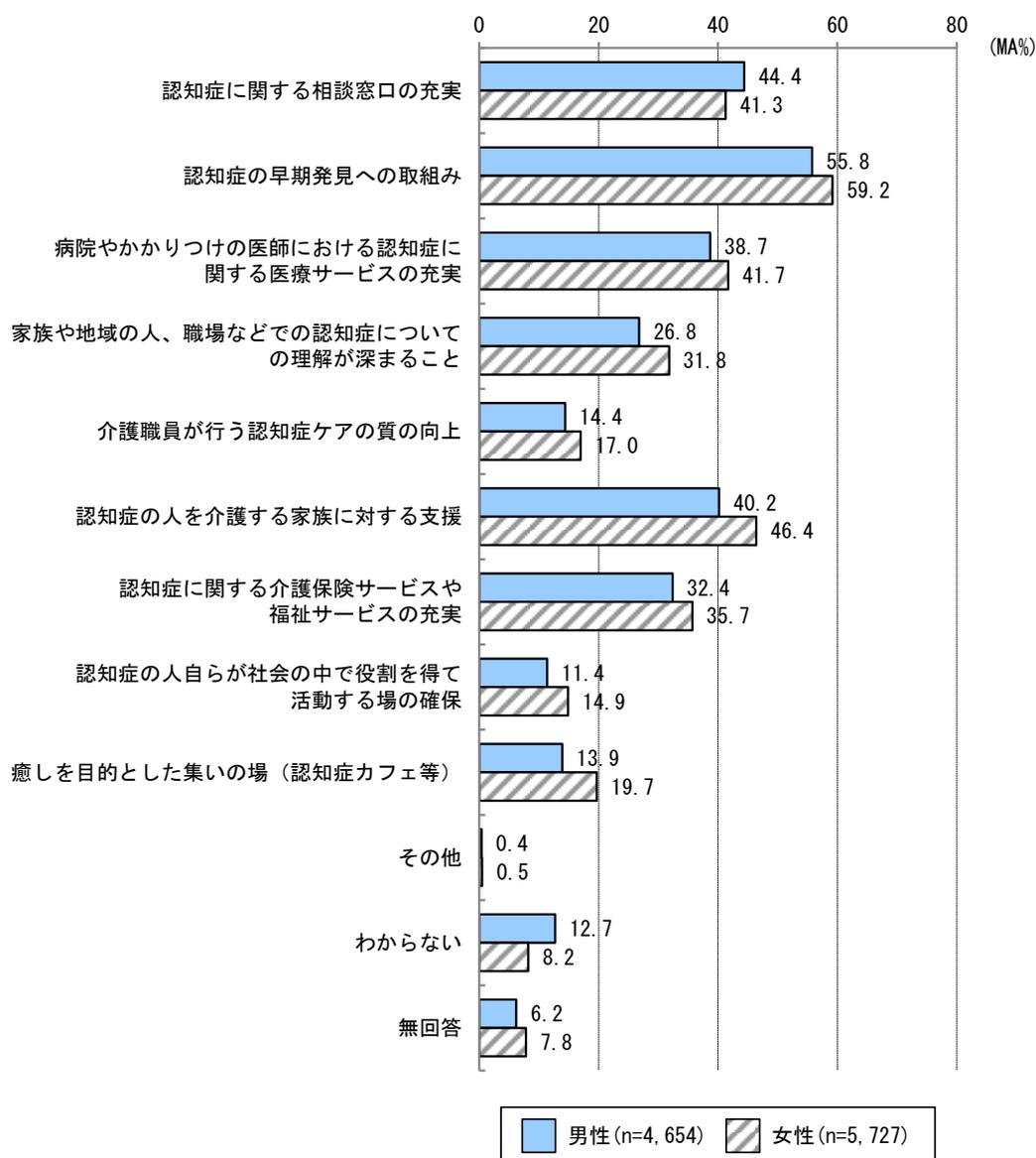
※「認知症の人自らが社会の中で役割を得て活動する場の確保」「癒しを目的とした集いの場（認知症カフェ等）」は、今回調査の新規項目である。

認知症の人の支援については、「認知症の早期発見への取組み」が57.5%で最も多く、次いで「認知症の人を介護する家族に対する支援」が43.5%、「認知症に対する相談窓口の充実」が42.5%となっている。

前回調査と比較すると、「認知症に関する介護保険サービスや福祉サービスの充実」の割合が7.9ポイント低くなっている。(図43)

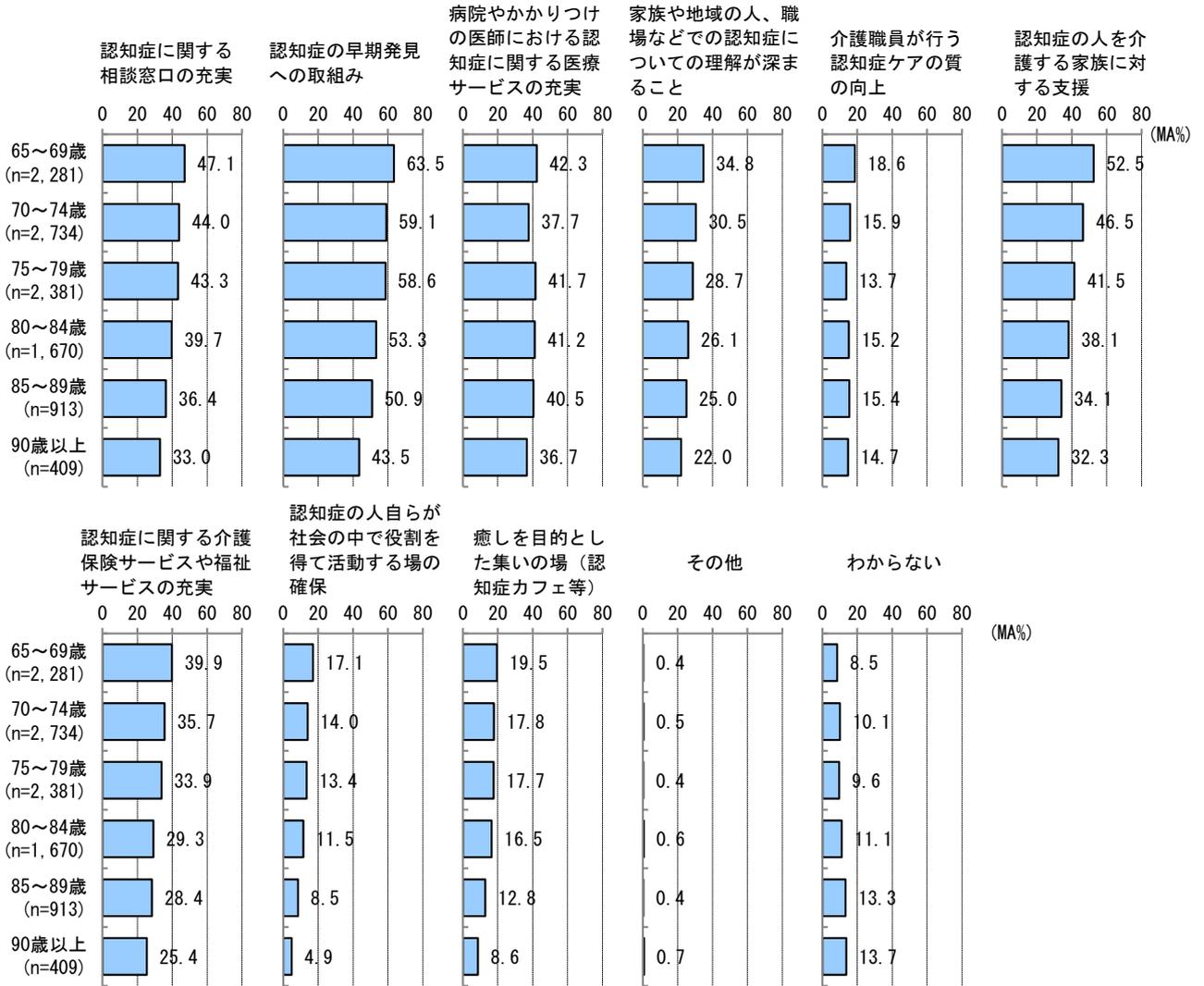
性別で見ると、「認知症に関する相談窓口の充実」以外の項目で、女性のほうが高い割合となっている。(図43-a)

【図43-a 認知症の人の支援（性別）】



年齢別では、すべての項目で65～69歳が最も高く、高齢になるほど割合が低くなっている。
 (図43-b)

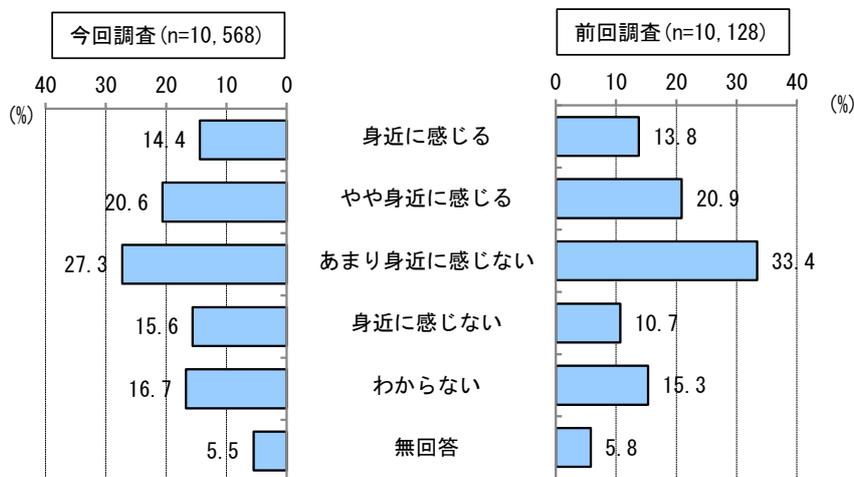
【図43-b 認知症の人の支援（年齢別）】



問44 孤立死に対する意識

あなたは、孤立死についてどのように考えますか。(〇はひとつ)

【図44 孤立死に対する意識（経年比較）】

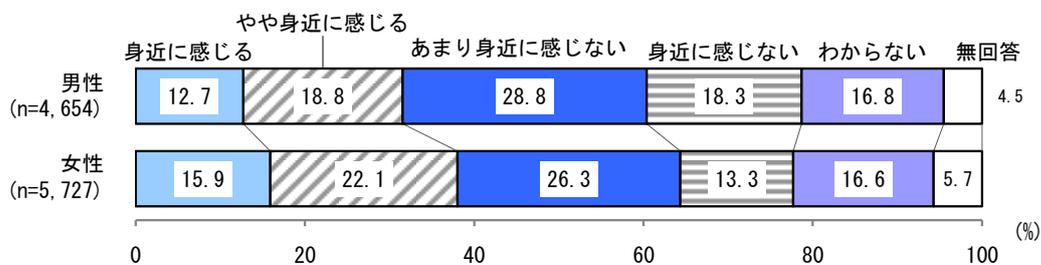


孤立死に対する意識については、「あまり身近に感じない」が27.3%で最も多く、次いで「やや身近に感じる」が20.6%となっている。「身近に感じる」と「やや身近に感じる」をあわせた『身近に感じる』は35.0%で、全体の3分の1ほどの人が身近だと感じている。

前回調査と比較すると、傾向は大きくは変わらないが、「身近に感じない」の割合が4.9ポイント高くなっている。(図44)

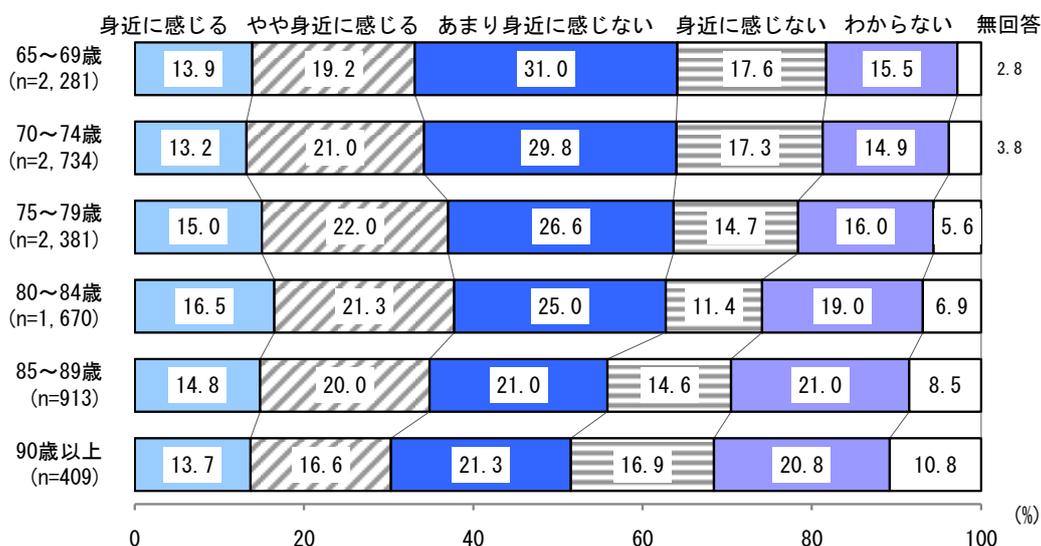
性別でみると、『身近に感じる』の回答割合は女性のほうが高くなっている。(図44-a)

【図44-a 孤立死に対する意識（性別）】



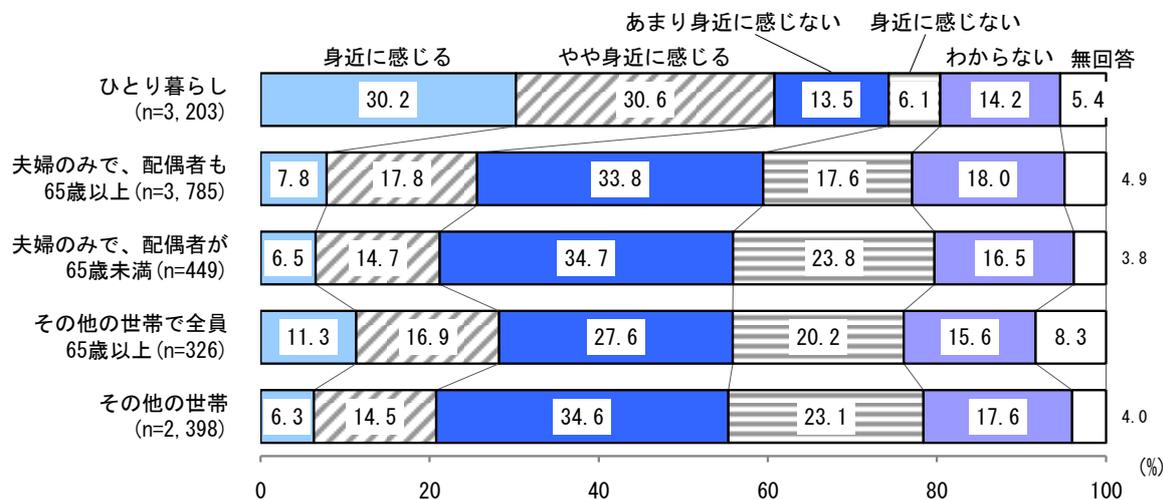
年齢別でみると、『身近に感じる』の回答割合は80～84歳が37.8%で最も高く、以降、高齢になるほど割合が低くなっている。(図44-b)

【図44-b 孤立死に対する意識（性別）】



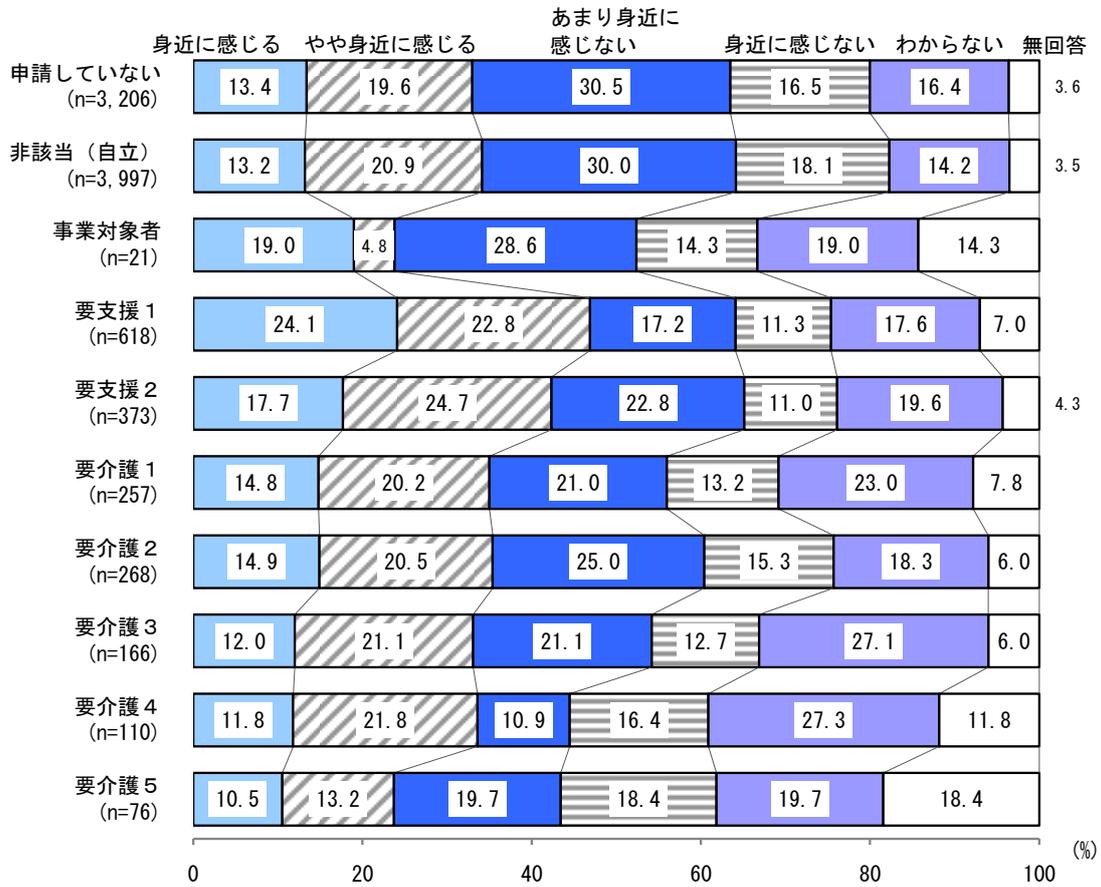
世帯状況別でみると、“ひとり暮らし”では、『身近に感じる』の回答割合は60.8%で最も高く、それ以外の世帯では『身近に感じない』が5割程度となっている。(図44-c)

【図44-c 孤立死に対する意識（世帯状況別）】



介護度別では、『身近に感じる』の回答割合は、要支援1が46.9%で最も高く、次いで要支援2（42.4%）となっている。（図44-d）

【図44-d 孤立死に対する意識（介護度別）】

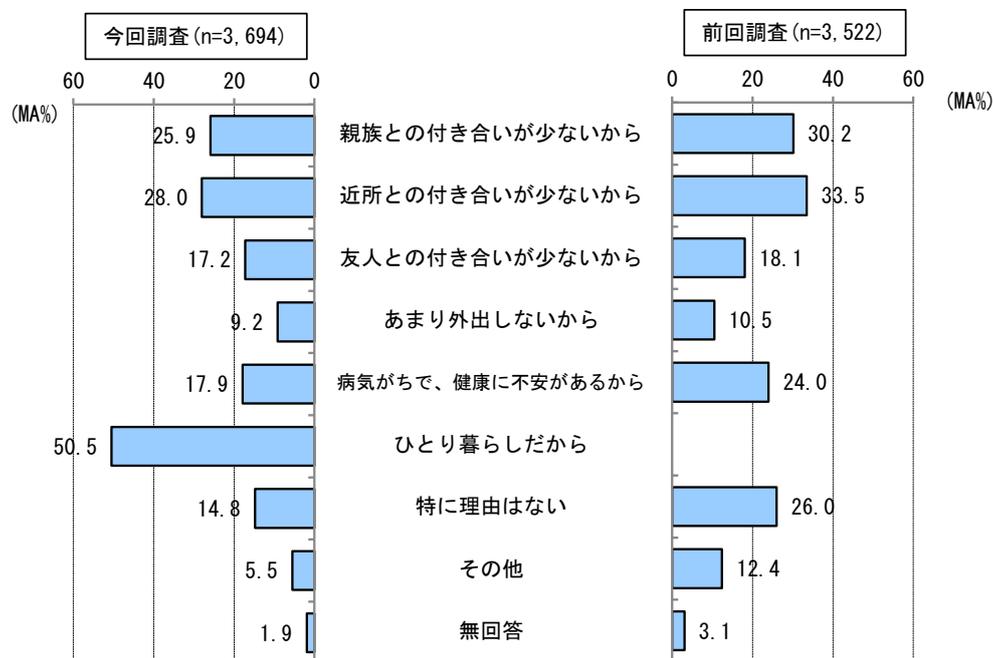


問44-1 孤立死を身近に感じる理由

【問44で「1～2」と回答された方におうかがいします。】

あなたが身近だと感じる理由は次のどれにあたりますか。(〇はいくつでも)

【図44-1 孤立死を身近に感じる理由（経年比較）】



※「ひとり暮らしだから」は、今回調査の新規項目である。

孤立死が身近に感じると回答した人に、その理由をたずねると、「ひとり暮らしだから」が50.5%で最も多く、次いで「近所との付き合いが少ないから」が28.0%、「親族との付き合いが少ないから」が25.9%となっている。

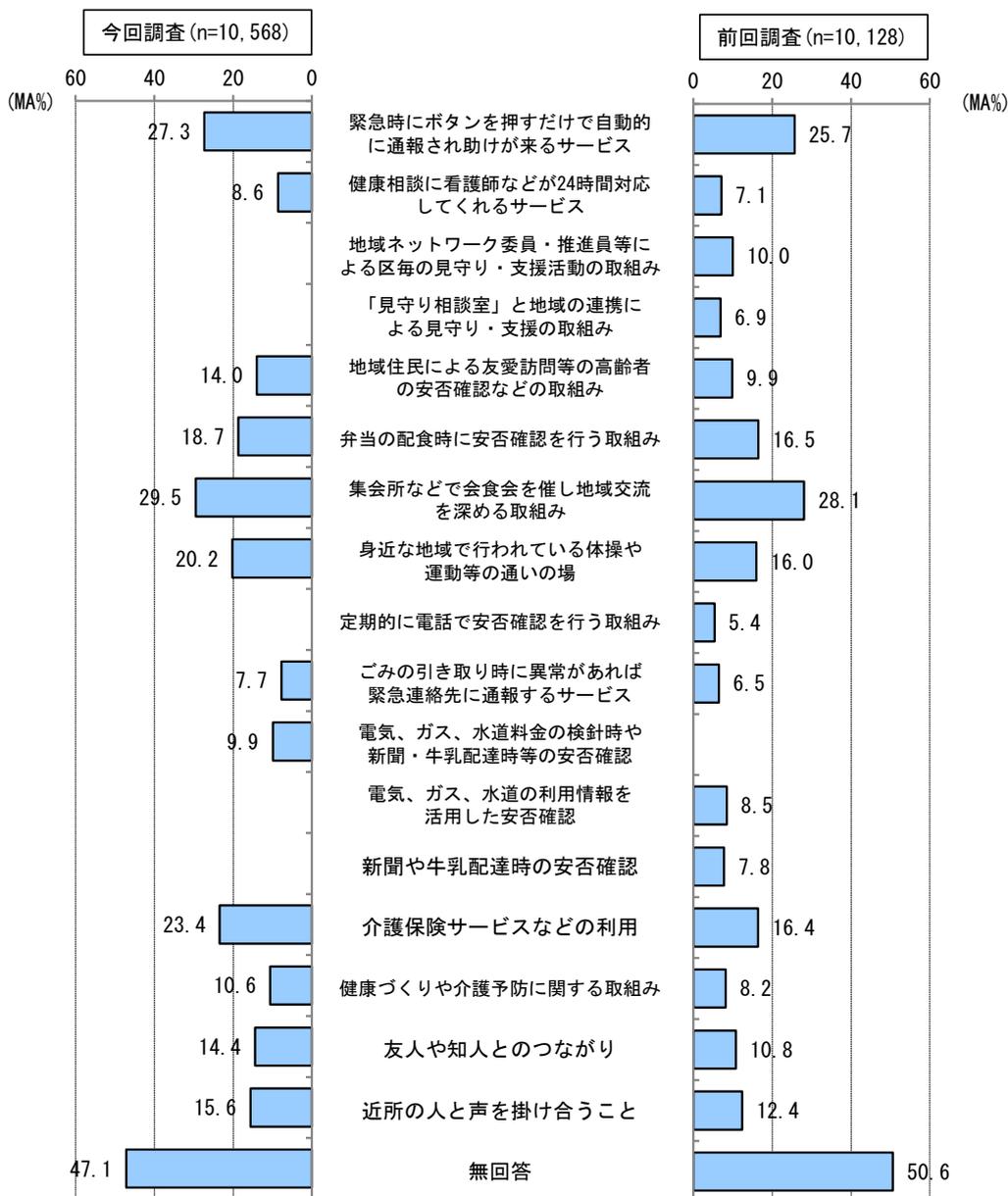
前回調査と比較すると、「病気がちで、健康に不安があるから」の割合が6.1ポイント低くなっている。(図44-1)

問45 地域での見守り活動の認知度と必要性

①地域での見守り活動の認知度

孤立死を防ぐためには地域での見守りが必要です。支援を必要とする高齢者等を日常的に見守るための次の取組みのうち、あなたが知っている取組み及び必要（有効）と思う取組みに○をつけてください。（○はいくつでも）

【図45① 地域での見守り活動の認知度（経年比較）】



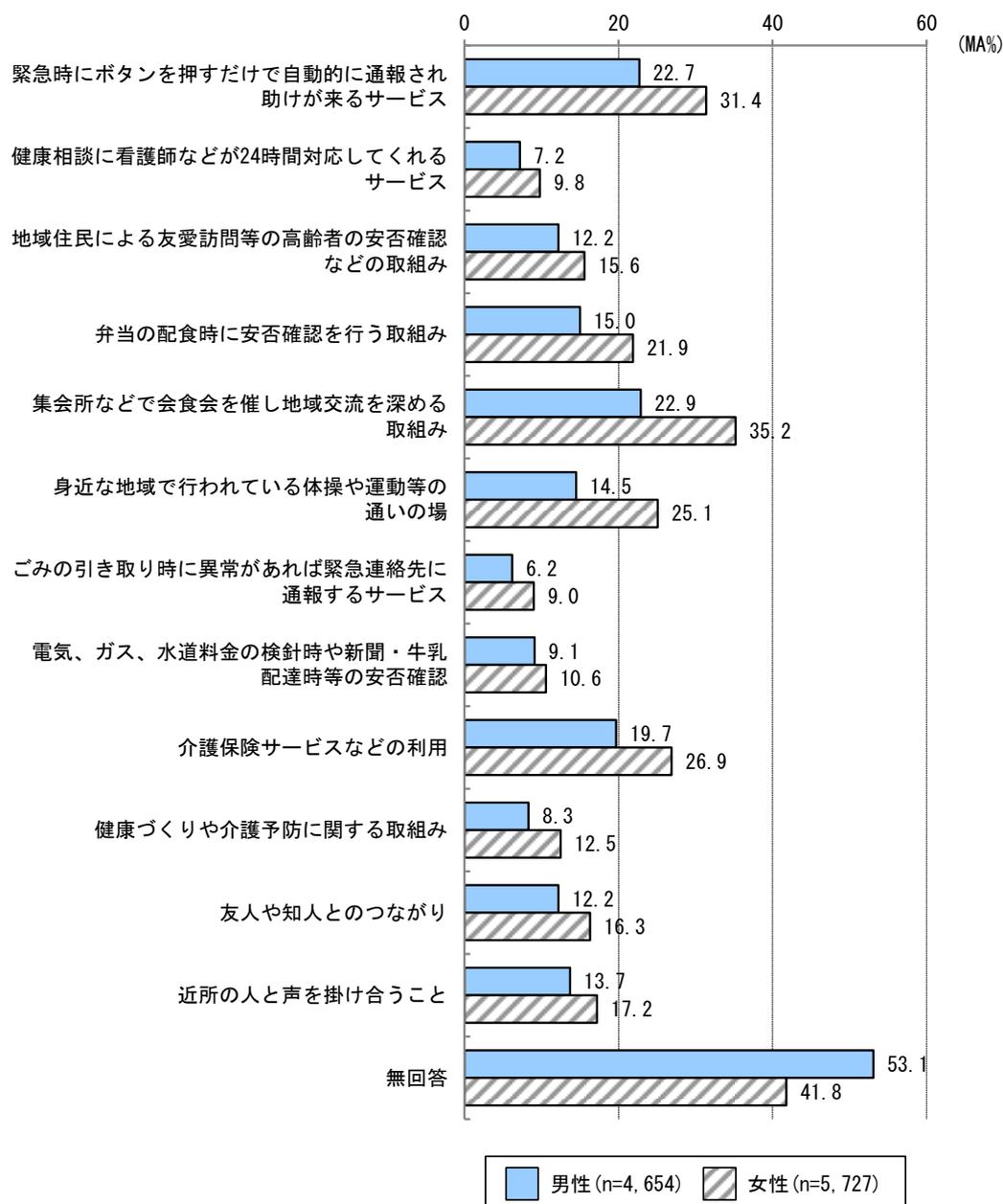
※前回調査の「地域ネットワーク委員・推進員等による区毎の見守り・支援活動の取組み」「見守り相談室と地域の連携による見守り・支援の取組み」「定期的に電話で安否確認を行う取組み」は、今回調査では設けていない。

地域での見守り活動で知っている取組みについては、「集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み」が29.5%で最も多く、次いで「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」が27.3%、「介護保険サービスなどの利用」が23.4%となっている。

前回調査とは設問項目数が異なるため、単純に比較はできないが、「集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み」「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」が多い傾向は変わらない。（図45①）

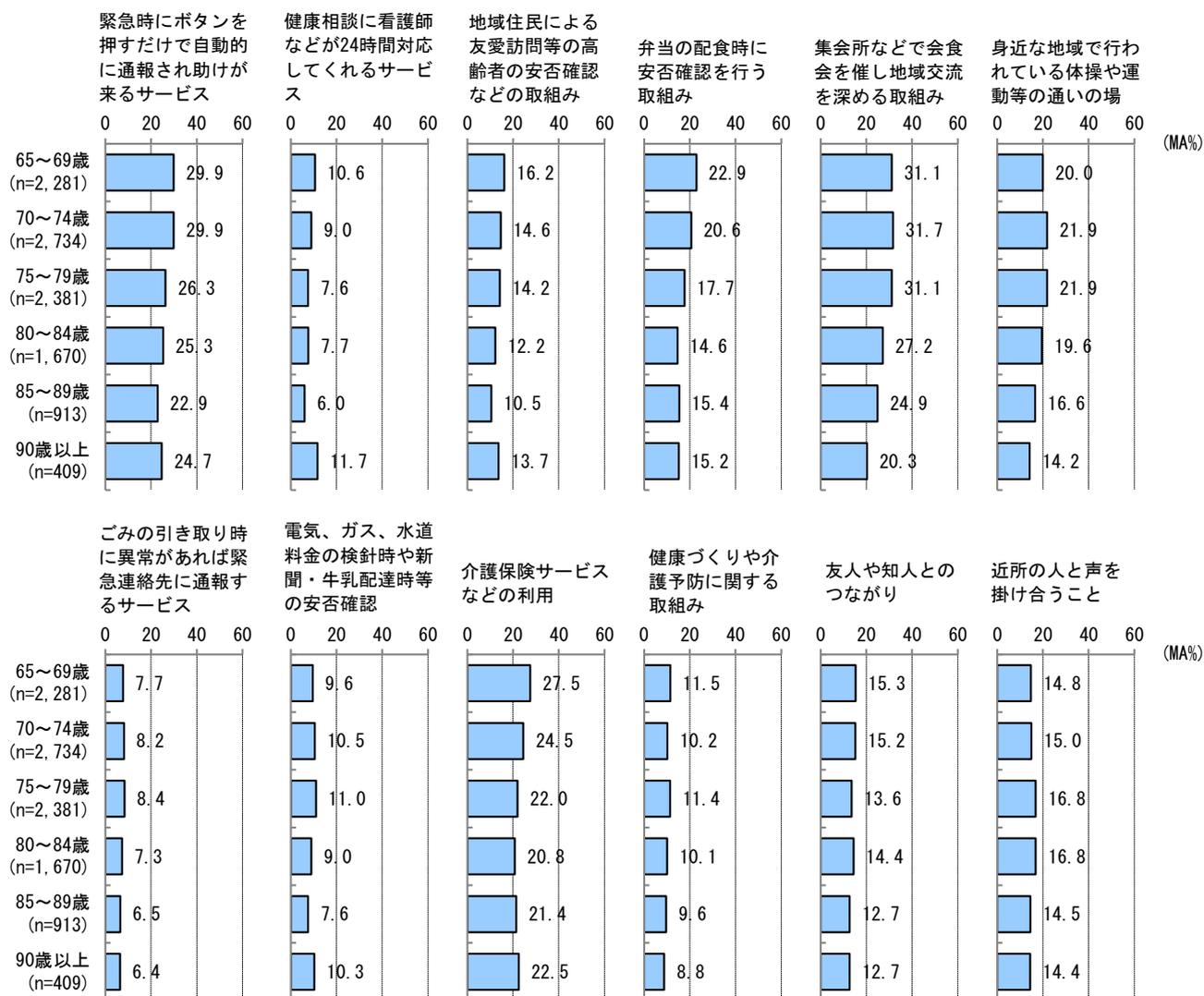
地域での見守り活動の認知度を性別でみると、いずれの項目も女性のほうが高い割合となっている。(図45①-a)

【図45①-a 地域での見守り活動の認知度（性別）】



年齢別でみると、「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」の回答割合は高齢になるほど回答の割合が低くなっている。(図45①-b)

【図45①-b 地域での見守り活動の認知度（年齢別）】



地域での見守り活動の認知度を居住区別でみると、都島区、此花区、西区、港区、淀川区、阿倍野区、住吉区、西成区では「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」が最も多く、それ以外の区では「集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み」が最も多くなっている。(表45①-c ①②)

【表45①-c 地域での見守り活動の認知度（居住区別）（上位5項目）①】

(単位：MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
北区 (n=458)	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み 25.5	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 23.4	介護保険サービスなどの利用 22.1	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 17.9	弁当の配食時に安否確認を行う取組み 15.7
都島区 (n=471)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 30.4	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み／介護保険サービスなどの利用 26.3		弁当の配食時に安否確認を行う取組み 22.1	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 17.8
福島区 (n=450)	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み 35.6	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 28.4	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 23.8	介護保険サービスなどの利用 22.0	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 17.3
此花区 (n=415)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 25.5	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み 24.6	介護保険サービスなどの利用 22.7	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 19.3	弁当の配食時に安否確認を行う取組み 19.0
中央区 (n=446)	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み 27.1	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス／介護保険サービスなどの利用 24.9		弁当の配食時に安否確認を行う取組み 17.9	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 17.3
西区 (n=444)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 32.4	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み 32.0	介護保険サービスなどの利用 28.6	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 26.6	弁当の配食時に安否確認を行う取組み 19.6
港区 (n=416)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 28.8	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み 27.6	介護保険サービスなどの利用 25.0	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 20.9	弁当の配食時に安否確認を行う取組み 19.2
大正区 (n=395)	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み 27.3	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 26.6	介護保険サービスなどの利用 21.0	弁当の配食時に安否確認を行う取組み 20.8	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 19.0
天王寺区 (n=473)	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み 36.2	介護保険サービスなどの利用 26.2	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 23.9	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 19.9	弁当の配食時に安否確認を行う取組み 18.8
浪速区 (n=369)	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み 24.7	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 24.4	介護保険サービスなどの利用 22.0	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 19.2	近所の人と声を掛け合うこと 16.3
西淀川区 (n=429)	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み 25.9	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 25.4	介護保険サービスなどの利用 22.1	弁当の配食時に安否確認を行う取組み 20.0	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 18.2
淀川区 (n=435)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 28.3	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み 26.4	介護保険サービスなどの利用 22.3	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 19.5	弁当の配食時に安否確認を行う取組み 18.6
東淀川区 (n=408)	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み 33.8	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 30.1	介護保険サービスなどの利用 23.5	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 22.3	弁当の配食時に安否確認を行う取組み 21.1
東成区 (n=423)	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み 35.2	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 29.1	弁当の配食時に安否確認を行う取組み 26.0	介護保険サービスなどの利用 25.1	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 24.1
生野区 (n=416)	集会所などで会食会を催し地域交流を深める取組み 28.8	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 25.2	介護保険サービスなどの利用 21.9	身近な地域で行われている体操や運動等の通いの場 18.8	弁当の配食時に安否確認を行う取組み 16.1

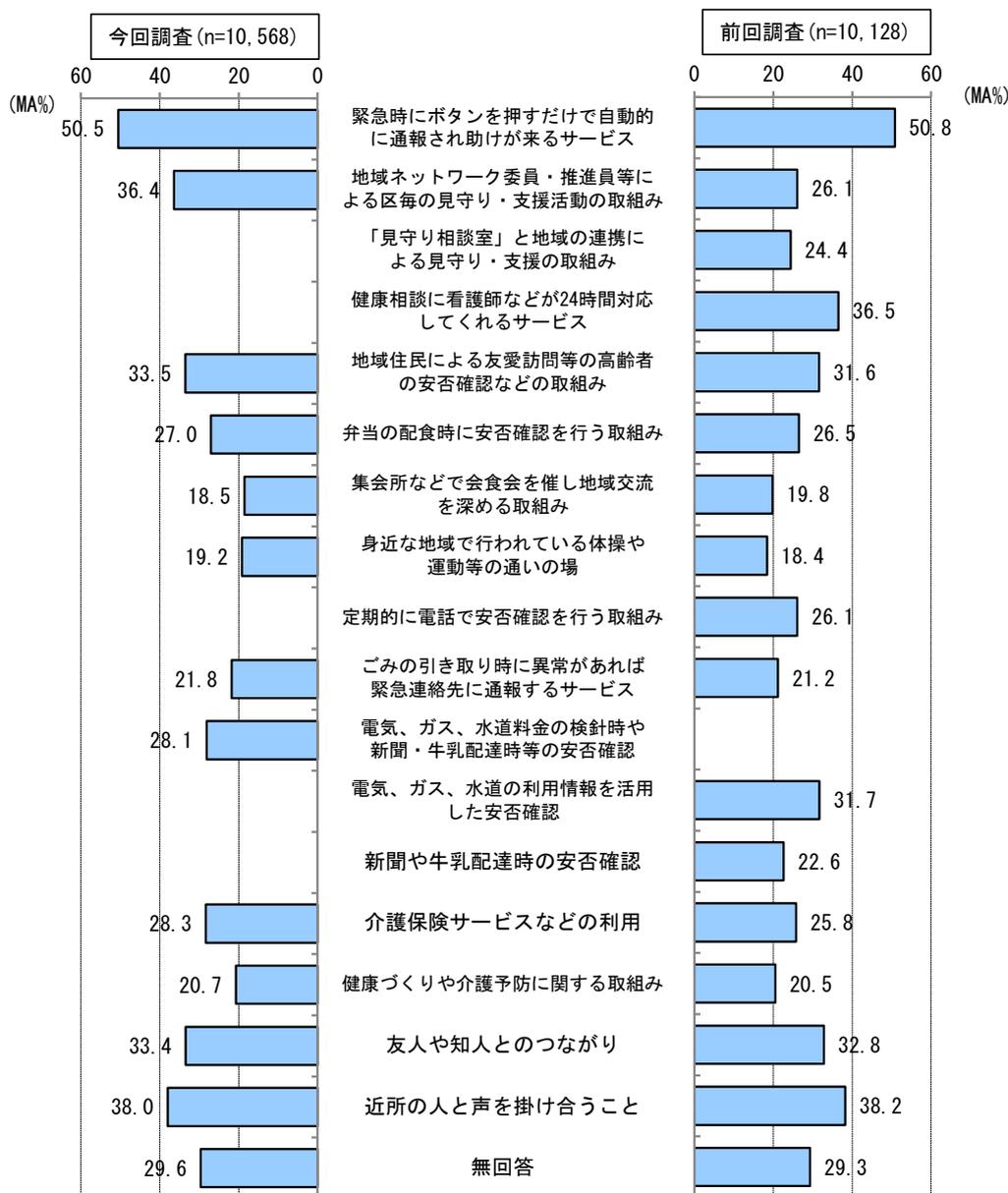
【表45①-c 地域での見守り活動の認知度（居住区別）（上位5項目）②】

（単位：MA%）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
旭区 (n=458)	集会所などで会食会を 催し地域交流を深める 取組み 33.8	緊急時にボタンを押す だけで自動的に通報さ れ助けが来るサービス 28.4	介護保険サービスなど の利用 25.3	身近な地域で行われて いる体操や運動等の通 いの場 23.6	弁当の配食時に安否確 認を行う取組み 20.3
城東区 (n=454)	集会所などで会食会を 催し地域交流を深める 取組み 31.7	緊急時にボタンを押す だけで自動的に通報さ れ助けが来るサービス 29.5	身近な地域で行われて いる体操や運動等の通 いの場 24.9	介護保険サービスなど の利用 24.4	近所の人と声を掛け合 うこと 18.3
鶴見区 (n=440)	集会所などで会食会を 催し地域交流を深める 取組み 35.0	緊急時にボタンを押す だけで自動的に通報さ れ助けが来るサービス 26.1	介護保険サービスなど の利用 23.2	身近な地域で行われて いる体操や運動等の通 いの場 19.3	近所の人と声を掛け合 うこと 16.8
阿倍野区 (n=466)	緊急時にボタンを押す だけで自動的に通報さ れ助けが来るサービス 29.2	集会所などで会食会を 催し地域交流を深める 取組み 25.8	身近な地域で行われて いる体操や運動等の通 いの場 23.2	介護保険サービスなど の利用 21.9	弁当の配食時に安否確 認を行う取組み 17.6
住之江区 (n=471)	集会所などで会食会を 催し地域交流を深める 取組み 33.1	緊急時にボタンを押す だけで自動的に通報さ れ助けが来るサービス 27.6	介護保険サービスなど の利用 27.2	身近な地域で行われて いる体操や運動等の通 いの場 20.0	近所の人と声を掛け合 うこと 16.8
住吉区 (n=426)	緊急時にボタンを押す だけで自動的に通報さ れ助けが来るサービス 28.6	介護保険サービスなど の利用 23.2	集会所などで会食会を 催し地域交流を深める 取組み 22.8	弁当の配食時に安否確 認を行う取組み 19.2	身近な地域で行われて いる体操や運動等の通 いの場 15.7
東住吉区 (n=451)	集会所などで会食会を 催し地域交流を深める 取組み 33.3	緊急時にボタンを押す だけで自動的に通報さ れ助けが来るサービス 28.6	介護保険サービスなど の利用 25.7	身近な地域で行われて いる体操や運動等の通 いの場 20.0	弁当の配食時に安否確 認を行う取組み 19.1
平野区 (n=434)	集会所などで会食会を 催し地域交流を深める 取組み 33.6	緊急時にボタンを押す だけで自動的に通報さ れ助けが来るサービス 27.6	身近な地域で行われて いる体操や運動等の通 いの場 21.2	介護保険サービスなど の利用 20.3	弁当の配食時に安否確 認を行う取組み 18.4
西成区 (n=371)	緊急時にボタンを押す だけで自動的に通報さ れ助けが来るサービス 25.9	集会所などで会食会を 催し地域交流を深める 取組み 22.9	弁当の配食時に安否確 認を行う取組み 19.4	介護保険サービスなど の利用 17.5	身近な地域で行われて いる体操や運動等の通 いの場／近所の人と声 を掛け合うこと 14.3

②地域での見守り活動の必要性

【図45② 地域での見守り活動の必要性（経年比較）】



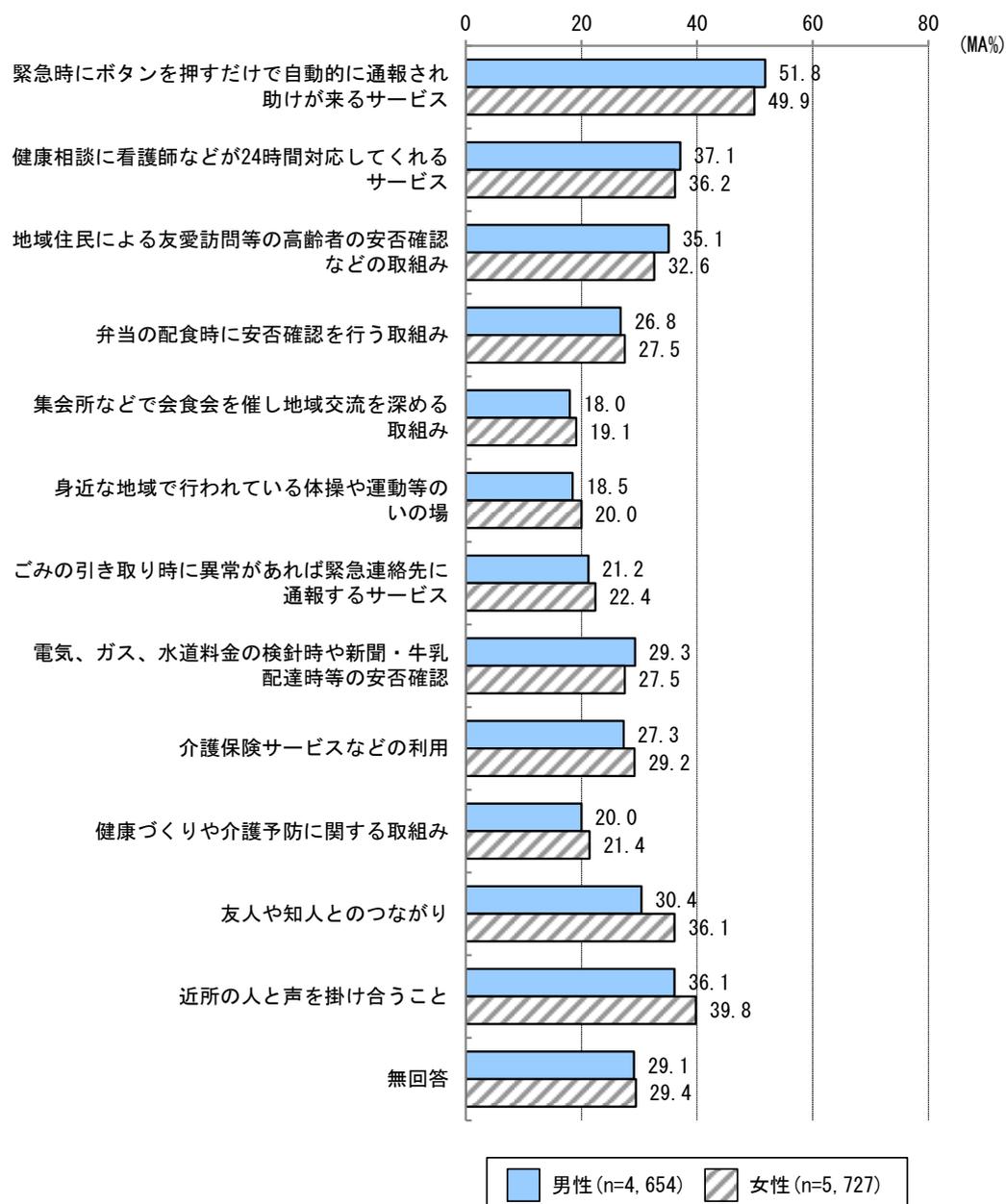
※前回調査の「地域ネットワーク委員・推進員等による区毎の見守り・支援活動の取組み」「見守り相談室と地域の連携による見守り・支援の取組み」「定期的に電話で安否確認を行う取組み」は、今回調査では設けていない。

地域での見守り活動で必要（有効）と思う取組みについては、「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」が50.5%で最も多く、次いで「近所の人と声を掛け合うこと」を38.0%、「健康相談に看護師など24時間対応してくれるサービス」が36.4%となっている。

前回調査とは設問項目数が異なるため、一概に比較はできないが、参考としてみると、「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」「近所の人と声を掛け合うこと」「健康相談に看護師など24時間対応してくれるサービス」が多い傾向は変わらない。（図45②）

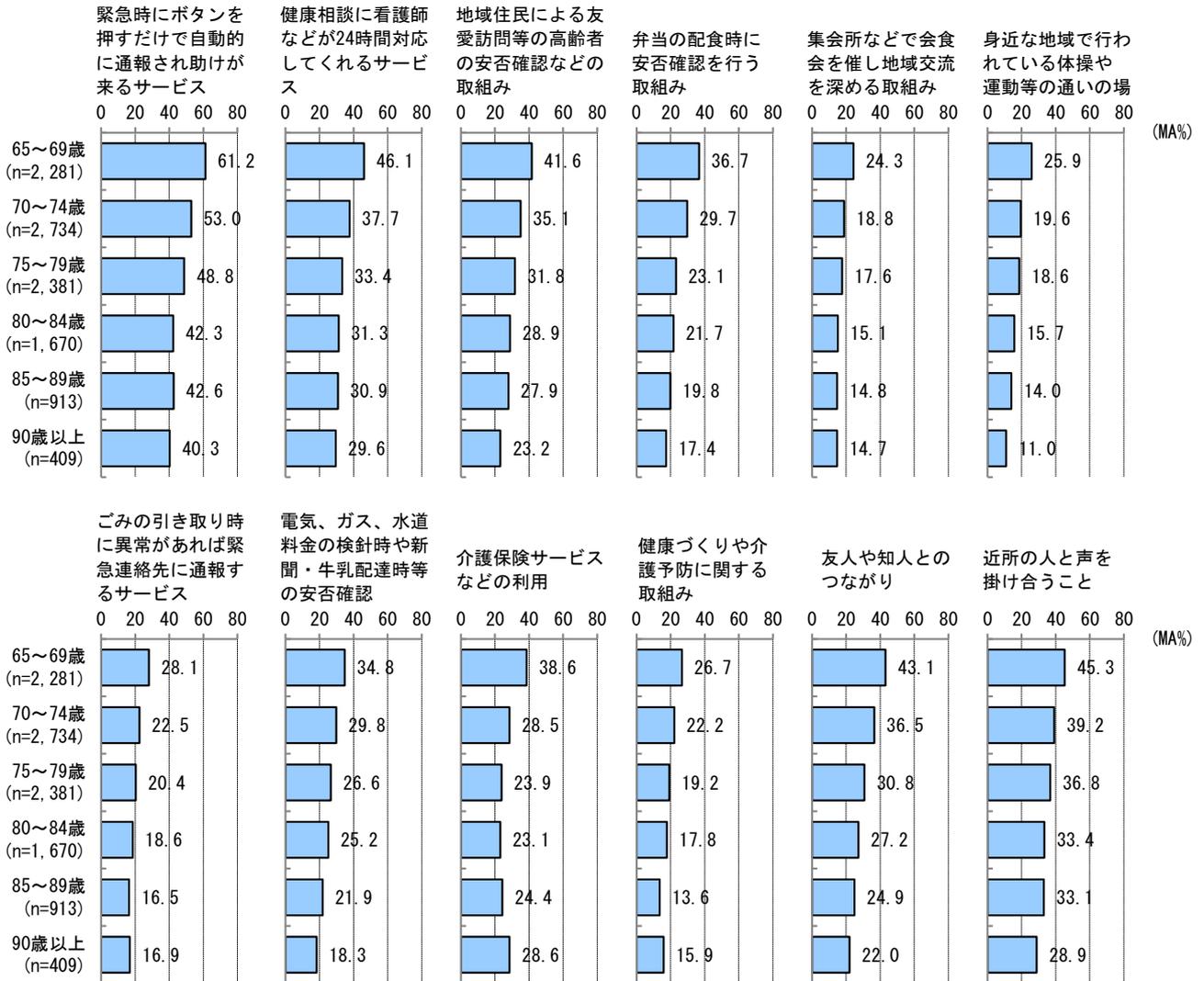
性別でみると、男女とも同様の傾向であり、大きな差はみられない。(図45②-a)

【図45②-a 地域での見守り活動の必要性(性別)】



年齢別で見ると、いずれの項目も65～69歳が最も高く、概ね高齢になるほど割合が低くなっている。(図45②-b)

【図45②-b 地域での見守り活動の必要性（年齢別）】



居住区別でみると、すべての区で「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」が最も多く、中央区が59.2%で最も高い割合となっている。(表45②-c ①②)

【表45②-c 地域での見守り活動の必要性（居住区別）（上位5項目）①】

(単位：MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
北区 (n=458)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 53.7	近所の人と声を掛け合うこと 40.6	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 39.1	友人や知人とのつながり 36.7	弁当の配食時に安否確認を行う取組み 31.4
都島区 (n=471)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 48.4	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 36.3	近所の人と声を掛け合うこと 35.9	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 35.2	友人や知人とのつながり 31.0
福島区 (n=450)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 49.3	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 36.9	近所の人と声を掛け合うこと 36.7	友人や知人とのつながり 32.7	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 31.6
此花区 (n=415)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 45.1	近所の人と声を掛け合うこと 35.9	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 35.4	友人や知人とのつながり 32.5	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 31.6
中央区 (n=446)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 59.2	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 41.0	友人や知人とのつながり 39.0	近所の人と声を掛け合うこと 38.8	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 35.7
西区 (n=444)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 56.5	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 43.0	近所の人と声を掛け合うこと 39.0	友人や知人とのつながり 36.0	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 34.7
港区 (n=416)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 46.2	近所の人と声を掛け合うこと／健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 36.1	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 36.1	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み／友人や知人とのつながり 36.1	32.5
大正区 (n=395)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 51.6	近所の人と声を掛け合うこと 40.5	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 34.9	友人や知人とのつながり 34.4	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 33.9
天王寺区 (n=473)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 55.8	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 39.7	近所の人と声を掛け合うこと 39.3	友人や知人とのつながり 39.1	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 35.3
浪速区 (n=369)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 48.8	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 33.6	友人や知人とのつながり 29.5	近所の人と声を掛け合うこと／介護保険サービスなどの利用 28.5	28.5
西淀川区 (n=429)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 48.5	近所の人と声を掛け合うこと 38.7	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 34.0	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み／友人や知人とのつながり 32.2	32.2
淀川区 (n=435)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 49.0	近所の人と声を掛け合うこと 33.1	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 31.0	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 30.3	友人や知人とのつながり 29.9
東淀川区 (n=408)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 47.8	近所の人と声を掛け合うこと 39.2	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 35.8	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 32.6	友人や知人とのつながり 30.6
東成区 (n=423)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 49.9	近所の人と声を掛け合うこと 40.7	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 39.0	友人や知人とのつながり 34.3	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 31.9
生野区 (n=416)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 47.6	近所の人と声を掛け合うこと 36.5	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 32.7	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 32.5	友人や知人とのつながり 30.5

【表45②-c 地域での見守り活動の必要性（居住区別）（上位5項目）②】

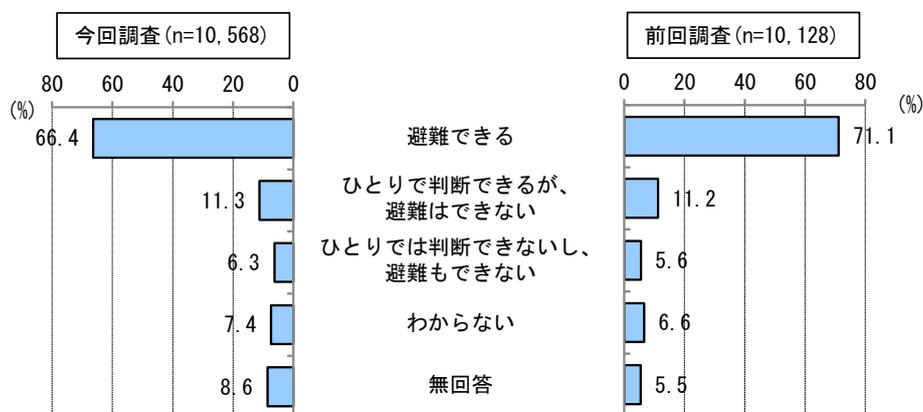
（単位：MA%）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
旭区 (n=458)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 53.5	近所の人と声を掛け合うこと 43.2	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 37.8	友人や知人とのつながり 36.0	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 34.3
城東区 (n=454)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 50.4	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 38.3	友人や知人とのつながり 36.1	近所の人と声を掛け合うこと／地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 35.9	
鶴見区 (n=440)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 49.3	近所の人と声を掛け合うこと 42.7	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 34.8	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 33.9	友人や知人とのつながり 32.7
阿倍野区 (n=466)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 51.1	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 40.8	近所の人と声を掛け合うこと 40.3	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 35.8	友人や知人とのつながり 33.3
住之江区 (n=471)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 53.1	近所の人と声を掛け合うこと 39.3	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 38.4	友人や知人とのつながり 35.2	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 34.8
住吉区 (n=426)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 52.1	近所の人と声を掛け合うこと 39.2	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 38.3	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 37.3	友人や知人とのつながり 32.2
東住吉区 (n=451)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 54.5	近所の人と声を掛け合うこと 38.6	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 37.5	友人や知人とのつながり 34.1	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 33.0
平野区 (n=434)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 49.5	近所の人と声を掛け合うこと 43.3	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 37.3	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 34.6	友人や知人とのつながり 34.3
西成区 (n=371)	緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス 41.2	健康相談に看護師などが24時間対応してくれるサービス 30.7	地域住民による友愛訪問等の高齢者の安否確認などの取組み 28.8	近所の人と声を掛け合うこと 28.6	友人や知人とのつながり 25.9

問46 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否

あなたは、災害時や緊急時にひとりで避難することができますか。(〇はひとつ)

【図46 災害時・緊急時にひとりで避難の可否（経年比較）】

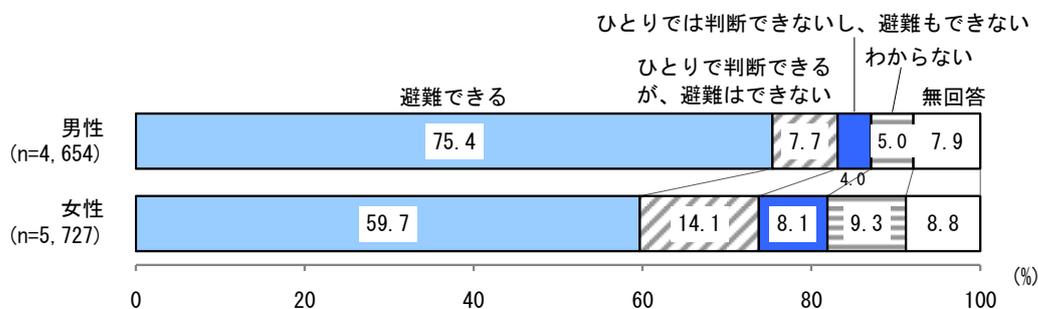


災害時や緊急時にひとりで避難できるかについては、「避難できる」が66.4%で最も多い。一方、「ひとりで判断できるが、避難はできない」と「ひとりでは判断できないし、避難もできない」をあわせた『避難できない』は17.6%となっている。

前回調査と比較すると、「避難できる」の割合は4.7ポイント低くなっている。(図46)

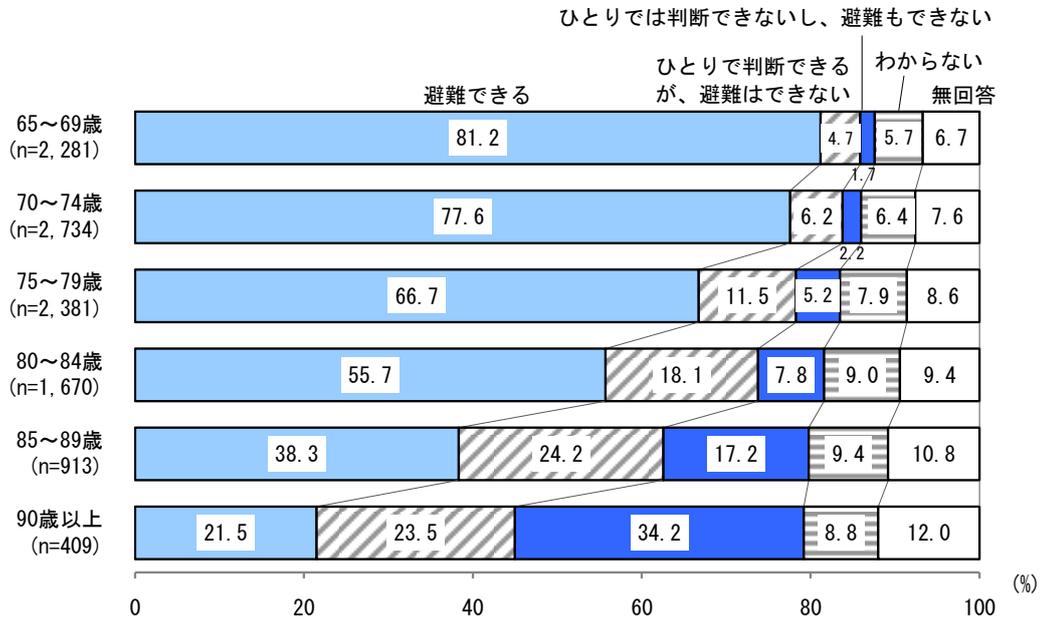
性別でみると、女性のほうが「避難できる」割合が低く、困難を感じている傾向がみられる。(図46-a)

【図46-a 災害時・緊急時にひとりで避難の可否（性別）】



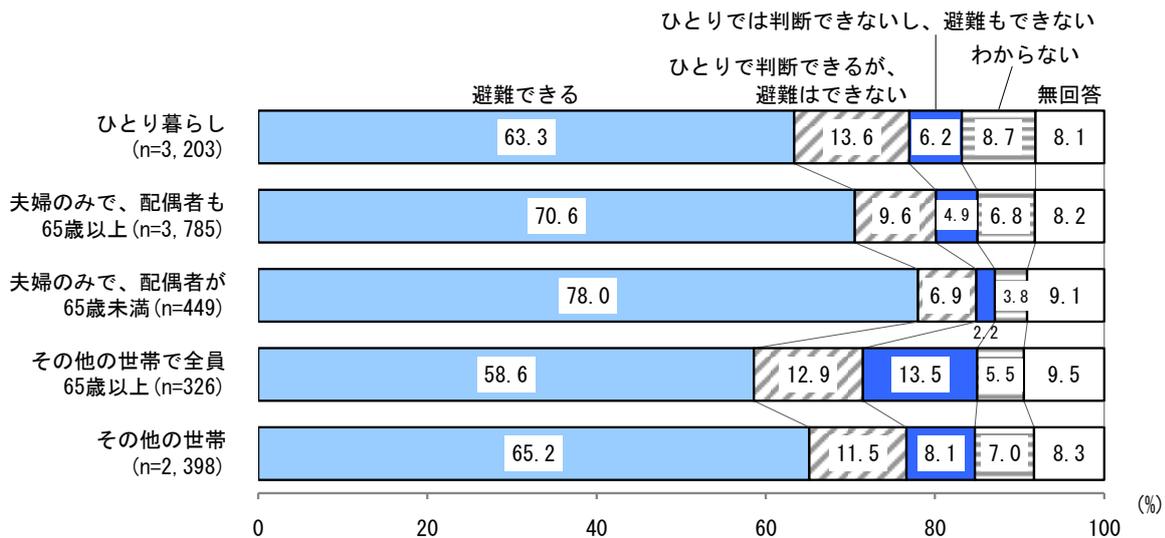
年齢別では、高齢になるほど災害時・緊急時に困難を感じている傾向が高くなっている。
 (図46-b)

【図46-b 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否（年齢別）】



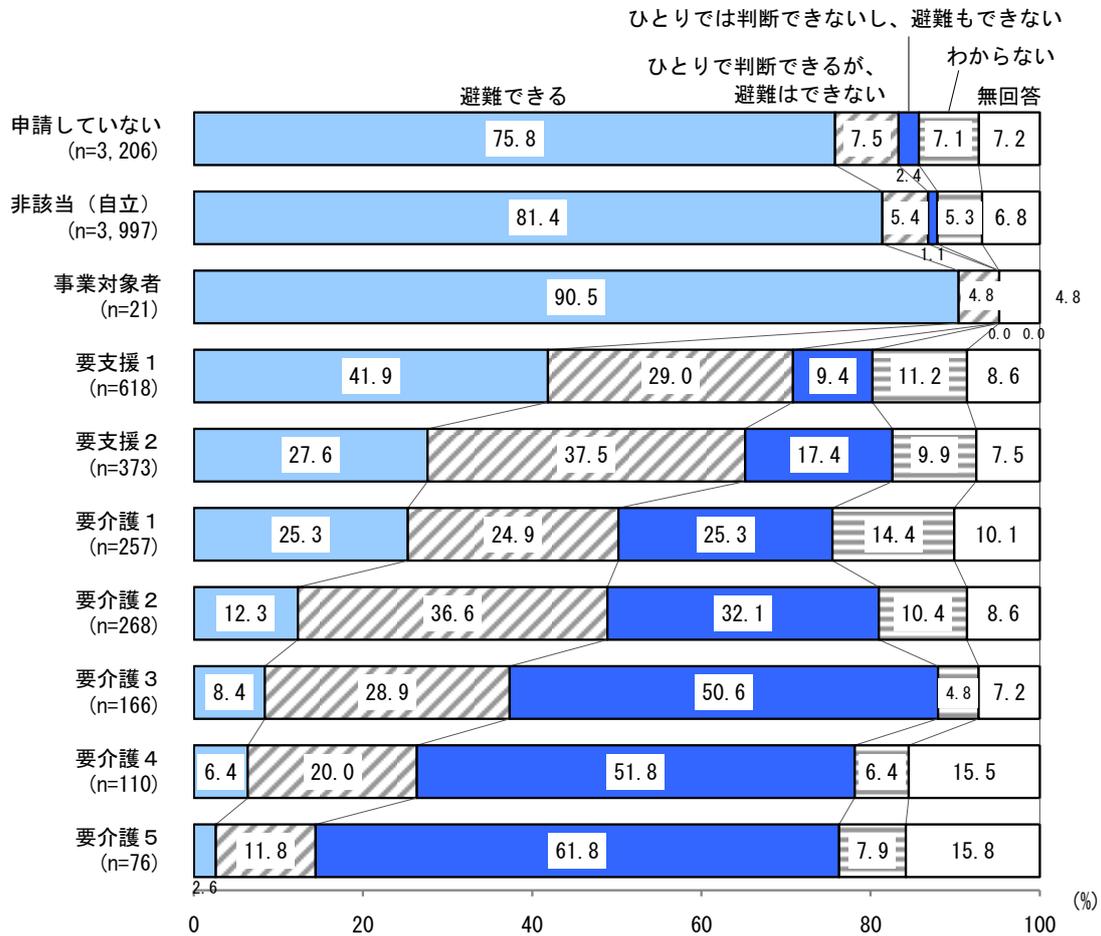
世帯状況別でみると、「避難できる」は“夫婦のみで、配偶者が65歳未満”の世帯が78.0%で最も高く、『避難できない』は“その他の世帯で、全員65歳以上”の世帯が26.4%で最も高い。(図46-c)

【図46-c 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否（世帯状況別）】



介護度別で見ると、「避難できる」は事業対象者が90.5%で最も高く、次いで非該当（自立）が81.4%となっている。要介護3～5では1割に満たない。（図46-d）

【図46-d 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否（介護度別）】

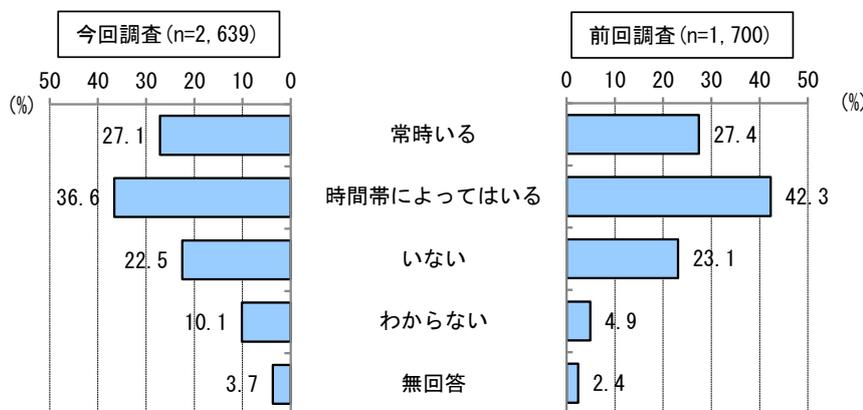


問46-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無

【問46で「2～4」と回答された方におうかがいします。】

災害時や緊急時に、手助けを頼める人（同居者を含む）はいますか。（〇はひとつ）

【図46-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無（経年比較）】



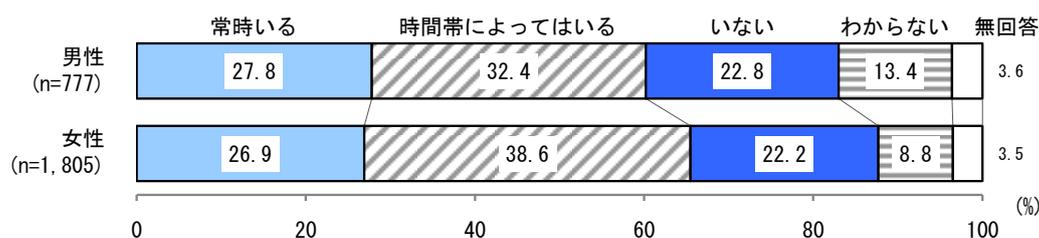
※今回調査では問46「わからない」と回答した人を含めているが、前回調査では対象外としている。

ひとりで避難できない、またはわからないと回答した人に、手助けを頼める人がいるかたずねると、「常時いる」と「時間帯によってはいる」をあわせた『手助けを頼める人がいる』人は63.7%となっている。

前回調査と比較すると、「時間帯によってはいる」の割合が5.7ポイント低くなっている。（図46-1）

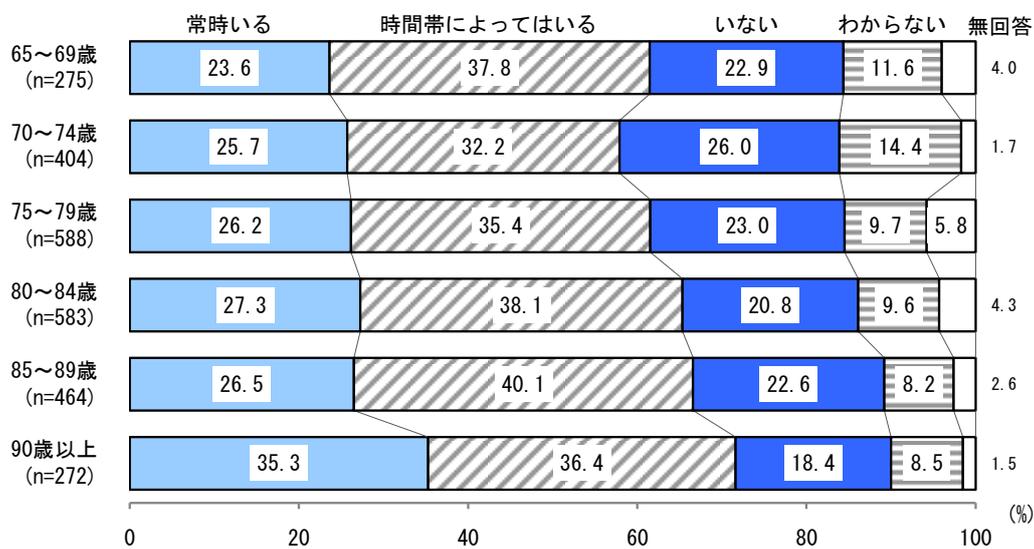
性別でみると、『手助けを頼める人がいる』人は男性より女性のほうが割合が高くなっている。（図46-1-a）

【図46-1-a 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無（性別）】



年齢別でみると、『手助けを頼める人がいる』人の割合は70～74歳が57.9%で最も低く、90歳以上が71.7%で最も高くなっている。(図46-1-b)

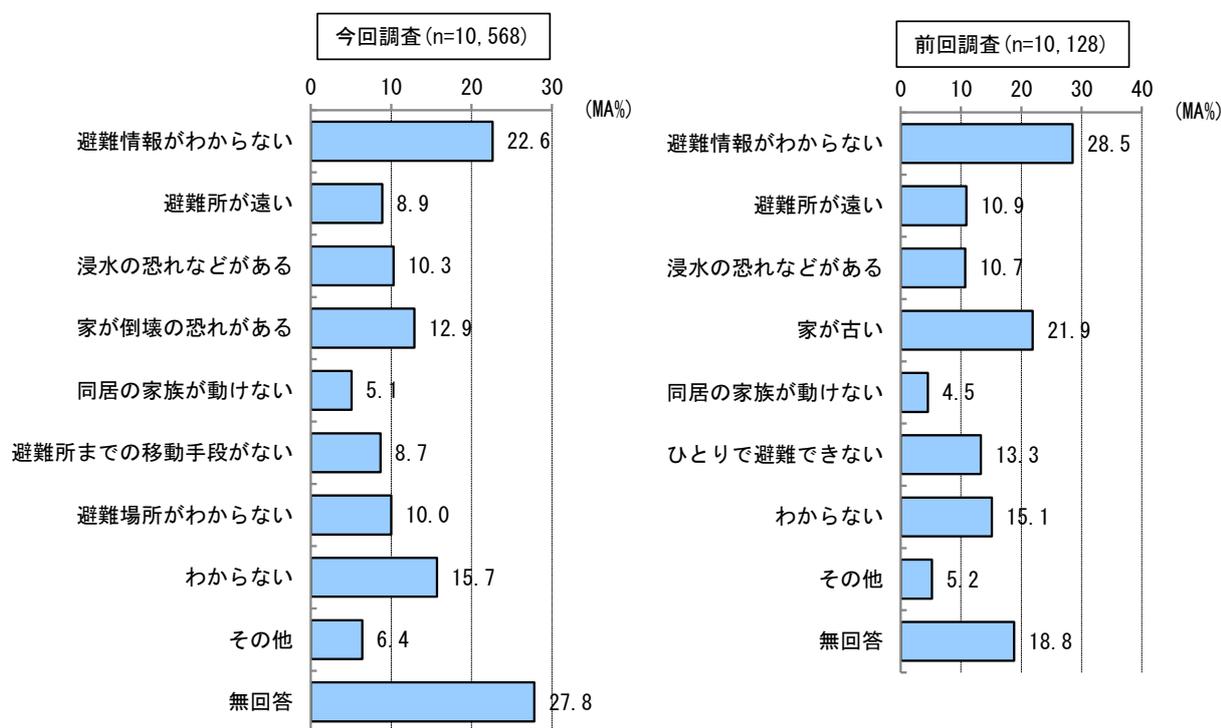
【図46-1-b 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無（年齢別）】



問47 災害時の心配事

あなたは、災害が起きた時の心配事がありますか。(〇はいくつでも)

【図47 災害時の心配事（経年比較）】



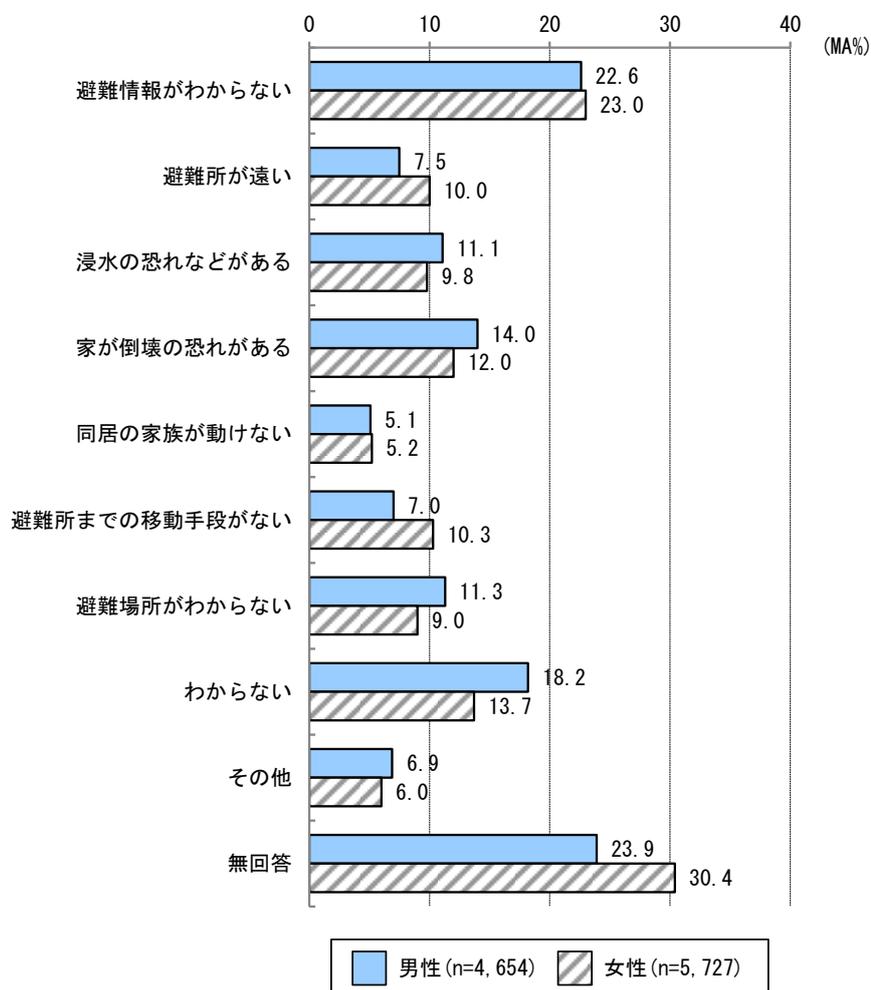
※「家が倒壊の恐れがある」「避難場所までの移動手段がない」「避難場所がわからない」は、今回調査の新規項目であり、前回調査の「家が古い」「ひとりで避難できない」は今回調査には設けていない。

災害時の心配事については、「避難情報がわからない」が22.6%で最も多く、次いで「家が倒壊の恐れがある」が12.9%となっている。

前回調査と設問項目が異なるため一概には比較できないが、「避難情報がわからない」が多いという傾向は前回と変わらない。(図47)

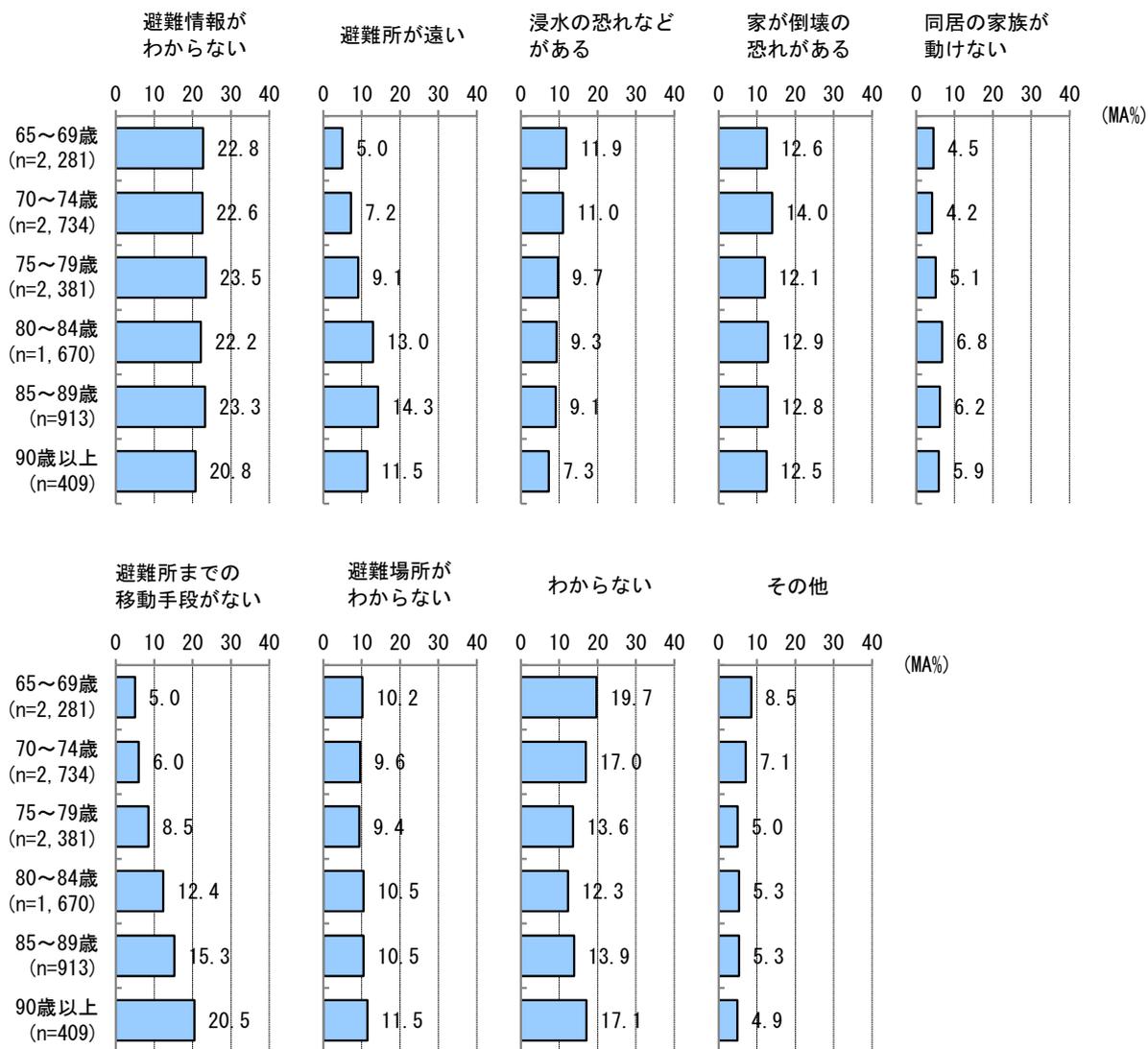
性別でみると、「浸水の恐れなどがある」、「家が倒壊の恐れがある」、「避難所がわからない」の回答割合は男性のほうが高くなっている。(図47-a)

【図47-a 災害時の心配事（性別）】



年齢別でみると、「避難所までの移動手段がない」の回答割合は高齢になるほど高くなって
いる。(図47-b)

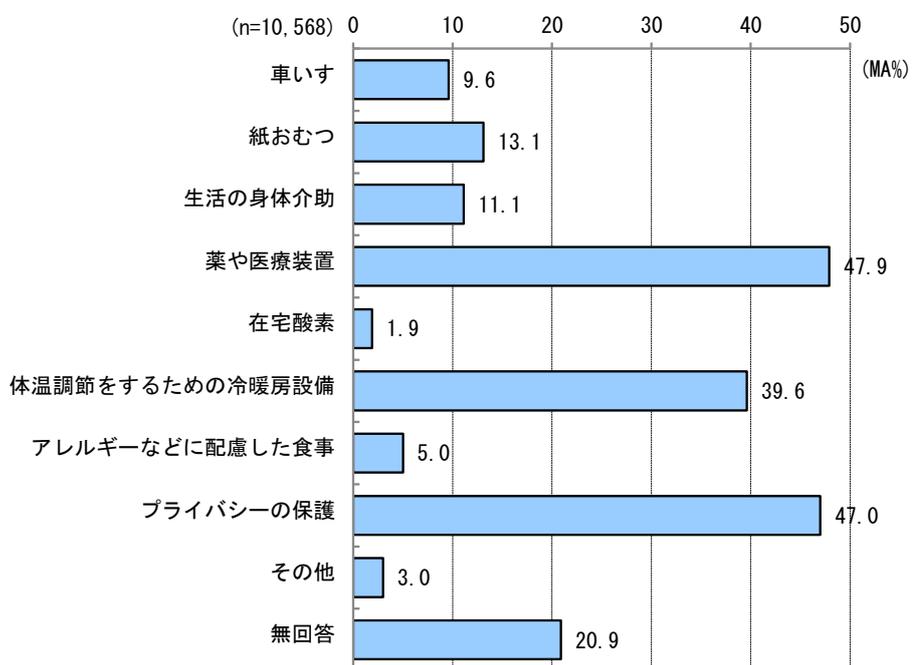
【図47-b 災害時の心配事（年齢別）】



問48 避難所生活するうえで必要なもの

避難所生活するうえで必要なものは何ですか。(〇はいくつでも)

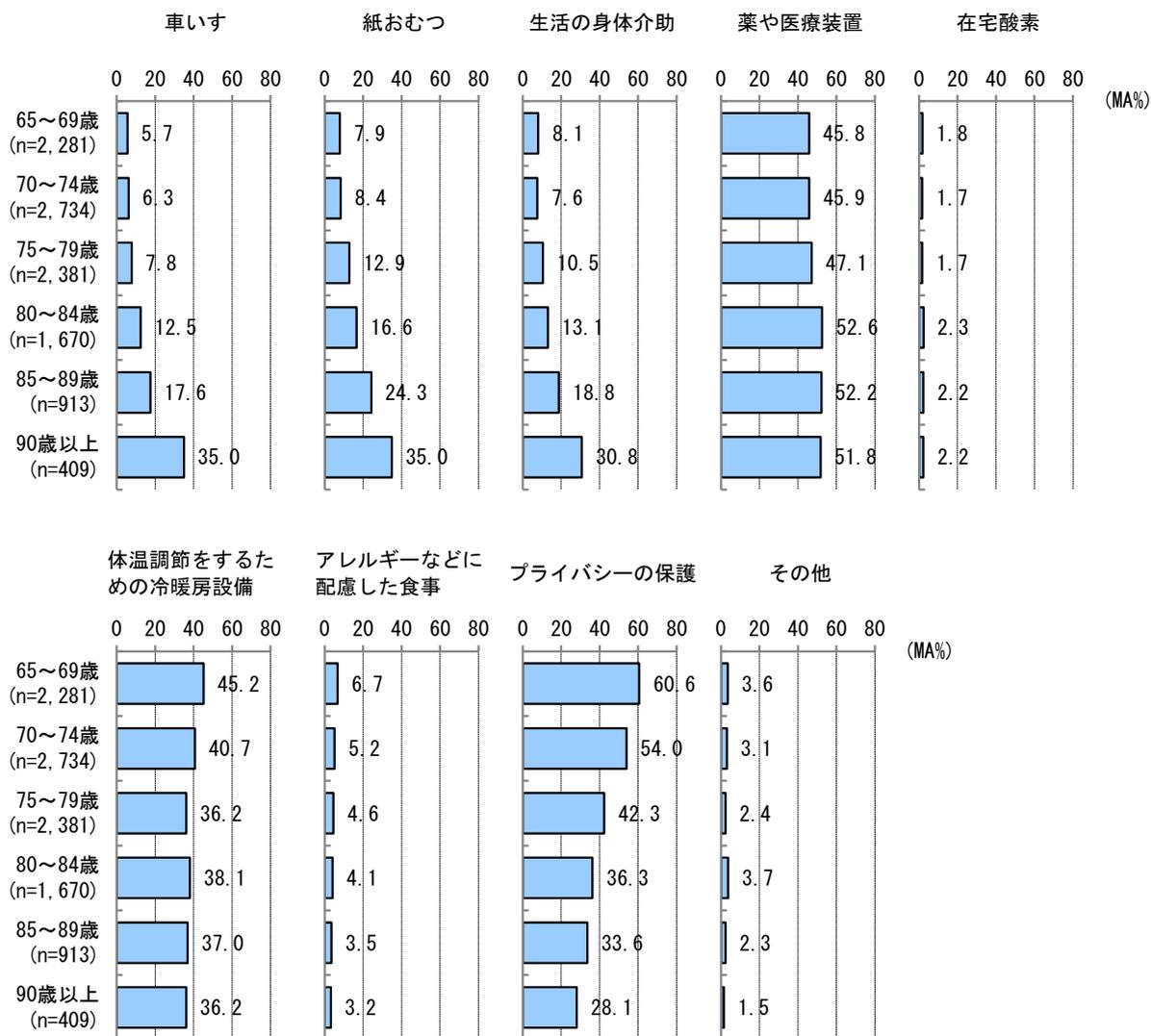
【図48 避難所生活するうえで必要なもの】



避難所生活するうえで必要なものについては、「薬や医療装置」が47.9%で最も多く、次いで「プライバシーの保護」が47.0%、「体温調整をするための冷暖房設備」が39.6%となっている。(図48)

年齢別でみると、「車いす」、「紙おむつ」の回答割合は高齢になるほど高く、「プライバシーの保護」は高齢になるほど低くなっている。(図48-a)

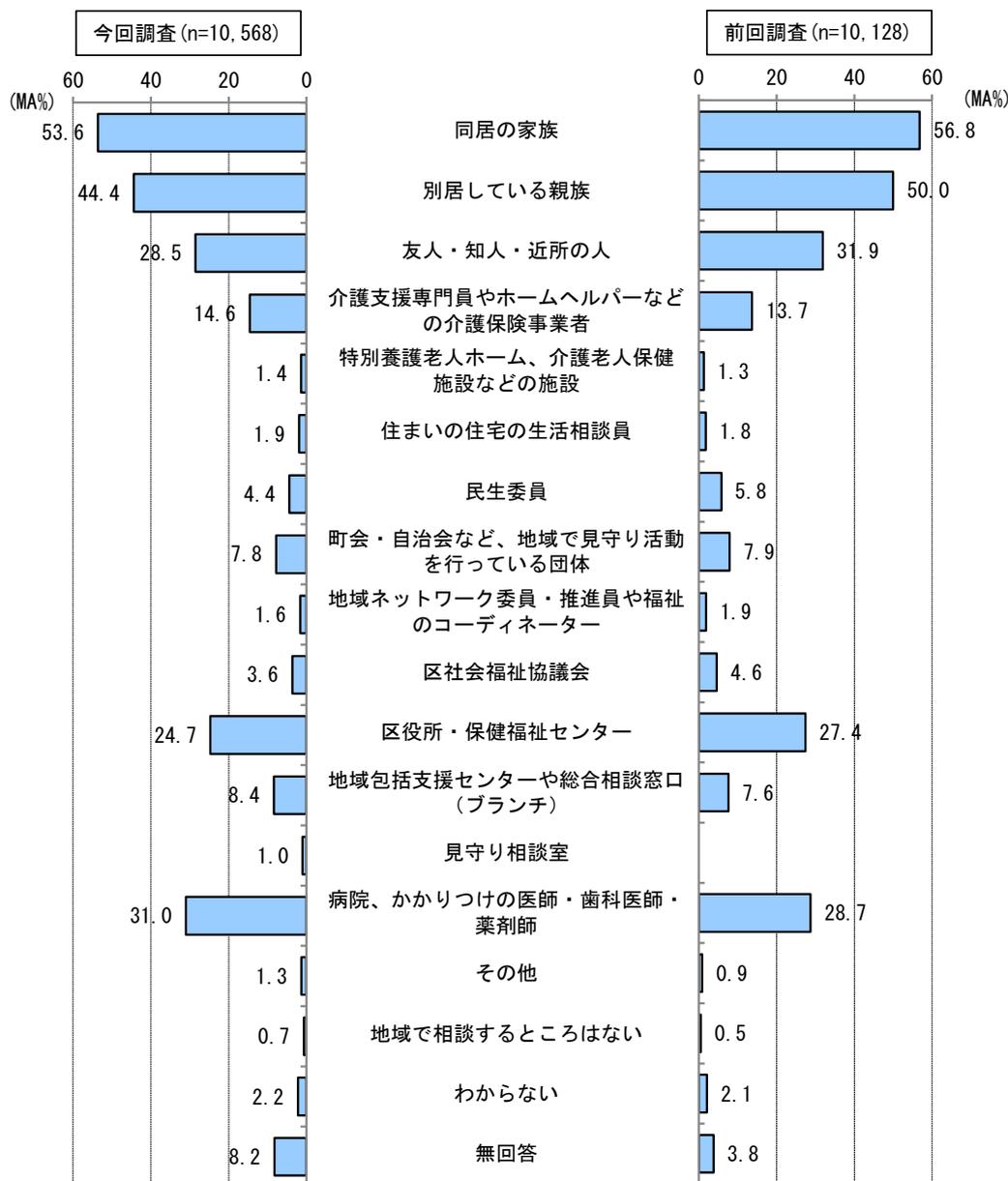
【図48-a 避難所生活するうえで必要なもの（年齢別）】



問49 困ったときの相談先

あなたは、困ったときにどちらに相談されますか。(〇はいくつでも)

【図49 困ったときの相談先（経年比較）】

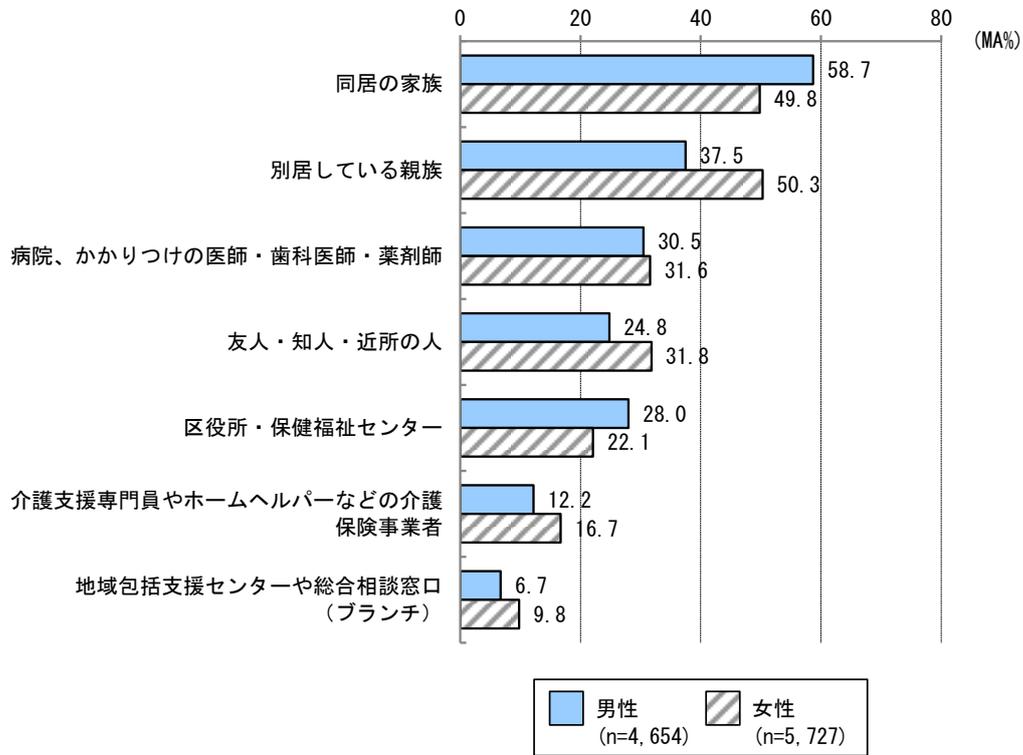


※「見守り相談室」は、今回調査の新規項目である。

困った時の相談先については、「同居の家族」が53.6%で最も多く、次いで「別居している親族」が44.4%、「病院、かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師」が31.0%となっている。前回調査と比較すると、「別居している親族」の割合が5.6ポイント低くなっている。(図49)

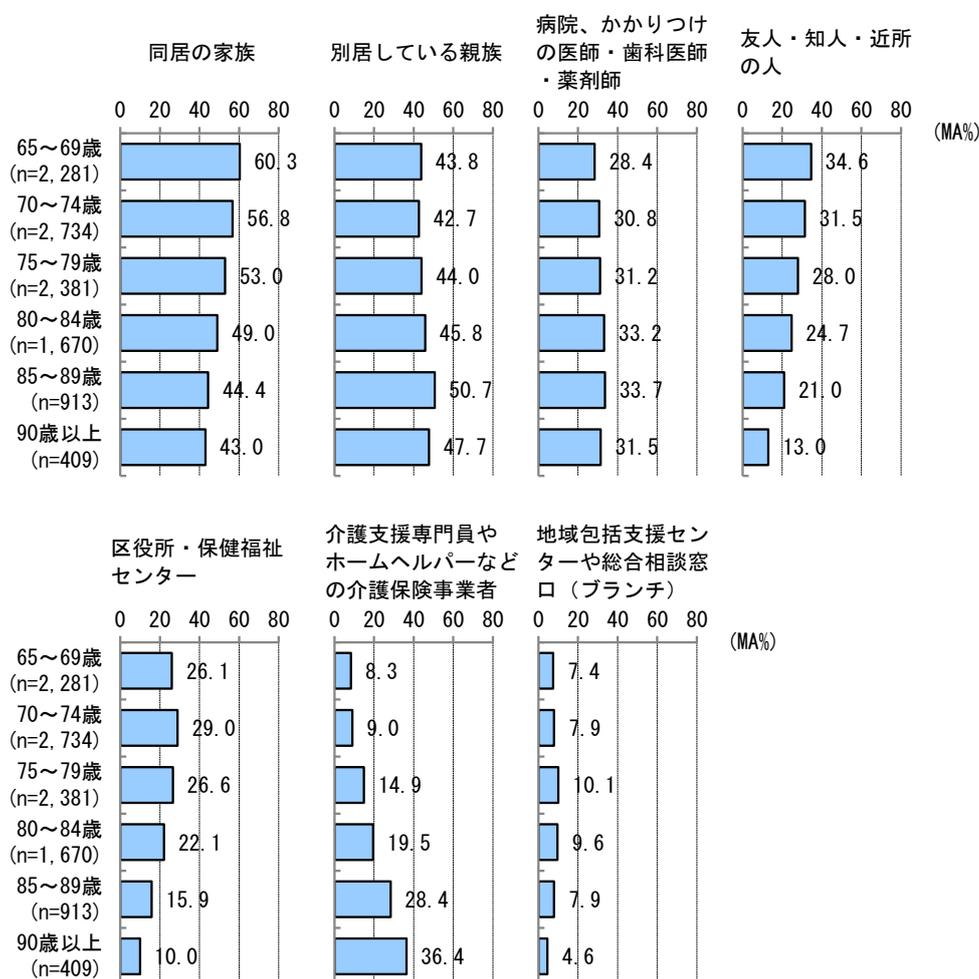
性別で見ると、「同居の家族」、「区役所・保健福祉センター」の回答割合は男性のほうが高くなっている。(図49-a)

【図49-a 困ったときの相談先（性別）（上位項目）】



年齢別でみると、「同居の家族」、「友人・知人・近所の人」の回答割合は高齢になるほど低く、「介護支援専門員やホームヘルパーなどの介護保険事業者」の回答割合は高齢になるほど高くなっている。(図49-b)

【図49-b 困ったときの相談先（年齢別）（上位項目）】



(8) 高齢者施策全般

問50 高齢者向け施設・事業の利用状況・意向

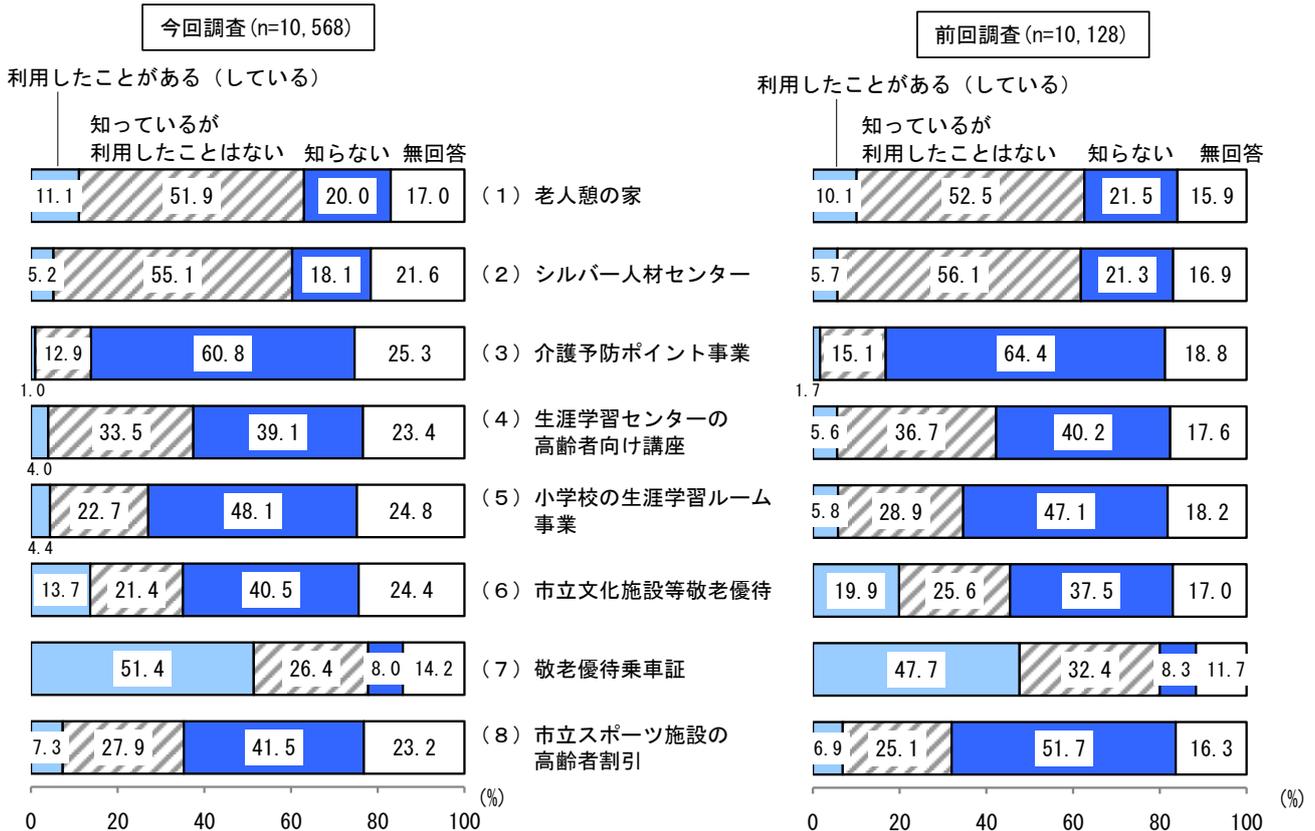
① 高齢者向け施設・事業の利用状況

次の施設や事業について、あなたの利用状況や意向をお答えください。

(○は状況・意向欄にそれぞれひとつずつ)

なお、利用状況欄で「2 知っているが利用したことはない」「3 知らない」を選択された方は、利用(参加)意向欄もお答えください。

【図50① 高齢者向け施設・事業の利用状況(経年比較)】

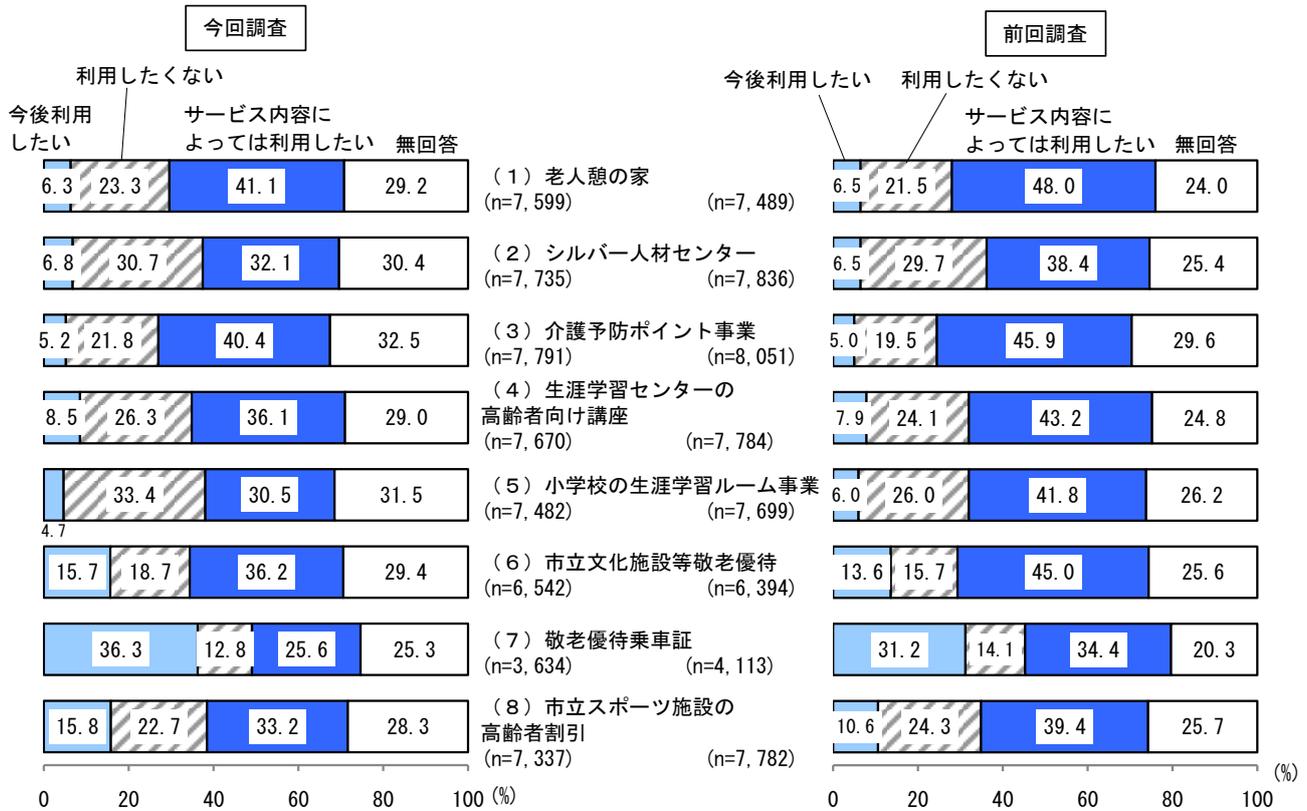


高齢者向け施設・事業の利用状況については、「(7)敬老優待乗車証」の「利用したことがある(している)」(51.4%)の回答割合が、他と比べ大幅に高くなっている。一方、「知らない」の回答割合が最も高いのは「(3)介護予防ポイント事業」(60.8%)となっている。

前回調査と比較すると、「(6)市立文化施設等敬老優待」の「利用したことがある(している)」割合が6.2ポイント低くなっている。また、「(8)市立スポーツ施設の高齢者割引」の「知らない」割合が10.2ポイント低くなっている。(図50①)

②高齢者向け施設・事業の利用意向

【図50② 高齢者向け施設・事業の利用意向（経年比較）】



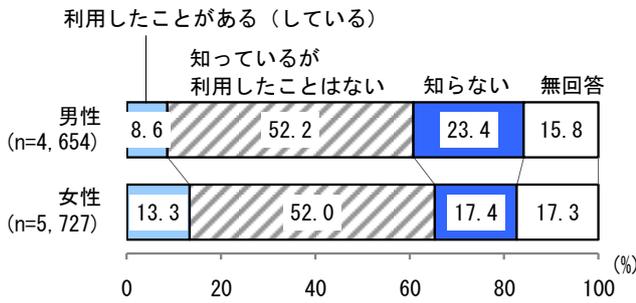
高齢者向け施設・事業の利用意向については、“(7) 敬老優待乗車証”の「今後利用したい」(36.3%)の回答割合が、他と比べ大幅に高くなっている。その他の施設や事業については、「サービス内容によっては利用したい」の回答が比較的多い。

前回調査と比較すると、「今後利用したい」の割合は、“(7) 敬老優待乗車証”が5.1ポイント、“(8) 市立スポーツ施設の高齢者割引”が5.2ポイント、それぞれ高くなっている。その他の施設や事業については、「利用したくない」の割合が前回調査より高くなっている。(図50②)

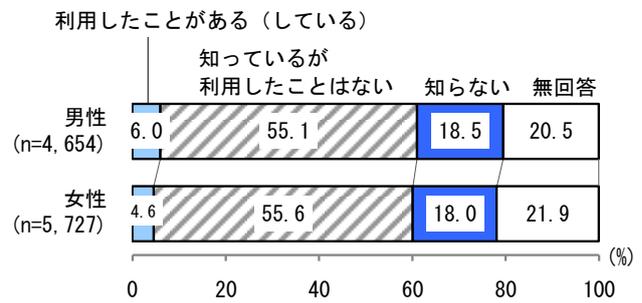
高齢者向け施設・事業の利用状況について性別でみると、「利用したことがある(している)」の回答割合は“(2) シルバー人材センター”を除いた項目で女性のほうが高くなっている。(図50①-a)

【図50①-a 高齢者向け施設・事業の利用状況（性別）】

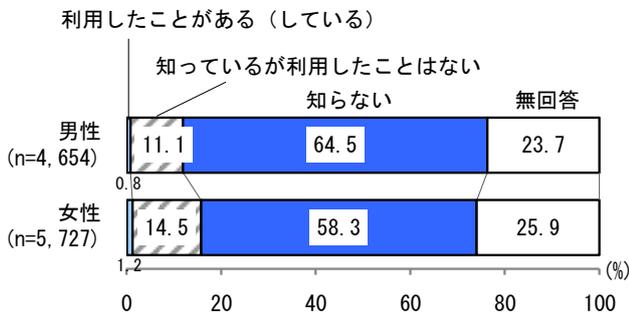
(1) 老人憩の家



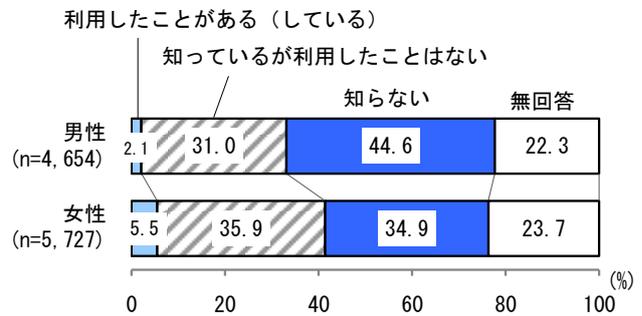
(2) シルバー人材センター



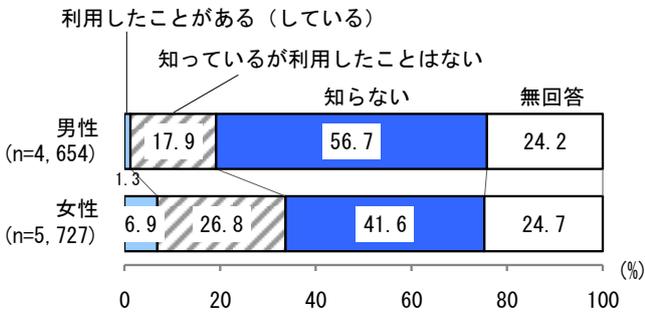
(3) 介護予防ポイント事業



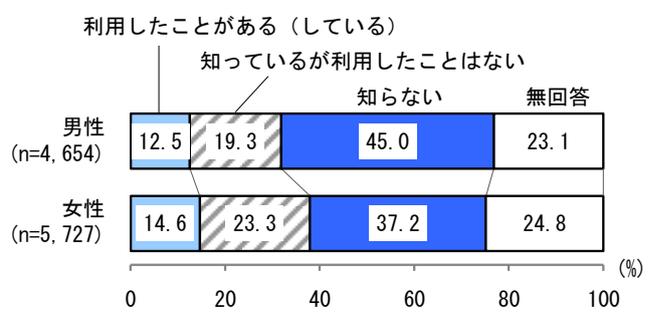
(4) 生涯学習センターの高齢者向け講座



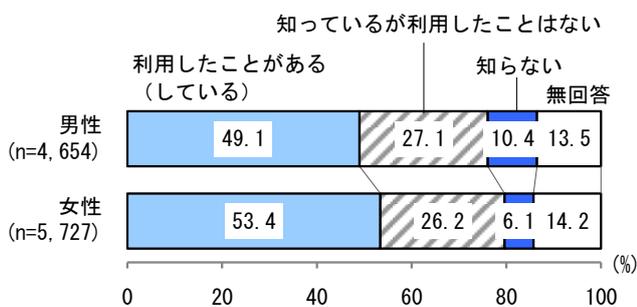
(5) 小学校の生涯学習ルーム事業



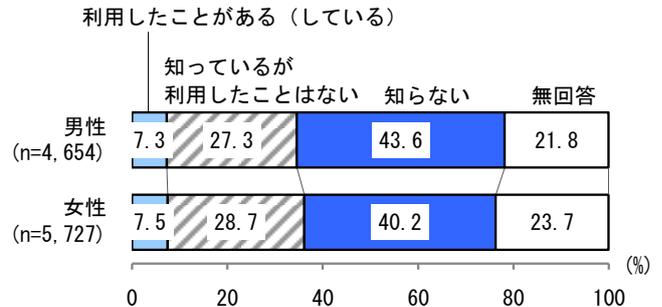
(6) 市立文化施設等敬老優待



(7) 敬老優待乗車証



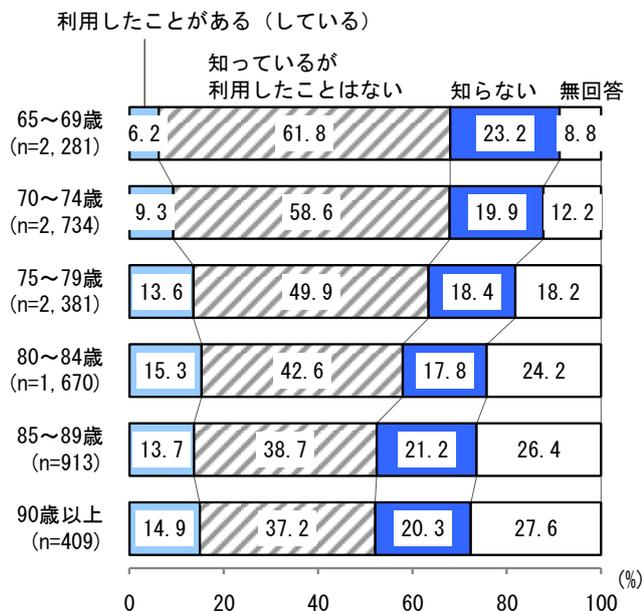
(8) 市立スポーツ施設の高齢者割引



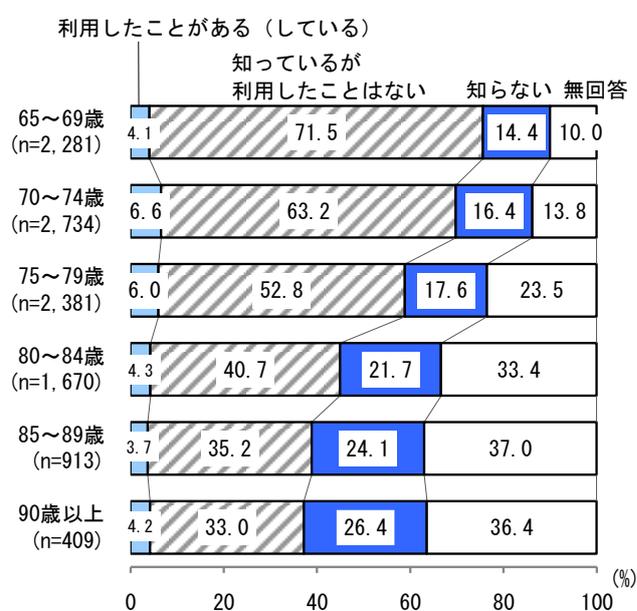
年齢別でみると、「知らない」の回答割合は“(1)老人憩の家”、“(3)介護予防ポイント事業”、“(4)生涯学習センターの高齢者向け講座”、“(5)小学校の生涯学習ルーム事業”、“(6)市立文化施設等敬老優待”、“(7)敬老優待乗車証”、“(8)市立スポーツ施設の高齢者割引”では65～69歳が最も高くなっている。(図50①-b ①②)

【図50①-b 高齢者向け施設・事業の利用状況（年齢別）①】

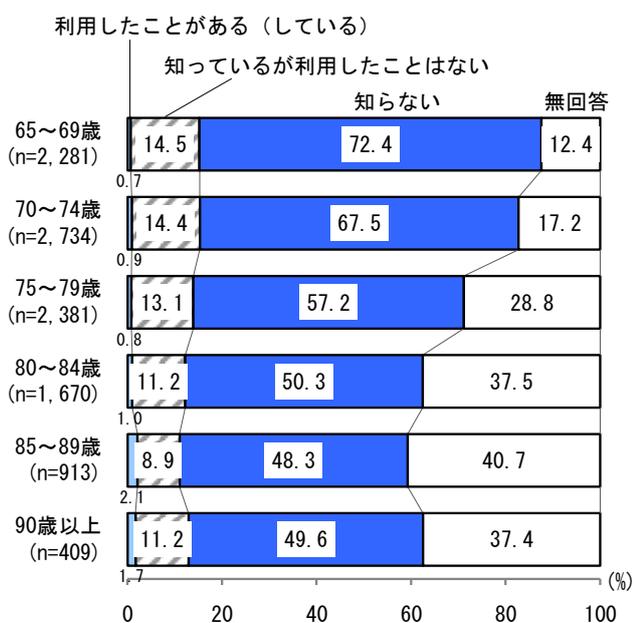
(1) 老人憩の家



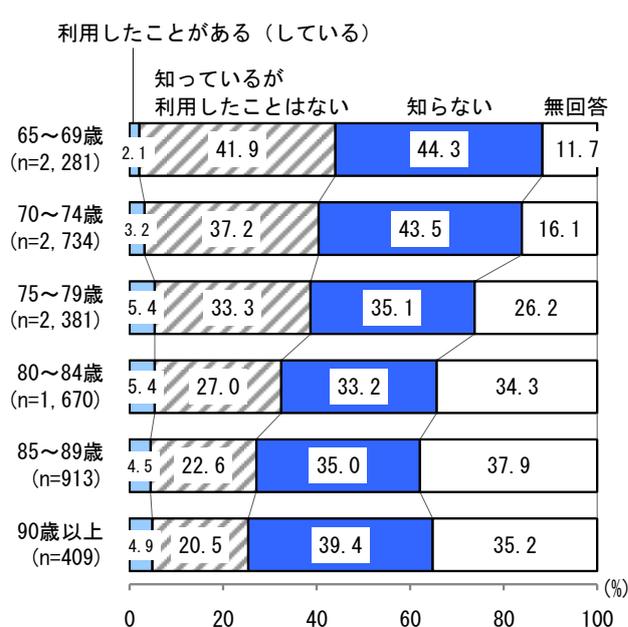
(2) シルバー人材センター



(3) 介護予防ポイント事業

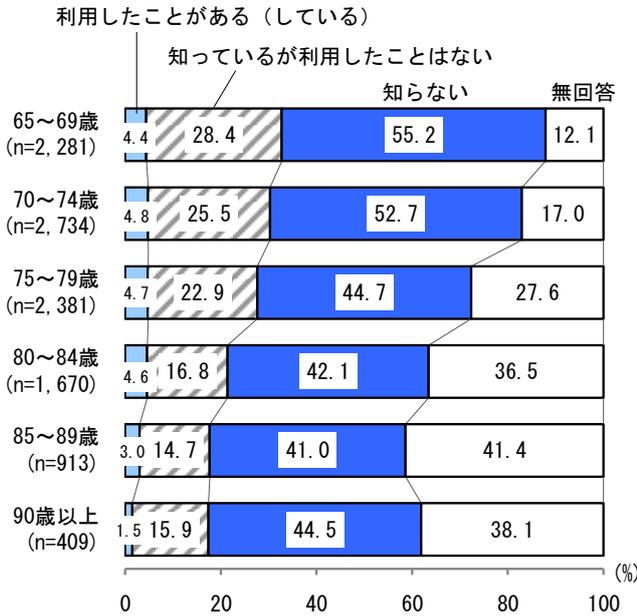


(4) 生涯学習センターの高齢者向け講座

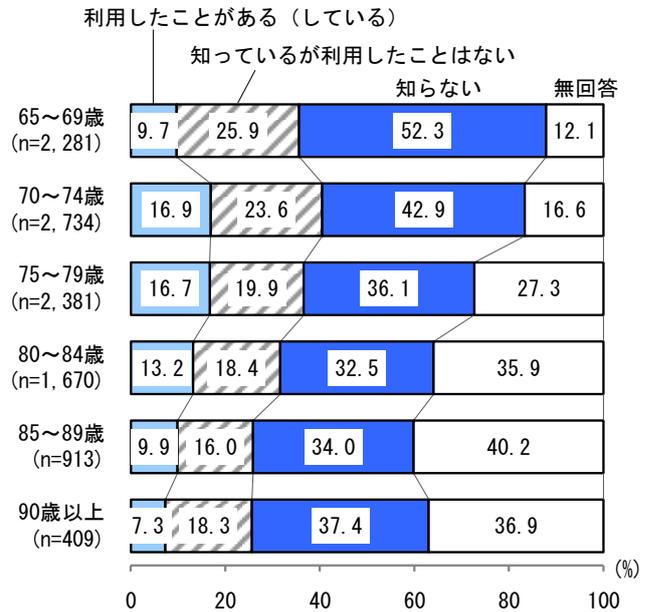


【図50①-b 高齢者向け施設・事業の利用状況（年齢別）②】

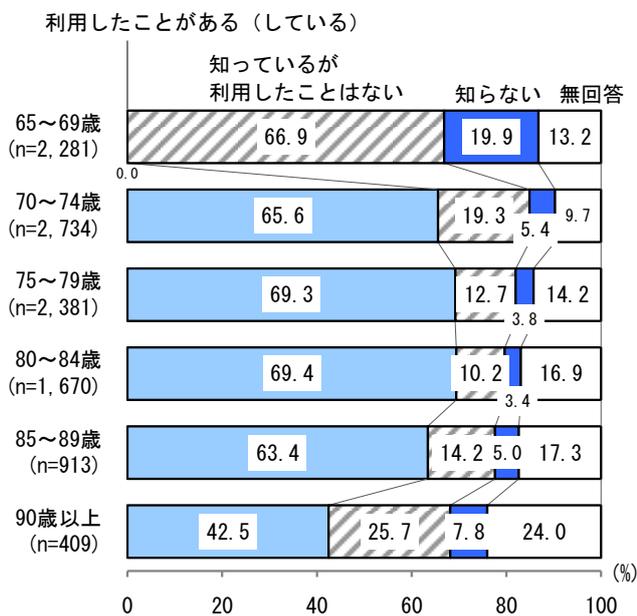
(5) 小学校の生涯学習ルーム事業



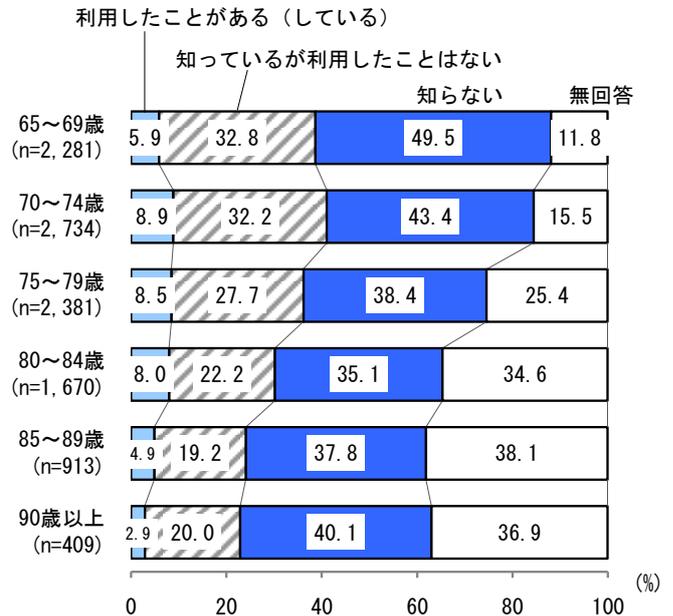
(6) 市立文化施設等敬老優待



(7) 敬老優待乗車証



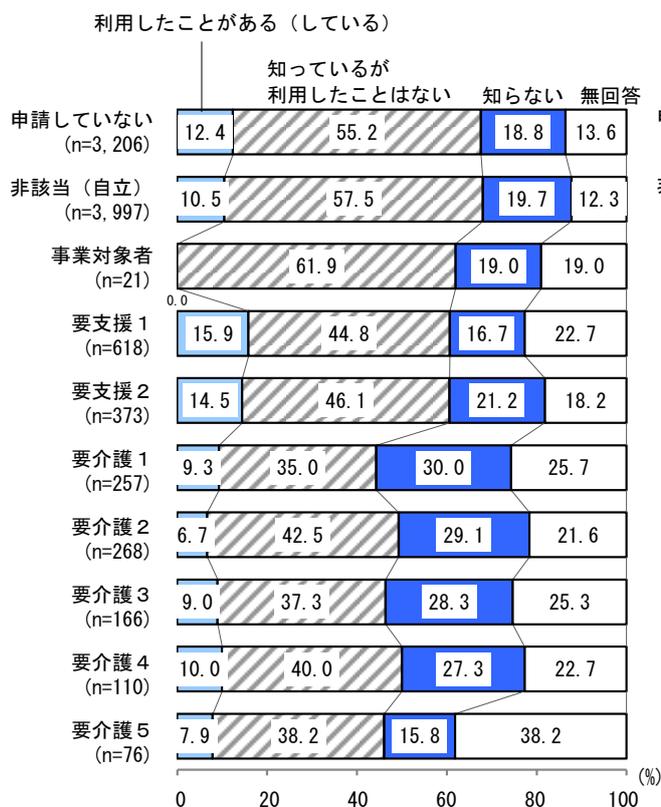
(8) 市立スポーツ施設の高齢者割引



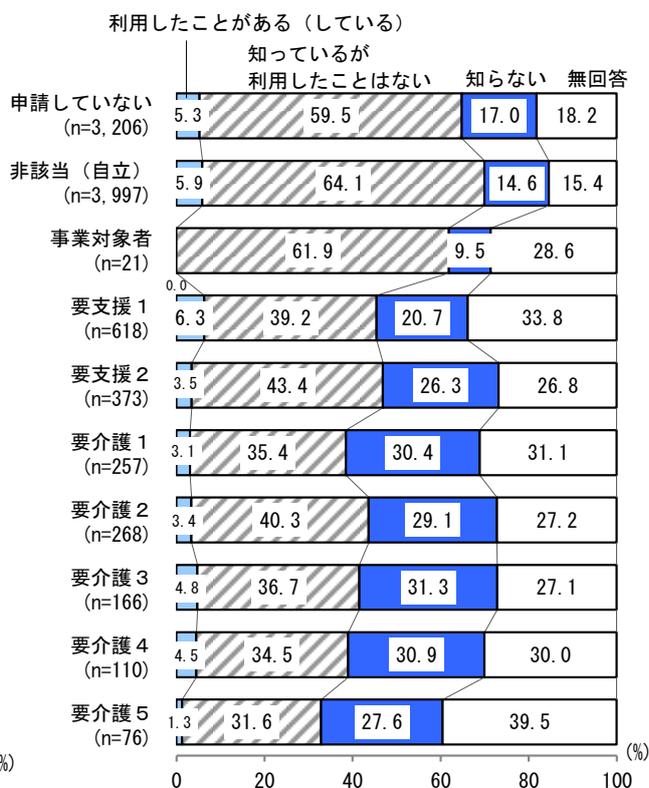
介護度別で見ると、高齢者向け施設や事業の利用状況について、「利用したことがある（している）」の回答割合は、「(1)老人憩の家」、「(2)シルバー人材センター」、「(4)生涯学習センターの高齢者向け講座」、「(7)敬老優待乗車証」では要支援1で最も高くなっている。(図50①-c ①②)

【図50①-c 高齢者向け施設・事業の利用状況（介護度別）①】

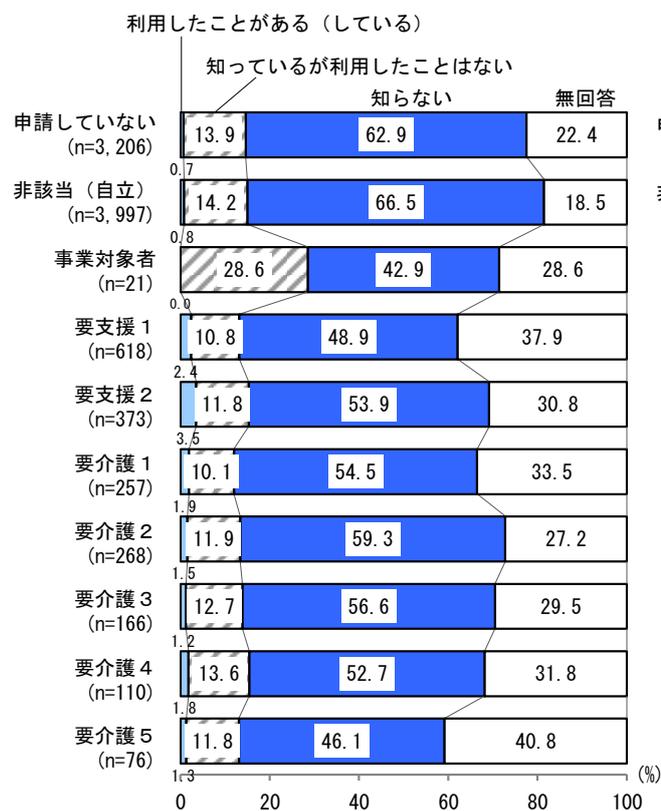
(1) 老人憩の家



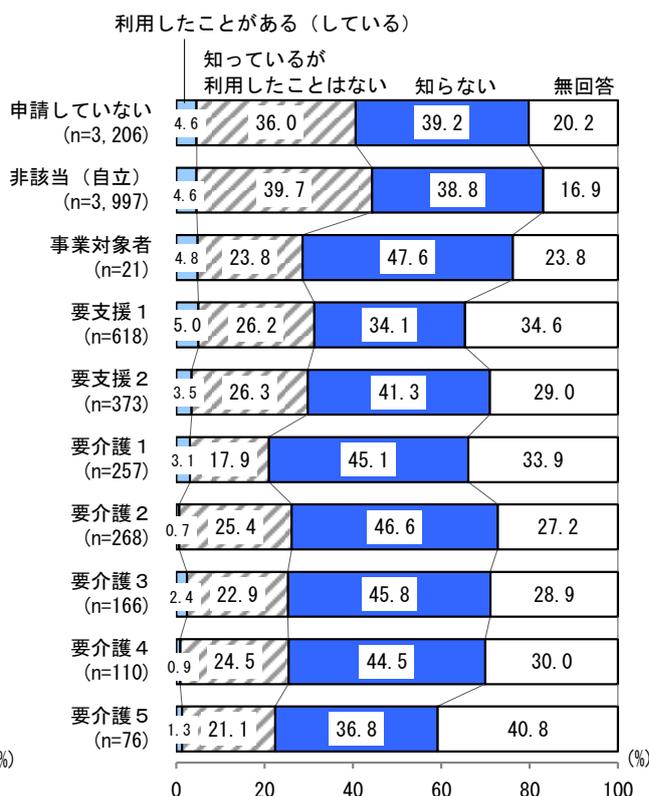
(2) シルバー人材センター



(3) 介護予防ポイント事業

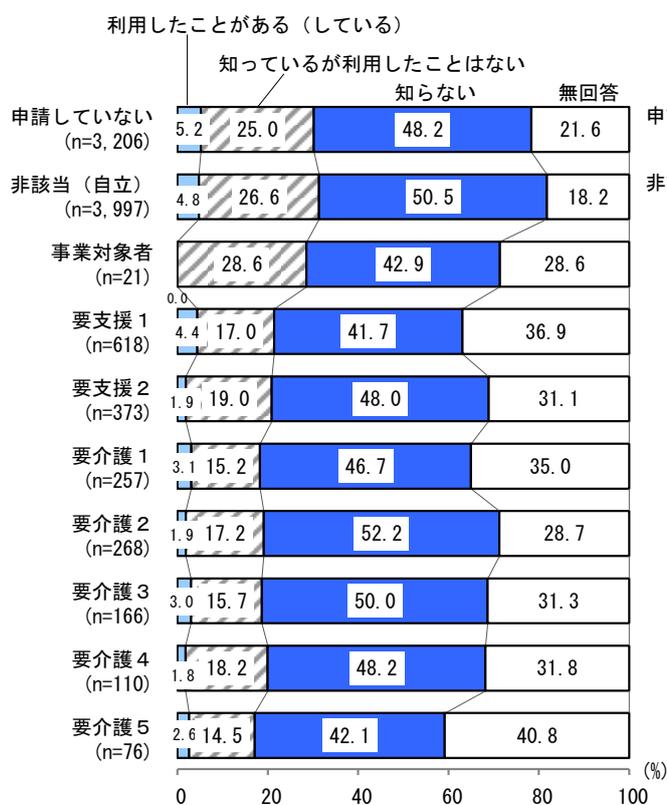


(4) 生涯学習センターの高齢者向け講座

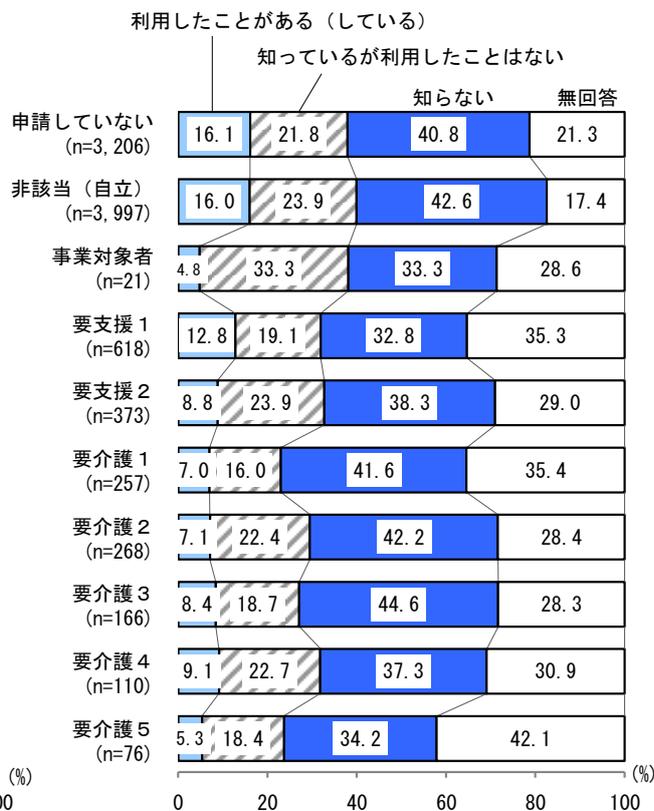


【図50①-c 高齢者向け施設・事業の利用状況（介護度別）②】

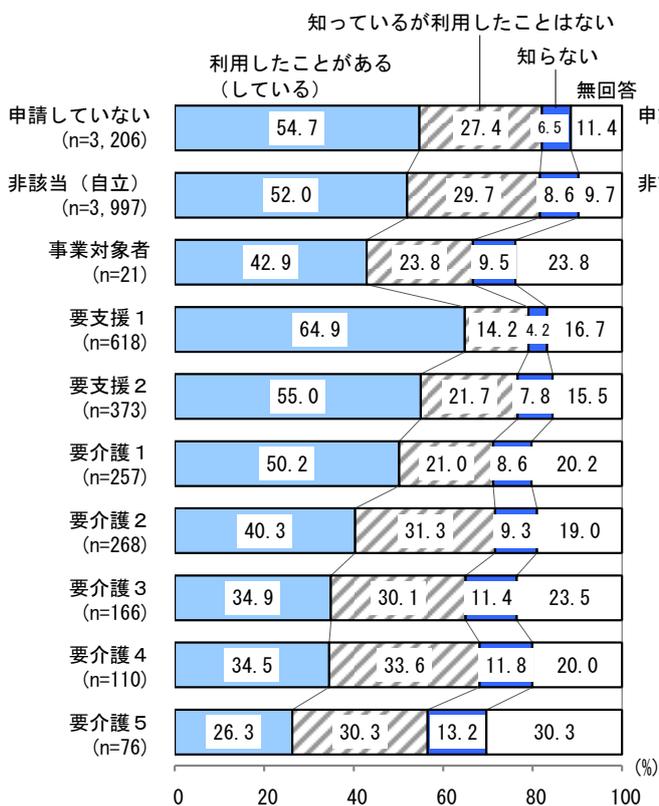
(5) 小学校の生涯学習ルーム事業



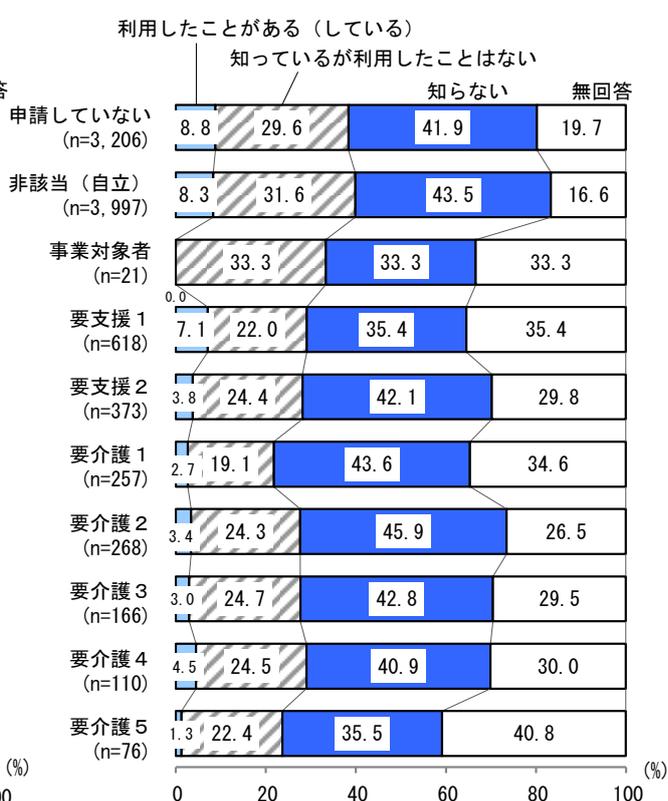
(6) 市立文化施設等敬老優待



(7) 敬老優待乗車証



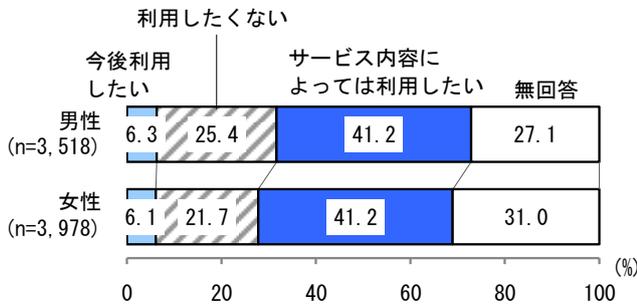
(8) 市立スポーツ施設の高齢者割引



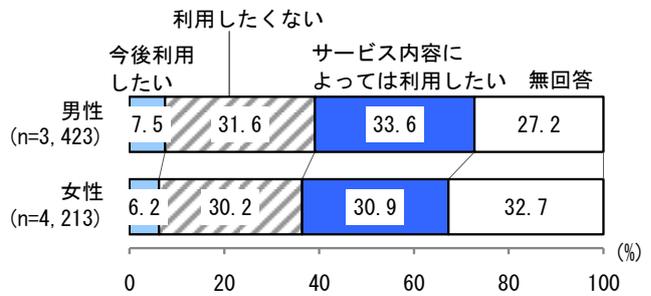
高齢者向け施設・事業の利用意向について性別でみると、「今後利用したい」の回答割合は“（1）老人憩の家”、“（2）シルバー人材センター”、“（8）市立スポーツ施設の高齢者割引”で男性のほうが高くなっている。（図50②-a）

【図50②-a 高齢者向け施設・事業の利用意向（性別）】

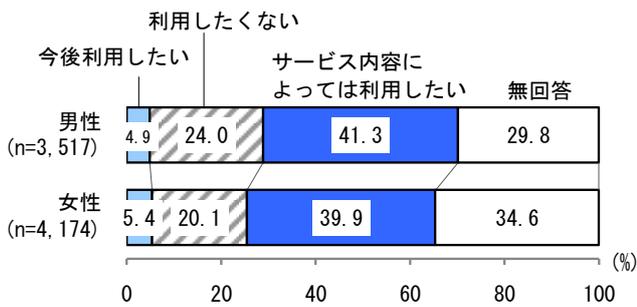
（1）老人憩の家



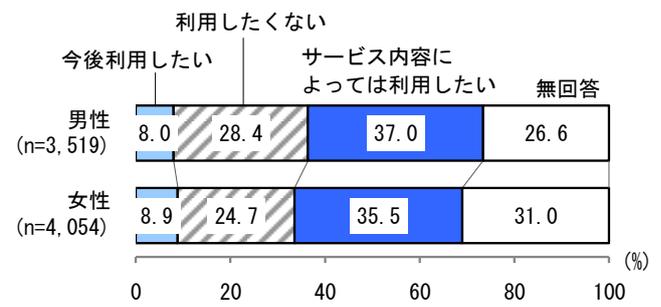
（2）シルバー人材センター



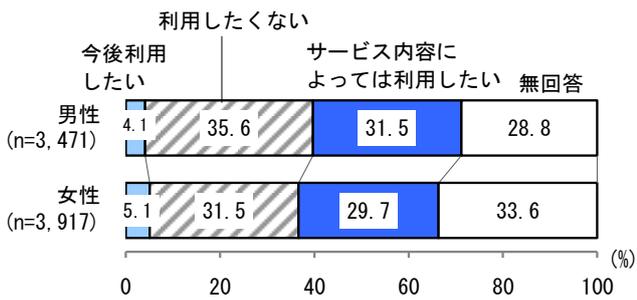
（3）介護予防ポイント事業



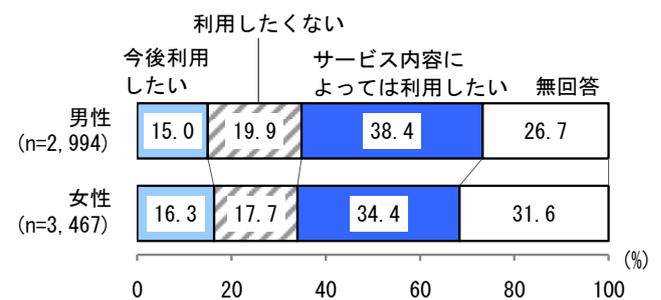
（4）生涯学習センターの高齢者向け講座



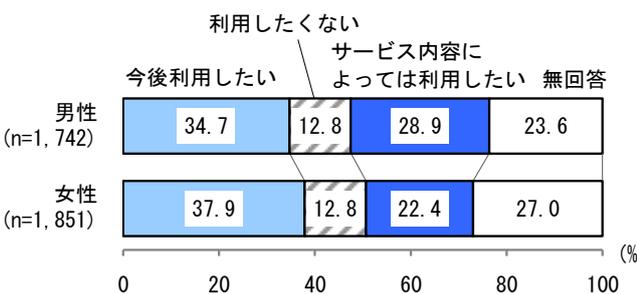
（5）小学校の生涯学習ルーム事業



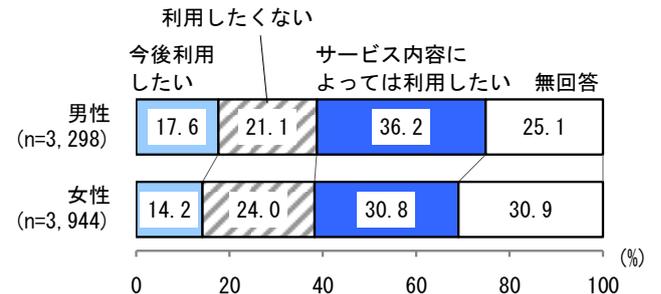
（6）市立文化施設等敬老優待



（7）敬老優待乗車証



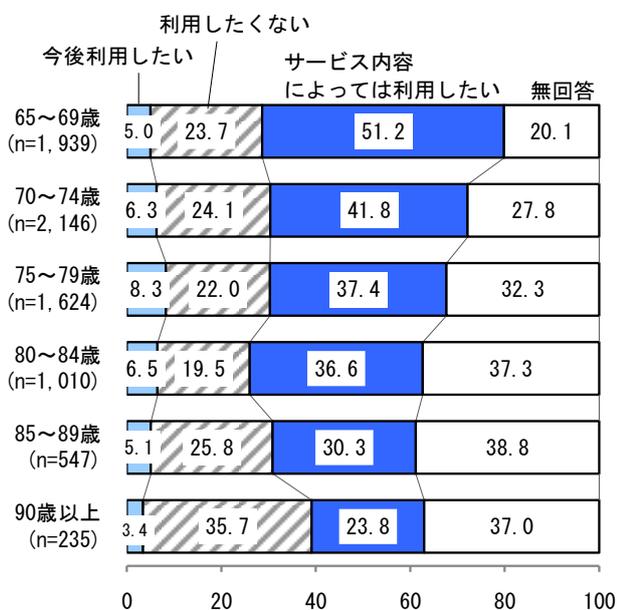
（8）市立スポーツ施設の高齢者割引



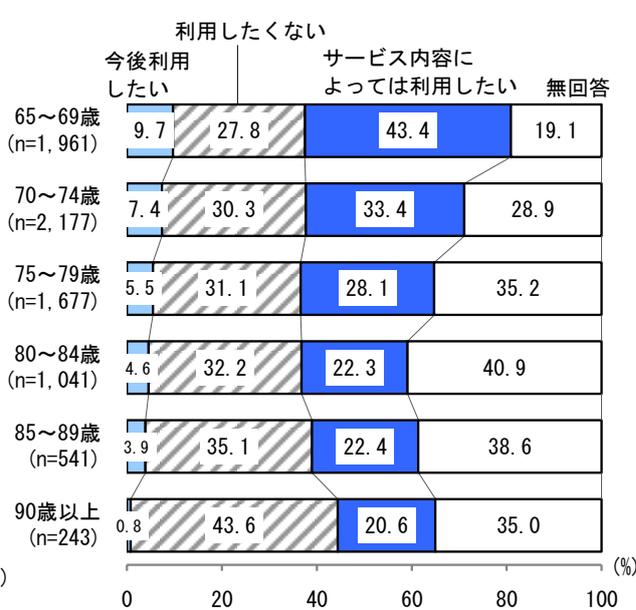
年齢別でみると、「今後利用したい」の回答割合は“(2)シルバー人材センター”、“(4)生涯学習センターの高齢者向け講座”、“(6)市立文化施設等敬老優待”、“(7)敬老優待乗車証”で高齢になるほど低くなっている。(図50②-b ①②)

【図50②-b 高齢者向け施設・事業の利用意向（年齢別）①】

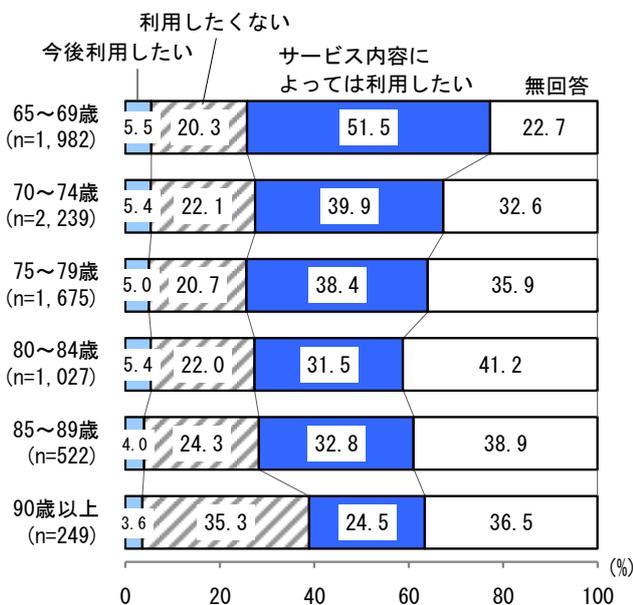
(1) 老人憩の家



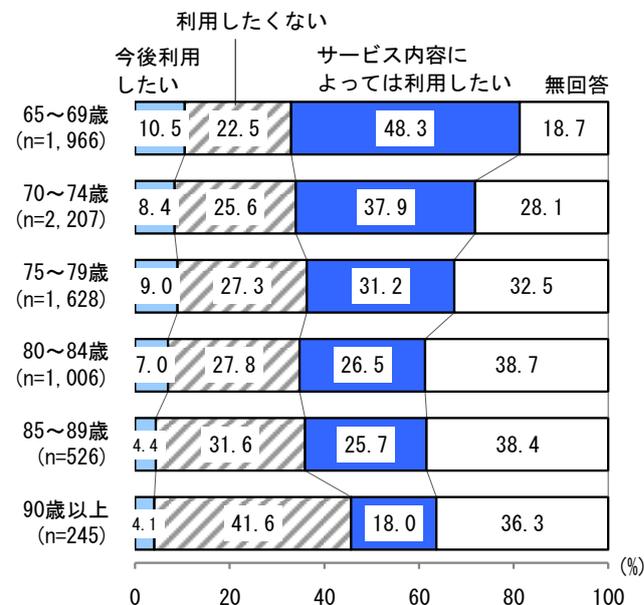
(2) シルバー人材センター



(3) 介護予防ポイント事業

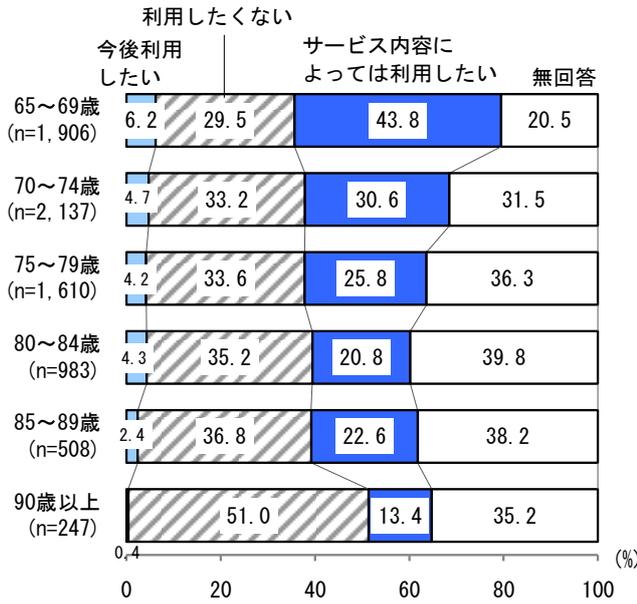


(4) 生涯学習センターの高齢者向け講座

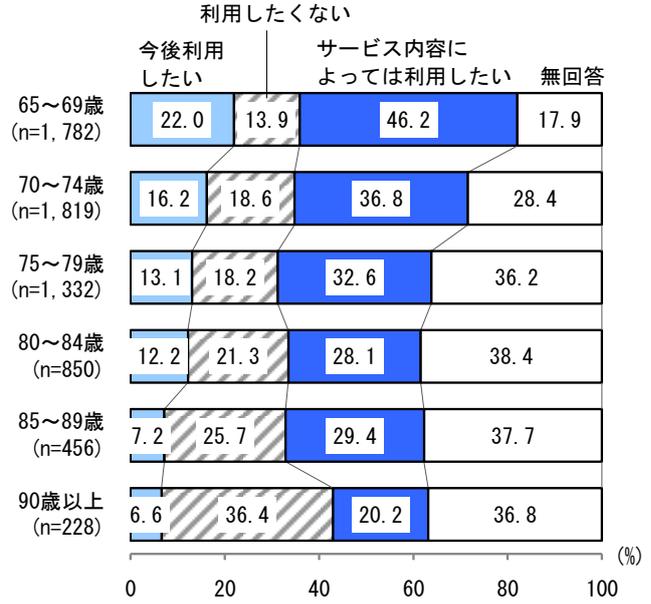


【図50②-b 高齢者向け施設・事業の利用意向（年齢別）②】

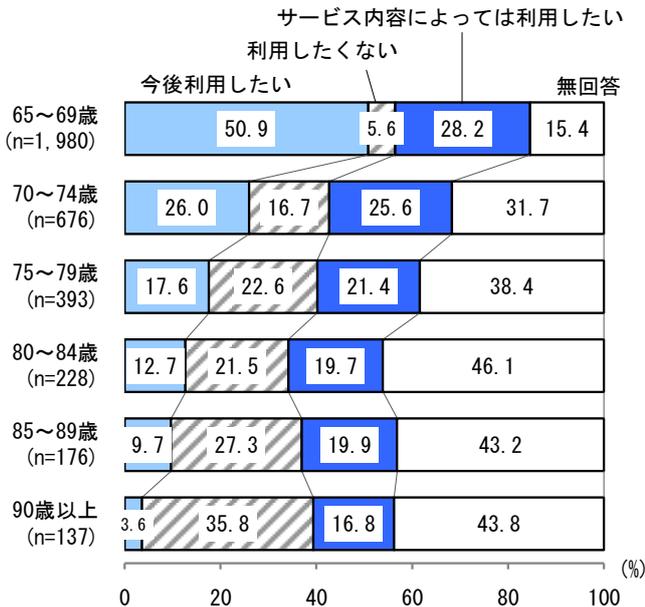
(5) 小学校の生涯学習ルーム事業



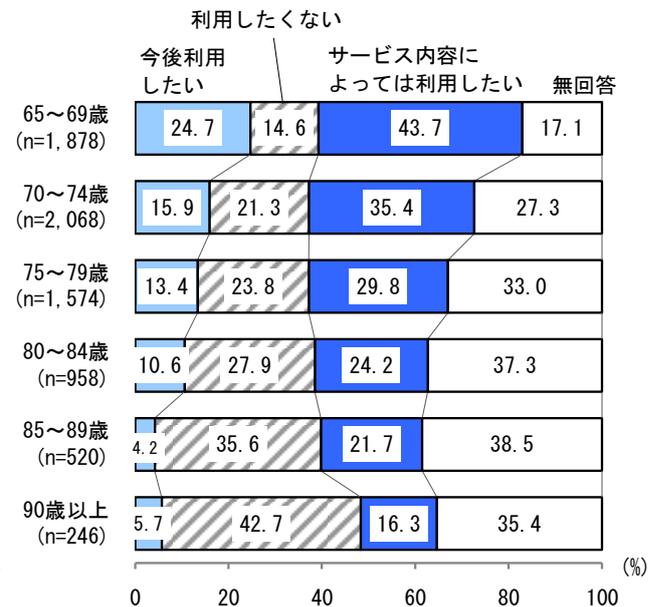
(6) 市立文化施設等敬老優待



(7) 敬老優待乗車証



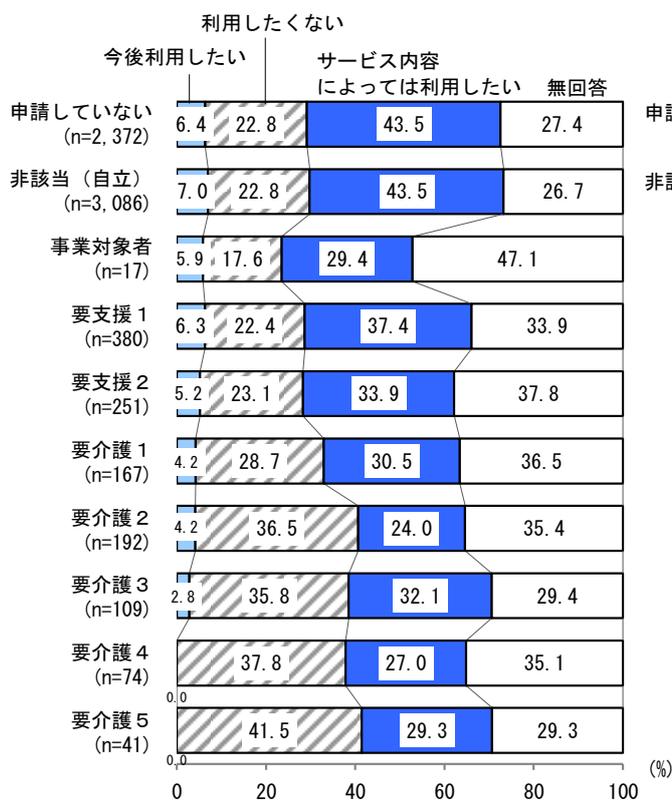
(8) 市立スポーツ施設の高齢者割引



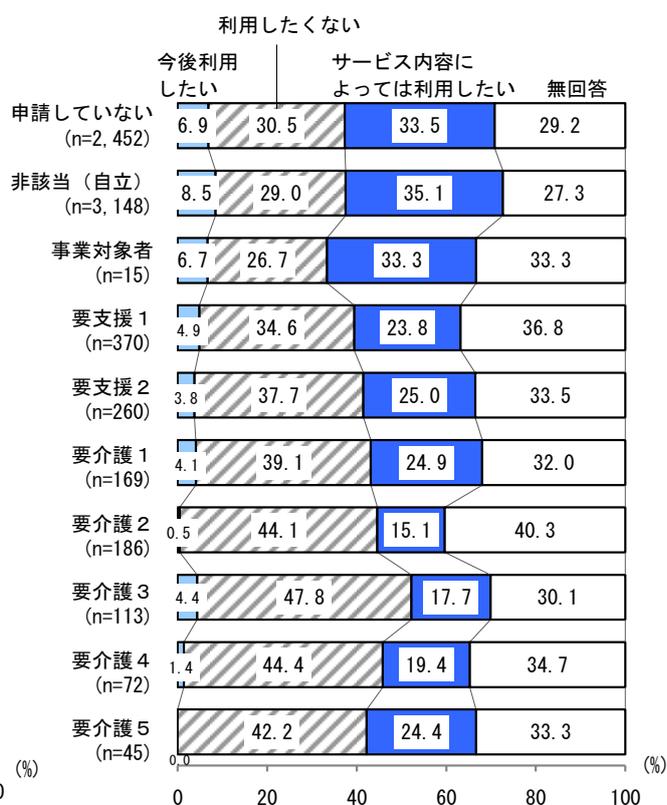
介護度別でみると、「今後利用したい」の回答割合は、「(4)生涯学習センターの高齢者向け講座」、「(5)小学校の生涯学習ルーム事業」、「(6)市立文化施設等敬老優待」、「(8)市立スポーツ施設の高齢者割引」では事業対象者で最も高く、「(7)敬老優待乗車証」では申請していないと非該当（自立）で4割を超えて高くなっている。（図50②-c ①②）

【図50②-c 高齢者向け施設・事業の利用意向（介護度別）①】

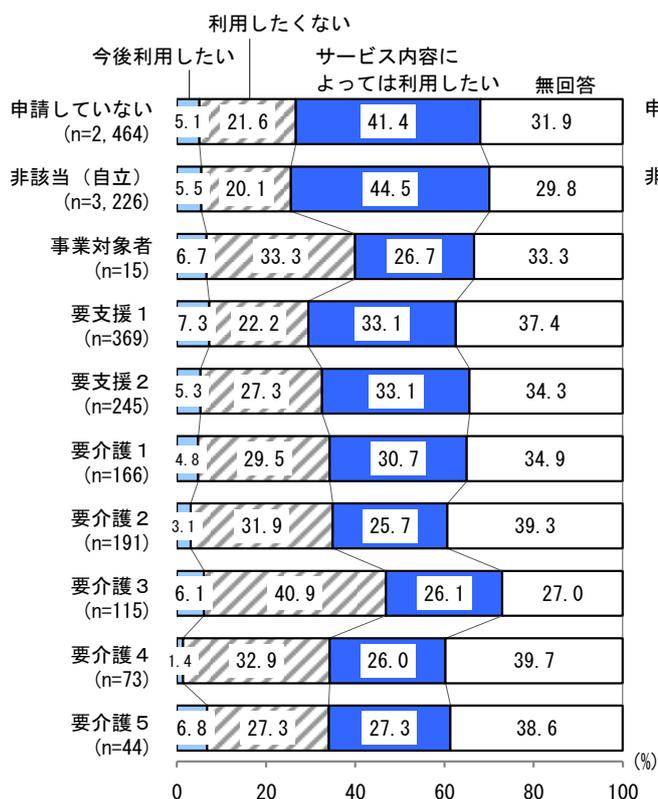
(1) 老人憩の家



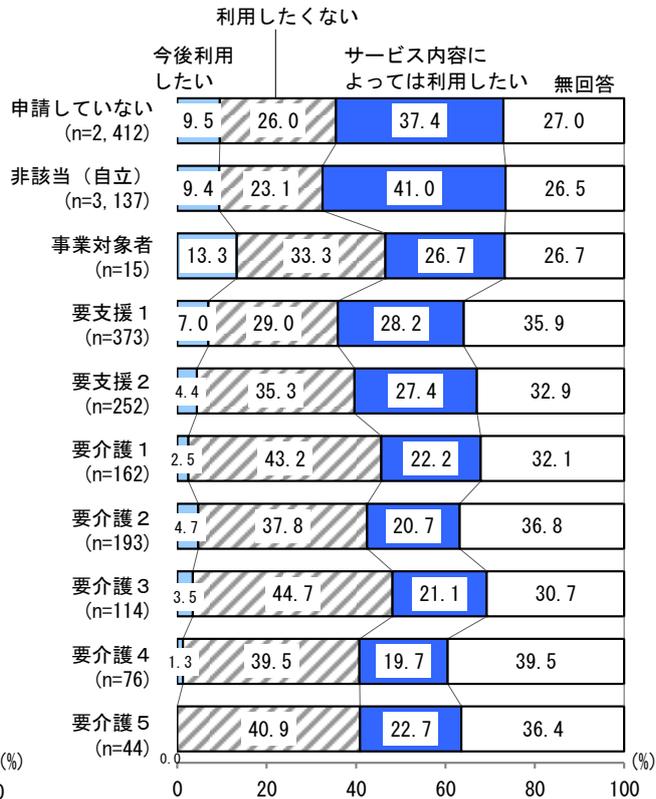
(2) シルバー人材センター



(3) 介護予防ポイント事業

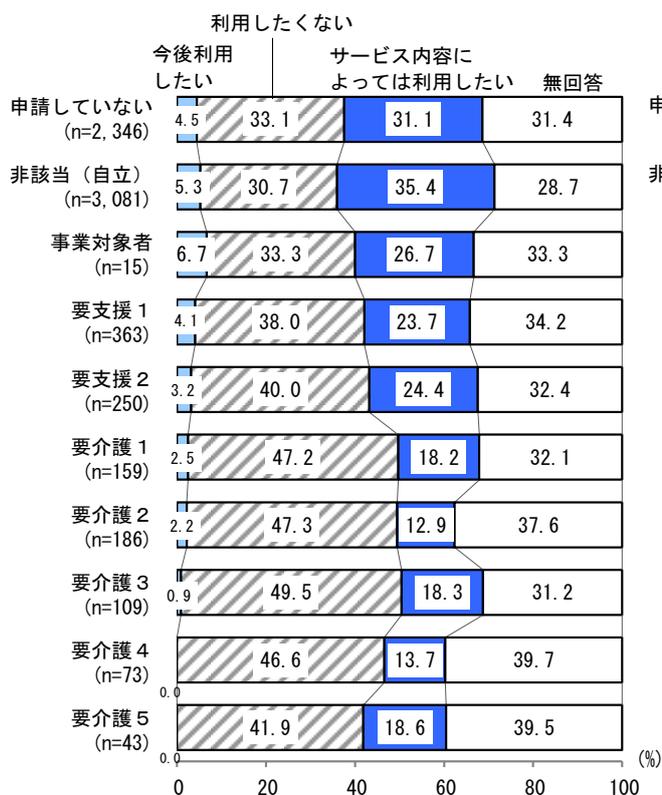


(4) 生涯学習センターの高齢者向け講座

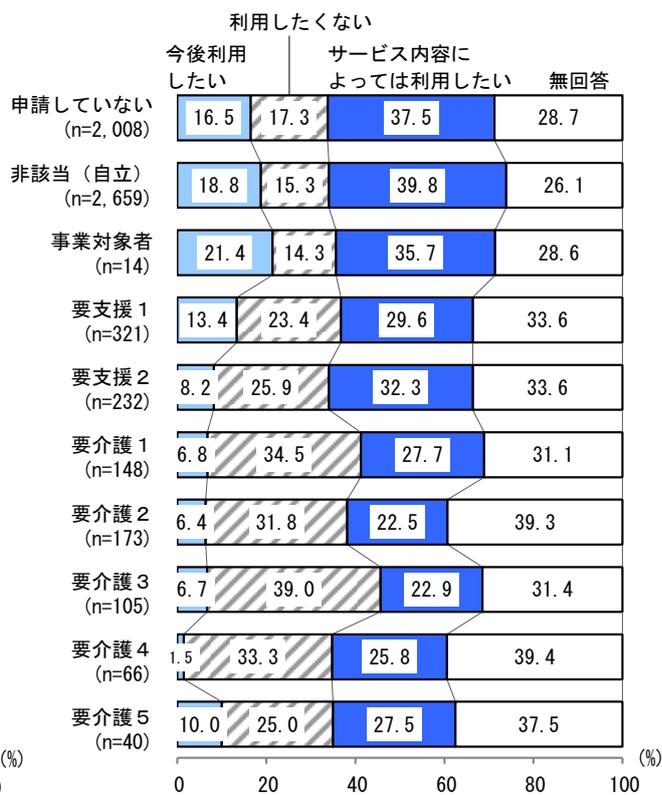


【図50②-c 高齢者向け施設・事業の利用意向（介護度別）②】

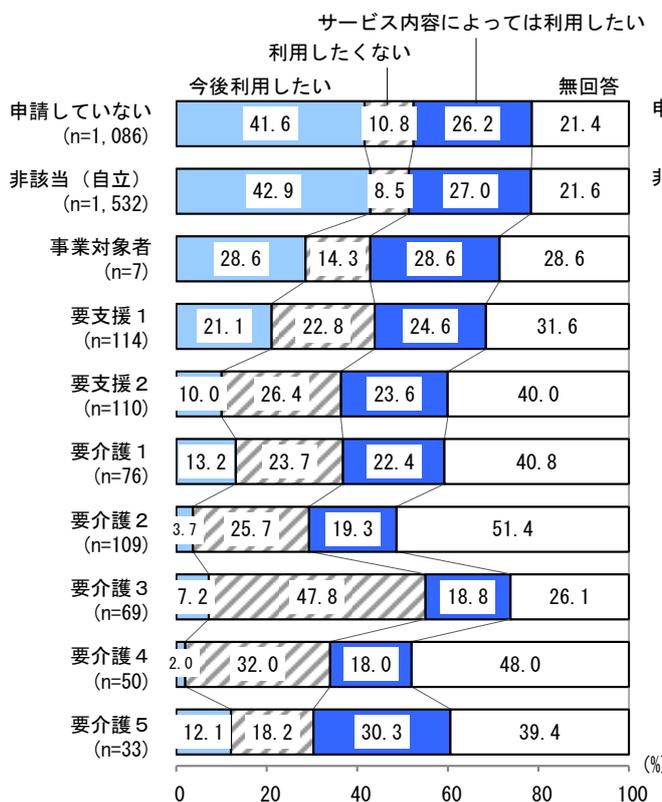
(5) 小学校の生涯学習ルーム事業



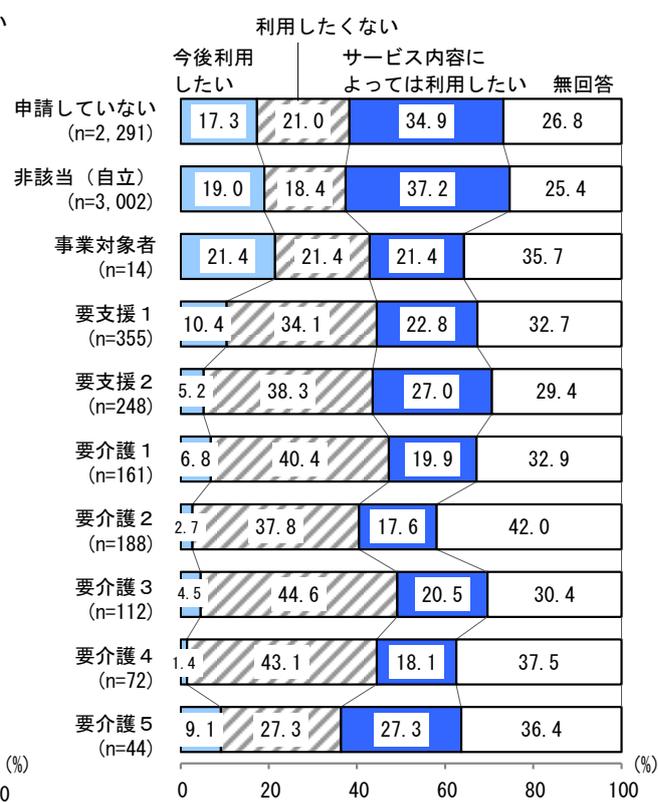
(6) 市立文化施設等敬老優待



(7) 敬老優待乗車証



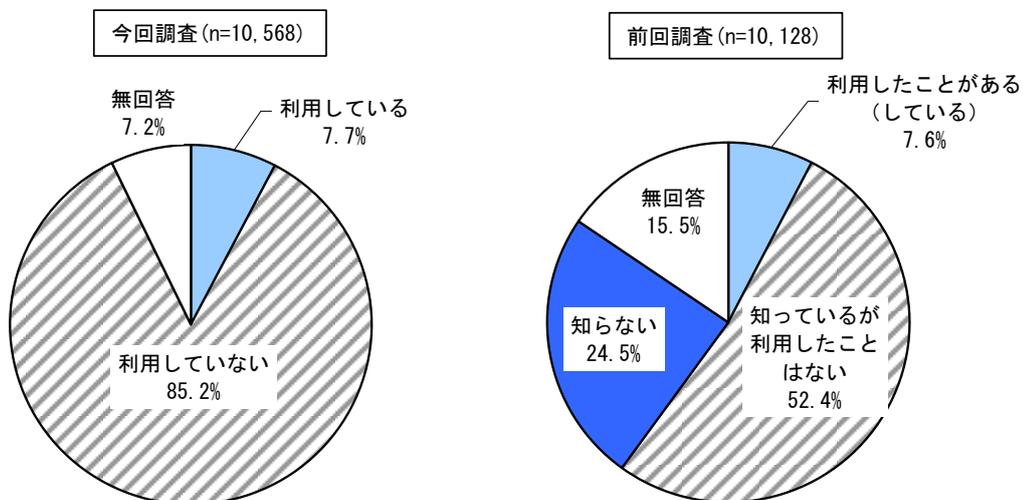
(8) 市立スポーツ施設の高齢者割引



問51 老人福祉センターの利用状況

老人福祉センターについて、あなたの利用状況をお答えください。(〇はひとつ)

【図51 老人福祉センターの利用状況（経年比較）】

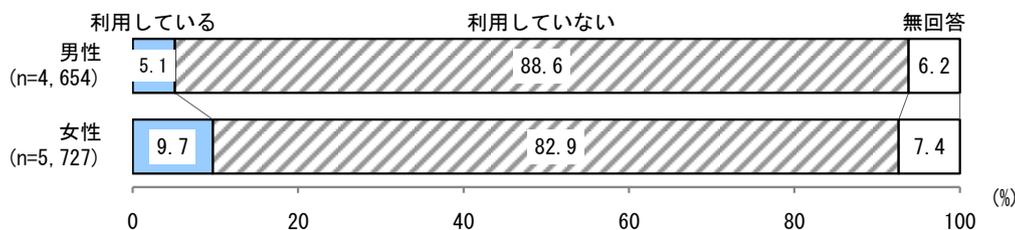


老人福祉センターの利用状況については、「利用している」が7.7%、「利用していない」が85.2%となっている。

前回調査とは選択肢が異なるため、一概に比較はできないが、参考としてみると、「利用している」人の割合は7%台と前回と変わらない。(図51)

性別でみると、「利用している」の回答割合は男性より女性のほうが高くなっている。(図51-a)

【図51-a 老人福祉センターの利用状況（性別）】



年齢別でみると、「利用している」の回答割合は85~89歳で最も高くなっている。(図51-b)

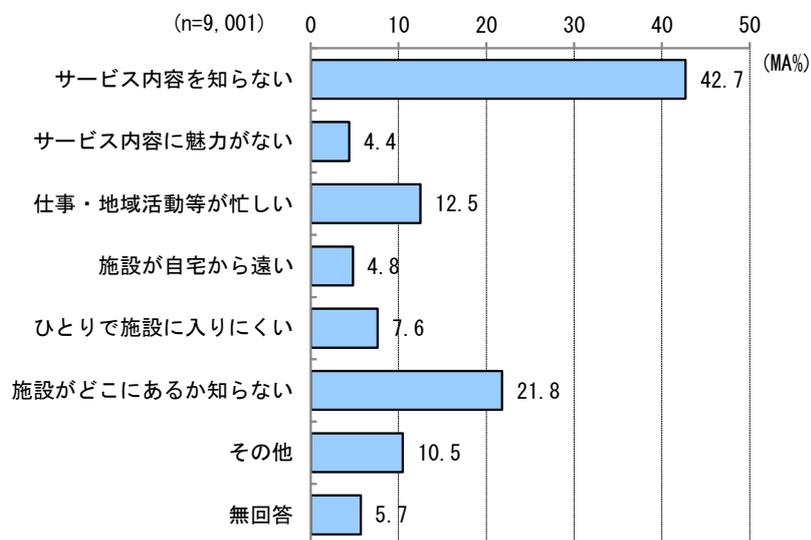
【図51-b 老人福祉センターの利用状況（年齢別）】



問51-1 老人福祉センターを利用していない理由

【問51で「2 利用していない」と回答された方におうかがいします。
「利用していない」のはどのような理由からですか。(〇はひとつ)

【図51-1 老人福祉センターを利用していない理由】

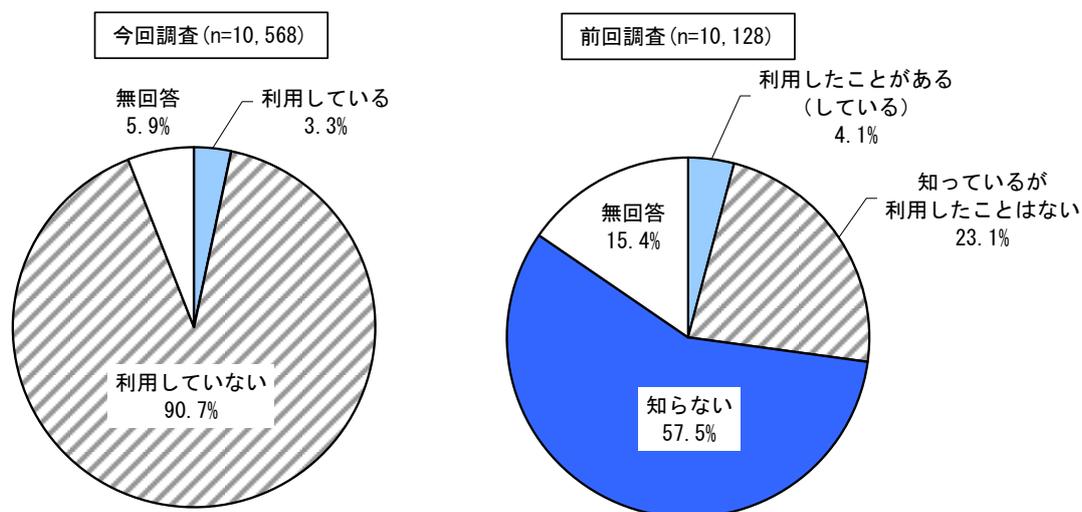


老人福祉センターを利用していないと回答した人に、その理由をたずねると、「サービス内容を知らない」が42.7%で最も多く、次いで「施設がどこにあるか知らない」が21.8%となっている。(図51-1)

問52 高齢者入浴利用料割引事業の利用状況

高齢者入浴利用料割引事業について、あなたの利用状況をお答えください。(〇はひとつ)

【図52 高齢者入浴利用料割引事業の利用状況】

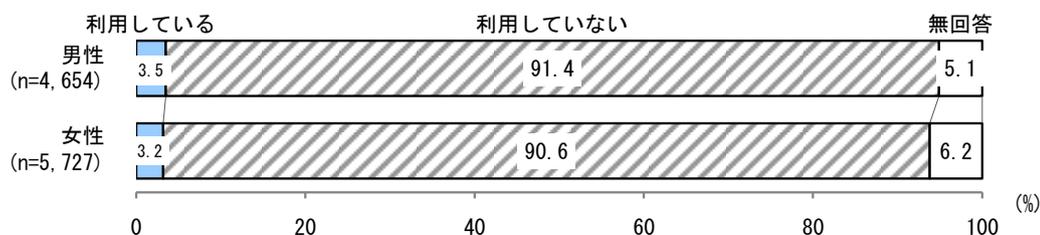


高齢者入浴利用料割引事業の利用状況については、「利用している」が3.3%、「利用していない」が90.7%となっている。

前回調査とは選択肢が異なるため、一概に比較はできないが、参考としてみると、「利用している」人が1割未満である傾向は変わらない。(図52)

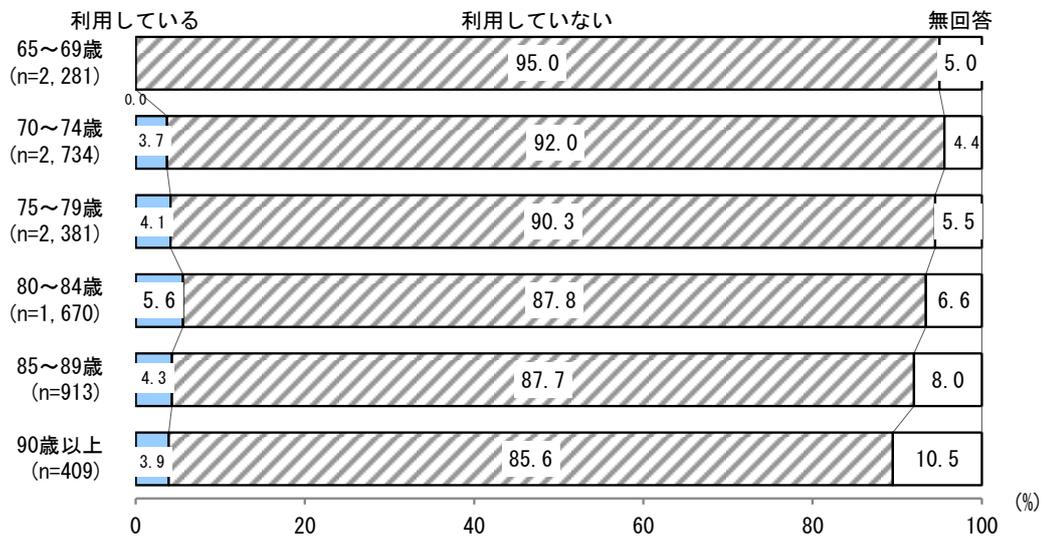
性別でも、大きな差はみられない。(図52-a)

【図52-a 高齢者入浴利用料割引事業の利用状況 (性別)】



年齢別でみると、「利用している」の回答割合は80～84歳が5.6%で最も高くなっている。
 (図52-b)

【図52-b 高齢者入浴利用料金割引事業の利用状況（年齢別）】

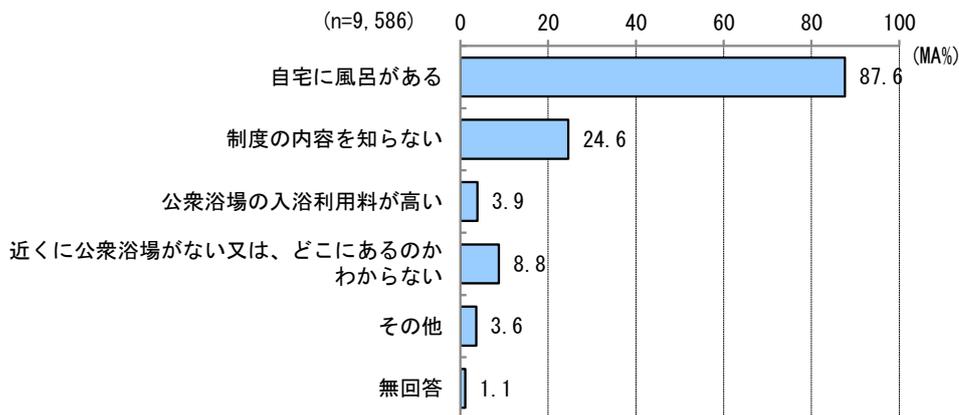


問52-1 高齢者入浴利用料金割引事業を利用していない理由

【問52で「2 利用していない」と回答された方におうかがいします。】

「利用していない」のはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

【図52-1 高齢者入浴利用料金割引事業を利用していない理由】



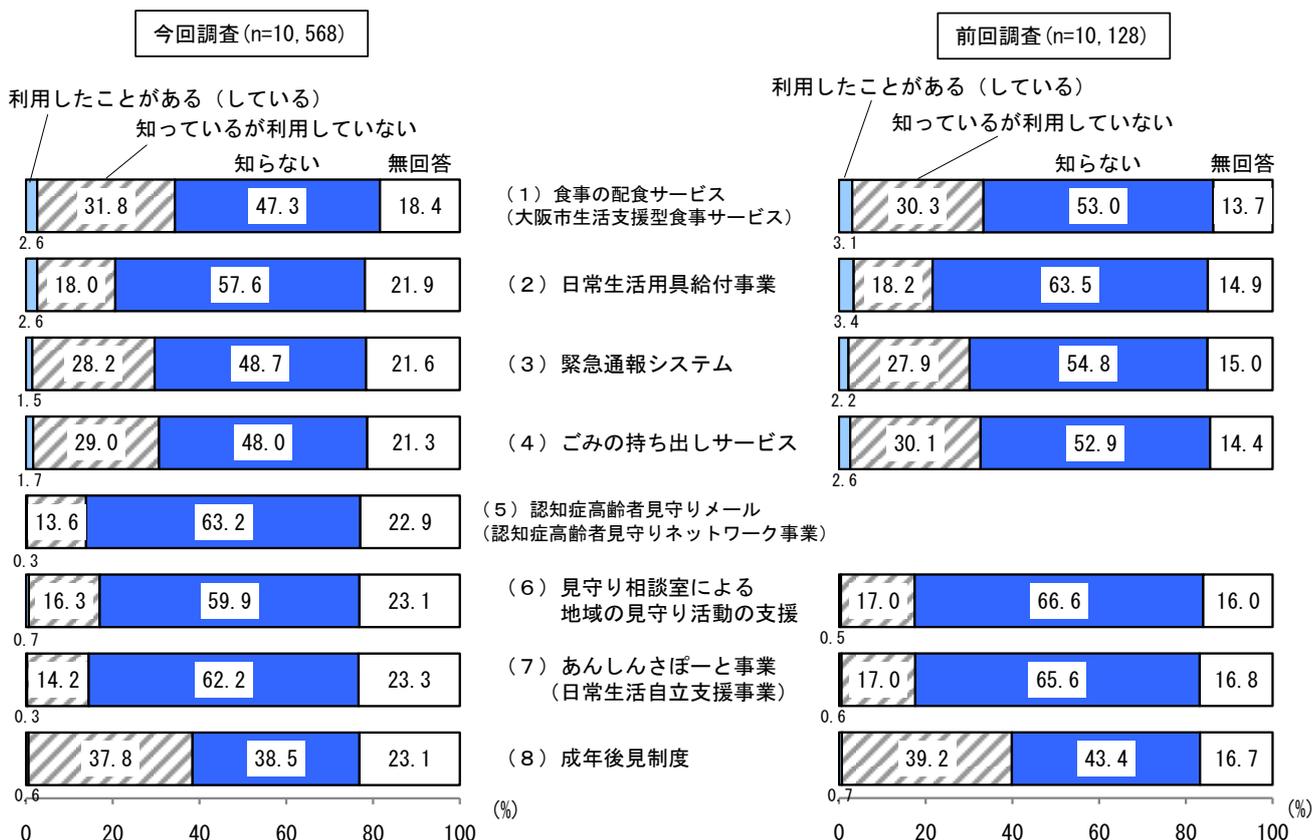
高齢者入浴利用料金割引事業を利用していないと回答した人に、その理由をたずねると、「自宅に風呂がある」が87.6%で最も多く、次いで「制度の内容を知らない」が24.6%となっている。(図52-1)

問53 高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況・意向

①高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況

次の福祉サービス、制度について、あなたの利用状況や意向をお答えください。
 (○は状況・意向欄にそれぞれひとつずつ)
 なお、利用状況欄で「2 知っているが利用していない」「3 知らない」を選択された方は、利用意向欄もお答えください。

【図53① 高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況（経年比較）】



※前回調査では「(5) 認知症高齢者見守りメール (認知症高齢者見守りネットワーク事業)」は利用意向のみの設問となっている。

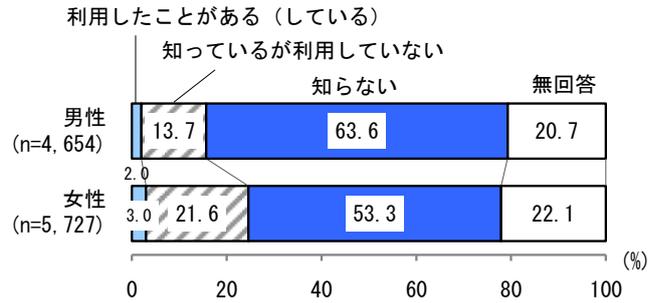
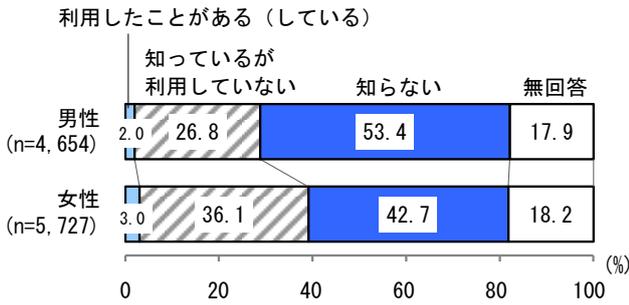
高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況については、いずれのサービスや制度も「知らない」の回答割合が高くなっており、「知らない」が最も多いのは“(5) 認知症高齢者見守りメール (認知症高齢者見守りネットワーク事業)” (63.2%) となっている。一方、「利用したことがある (している)」と「知っているが利用していない」をあわせた『知っている』の割合が高いのは“(8) 成年後見制度” (38.4%)、“(1) 食事の配食サービス (大阪市生活支援型食事サービス)” (34.4%) となっている。

前回調査と比較すると、すべてのサービスや制度が「知らない」回答割合のほうが多いのは前回と変わらない。(図53①)

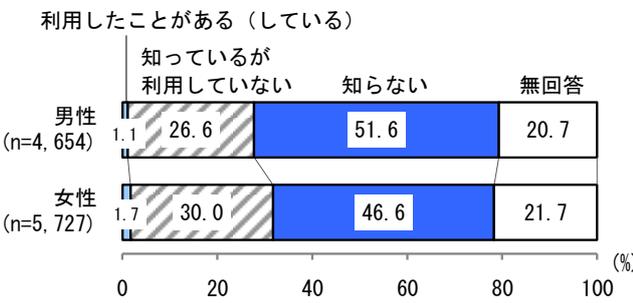
性別でみると、「知らない」の回答割合はすべてのサービスで男性のほうが高くなっている。(図53①-a)

【図53①-a 高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況（性別）】

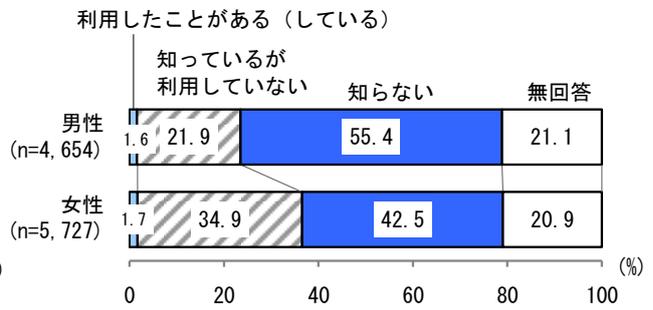
(1) 食事の配食サービス（大阪市生活支援型食事サービス） (2) 日常生活用具給付事業



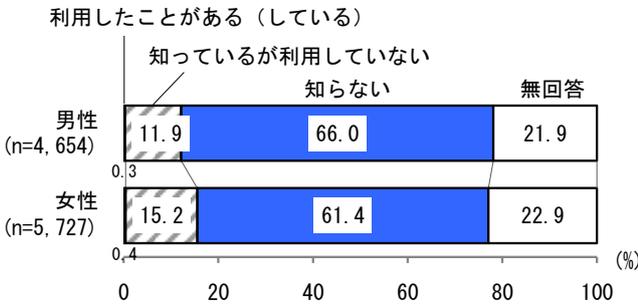
(3) 緊急通報システム



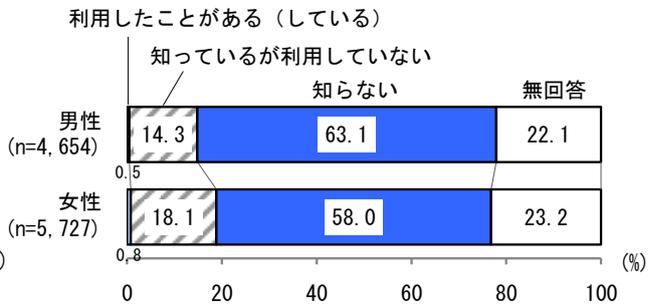
(4) ごみの持ち出しサービス



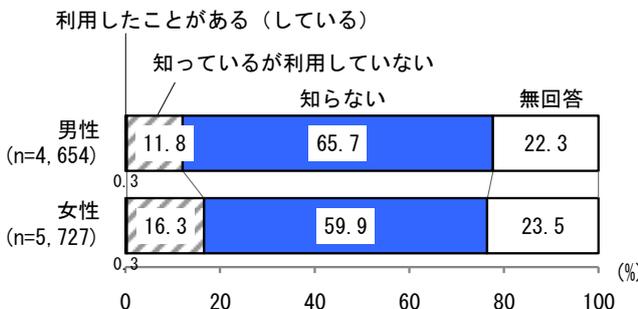
(5) 認知症高齢者見守りメール（認知症高齢者見守りネットワーク事業）



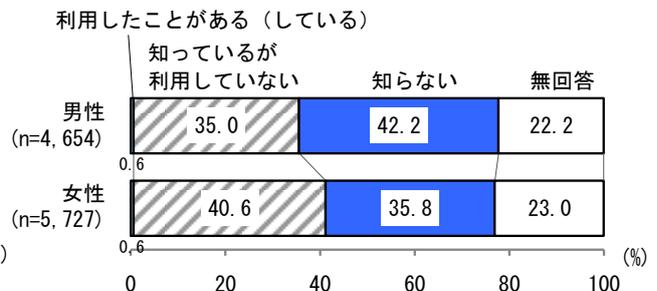
(6) 見守り相談室による地域の見守り活動の支援



(7) あんしんさぼーと事業（日常生活自立支援事業）



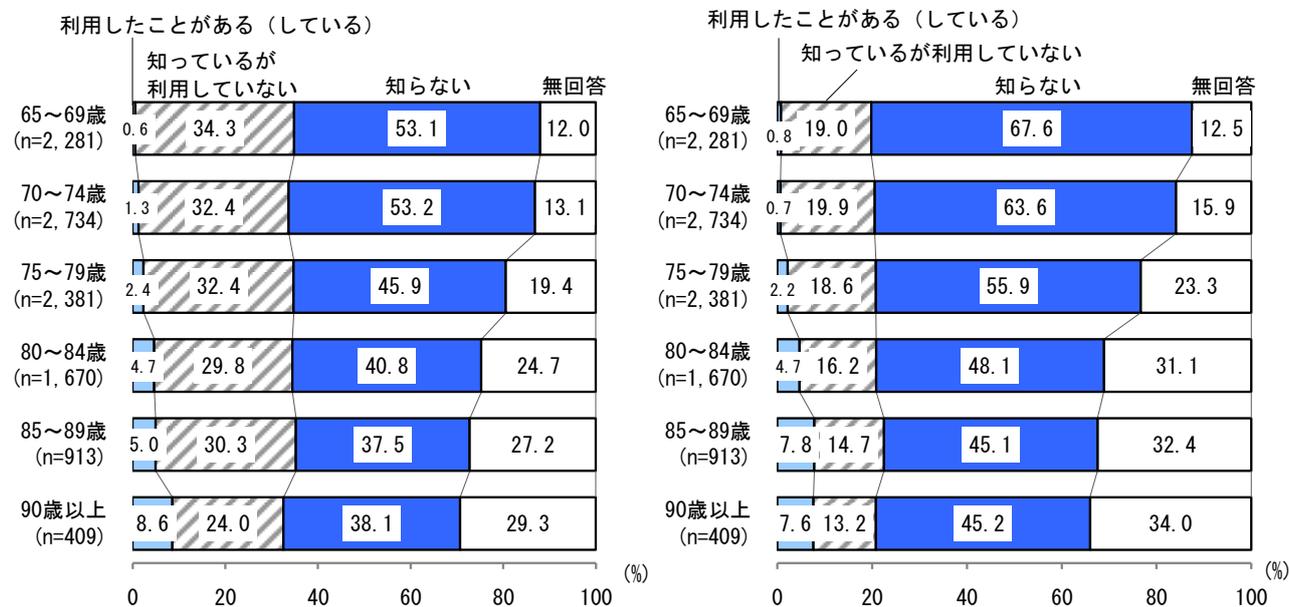
(8) 成年後見制度



年齢別でみると、“(1)食事の配食サービス（大阪市生活支援型食事サービス）”、“(2)日常生活用具給付事業”、“(3)緊急通報システム”、“(4)ごみの持ち出しサービス”で「利用したことがある（している）」の回答割合が高齢になるほど高くなっている。（図53①-b ①②）

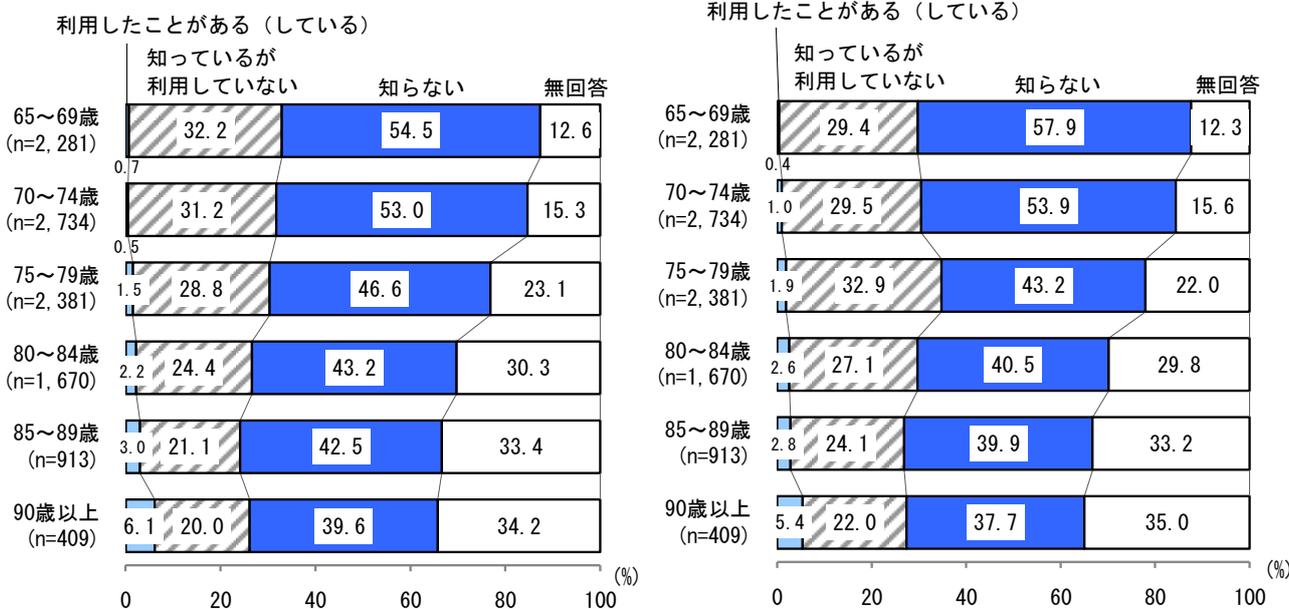
【図53①-b 高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況（年齢別）①】

(1) 食事の配食サービス（大阪市生活支援型食事サービス） (2) 日常生活用具給付事業



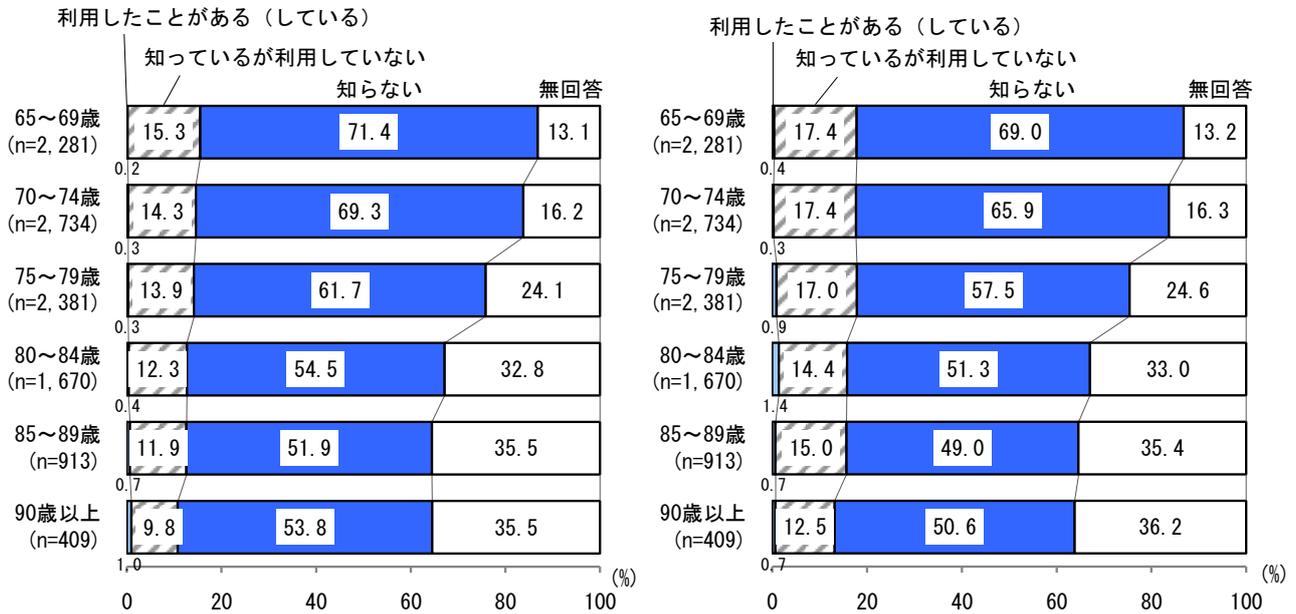
(3) 緊急通報システム

(4) ごみの持ち出しサービス

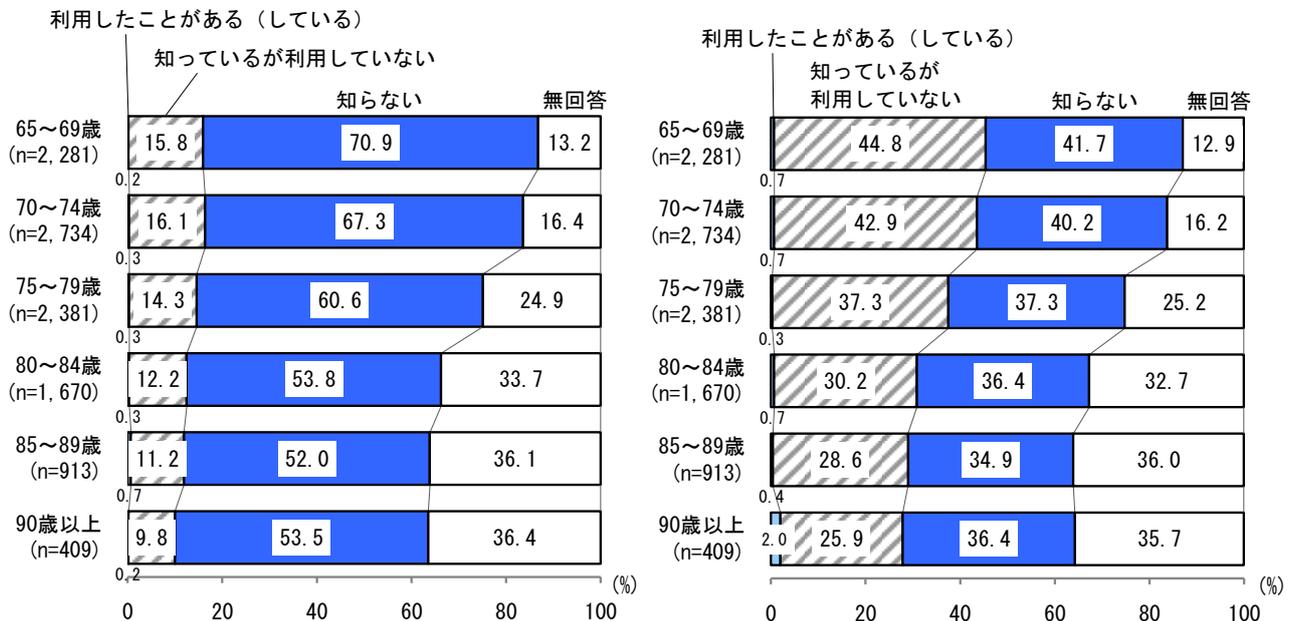


【図53①-b 高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況（年齢別）②】

(5) 認知症高齢者見守りメール（認知症高齢者見守りネットワーク事業） (6) 見守り相談室による地域の見守り活動の支援



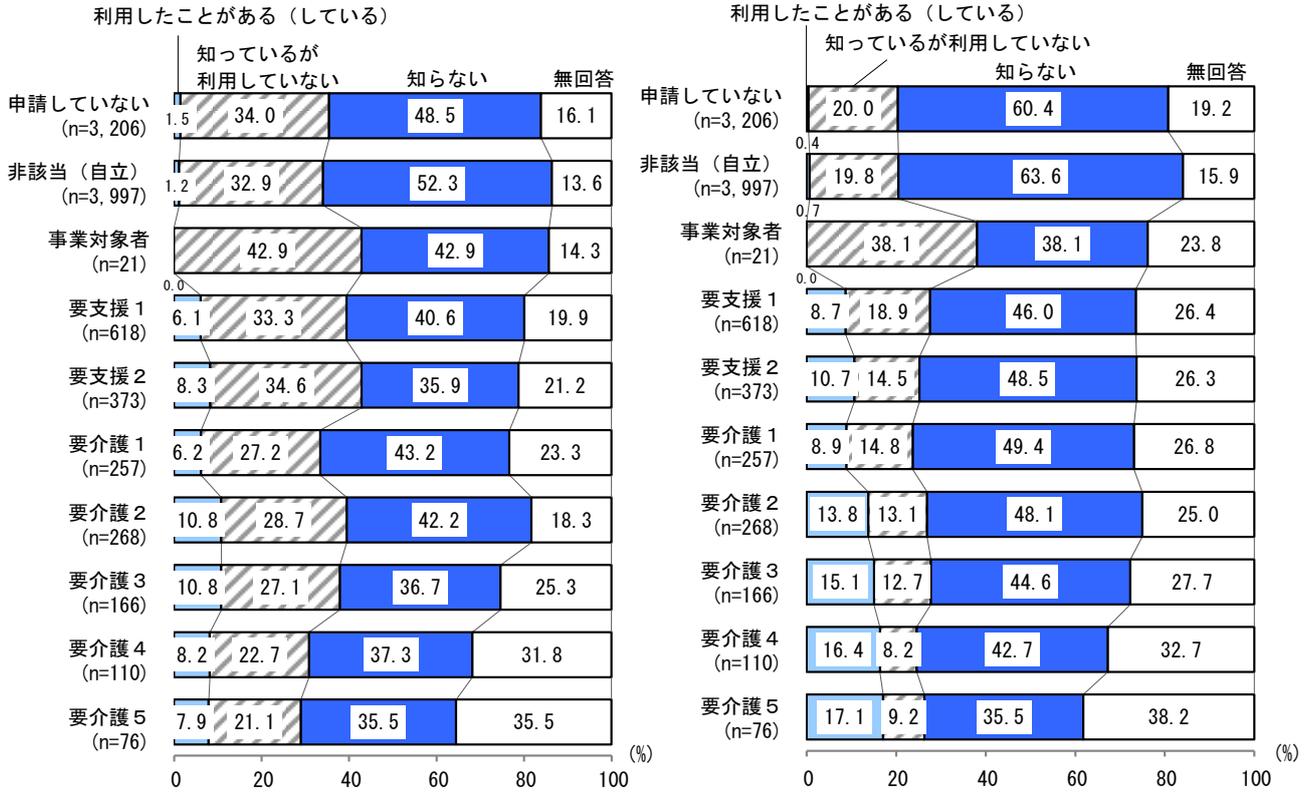
(7) あんしんさぽーと事業（日常生活自立支援事業） (8) 成年後見制度



介護度別でみると、「利用したことがある（している）」の回答割合は“(1) 食事の配食サービス（大阪市生活支援型食事サービス）”では要介護2と要介護3で（ともに10.8%）最も高く、“(2) 日常生活用具給付事業”では要介護5（17.1%）で最も高くなっている。（図53①-c ①②）

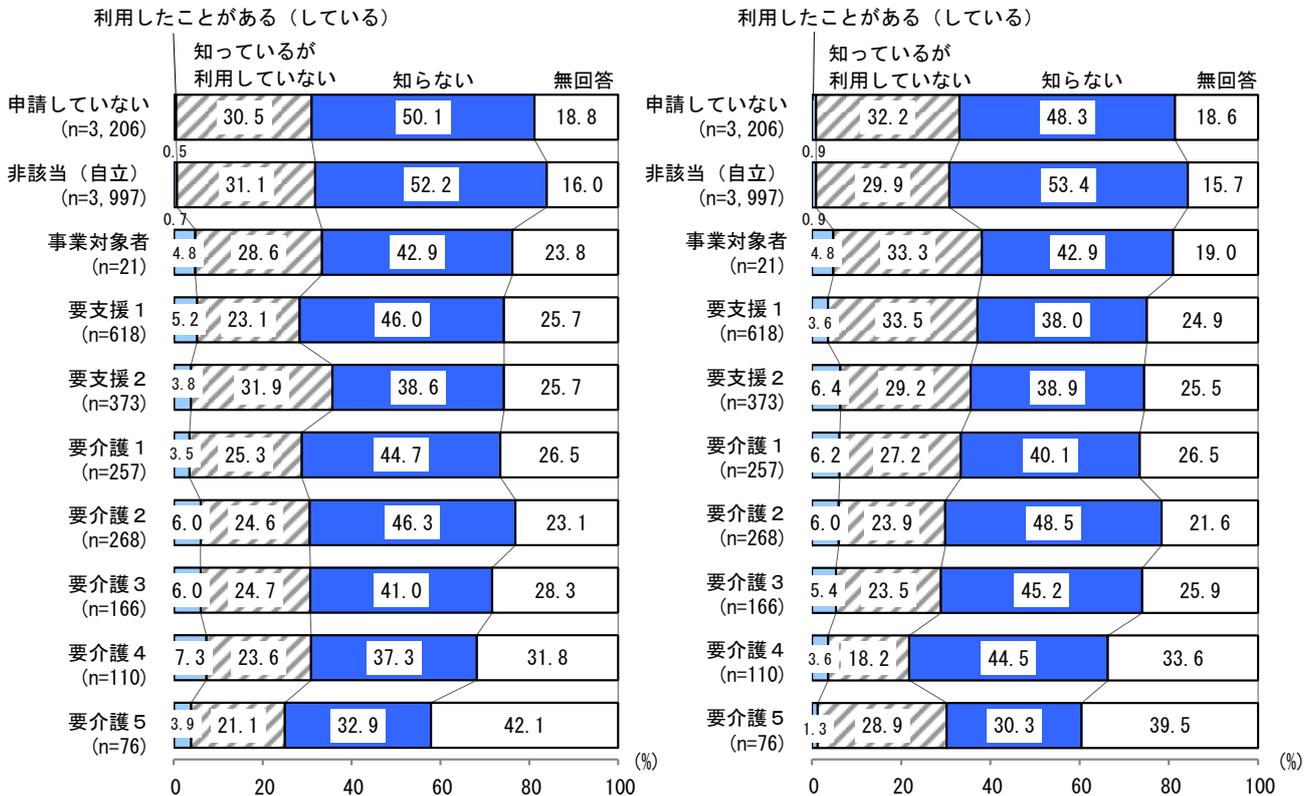
【図53①-c 高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況（介護度別）①】

(1) 食事の配食サービス（大阪市生活支援型食事サービス） (2) 日常生活用具給付事業



(3) 緊急通報システム

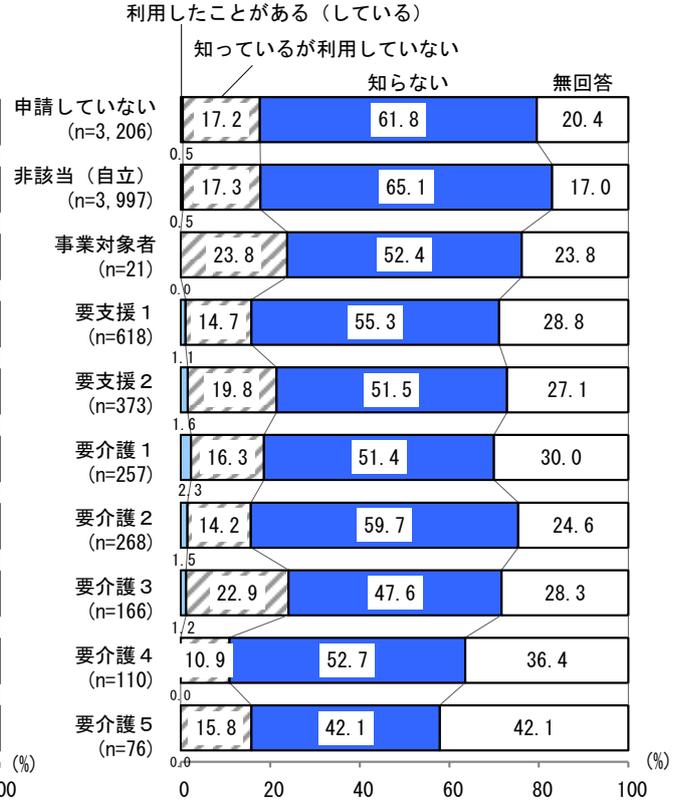
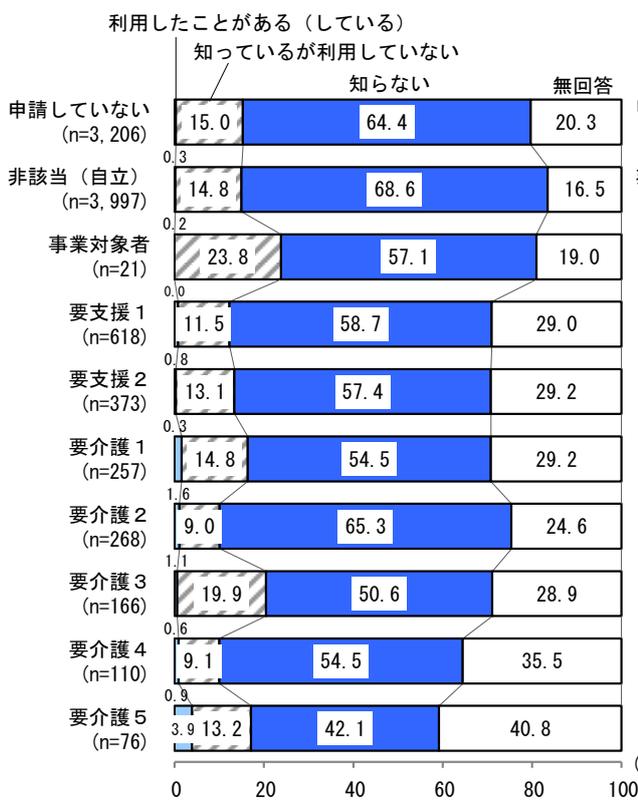
(4) ごみの持ち出しサービス



【図53①-c 高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況（介護度別）②】

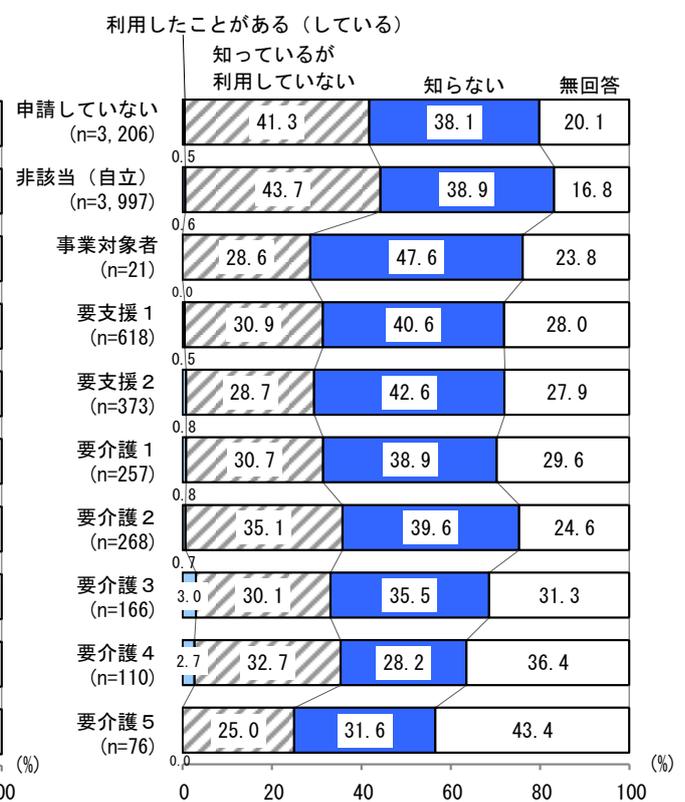
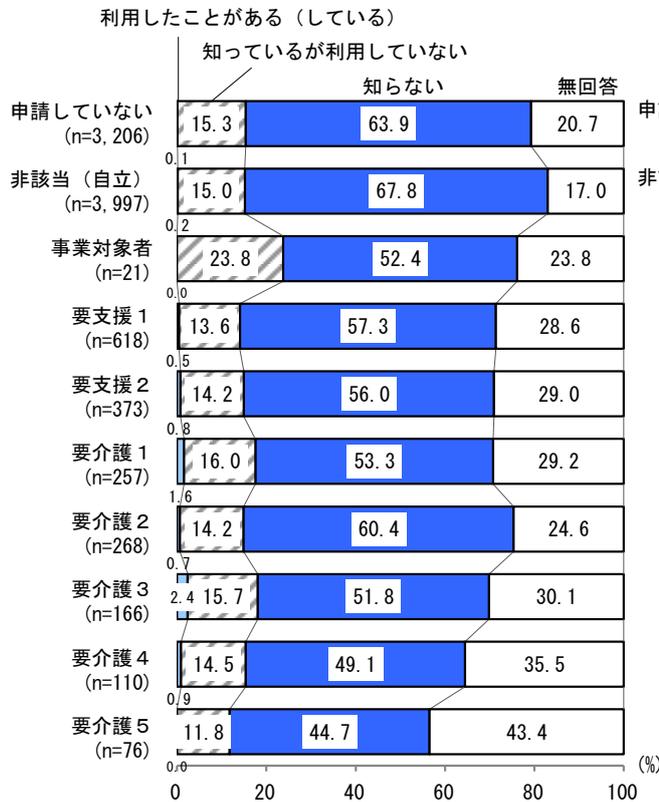
(5) 認知症高齢者見守りメール（認知症高齢者見守りネットワーク事業）

(6) 見守り相談室による地域の見守り活動の支援



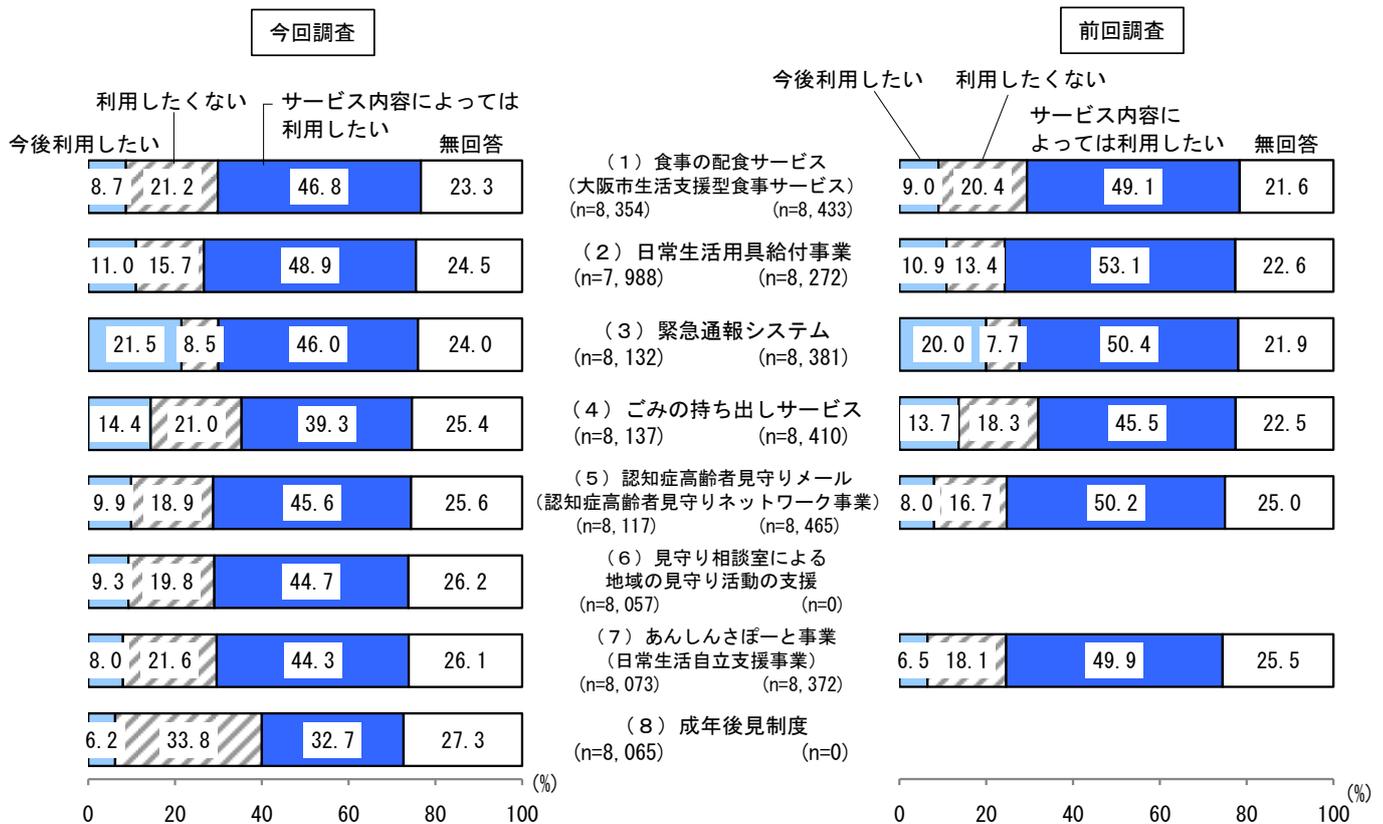
(7) あんしんさぼーと事業（日常生活自立支援事業）

(8) 成年後見制度



②高齢者向け福祉サービス・制度の利用意向

【図53② 高齢者向け福祉サービス・制度の利用意向（経年比較）】



※前回調査では「(6) 見守り相談室による地域の見守り活動の支援」「(8) 成年後見制度」は利用状況のみの設問となっている。

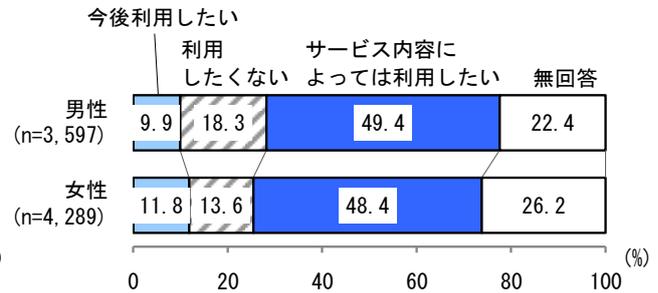
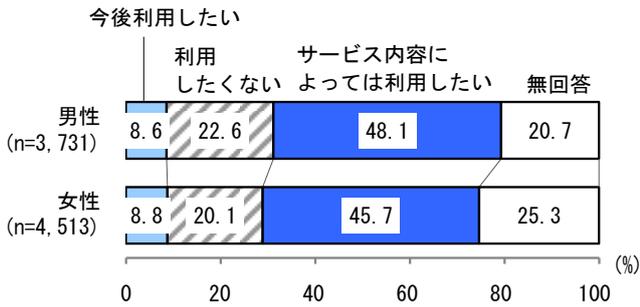
高齢者向け福祉サービス・制度の利用意向については、「今後利用したい」の回答割合が最も高いのは“(3)緊急通報システム”(21.5%)である。一方、「利用したくない」の回答割合が最も高いのは“(8)成年後見制度”(33.8%)となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向は変わらないが、“(1) 食事の配食サービス (大阪市生活支援型食事サービス)”以外のサービス・制度では、「今後利用したい」の割合が前回より高くなっている。(図53②)

性別でみると、「今後利用したい」の回答割合は“(8)成年後見制度”以外のサービスで女性のほうが高くなっている。(図53②-a)

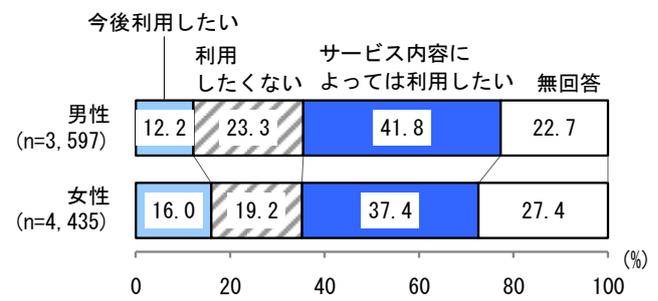
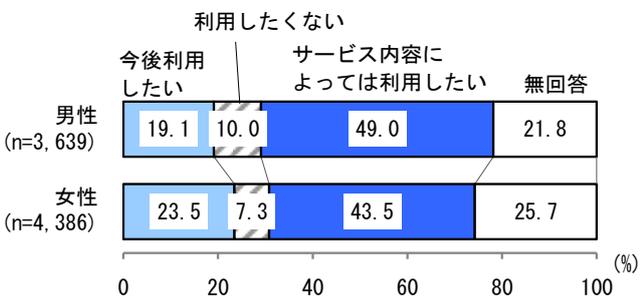
【図53②-a 高齢者向け福祉サービス・制度の利用意向（性別）】

(1) 食事の配食サービス（大阪市生活支援型食事サービス） (2) 日常生活用具給付事業



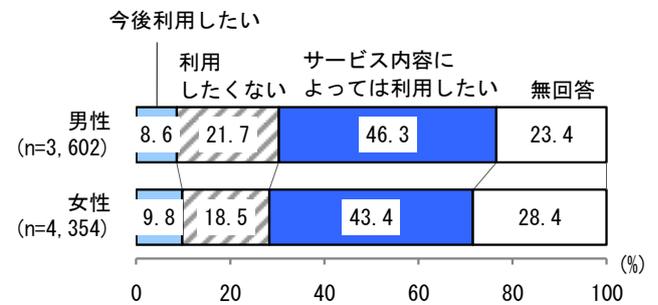
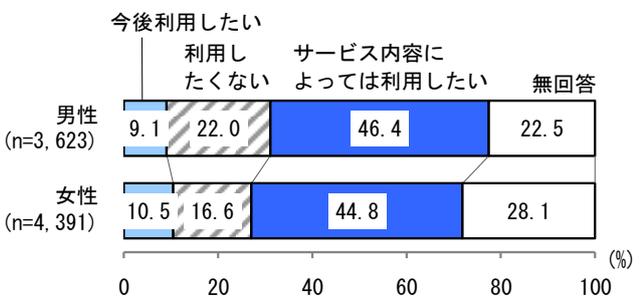
(3) 緊急通報システム

(4) ごみの持ち出しサービス



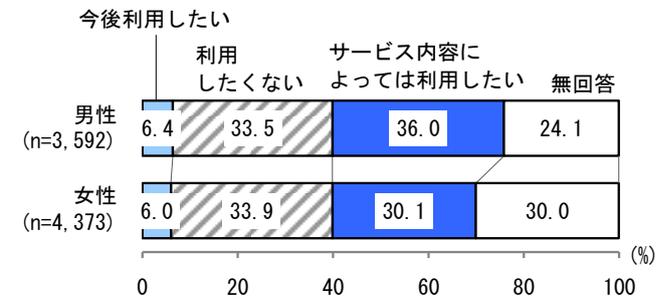
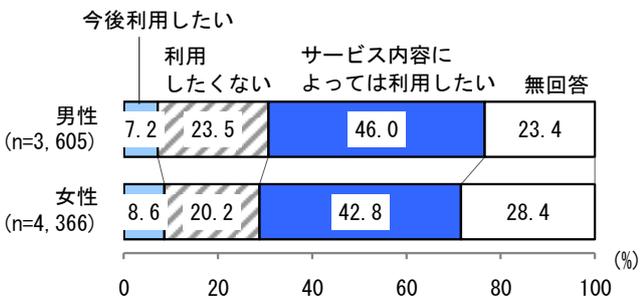
(5) 認知症高齢者見守りメール（認知症高齢者見守りネットワーク事業）

(6) 見守り相談室による地域の見守り活動の支援



(7) あんしんさぽーと事業（日常生活自立支援事業）

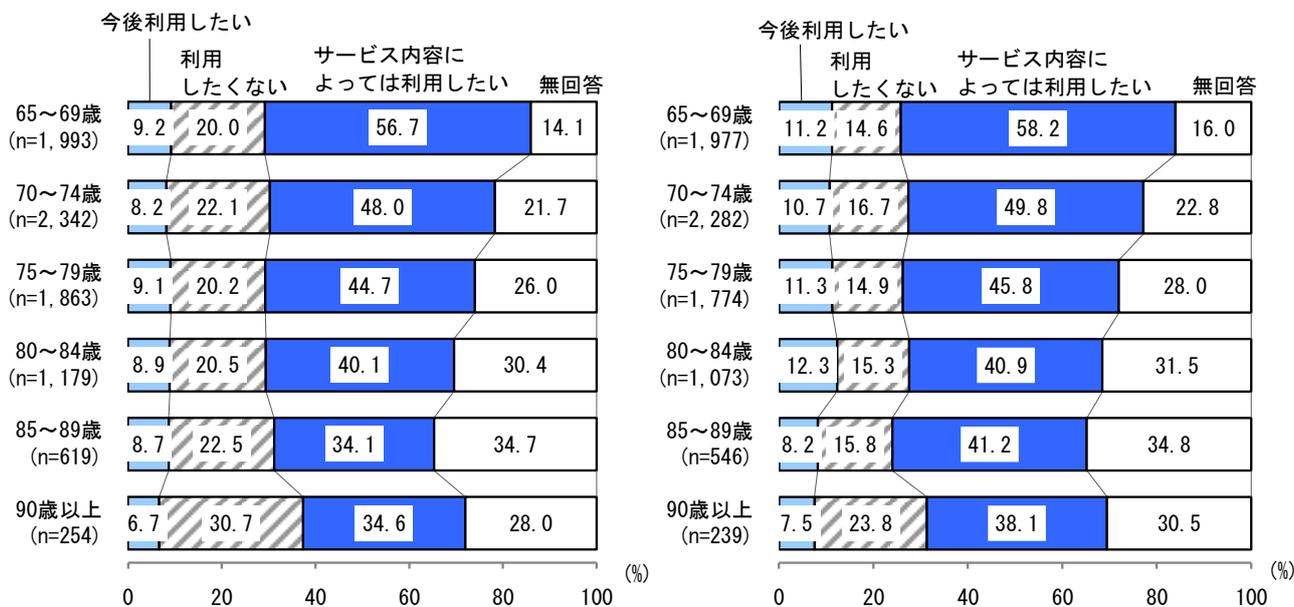
(8) 成年後見制度



年齢別でみると、「今後利用したい」の回答割合は“(1)食事の配食サービス（大阪市生活支援型食事サービス）”、“(4)ごみの持ち出しサービス”、“(8)成年後見制度”は65～69歳で最も高いが、それ以外のサービスは80～84歳で最も高くなっている。(図53②-b ①②)

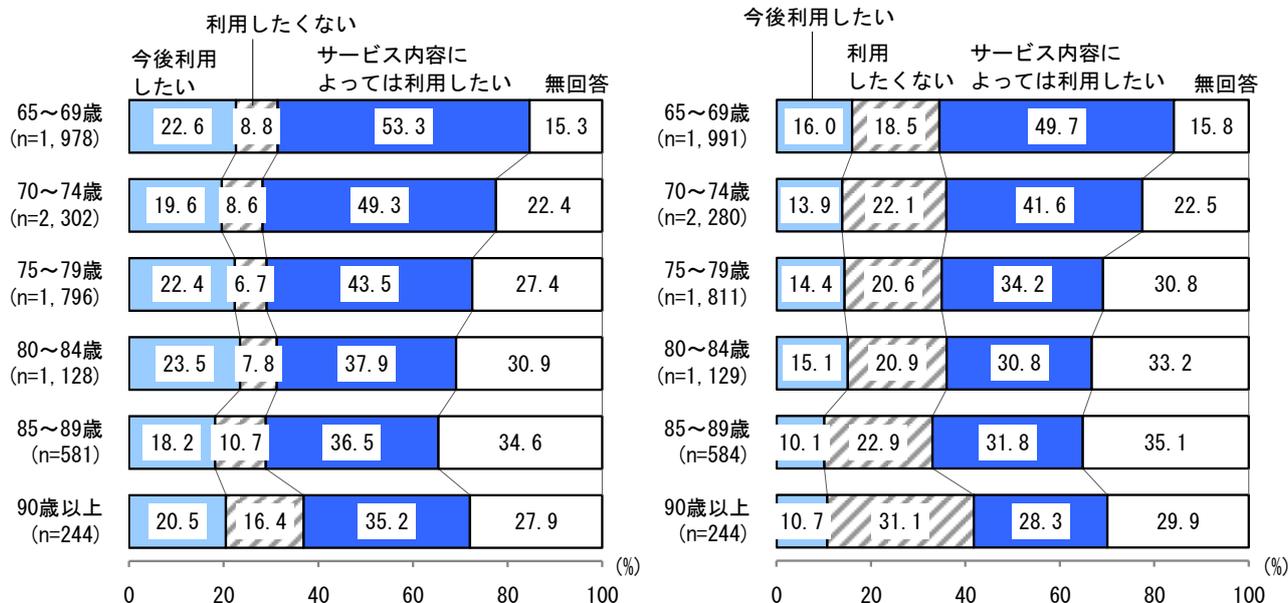
【図53②-b 高齢者向け福祉サービス・制度の利用意向（年齢別）①】

(1) 食事の配食サービス（大阪市生活支援型食事サービス） (2) 日常生活用具給付事業



(3) 緊急通報システム

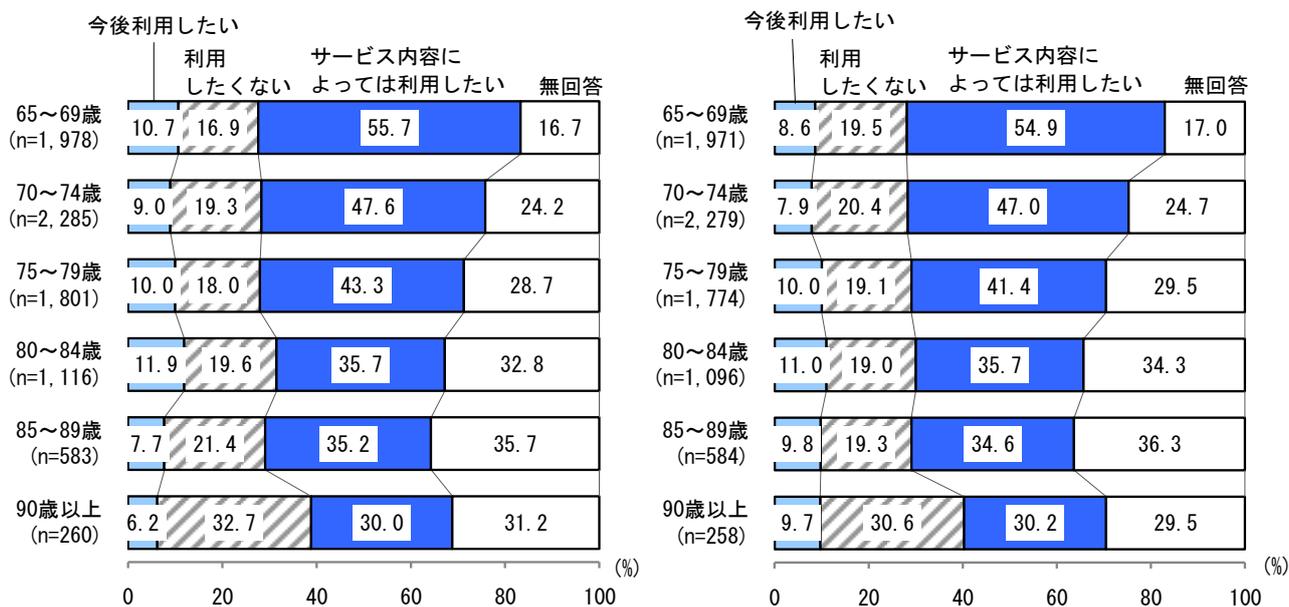
(4) ごみの持ち出しサービス



【図53②-b 高齢者向け福祉サービス・制度の利用意向（年齢別）②】

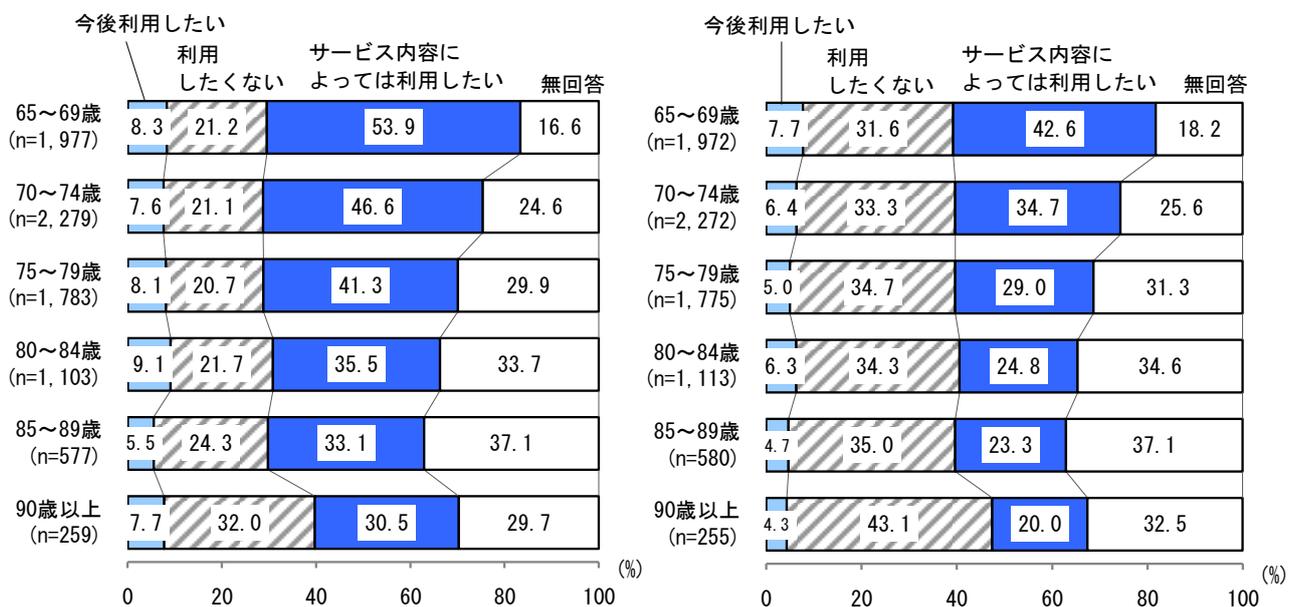
(5) 認知症高齢者見守りメール（認知症高齢者見守りネットワーク事業）

(6) 見守り相談室による地域の見守り活動の支援



(7) あんしんさぽーと事業（日常生活自立支援事業）

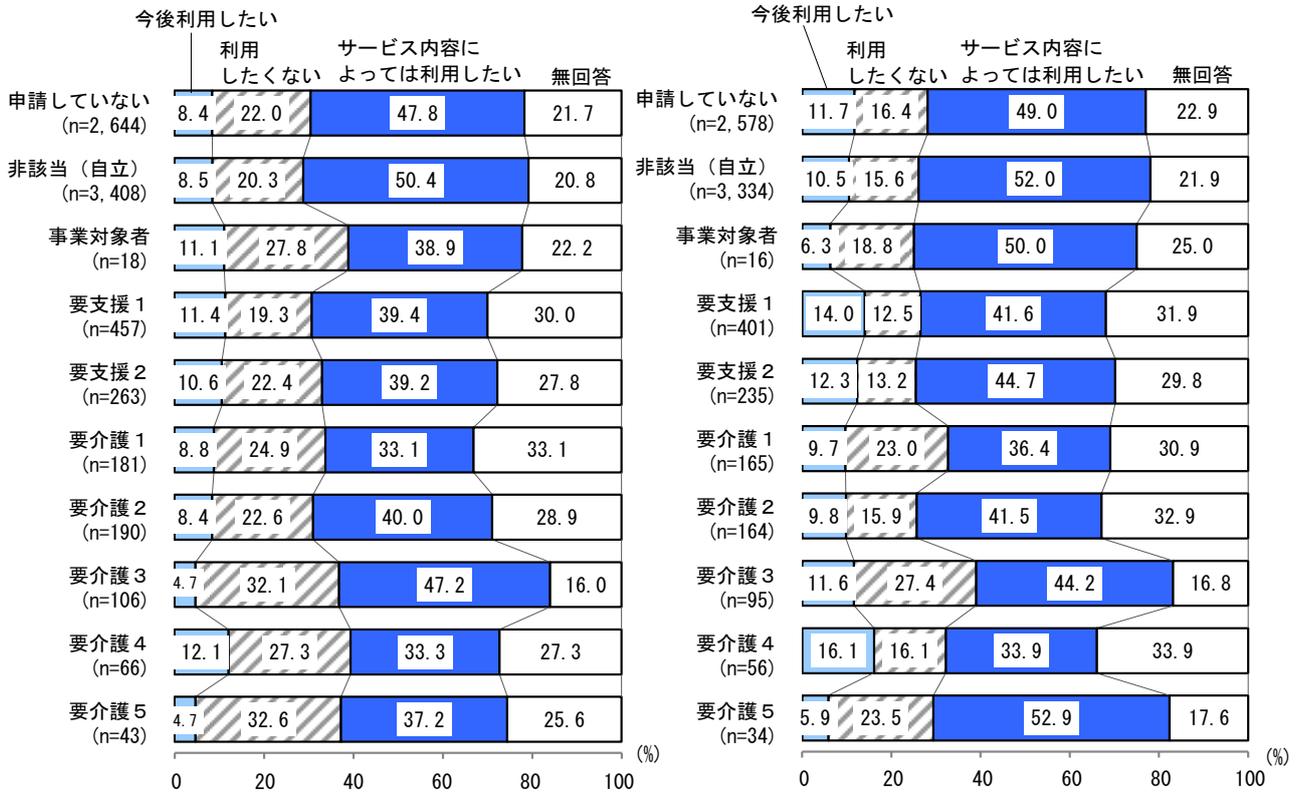
(8) 成年後見制度



介護度別でみると、「今後利用したい」の回答割合は“(3)緊急通報システム”、“(4)ごみの持ち出しサービス”では要支援1で最も高いが、それ以外のサービスでは要介護4で最も高くなっている。(図53②-c ①②)

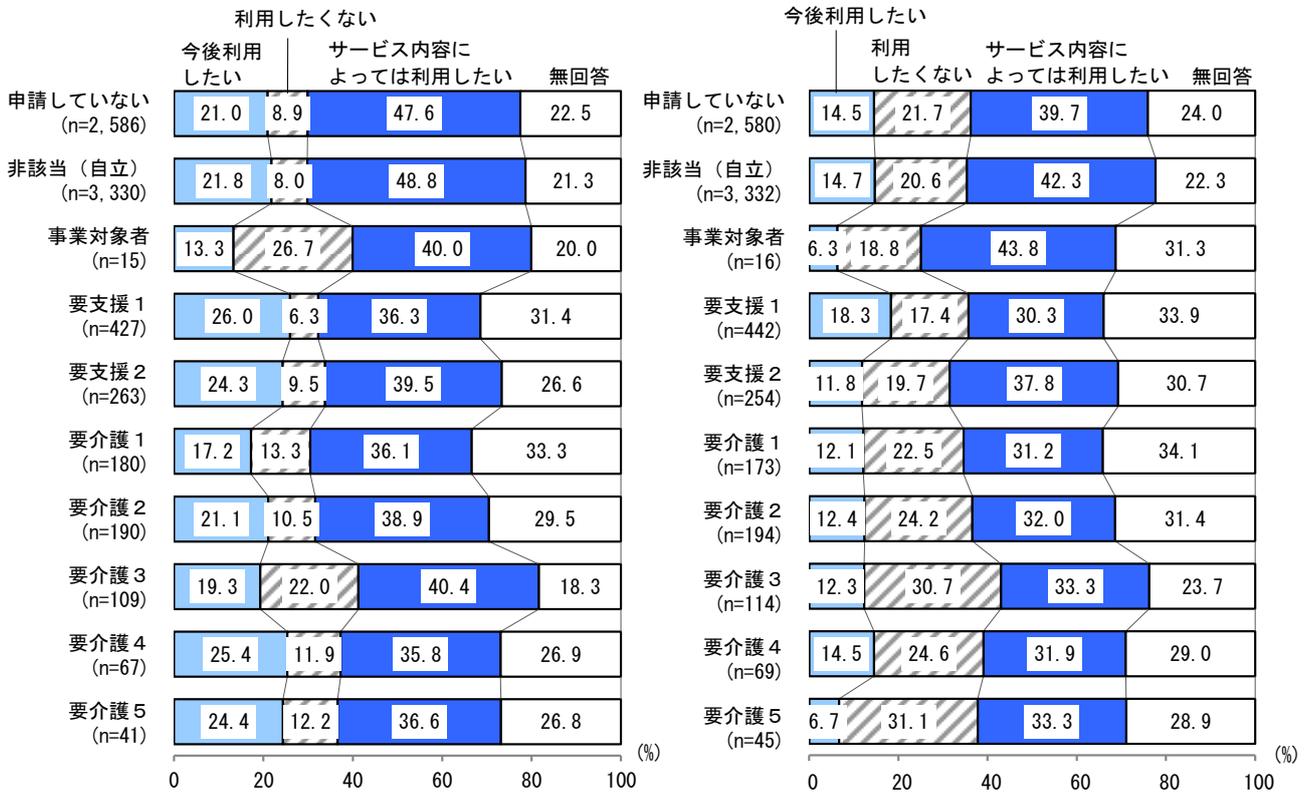
【図53②-c 高齢者向け福祉サービス・制度の利用意向（介護度別）①】

(1) 食事の配食サービス（大阪市生活支援型食事サービス） (2) 日常生活用具給付事業



(3) 緊急通報システム

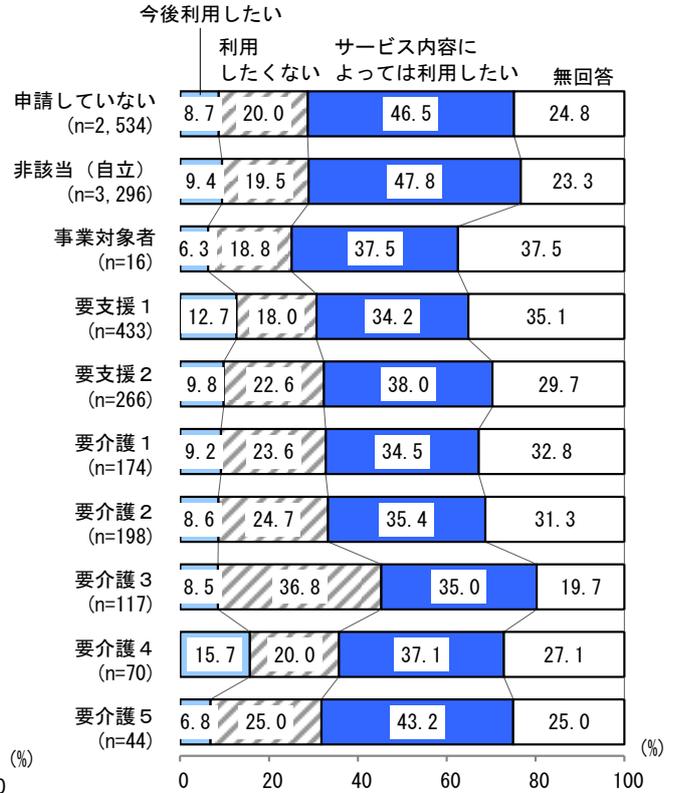
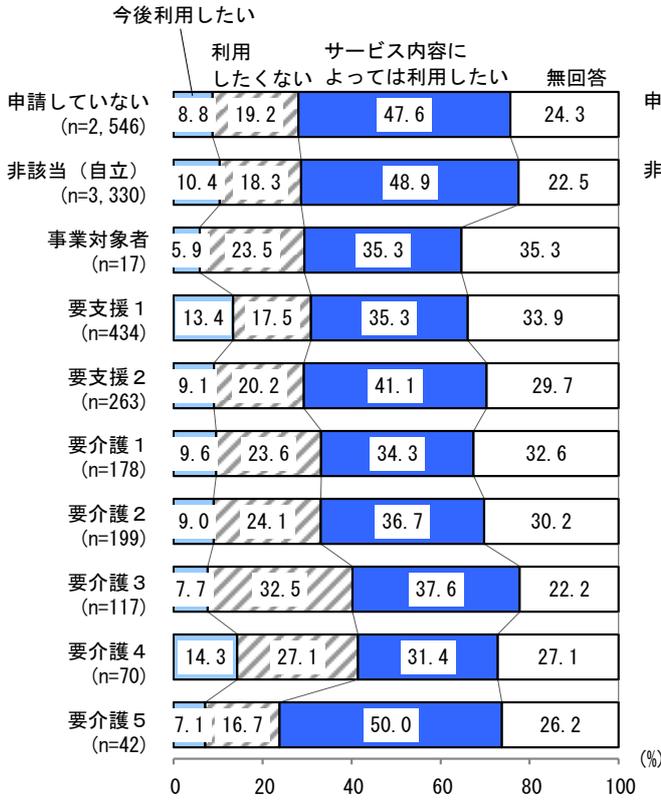
(4) ごみの持ち出しサービス



【図53②-c 高齢者向け福祉サービス・制度の利用意向（介護度別）②】

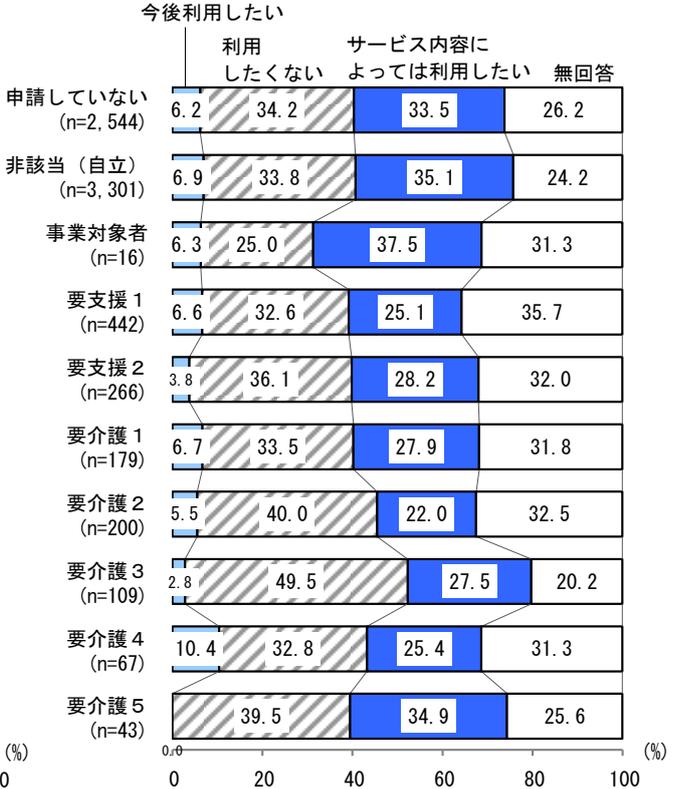
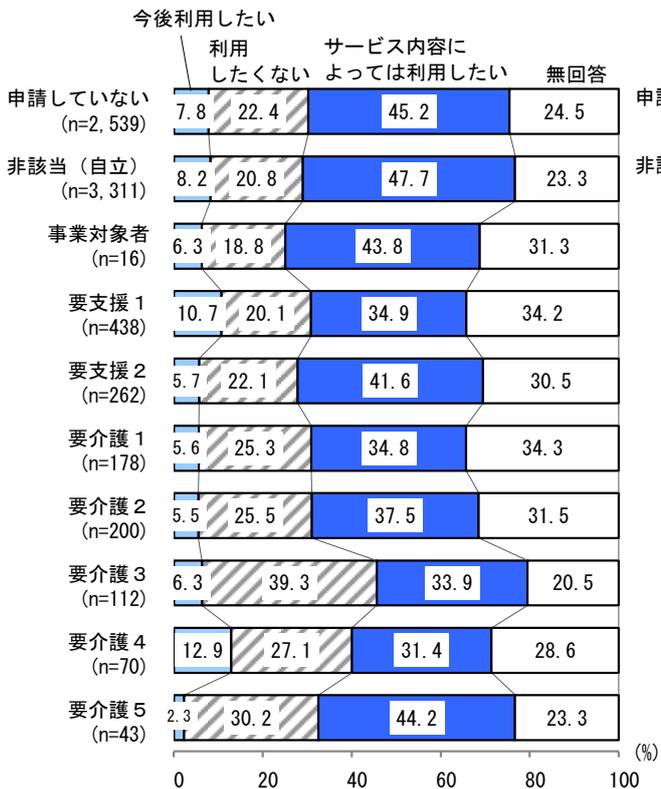
(5) 認知症高齢者見守りメール（認知症高齢者見守りネットワーク事業）

(6) 見守り相談室による地域の見守り活動の支援



(7) あんしんさぼーと事業（日常生活自立支援事業）

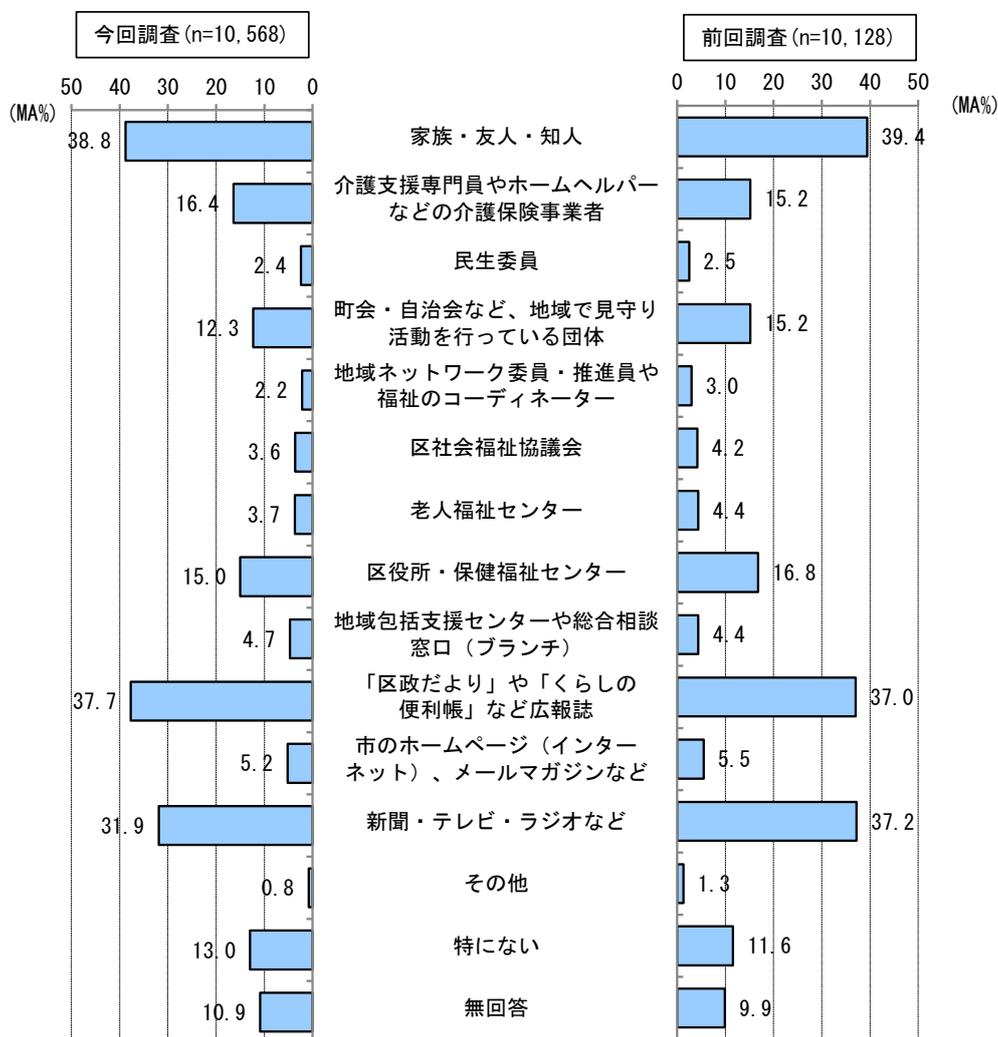
(8) 成年後見制度



問54 サービス情報の取得方法

あなたは、高齢者向けのサービスなどの情報をどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

【図54 サービス情報の取得方法（経年比較）】

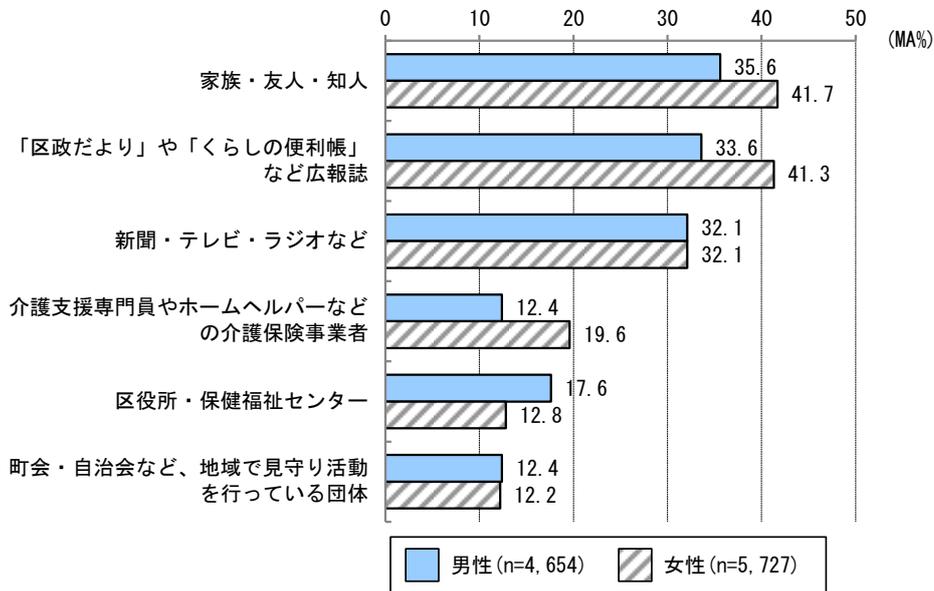


サービス情報の取得方法については、「家族・友人・知人」が38.8%で最も多く、次いで「「区政だより」や「くらしの便利帳」などの広報誌」が37.7%、「新聞・テレビ・ラジオなど」が31.9%となっている。

前回調査と比較すると、「新聞・テレビ・ラジオなど」は5.3ポイント低くなっている。(図54)

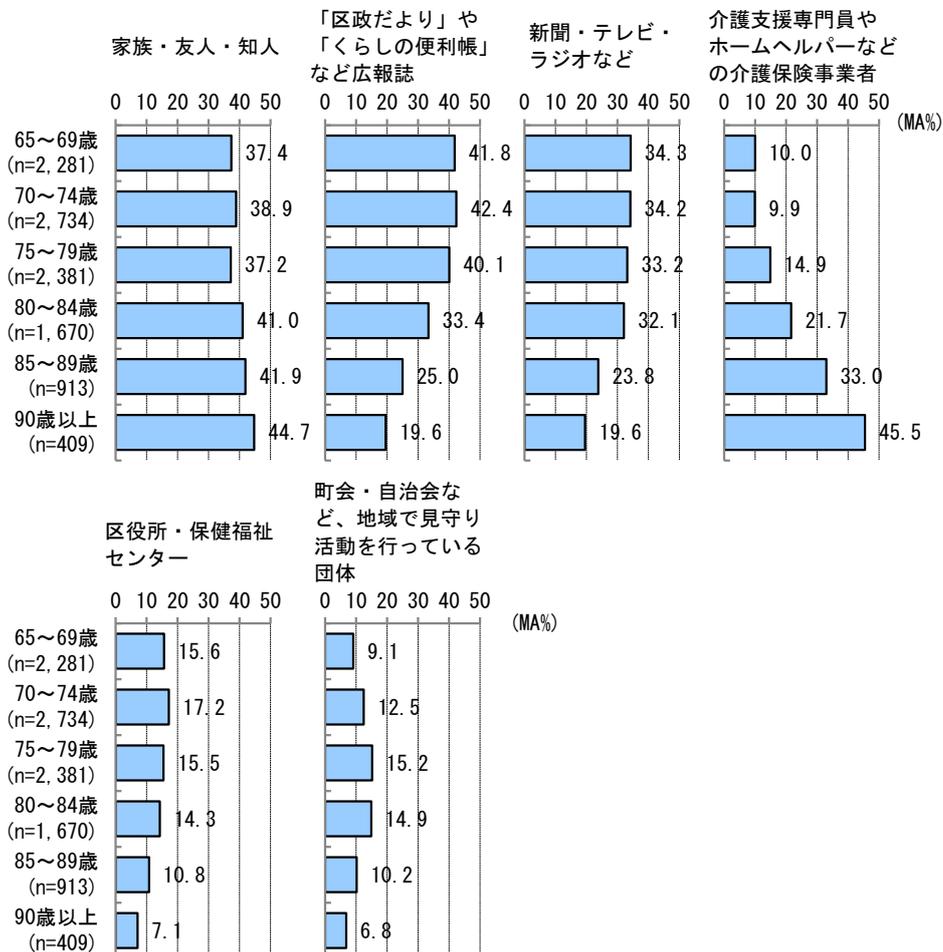
性別でみると、男女とも、「家族・友人・知人」が最も多い回答となっており、男性より女性のほうが高い割合となっている。(図54-a)

【図54-a サービス情報の取得方法（性別）（上位項目）】



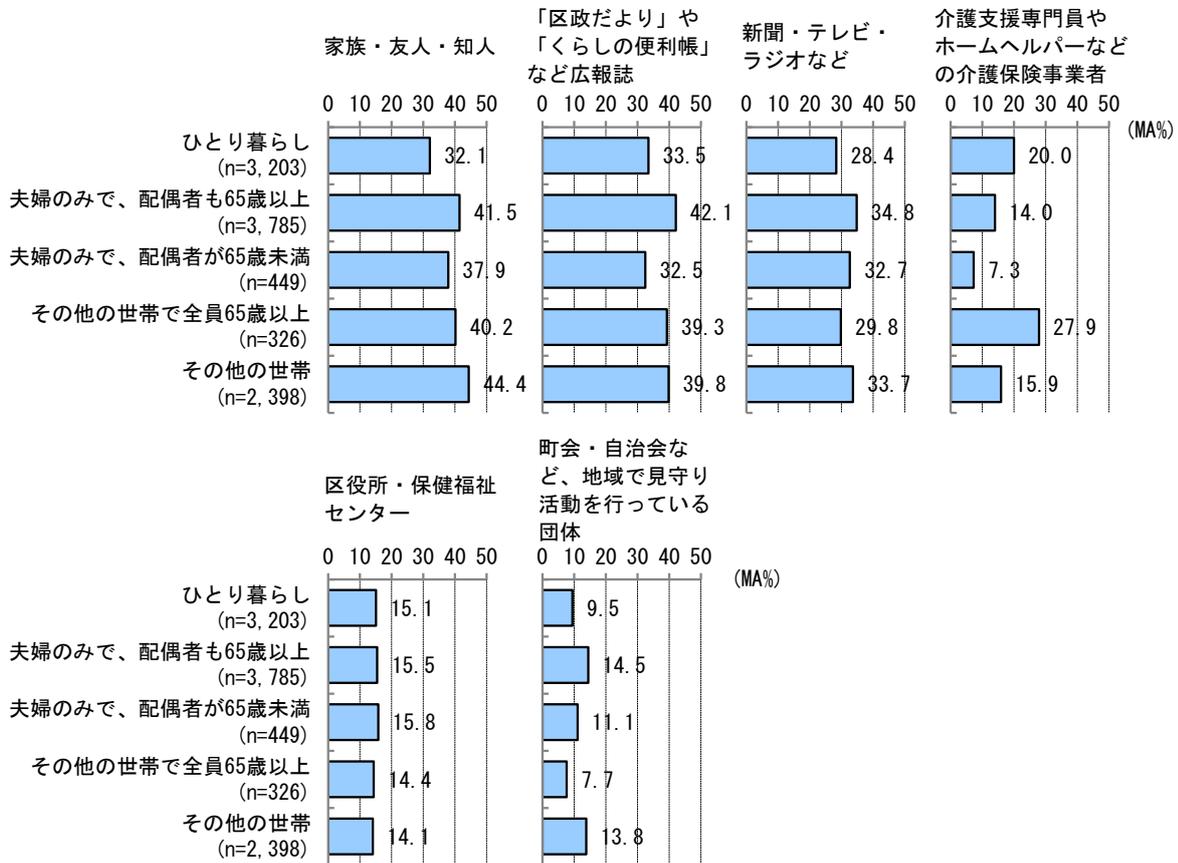
年齢別でみると、「介護支援専門員やホームヘルパーなどの介護保険事業者」から情報入手するとの回答が、高齢になるほど高くなっている。(図54-b)

【図54-b サービス情報の取得方法（年齢別）（上位項目）】



世帯状況別でみると、“ひとり暮らし”と“夫婦のみで、配偶者も65歳以上”世帯では「区政だより」や「くらしの便利帳」など広報誌との回答が最も多いが、それ以外の世帯では「ご家族・友人・知人」が最も多くなっている。(図54-c)

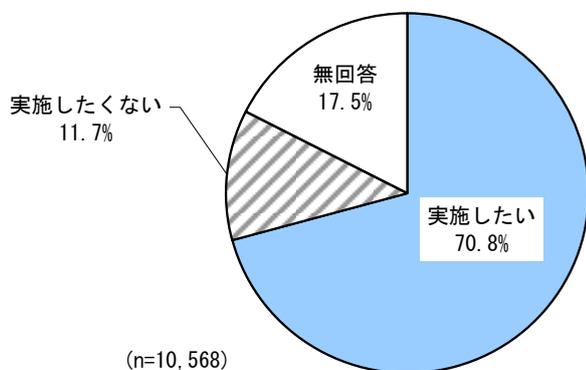
【図54-c サービス情報の取得方法（世帯状況別）（上位項目）】



問55 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向

あなたが要介護・要支援認定を受けていると仮定して、ケアマネジャーから、いつまでも住み慣れた地域でいきいきと生活を続けることに役立つケアプランが提案された場合、そのプランに含まれるリハビリテーション等を実施してみたいですか。(〇はひとつ)

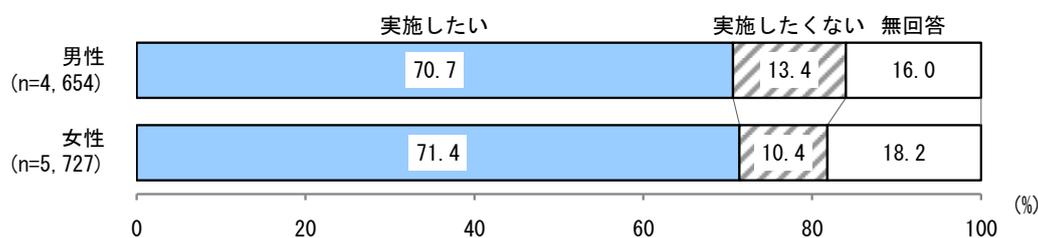
【図55 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向】



自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントを実施してみたいかについては、「実施したい」が70.8%、「実施したくない」が11.7%となっている。(図55)

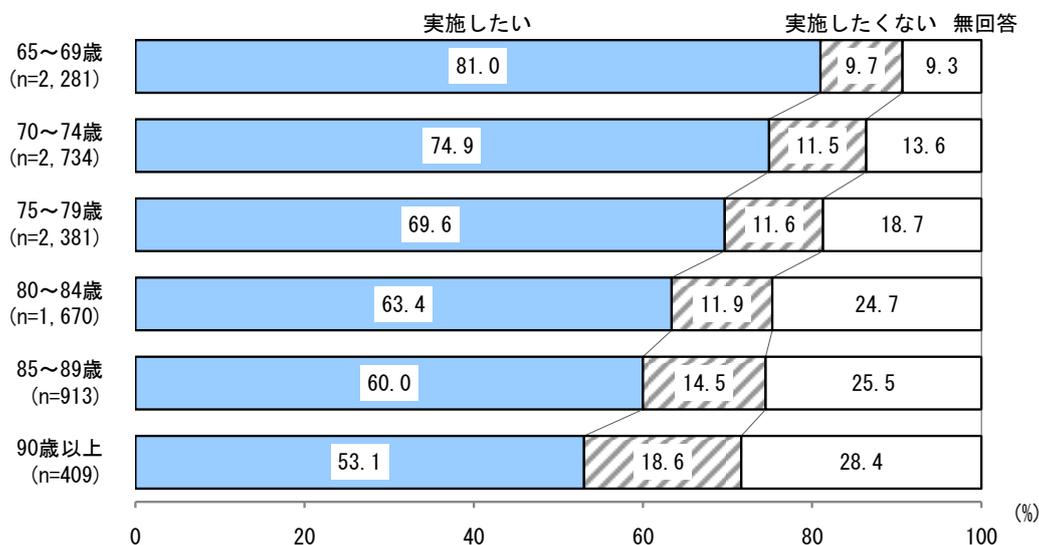
性別でみても、大きな差はみられない。(図55-a)

【図55-a 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向（性別）】



年齢別で見ると、「実施したい」の回答割合は高齢になるほど割合が低くなっている。(図55-b)

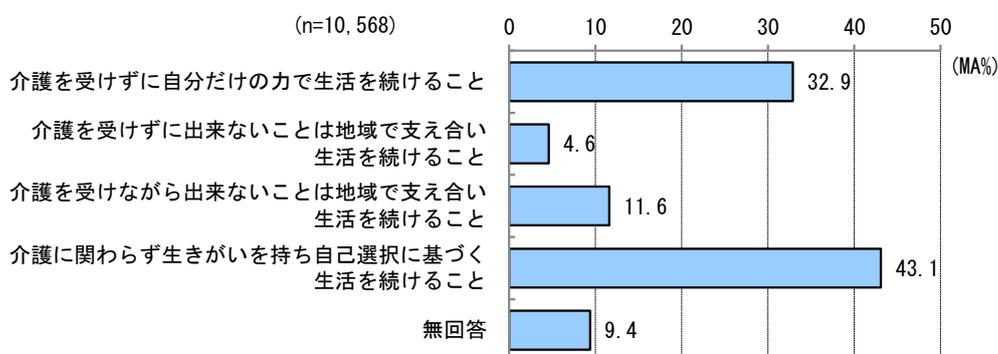
【図55-b 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向（年齢別）】



問56 住み慣れた地域での自立した生活に対する見解

あなたにとって、住み慣れた地域での自立した生活とはどのようなものですか。(〇はひとつ)

【図56 住み慣れた地域での自立した生活に対する見解】

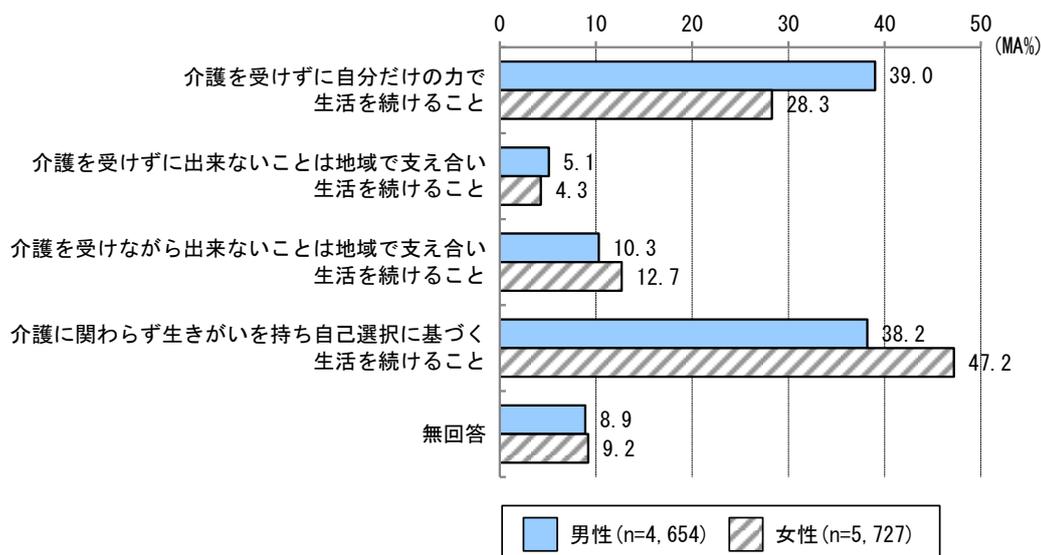


※複数の回答も、すべて有効とする。

住み慣れた地域での自立した生活の見解については、「介護に関わらず生きがいを持ち自己選択に基づく生活続けること」が43.1%、「介護を受けずに自分だけの力で生活続けること」が32.9%となっている。(図56)

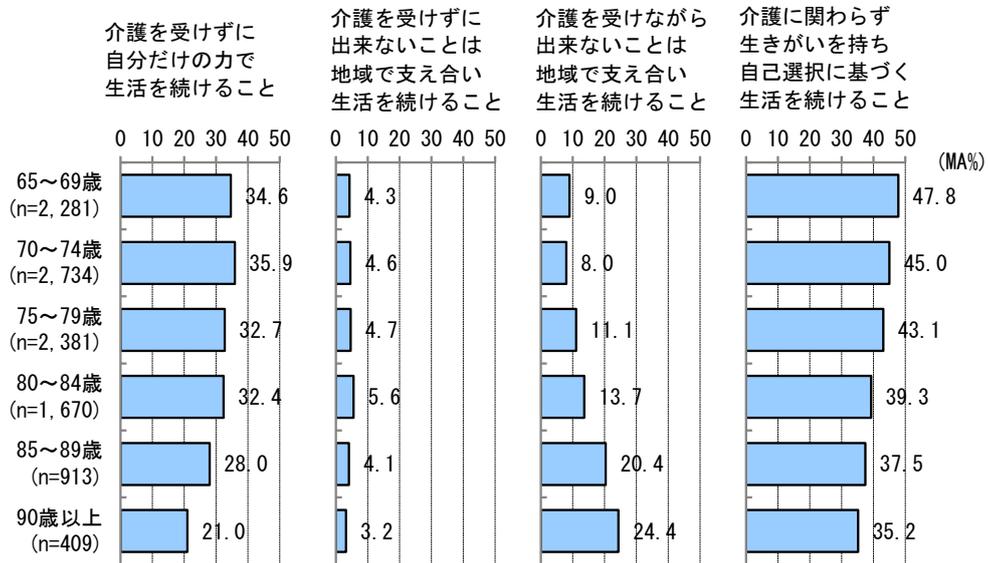
性別でみると、「介護を受けずに自分だけの力で生活続けること」と「介護を受けずに出来ないことは地域で支え合い生活続けること」は女性より男性のほうが高いが、「介護を受けながら出来ないことは地域で支え合い生活続けること」と「介護に関わらず生きがいを持ち自己選択に基づく生活続けること」は女性のほうが高くなっている。(図56-a)

【図56-a 住み慣れた地域での自立した生活に対する見解 (性別)】



年齢別でみると、「介護を受けずに自分だけの力で生活続けること」と「介護に関わらず生きがいを持ち自己選択に基づく生活続けること」は概ね高齢になるほど割合が低くなり、「介護を受けながら出来ないことは地域で支え合い生活続けること」は概ね高齢になるほど割合が高くなっている。(図56-b)

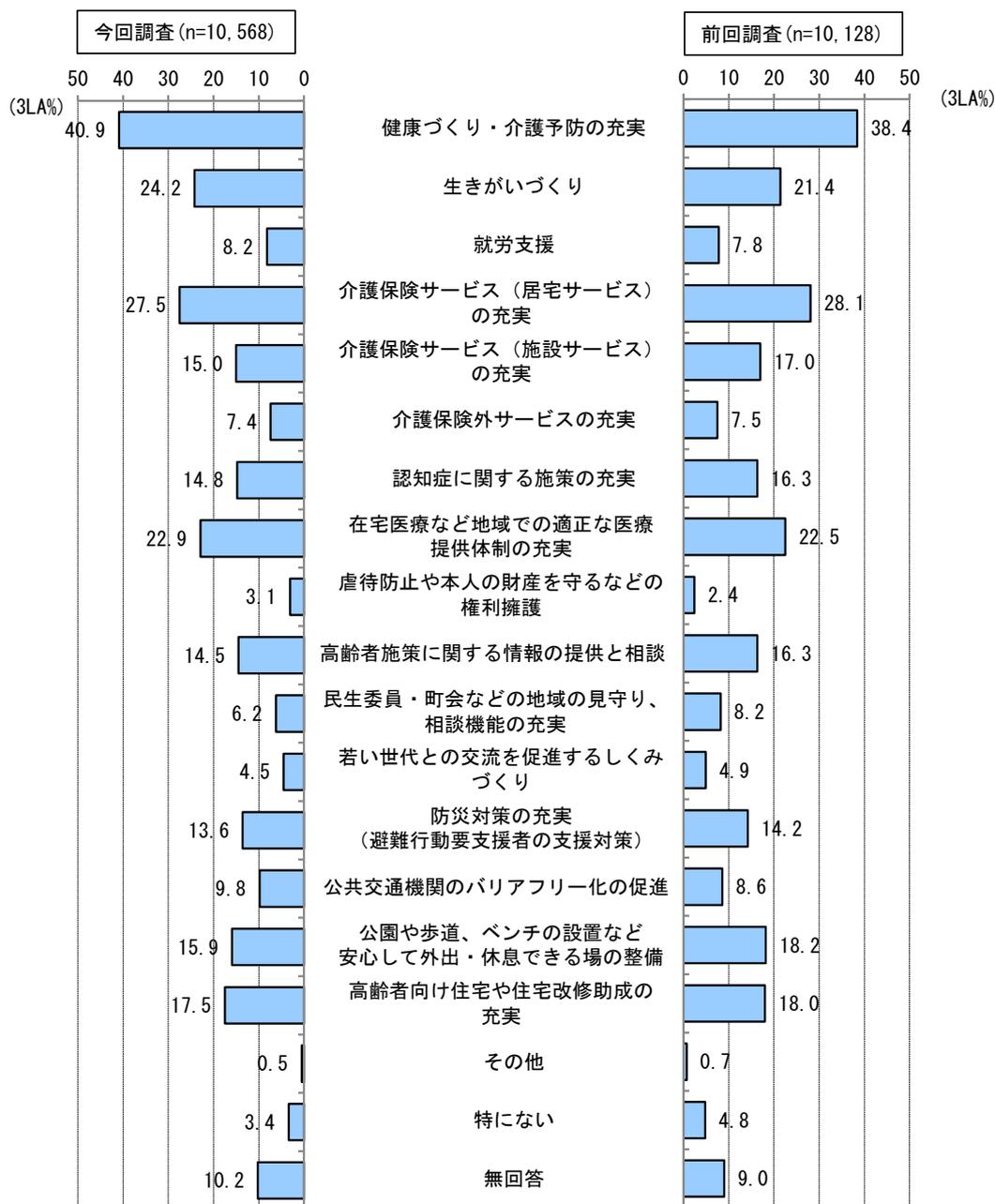
【図56-b 住み慣れた地域での自立した生活に対する見解（年齢別）】



問57 重点を置いてほしい高齢者施策

あなたは、高齢者のための施策としてどのような点に重点を置くべきだと思いますか。主なものに3つまで○をつけてください。(○は3つまで)

【図57 重点を置いてほしい高齢者施策（経年比較）】

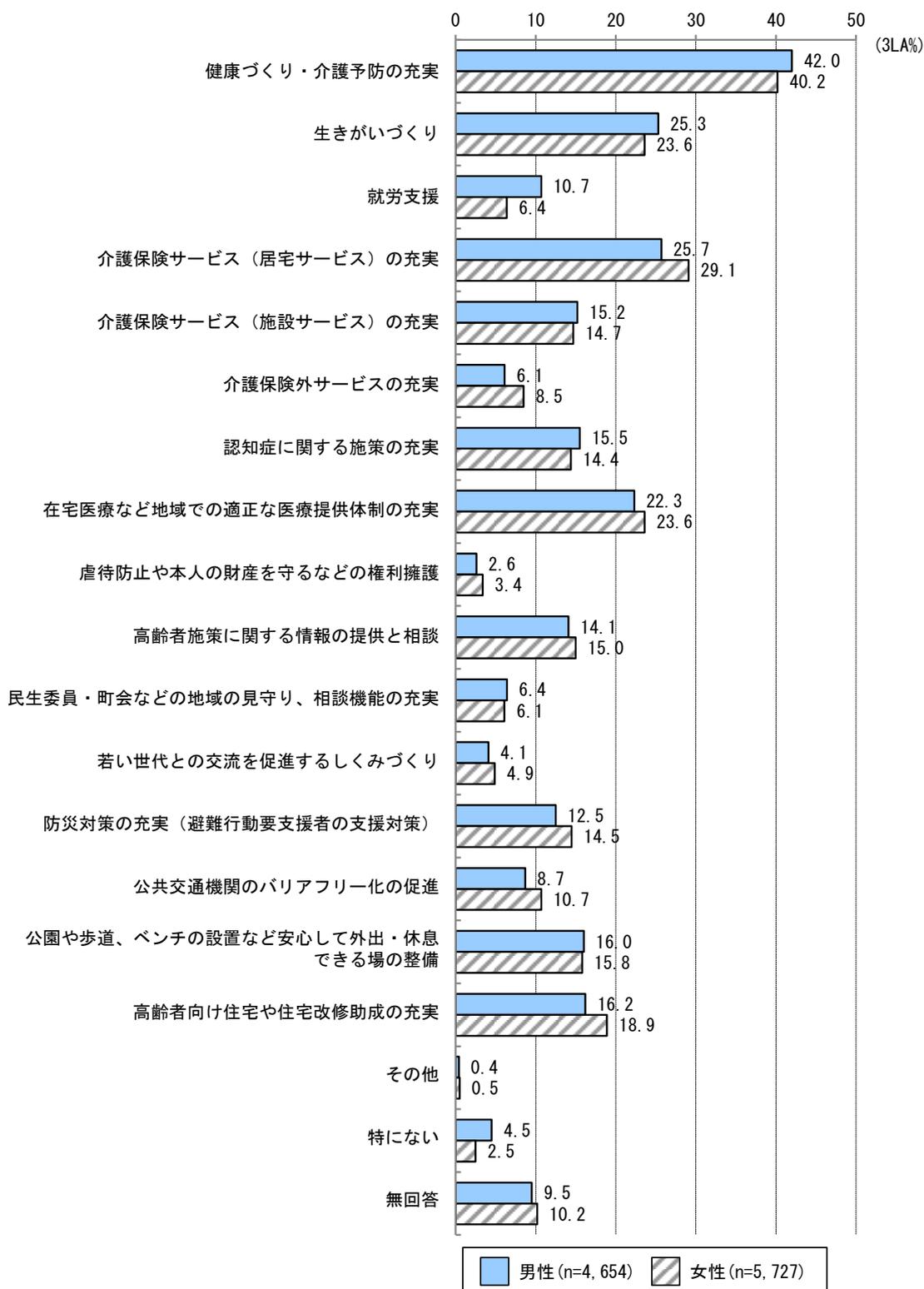


重点を置いてほしい高齢者施策については、「健康づくり・介護予防の充実」が40.9%で最も多く、次いで「介護サービス（居宅サービス）の充実」が27.5%、「生きがいきづくり」が24.2%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。（図57）

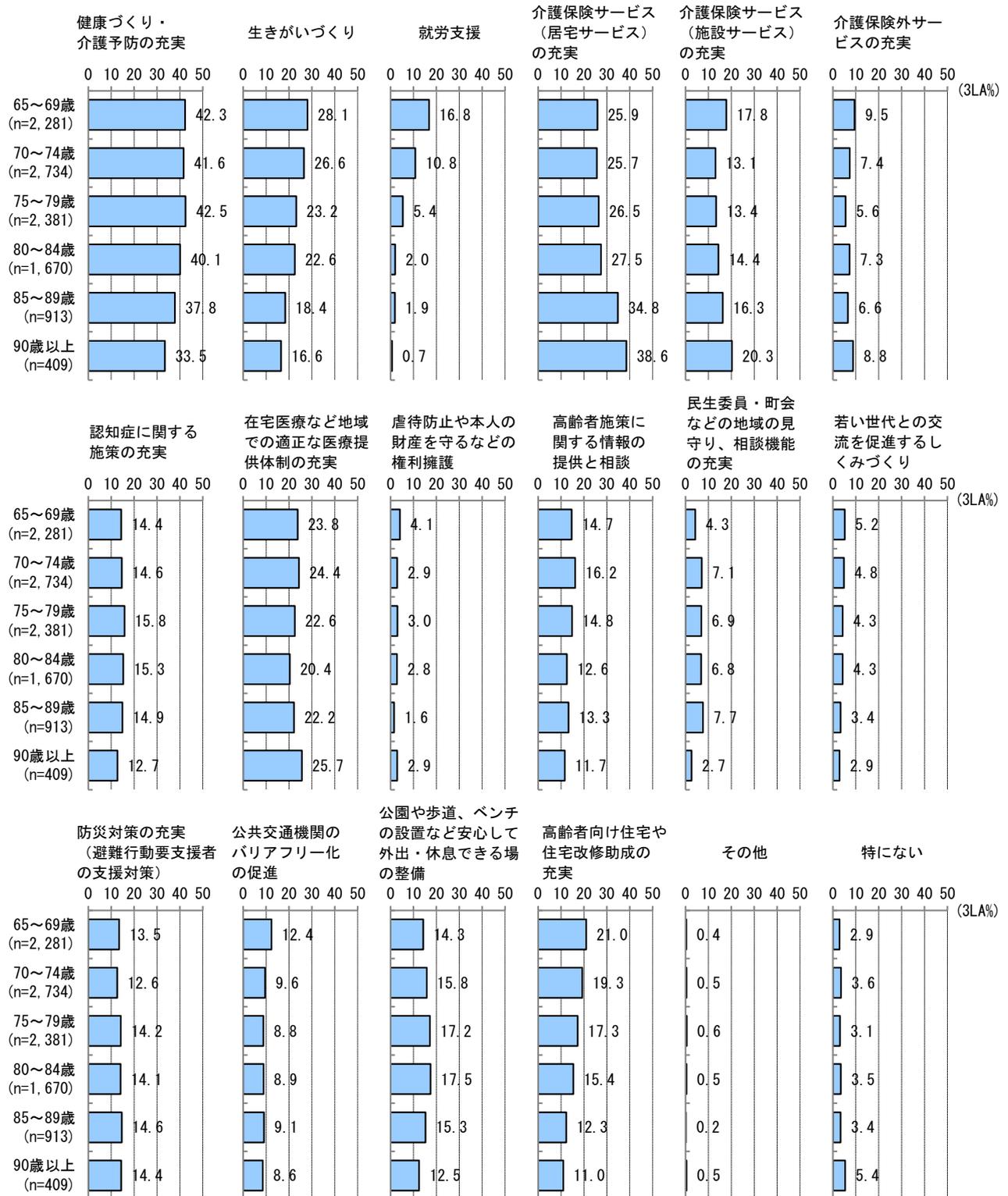
性別でみると、男女とも「健康づくり・介護予防の充実」が最も多く、次いで「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」となっており、大きな差はみられない。（図57-a）

【図57-a 重点を置いてほしい高齢者施策（性別）】



年齢別でみると、「健康づくり・介護予防の充実」、「生きがいがづくり」、「就労支援」、「高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実」については、概ね高齢になるほど回答割合が低くなっている。一方、「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」については、高齢になるほど回答割合が高くなっている。（図57-b ①②）

【図57-b 重点を置いてほしい高齢者施策（年齢別）】



居住区別でみると、いずれの区も「健康づくり・介護予防の充実」が最も多い。次いで東成区、旭区、住之江区は「生きがいつくり」が、西成区は「公園や歩道、ベンチの設置など安心して外出・休息できる場の整備」が、それ以外の区では「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」が続いている。（表57-c ①②）

【表57-c 重点を置いてほしい高齢者施策（居住区別）（上位5項目）①】

（単位：3LA%）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
北区 (n=458)	健康づくり・介護予防の充実 41.3	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 28.8	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 24.7	生きがいつくり 23.1	介護保険サービス（施設サービス）の充実 18.3
都島区 (n=471)	健康づくり・介護予防の充実 41.0	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 28.9	生きがいつくり 22.3	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 21.9	高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実 17.6
福島区 (n=450)	健康づくり・介護予防の充実 44.4	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 25.6	生きがいつくり 24.7	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 22.9	高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実 20.0
此花区 (n=415)	健康づくり・介護予防の充実 43.9	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 28.9	生きがいつくり 21.4	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 19.8	高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実 18.8
中央区 (n=446)	健康づくり・介護予防の充実 42.4	介護保険サービス（居宅サービス）の充実／生きがいつくり 26.0	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 22.4	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 22.4	高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実 17.5
西区 (n=444)	健康づくり・介護予防の充実 44.8	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 30.2	生きがいつくり 27.0	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 23.6	高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実 16.4
港区 (n=416)	健康づくり・介護予防の充実 41.1	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 28.4	生きがいつくり 24.8	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 23.8	高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実 17.8
大正区 (n=395)	健康づくり・介護予防の充実 36.2	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 23.8	生きがいつくり 23.0	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 20.5	高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実 18.5
天王寺区 (n=473)	健康づくり・介護予防の充実 41.0	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 32.6	生きがいつくり／在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 26.0	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 26.0	介護保険サービス（施設サービス）の充実 17.1
浪速区 (n=369)	健康づくり・介護予防の充実 43.6	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 24.1	生きがいつくり 23.3	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 23.0	高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実 19.5
西淀川区 (n=429)	健康づくり・介護予防の充実 39.9	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 28.2	生きがいつくり 26.1	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 21.7	高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実 17.2
淀川区 (n=435)	健康づくり・介護予防の充実 39.3	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 25.7	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 24.8	生きがいつくり 21.4	認知症に関する施策の充実 16.8
東淀川区 (n=408)	健康づくり・介護予防の充実 42.4	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 26.2	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 25.0	生きがいつくり 23.0	高齢者施策に関する情報の提供と相談 17.4
東成区 (n=423)	健康づくり・介護予防の充実 39.7	生きがいつくり 29.8	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 29.3	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 19.1	認知症に関する施策の充実 16.5
生野区 (n=416)	健康づくり・介護予防の充実 38.9	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 26.9	生きがいつくり 25.0	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 21.2	高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実 18.0
旭区 (n=458)	健康づくり・介護予防の充実 40.4	生きがいつくり 27.1	介護保険サービス（居宅サービス）の充実 25.1	在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実 23.1	高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実 19.4

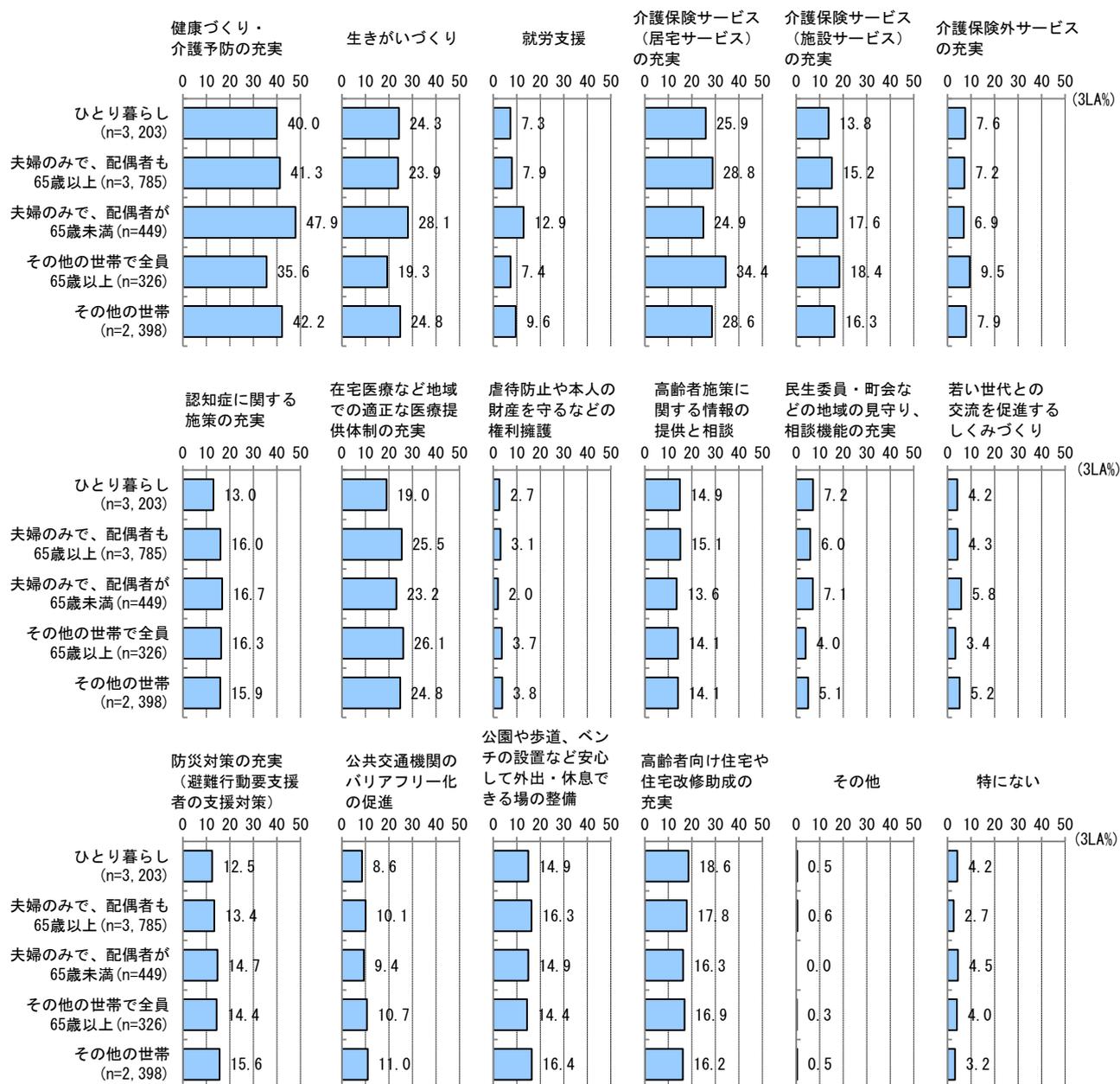
【表57-c 重点を置いてほしい高齢者施策（居住区別）（上位5項目）②】

(単位：3LA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
城東区 (n=454)	健康づくり・介護予防 の充実 43.0	介護保険サービス（居 宅サービス）の充実 27.5	在宅医療など地域での 適正な医療提供体制の 充実 25.8	生きがいつくり 22.0	高齢者向け住宅や住宅 改修助成の充実 18.3
鶴見区 (n=440)	健康づくり・介護予防 の充実 35.9	介護保険サービス（居 宅サービス）の充実 30.5	生きがいつくり 23.9	在宅医療など地域での 適正な医療提供体制の 充実 21.6	高齢者向け住宅や住宅 改修助成の充実 18.4
阿倍野区 (n=466)	健康づくり・介護予防 の充実 38.6	介護保険サービス（居 宅サービス）の充実 29.2	在宅医療など地域での 適正な医療提供体制の 充実 25.1	生きがいつくり 24.9	高齢者向け住宅や住宅 改修助成の充実 17.2
住之江区 (n=471)	健康づくり・介護予防 の充実 44.4	生きがいつくり 27.0	介護保険サービス（居 宅サービス）の充実 26.3	在宅医療など地域での 適正な医療提供体制の 充実 24.6	高齢者向け住宅や住宅 改修助成の充実／認知 症に関する施策の充実 17.2
住吉区 (n=426)	健康づくり・介護予防 の充実 40.4	介護保険サービス（居 宅サービス）の充実 26.5	在宅医療など地域での 適正な医療提供体制の 充実 23.5	生きがいつくり 22.8	高齢者向け住宅や住宅 改修助成の充実 19.0
東住吉区 (n=451)	健康づくり・介護予防 の充実 41.2	介護保険サービス（居 宅サービス）の充実 31.9	在宅医療など地域での 適正な医療提供体制の 充実 27.1	生きがいつくり 22.0	公園や歩道、ベンチの 設置など安心して外出 ・休息できる場の整備 18.2
平野区 (n=434)	健康づくり・介護予防 の充実 38.9	介護保険サービス（居 宅サービス）の充実 26.3	生きがいつくり 24.4	在宅医療など地域での 適正な医療提供体制の 充実 21.4	高齢者向け住宅や住宅 改修助成の充実 19.1
西成区 (n=371)	健康づくり・介護予防 の充実 41.2	公園や歩道、ベンチの 設置など安心して外出 ・休息できる場の整備 21.8	生きがいつくり 21.6	介護保険サービス（居 宅サービス）の充実 20.2	高齢者向け住宅や住宅 改修助成の充実 17.8

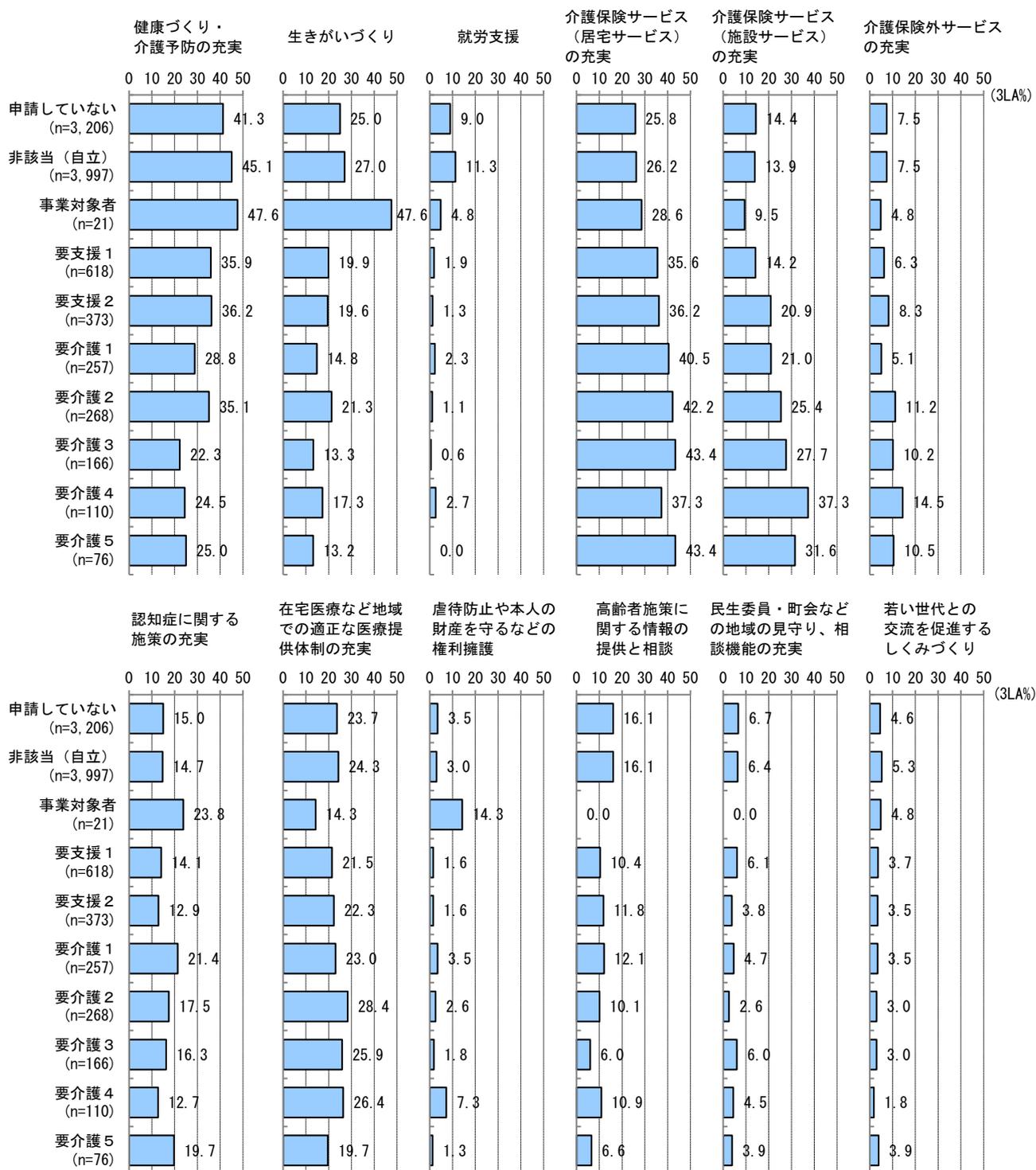
世帯状況別でみると、「民生委員・町会などの地域の見守り、相談機能の充実」と「高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実」の回答割合は“ひとり暮らし”世帯で最も高くなっている。
(図57-d)

【図57-d 重点を置いてほしい高齢者施策（世帯状況別）】

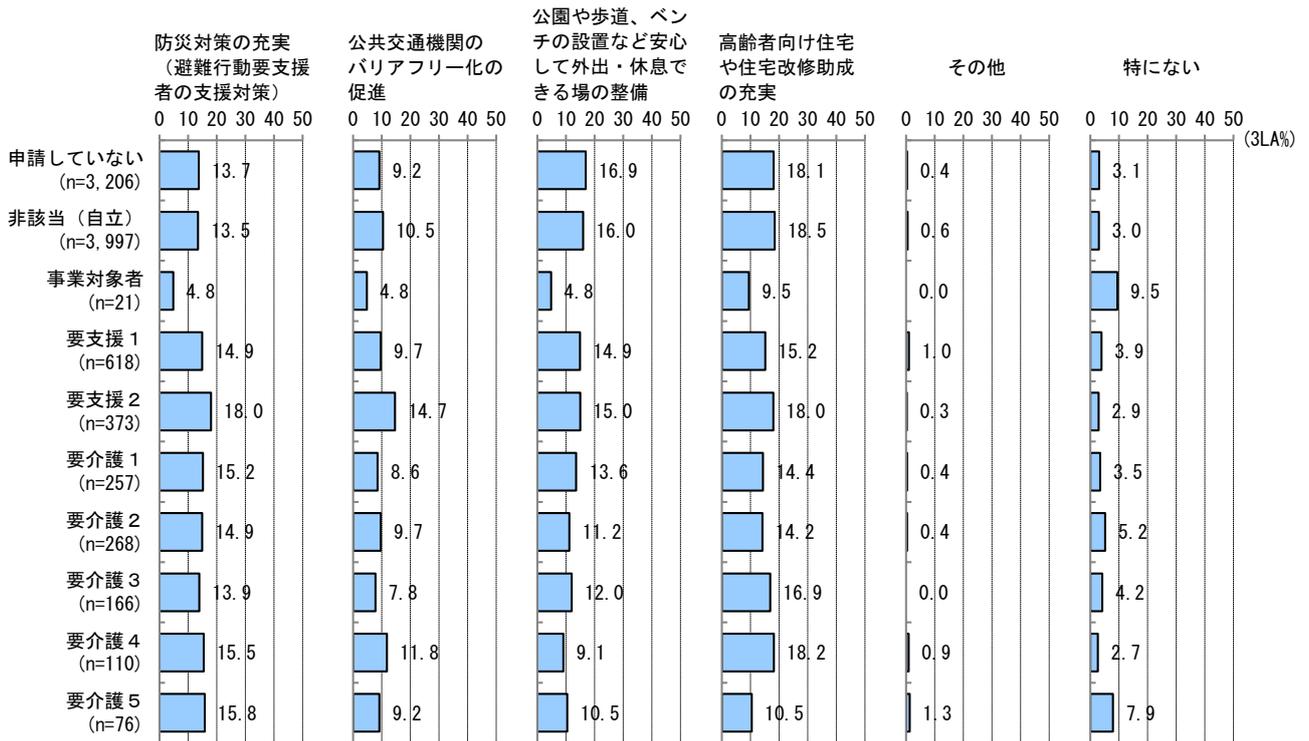


介護度別でみると、「健康づくり・介護予防の充実」と「生きがいくくり」の回答割合は事業対象者で47.6%と高く、「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」では要介護1～3および要介護5で4割台と高くなっている。（図57-e）

【図57-e 重点を置いてほしい高齢者施策（介護度別）①】



【図57-e 重点を置いてほしい高齢者施策（介護度別）②】

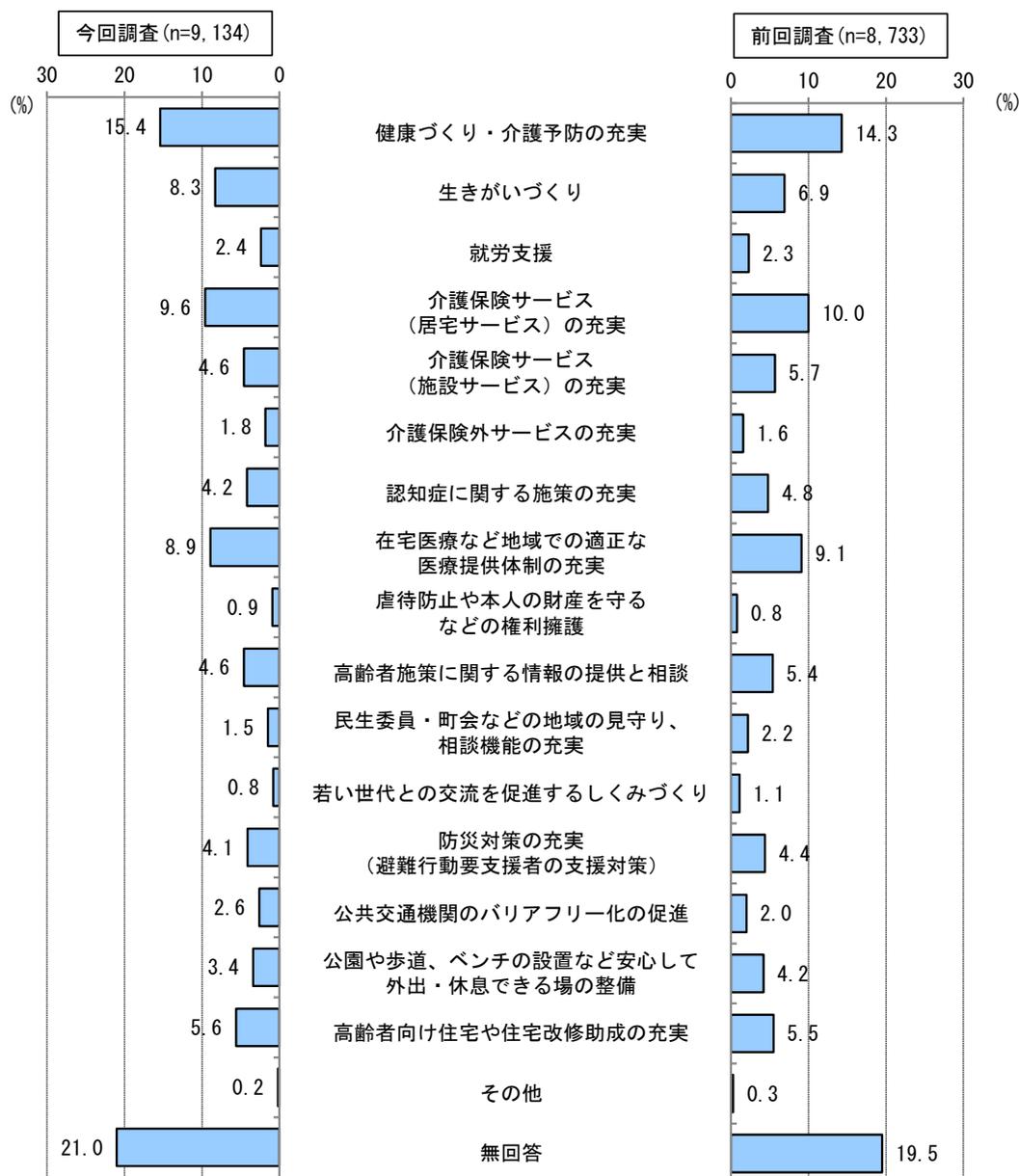


付問57 特に重点を置いてほしい高齢者施策

【問57で「18 特にない」または無回答の方は除く。】

また、○をつけた中で特に重点を置くべきだと考えるものはどれですか。番号を1つだけお書きください。

【付図57 特に重点を置いてほしい高齢者施策（経年比較）】



重点を置いてほしい高齢者施策のうち、特に重点を置いてほしい施策については、「健康づくり・介護予防の充実」が15.4%で最も多く、次いで「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」が9.6%、「在宅医療など地域での適正な医療提供体制の充実」が8.9%となっている。前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。（付図57）